

秋田城跡Ⅲ

— 焼山地区 —

2024年3月

秋田市教育委員会
秋田城跡歴史資料館

序 文

国指定史跡秋田城跡は、奈良時代から平安時代にかけて東北地方の日本海側に置かれた大規模な地方官庁で、政治・軍事・文化の中心地でした。

秋田城については、江戸時代後期から多くの先人が研究を重ね、近代以降も地域の研究者による研究が行われ、また地域の保存運動の後押しもあり、昭和14年に国の史跡に指定されました。

秋田城の本格的な調査が開始されたのは、昭和34年から37年までの文化財保護委員会（現文化庁）による、いわゆる「国営調査」からですが、その後、昭和47年からは秋田市教育委員会が今日まで継続的に発掘調査を実施するとともに、秋田城跡の実体説明および史跡の保存に努め、これまで平成14年に政庁、平成20年に鶴ノ木地区の総括報告書を刊行してまいりました。

本報告書は、秋田城の北西部分にあたる「焼山地区」の総括報告書で、昭和49年から延べ49年間にわたり実施した焼山地区の発掘調査の記録や当該地区に関わる文字資料等の研究成果をまとめたものとなっています。

本書に収録された発掘調査記録等が、全国の古代城柵官衙遺跡の研究に役立つとともに、広くご活用いただければ幸いです。

本報告書の刊行およびこれまでの調査にあたり、長期にわたりご指導、ご助言をいただいております文化庁、宮城県多賀城跡調査研究所、秋田県教育委員会をはじめとする関係各位に、深く感謝申し上げます。

令和6年3月

秋田市教育委員会

秋田城跡Ⅲ—焼山地区—

目次

例言・凡例

第Ⅰ章 遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第1節 遺跡の位置と立地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

- 1 秋田城の位置と立地
- 2 焼山地区の位置と立地

第2節 遺跡の現況—焼山地区を中心に—・・・・・・3

第Ⅱ章 研究史と保護の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

第1節 研究史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

- 1 秋田城の研究略史
- 2 焼山地区の研究史
- 3 焼山地区以外での調査成果による遺構変遷について

第2節 保護と活用整備の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

- 1 保護の経過
- 2 活用整備の経過

第Ⅲ章 調査の経過と記録の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

第1節 調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

- 1 文化財保護委員会による調査
- 2 秋田市教育委員会による調査

第2節 記録の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

- 1 遺跡基準線と地区割設定の表示記号
- 2 遺構・遺物の表示方法
- 3 土器の名称

第3節 焼山地区発掘調査成果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・20

- 1 国営調査
- 2 第14次発掘調査（昭和49年度）
- 3 第19次発掘調査（昭和51年度）
- 4 第20次A地区発掘調査（昭和51年度）
- 5 第21次発掘調査（昭和52年度）
- 6 第52次発掘調査（昭和63年度）
- 7 第53次発掘調査（昭和63年度）
- 8 第59次発掘調査（平成4年度）
- 9 第66次発掘調査（平成8年度）
- 10 第70次発掘調査（平成9年度）
- 11 第73次発掘調査（平成10・12年度）

12 第85次発掘調査（平成17年度）

13 第86次発掘調査（平成17年度）

14 第89次発掘調査（平成18年度）

15 第92次発掘調査（平成20年度）

16 第96次発掘調査（平成22年度）

17 第99次発掘調査（平成23年度）

18 第102次発掘調査（平成25年度）

19 第103次発掘調査（平成25年度）

20 第104次発掘調査（平成26年度）

21 第105次発掘調査（平成26年度）

22 第106次発掘調査（平成27年度）

23 第108次発掘調査（平成29年度）

24 第109次発掘調査（平成29年度）

25 第110次発掘調査（平成29年度）

26 第111次発掘調査（平成30年度）

27 第112次発掘調査（令和元年度）

28 第114次発掘調査（令和2年度）

29 第115次発掘調査（令和2年度）

30 第116次発掘調査（令和3年度）

31 第117次発掘調査（令和4年度）

第Ⅳ章 焼山地区の地形と基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

第1節 自然地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

第2節 焼山地区の基本層序と年代について・・・・・・34

- 1 焼山地区の各調査地点の層序の整理
- 2 各地区の基本層序と年代について
- 3 各地区の基本層序の対比について

第Ⅴ章 古代の検出遺構と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・52

第1節 掘立柱建物跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

- 1 外郭西門跡
- 2 槽状建物跡
- 3 中央部掘立柱建物跡
- 4 南西部掘立柱建物跡
- 5 北西部掘立柱建物跡

第2節 区画施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109

- 1 外郭区画施設
- 2 中央部区画施設
- 3 南西部区画施設

第3節 溝跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・146

1	中央部溝跡	
2	南西部溝跡	
3	北西部溝跡	
第4節	道路遺構	156
第5節	竪穴建物跡・竪穴状遺構	167
第6節	焼土遺構	199
第7節	井戸跡・土坑・火葬墓	212
第8節	土取り穴	229
第9節	古代の特徴的出土遺物	236
第VI章	その他の時代の検出遺構と出土遺物	242
第1節	縄文・弥生時代の検出遺構と出土遺物	
第2節	中世の検出遺構と出土遺物	
1	掘立柱建物跡	
2	区画施設等	
3	火葬墓・土坑	
4	中世の遺構外出土遺物	
第3節	近世の検出遺構と出土遺物	
第VII章	総括	279
第1節	古代(奈良・平安時代)	279
1	古代遺構の変遷と時期設定	
2	外郭西門跡について	
3	外郭区画施設と外郭西門の対応	
4	道路遺構について	
5	中央部掘立柱建物跡について	
6	中央部掘立柱建物跡の配置計画について	
7	中央部掘立柱建物跡の機能について	
8	南西部遺構群について	
9	南西部城内区画施設の配置計画について	
10	南西部遺構群の機能について	
11	焼山地区の火災痕跡について	
12	焼山地区出土の硯について	
13	焼山地区古代遺構の変遷と各期の特徴	
第2節	その他の時代	
	(縄文・弥生・中世・近世)	327
1	縄文・弥生時代	
2	中世	
3	近世	
第3節	焼山地区の機能と性格	332
1	先史時代における焼山地区の機能と性格	
2	古代における焼山地区の機能と性格	
3	中世以降における焼山地区の機能と性格	
	結語	336
	引用文献	337
	写真図版	341
別編1	秋田城跡の出土土器・瓦の編年	377
第1節	土器の編年	377
第2節	瓦の編年	385
別編2	自然科学分析	387
第1節	放射性炭素年代	387
第2節	炭化材の樹種同定(89次調査)	393
第3節	古代秋田城の築地塼を構成する白色および褐色粘土の互層構造について	396
別編3	焼山地区墨書土器等集成	404
別編4	焼山地区出土文字資料集成	416(1)
第1節	第30号漆紙文書(73次調査)	416(1)
第2節	第39号漆紙文書(111次調査)	415(2)
	報告書抄録	417

例 言

- 1 本報告書は秋田城跡焼山地区の総括報告書であり、昭和49年度(1974)～令和4年度(2022)に秋田城跡歴史資料館(旧秋田城跡調査事務所)が実施した第14次・第19次・第20次A・第21次・第52次・第53次・第59次・第66次・第70次・第73次・第85次・第86次・第89次・第92次・第96次・第99次・第102～106次・第108～112次・第114～117次発掘調査の成果を収録したものである。
- 2 当館がこれまで公表してきたものと見解が異なる場合は、本報告書の記述内容が優先する。
- 3 焼山地区において、昭和36年(1961)と昭和37年(1962)に文化財保護委員会による発掘調査(以下、「国営調査」と呼ぶ。)が行われ、調査概報が作成されているが、正式報告書は未刊行となっている。その後、秋田市教育委員会が調査地をすべて再調査しており、本報告書は国営調査の成果も再検討したものとなっている。国営調査についてはその調査経過などを報告する。
- 4 本書掲載の遺構実測図・写真は、各次調査担当職員および作業職員が実測・撮影したものである。一部の実測図・遺物写真は令和5年度担当職員が作成・撮影を行った。
- 5 本書掲載の遺物実測図は、各次調査担当職員および作業職員が実測したものを再トレースした。
- 6 本報告書は、下記のとおり分担執筆し、神田和彦・平井智規が編集した。なお、第Ⅶ章の礎部分について、阿部美穂の協力を得た。

第Ⅰ～Ⅶ章 神田和彦

写真図版 神田和彦・平井智規

別編1 神田和彦・平井智規

別編2第1節 加速器分析研究所(令和5年度委託業務)

別編2第2節 パリノ・サーヴェイ株式会社(秋田市教委2007a『秋田城跡調査事務所年報2006』より転載)

別編2第3節 秋田大学国際資源学部 今井忠男・西川治・千田恵吾・木崎彰久、秋田大学工学資源学部 栗崎笑・柴田いずみ(秋田市教委2016『秋田城跡調査事務所年報2015』・秋田市教委2018『秋田城跡歴史資料館年報2017』より転載)

別編3 平井智規・阿部美穂

別編4第1節 第30号文書:国立歴史民俗博物館名誉教授 平川南・日本大学教授 武井紀子(秋田市教委2015『秋田城跡調査事務所年報2014』より転載)

第2節 第39号文書:国立歴史民俗博物館教授 三上喜孝(秋田市教委2019『秋田城跡歴史資料館年報2018』より転載)

7 令和5年度秋田城跡発掘調査体制

秋田市長 穂積志

観光文化スポーツ部長 納谷信広

調査機関 秋田市立秋田城跡歴史資料館

館長 遠藤孝志(令和5年4月1日～6月30日)、富樫純一(令和5年7月1日～)

事務長 岡部友明










調査・普及担当 主席主査 神田和彦(報告書作成担当:主務者)、主席主査 伊藤千秋
主事 平井智規(報告書作成担当)、学芸員 阿部美穂

管理運営担当 主席主査 菅沼隆、主査 能登園美、主査 斉藤徹

- 8 文字資料の判読・釈読は国立歴史民俗博物館名誉教授 平川南氏、国立歴史民俗博物館教授 三上喜孝氏、日本大学教授 武井紀子氏のご教示による。
- 9 挿図・表・図版の作成は、神田和彦・平井智規・阿部美徳の他、森泉裕美子・伊藤雅子・宮田美奈子・土井健太郎が行い、今野祥子・佐藤久美子・福原梓・児玉祥子の協力を得た。
- 10 本書に掲載した地図は秋田市管内図、秋田市都市計画図の他、平成24年度に作成した史跡秋田城跡地形図1/5,000および1/2,500をもとに作成した。
- 11 報告された資料は秋田市教育委員会（観光文化スポーツ部秋田城跡歴史資料館）で保管している。
- 12 発掘調査および本書の作成過程で、以下の方々や関係機関から指導・助言を賜った。記して感謝したい。

文化庁文化財第二課、国立歴史民俗博物館、奈良文化財研究所、宮城県教育委員会、多賀城跡調査研究所、東北歴史博物館、秋田県埋蔵文化財センター、弘田柵跡調査事務所、秋田県立博物館、秋田大学、青木敬、穴澤義功、阿部博志、網伸也、五十嵐一治、諫山えりか、伊豆俊祐、磯村亨、石郷岡誠一、伊藤武士、伊藤博幸、今泉隆雄、岩見誠夫、植松暁彦、牛川喜幸、宇田川浩一、及川規、近江俊秀、大川清、大橋泰夫、大平聡、岡田茂弘、岡田康博、小口雅史、織笠昭、織笠明子、利部修、笠原信男、加藤朋夏、鐘江宏之、神谷佳明、河野一也、川畑純、河原純之、北野博司、木村高、木村勉、清野陽一、熊田亮介、工業善通、桑原滋郎、小池伸彦、小井川和夫、国生尚、小林克、小松正夫、後藤秀一、五島昌也、齋藤和機、齋藤孝正、斉藤慶史、坂井秀弥、榊原滋高、桜岡正信、佐藤敏幸、佐藤則之、芝康次郎、嶋影壮憲、島田祐悦、白鳥良一、新海和広、進藤秋輝、菅原祥夫、須田良平、鈴木貴生、高橋栄一、高橋和成、高橋照彦、高橋学、武井紀子、田中哲雄、田中広明、丹下昌之、塚田直哉、津野仁、長建全、富樫泰時、杜暁帆、新野直吉、西田健彦、西野修、根岸洋、禰宜田佳男、野木雄大、藤井幸司、藤澤良祐、藤木海、藤沼邦彦、藤原武二、古川一明、林謙作、林正憲、林部均、日野久、平川南、平澤毅、廣谷和也、藤田賢哉、船木義勝、細見啓三、堀裕、三上喜孝、宮本長二郎、三好壮明、本中眞、森田稔、武藤祐浩、荒木志伸、村田晃一、百瀬正恒、森先一貴、八重樫忠郎、八木光則、安田忠市、安原啓示、山川順一、山田晃弘、山中章、横岡利彦、吉川耕太郎、吉野武、渡部育子、渡邊定夫、渡辺大彦（五十音順・敬称略）

凡 例

- 1 遺構図面の表記として下記の表示を行った。
 - ・断面図  飛砂層  地山ローム層（寺内層）
 - ・平面図  炭化物集中心点  焼土  カマドなどの粘質土
- 2 遺物実測図において、土器断面を黒く塗りつぶしたものが、須恵器である。
- 3 遺物実測図において、下記のような表示を行った。
 -  黒色処理  転用硬  煤  漆付着
- 4 実測図に掲載した図面には各遺物に番号を付しているが、括弧内の数字は、秋田城跡で統一的に振っている連続番号で、括弧外は図ごとの通し番号である。
- 5 遺物観察表における土器の調整技術や切り離し等の表記は下記のとおりである。

- ・回転利用ケズリは、「ケズリ調整」と記載。ケズリ調整以外の調整はその都度別記。
 - ・ロクロ等広い意味の回転を利用したハケ目調整は、「カキ目調整」と記載。
 - ・切り離し、粘土紐、タタキ痕跡等、成形時痕跡の消滅を目的としない軽度な器面調整痕跡は、「軽いナゲ調整」と記載。成形時痕跡の消滅を目的として、痕跡が一部残るものを「ナゲ調整」、ほとんど痕跡を残さないものを「丁寧なナゲ調整」と記載。調整を行わない無調整のものは特に記載をしない。
 - ・底部回転ヘラ切りによる切り離しは、「ヘラ切り」と記載。底部回転糸切りによる切り離しは、「糸切り」と記載。底部回転以外の切り離しはその都度別記。
- 6 実測図の縮尺は原則として土器・土製品・鉄製品・石製品は1/4、瓦・埴1/6、銭貨・金属製品・石器は1/2とし、各図版に縮尺を示した。写真図版は、原則として瓦・埴は約1/4、石器・鉄製品は約1/2、銭貨・金属製品は1/1、これ以外は2/5とした。
- 7 遺構一覧表や遺物一覧表などにおいては下記のような表記の省略を行った。
- ・「北側桁柱列の北から」・「北桁北から」（「側」・「行」・「柱列」などの表記省略）
 - ・重複した遺構の新旧関係は、→で新旧関係を示し、該当遺構名は省略した。
SA0000→ 当該遺構が SA0000 より新しい
→SA0000 当該遺構が SA0000 より古い
 - ・100年を4つに分割する場合は第1四半期・第2四半期・第3四半期・第4四半期、3つに分割する場合は前葉・中葉・後葉、2つに分割する場合は前半・後半と呼称する。
 - ・表における年代表記について「世紀」を「C」、「四半期」を「○閉み数字」で表記し、下記のとおりとする。
8世紀第2四半期→8C②、8世紀第3四半期→8C③、8世紀第4四半期→8C④
9世紀第1四半期→9C①、9世紀第2四半期→9C②、9世紀第3四半期→9C③…
 - ・図中の方位記号は真北を示している。また、文章中の方位と方向を示す東西南北は、遺跡全域に設定された発掘調査基準線に基づく真東・真西・真南・真北を示す。
 - ・遺跡の測量原点は、外郭範囲内のほぼ中央にあたる政庁正殿東の任意点に埋標されている。その原点から真北を求めた南北基準線を定め、これに直行する東西基準線を定めて、座標軸を設定している。報告においてE・W・S・Nと共に示された数値は、単位はmで、測量原点から座標上の位置、東西南北の距離を示す。
・測量原点は世界測地系座標で、X=-28,562,592、Y=-64,607,889 である。
- 8 註は各節ごとに付け、各節の末尾に記した。
- 9 引用文献は本書末尾にまとめて掲げた。なお、本文中における表記について、著者（発行機関）と西暦年で引用し、自治体の教育委員会により刊行された文献は、○〇県教育委員会を○〇県教委などと略した。
- 10 文献史料は、古代については秋田市2001『秋田市史 第七巻 古代 史料編』、中世については秋田市1996『秋田市史 第八巻 中世 史料編』から引用し、必要に応じて編年史料に付された番号を示す。（例 秋田市史古代-36…天平五年十二月二十六日己未の条を指す）
- 11 古代の土器・瓦の編年基準については、別編1に示した。それ以外の時代の出土遺物の編年については、下記の論考による時期区分・名称に基づき行った。なお、縄文土器については岡部友明氏、弥

生土器については 根岸洋氏、古代については伊藤武士氏、高橋学氏、古代関東系土器については青木敬氏、施釉陶器については高橋照彦氏、中世陶器については藤澤良祐氏、榑原滋高氏からいただいたご教示を反映させている。

①弥生土器

根岸洋 2005 「志藤沢式土器の研究(1)-秋田大学所蔵資料の再報告を中心に-」『秋田考古学』49 pp. 1-33

根岸洋 2006 「志藤沢式土器の研究(2)-秋田県内の弥生前期・中期の土器編年について」『秋田考古学』50 pp. 1-23

根岸洋 2007 「もう一つの志藤沢式土器-奥山潤氏の型式設定資料をめぐって-」『秋田考古学』51 pp. 27-36

根岸洋 2022 「北東北の弥生時代中期の位置づけ」『北東北三県合同シンポジウム 北東北の弥生時代中期を考える』秋田考古学協会 pp. 1-21

②中世陶磁器

吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館

藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院

小野正敏 1982 「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』2 pp. 71-88

③肥前系陶磁器

大橋康二 1989 『肥前陶磁』ニューサイエンス社

九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年 - 九州近世陶磁学会 10 周年記念-』

④模铸銭等

兵庫埋蔵銭調査会 1996 『日本出土銭総覧 1996 年版』

永井久美男 2001 「模铸銭の全国的様相」『中世の出土模铸銭』高志書院 pp. 59-85

第 I 章 遺跡の概要

第 1 節 遺跡の位置と立地

1 秋田城の位置と立地

史跡秋田城跡は、秋田県秋田市寺内の大畑・焼山・大小路・鶴ノ木・高野・児椏一〜三丁目・堂ノ沢二丁目・神屋敷、秋田市将軍野南一丁目、秋田市土崎港南三丁目にかけて所在する（図 1）。外郭範囲内のほぼ中央にあたる測量原点は、世界測地系座標で $X=-28,562.592$ 、 $Y=-64,607.889$ で、北緯 $39^{\circ} 44' 25''$ 、東経 $140^{\circ} 4' 46''$ である。

遺跡は秋田県の西中央部に位置する秋田平野の西部、平野中央部の JR 秋田駅から直線で北西へ 5km の地点にあり、雄物川河口右岸の高清水丘陵あるいは寺内丘陵と呼称される標高 30~50m の低位丘陵上に位置する。秋田城跡の外郭線は丘陵の高い部分を取り囲むように巡り、不整形を呈している。外郭は東西・南北約 550m の不整形で、さらに中央に東西 94m、南北 77m に区画された政庁域をもつ二重構造であることがこれまでの調査でわかっている。また、秋田城に関する付属施設や居住域は丘陵全体に及び、丘陵はほぼ全域が史跡指定地となっており、その指定面積は約 893,733 m² である。

遺跡の立地する高清水丘陵は、雄物川に隣接する低位丘陵で、北北西方向から南南東方向に延び、延長約 3km、幅約 800m の河食段丘である。かつて雄物川は丘陵西縁に沿って北流し日本海に注いでいたが、その後大正 6 年から昭和 13 年の直路開削工事により新放水路が完成し、旧河川は現在秋田運河（旧雄物川）と呼ばれている。この旧雄物川は秋田城跡から約 2km で日本海に至る。また、旧雄物川を挟んで西側には「向浜」と呼ばれる砂洲が発達している。

高清水丘陵と同様な河食段丘は海岸沿いに点々と続いており、南は大森山丘陵、勝平山丘陵、中野丘陵などがあり、秋田平野内では千秋公園・飯岡山・長岡などに丘陵が分布している。いずれの丘陵もその基盤をなす地層は今から 500 万年前に始まり、200 万年前まで続く新生代第三紀「鮮新世」の天徳層や、これに整合（一部不整合）する上位の笹岡層である。高清水丘陵では、これらの第三紀層を不整合に被覆した今から 200 万年前に始まる新生代第四紀「更新世」の潟西層（寺内層）が最上部の地層として現れている。また、丘陵は日本海岸に近接するため、北西から季節風を受けて、北部から西部にかけて最上層土壌を覆うように 2~10m の海岸飛砂が堆積している（経済企画庁 1966・藤岡 1981）。

丘陵基盤の天徳寺層は泥岩やシルト岩から構成され、笹岡層はシルト岩や砂質シルト岩、そして上方に漸次砂質化する細微粒の砂岩から構成されている。一方、潟西層は礫、砂および泥から構成される凝固度の弱い良帯水層で、孔隙性、浸透性が共に高く好適な滞水層となっており、下位の笹岡層との境界面は地下水流動面となり、凹所に被圧地下水が集水する。その地下水が層理や割れ目より湧出した部分は、現在、将軍野・大小路・鶴ノ木・焼山地区などにみられ、特に大小路地区にある湧水は「高清水壺泉」と呼ばれている。それらの丘陵上の豊富な湧水は地理的環境の特徴ともなっており、標高 12~39m の丘陵斜面や周縁には、谷水や自然湧水を貯えた小さい池沼が数多く分布している。

本報告で扱う秋田城跡焼山地区に関連する周辺の主要な遺跡として、古代〜中世の集落遺跡である「後城遺跡」（秋田市教委 1981b）、現秋田港付近の中世の平城である「湊城跡」（秋田市教委 2007b・2008c・2009b・c）、15 世紀中頃の中世陶磁器が発見されている「穀丁遺跡」（庄内 1982、神田 2012）がある。

I 遺跡の概要

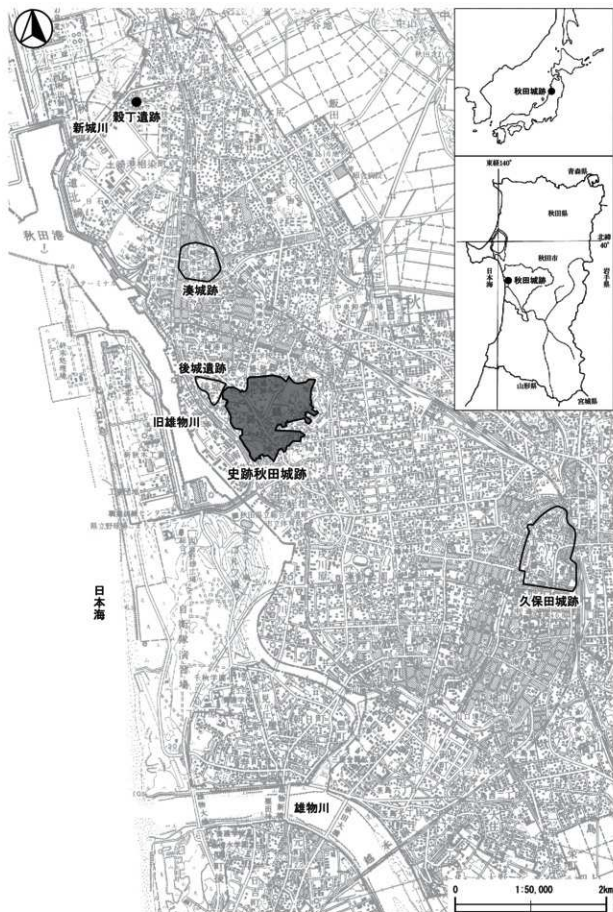


図1 史跡秋田城位置および周辺主要遺跡

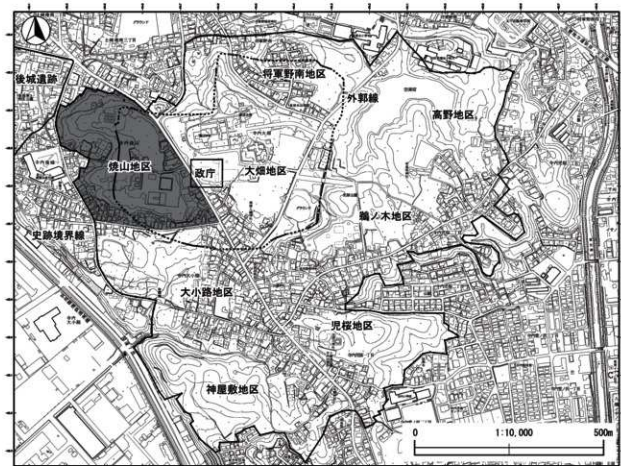


図2 史跡秋田城跡各地区名および焼山地区位置図

2 焼山地区の位置と立地

今回報告対象としている焼山地区は、史跡指定地である高清水丘陵西側に位置している（図2）。焼山地区の中心部は、およそ北緯 $39^{\circ}44'27''$ 、東経 $140^{\circ}4'36''$ ($X=28,499.170$ 、 $Y=64,852.163$) である。標高40～48m 前後の段丘面で、高清水丘陵では最上部の段丘面となっている。旧雄物川が高清水丘陵に近い場所を流れていたことを念頭に置くと、焼山地区は、旧雄物川および日本海へのアクセスが最も良く、遠くに男鹿半島を望み、見晴らしの良い場所である。焼山地区は全体的に飛砂が堆積しており、後世の削平を受けていなければ、飛砂層面が遺構構築面となる。焼山地区南端および中央部に、東から西に流れていたであろう沢状地形が確認されるが、この内南端部は道路が築造され周辺は宅地化されている。丘陵の裾部は削平を受けていると考えられるが、主要な部分の大きな地形改変は認められない。北西部は西側へ尾根状の地形が張り出し、緩やかに傾斜しながら史跡秋田城西側に所在する後城遺跡へと連結する。

秋田城における位置関係を見た場合、焼山地区は政庁西側の一帯であり、外郭線が地区西側で確認されており、城内と城外を含む地区である。

第2節 遺跡の現況－焼山地区を中心に－

秋田城跡は、昭和14年9月7日（官報第3803号 文部省告示第410号）に史跡指定され、昭和53年3月22日（官報第15354号 文部省告示第51号）で追加指定を受けている。現在の指定面積は約893,733㎡であり、その約60%が山林および畑、約30%が宅地である。

I 遺跡の概要

秋田市教育委員会秋田城跡調査事務所（平成28年度からは秋田市立秋田城跡歴史資料館）による発掘調査は、昭和47年（1972）から実施され、令和5年度（2023）で第11次5ヶ年計画の第2年次にあたる。令和4年度末までの調査面積（純調査面積）は73,735㎡で、対象とした面積（調査対象面積）に換算すると112,624㎡に相当する。史跡指定面積に対し純調査面積は8.3%、調査対象面積は12.6%に相当する。また、60年の長期計画における調査対象面積の目標は140,000㎡としており、これに対する純調査面積は52.7%、調査対象面積は80.4%に相当する。

遺跡の所在する高清水丘陵周辺はかつて畑地や松林、水田が広がっていたが、昭和40年代以降宅地化が著しく進行し、現在は宅地化している。また、明治14年の明治天皇巡幸の際に開削された市道土崎保戸野線（通称旧国道、以下「旧国道」という。）により、史跡内の大畑地区と焼山地区は分断されている。その後の発掘調査により、この旧国道によって政庁域の南西部3分の1が削平されていることが判明した。また、昭和18年（1943）～24年（1949）の戦中・戦後の混乱期に、飲料水の充当ならびに空襲による火災消火用水道の増強のために、焼山浄水場が計画、建設された。焼山地区には、沓池と配水池などが建設され、この部分については遺構が大きく削平されてしまっている（図3、秋田市水道局2008）。旧焼山浄水場は昭和51年まで使用されていた。

秋田城跡の外郭を区画する築地塀跡は、土塁状の痕跡として現存も東辺および西辺一部に残存している。また、外郭の東西南北の諸門のうち、東門が平成元年・2年度（1989・1990）に、西門が平成20年度（2008）、南門が平成24年度（2012）に発見されたが、北門のみが未検出である。このうち、外郭東門については、平成6～9年度（1994～1997）に発掘調査結果に基づいた復元整備が行われている。

外郭築地で囲まれた城内の大部分は標高40m以上の丘陵の上のっており、かつては畑地がほとんどを占めていた。現在この平坦部分には昭和初期から20年代にかけて造られた護国神社が所在し、同時期に造られた焼山浄水場の跡地、高清水小学校およびグランド跡地、秋田県自治研修所の跡地などの公有地が大きな面積を占めている。また、東西には若干の畑地が残り、これ以外は住宅地となっている。城内の政庁跡は護国神社南側の広場を中心として国営調査とその後の秋田市教育委員会による調査により構造や変遷が確認されている。政庁域については平成16～21年度（2004～2009）に環境整備事業が行われている。また、焼山地区において、旧焼山浄水場関連施設があり遺構面が失われてしまった場所に、平成9年度（1997）に管理運営施設、平成24～27年度（2012～2015）にガイダンス施設が整備された。また、旧国道により政庁域と焼山地区が分断された部分は、平成29年度～令和3年度（2017～2021）に史跡公園連絡橋を整備し、両者をつなげるとともに、削平により失われた政庁西門の位置と旧地形を復元している。

今回報告する焼山地区は、中央部に焼山浄水場関連施設、北西部に個人の別荘地、南西部に一般住宅などがあり、その他は畑地が広がっていた。宅地等の造成により、平坦地の上部は一部削平を受けている部分のみみられるものの、遺構は比較的良好に遺存している。焼山浄水場関連施設が存在した部分は、秋田市の公営企業有地となっており、その他の部分は個人所有の土地となっていた。昭和41年度の土地公有化開始を受け、昭和47年度の14次調査から令和4年度の117次調査にかけて継続的に調査を行った。その結果、外郭の北西部の様相や、外郭西門、掘立柱建物群、南西部区画施設等、重要な調査成果が上がり、地区の実態解明が進んだ。史跡整備としては、上述のように、浄水場関連施設により遺構は破壊されてしまった部分に、管理運営施設とガイダンス施設、政庁とガイダンス施設を結ぶ史跡公園連絡橋の整備が行われている。



図3 旧焼山浄水場（昭和49年都市計画図に加筆）

秋田城跡歴史資料館（北東から）



史跡公園連絡橋（南西から）



第II章 研究史と保護の経過

第1節 研究史

1 秋田城の研究略史

秋田城の文献史料上の初見は、『続日本紀』天平5年(733)12月26条「出羽榑秋田村高清水岡遷置」で、「出羽榑」を移転し北進させ、秋田村高清水岡に遷し置いたことを記したものである(秋田市史古代-36)。次いで正倉院流出文書である天平宝字4年(760)3月19日「丸部足人解」の「阿支太城」とあるように(秋田市史古代-48)、この頃「出羽榑」から「秋田城」に改称されたことがわかる。以後、「秋田城」の名称は11世紀中頃まで文献史料上散見できるが、やがて古代城榑秋田城は時の流れの中で人々に忘れられていった。

その後、秋田城とその所在について再び議論されるようになったのは、江戸時代中期以降である。遺跡としての秋田城を記述した最も古い文献は、進藤重紀により宝暦10年(1760)頃に書かれた『出羽国風土略記』で、場所は不明ながらも高清水岡上に秋田城跡が存在していたことを記している(進藤1762)。その後、明和年間(1764~1771)に寺内村古四王神社の禰宜 鎌田正家の祖父である鎌田正苗が刊行した「秋田郡寺内村古跡記」に、現在の史跡指定地南側の勅使館が秋田城であるとの認識を示している(鎌田1772以前、星野2015)。こうした江戸時代の研究の中で、卓越した洞察を示したのは、紀行家として知られている菅江真澄の研究である。菅江真澄は秋田を中心に活動し、各地の文物を調査し記録にとどめた。菅江真澄は、旧寺内村の上述の鎌田正家宅に長く滞在し、正家らから寺内村由緒を聞き、古老から聞き取り調査を実施した。そして、文化9年(1812)頃に刊行した『水の面影』のなかで、古四王神社から北側に見える小高い山が高清水の岡であると指摘し、この地こそ『続日本紀』に記される出羽榑(秋田城)である高清水の岡であるとの見解を示した(菅江1812)。なお、菅江真澄は、放浪の生涯を送った後、仙北郡で病没後、鎌田家とのゆかりで寺内に葬られた。その墓は現在も史跡指定地内の一画にあり、秋田県指定史跡となっている。その他、文政6年(1823)に黒澤道形による『秋田千年瓦』(黒澤1823)、天保14年(1843)に高階貞房による『寺内村記』などがあり、高清水の地に秋田城を想定している(高階1843)。

近代に入ると、明治30年(1897)に狩野徳蔵が『秋田城古跡考』で、勅使館を秋田城跡と考へ同所を観察し、その様子を詳細に述べている(狩野1897)。明治40年(1907)に吉田東吾の『大日本地名辞書』の「南秋田郡」・「秋田城跡」の項において、勅使館を当初の秋田城跡とする考へが示され、秋田城の国府移転についても触れている(吉田1907)。また、明治40年(1907)に、橋本宗彦が秋田魁新報紙上に、『秋田城考』を掲載し、寺内丘陵(高清水丘陵)全体を秋田城跡とする説を述べている(橋本1907)。こうした中、実証的な秋田城研究を進めていったのが大山宏である。大山は、明治30年代から秋田県立秋田中学校に勤務する傍ら、秋田城に関して、地名・神社仏閣などの関連資料分析と共に、土塁跡の確認や土器・瓦の収集など現地調査を組み合わせた研究を重ねていった。こうした調査を踏まえ、大山宏は、秋田城=寺内説を裏付けていった。

大正時代以降になると、秋田城跡をめぐる問題に取り組む地方研究者が増え、活発な論考がなされる。武藤一郎による「秋田城址に就いて」(武藤1926)、栗田茂治による『秋田城考』(栗田1926)、安東和風による『秋田の土と人』(安藤1931)、大山宏による「秋田城跡畧考」(大山1926)などでは、勅使館を秋田城の付属施設と考へ、高清水丘陵全体が秋田城跡であるとされた。土塁も一部確認されていたこと

から、文献とともに遺構や遺物などの資料から分析が行われるようになった。

こうした秋田城の実態解明に向けた地元の気運が高まる中、大正13年(1924)9月に内務省史跡名勝天然記念物係官 柴田常恵が来秋し、秋田城の範囲を確定させるために、土器や瓦等の遺物の分布状況や土塁の痕跡確認等の現地調査を実施した。詳細な測量調査により大畑地区を中心に土塁の痕跡が確認され、秋田城の範囲は寺内丘陵のほぼ全体に広がることとなった。この調査をもとに、昭和2年(1927)秋田師範学校 栗田茂治、佐々木三治郎らが踏査研究を行った。また、県の史跡名勝天然記念物調査員であった大山宏は、昭和6年(1931)に高清水丘陵全域と土塁遺構が遺存していた約1.2kmにわたる部分の測量を行い、秋田城跡附近実測図を作成し、同7年(1932)「秋田城跡に就いて」の論文を発表した(大山1932)。この土塁測量図は、現在発掘調査で確認されている外郭築地塼とほぼ一致している。こうした現地調査成果を受け、昭和10年(1935)8月、文部省の荻野仲三郎が来秋し、実地調査を行った。また、秋田魁新報社主催で、史蹟研究会が開催され、秋田城の位置・範囲は寺内丘陵のほぼ全域に及ぶとの結論が出された。このような経過を経て、秋田城の史跡指定申請が行われ、昭和10年(1935)10月文部省史蹟調査会による史跡指定の承認を受け、昭和14年9月7日付け告示第410号により国指定史跡となった。史跡指定範囲については、その後の秋田市による発掘調査成果を踏まえて、昭和53年3月22日付け告示第51号で追加指定が行われている。秋田市による継続的な調査は、昭和47年度から実施され、今日まで継続しており、秋田城の実態解明が大きく進展した。

2 焼山地区の研究史

昭和34年～37年度に行われた国営調査のうち、焼山地区の調査は、昭和36年度(3次調査)と昭和37年度(4次調査)の2ヶ年である(文化財保護委員会1961・1962)。3次調査において梁間3間×桁行7間の南北棟掘立柱建物跡を、4次調査において梁間2間×桁行5間の南北棟掘立柱建物跡を検出し、「倉庫の類」、「倉庫あるいはこれに関連する庁舎の跡」と推定された。また、4次調査で発見された梁間3間×桁行5間の東西棟掘立柱建物跡は「槽跡」と推定された。このように、焼山地区は国営調査当初から、大規模な掘立柱建物跡群が存在することが指摘されてきた。その一方で、焼山地区からは堅穴建物跡等も検出されており、焼山地区の南側では鉄滓が出土するピットなどが確認され「工作址」である可能性も指摘されている。また、焼山地区の西側と北側で「土塁」が確認されており、秋田城の北西部の外郭線が通ることも指摘されている。その他、4次調査では、焼山地区北西部において、「三浦氏邸内地区」の調査を行い、人骨の出土を伴う土坑墓を発見しており、中世遺物が出土することから、中世の遺構であることを指摘している。

以上のように、昭和30年代の国営調査の時点で、焼山地区は、①大規模な掘立柱建物跡群が確認され「倉庫」の機能を有する可能性があること、②南側では鉄生産施設が存在すること、③秋田城北西部の外郭線が通ること、④北西部で中世遺構が発見されることなど、今日的にみても焼山地区の重要な要素について指摘している。

その後、昭和47年以降、秋田市教育委員会による発掘調査が進められると、昭和48年度の10次調査で、外郭線の南東部において、土塁と考えられていた外郭区画施設が、築地塼であることが判明した(秋田市教委1974)。さらに、昭和49年度の14次調査および昭和51年度の19次調査において、秋田城外郭西辺にあたる焼山地区においても、外郭区画施設は築地塼であることが再確認された(秋田市教委1975・1977)。さらに、92次調査において、外郭西門跡が発見され秋田城の基本構造を理解する上で重要な発見となった(秋田市教委2009a)。

国営調査で発見されていた大型の掘立柱建物跡群についても、継続的な調査により実態説明が進められた。特に、21・59・66・70・73・85・89次調査（秋田市教委 1978・1993・1997・1998・2001・2006・2007a）により、掘立柱建物跡群の建物の構造と時期変遷が明らかとなってきた。これらの所見を踏まえ、秋田城跡焼山地区の大型の掘立柱建物群の機能として、国営調査と同様に「倉庫群」とであると改めて言及されている（秋田市教委 2006、伊藤武士 2006）。伊藤武士は、倉庫群は郡衙と認識されている遺跡では認められるものの、城柵において大規模な倉庫群は発見されていないことから、秋田城の特徴であると指摘した。さらに、伊藤はこれらの倉庫群が示すものとして、延暦年間以降に秋田郡衙としての機能が付加されていた段階があること、また、最北の城柵として北方の蝦夷との朝貢・饗給の場の機能が重視されており、饗給物資の集積と貯蔵管理が行われていた可能性を指摘している。この大型の掘立柱建物群を倉庫群ととらえることに對し、八木光則はこれらの大型建物は政庁脇殿クラスに相当し、陸奥側のコの字形官衙などに相当する可能性を指摘している（八木 2022）。

焼山地区南西部においては、85・96・99次調査で材木堀跡の区画施設が検出され、最大で東西約60m、南北約60mの方形に囲われていることが発見され（秋田市教委 2006・2011・2012）、また区画施設内は、99・108・112次調査で焼土遺構が発見され、鉄製品・鉄滓などが出土し、鉄生産に関連する施設が存在することを確認した（秋田市教委 2012・2018・2020）。

焼山地区の中世遺構については、92次調査B区で中世後期の八脚門と土塁、土坑墓が発見された（秋田市教委 2009a）。これを契機として、103・106・109・117次で中世の土塁および材木堀跡が発見され、外側を土塁、内側を材木堀等で囲う二重構造になっていることが判明した（秋田市教委 2014a・2016・2018・2023）。これらの調査成果を踏まえ、神田和彦は秋田市雄物川下流域における中世後期の遺跡について整理と文献史料との対比を行い、こうした焼山地区北西部の中世後期の利用について、天正17年（1589）の湊合戦において、『奥羽永慶軍記』（戸部 1883）に記される「寺内の砦」に相当する見解を示した（神田 2012）。

3 焼山地区以外での調査成果による遺構変遷について

これまでの秋田城の調査成果をまとめたものとして「政庁跡」と「鶴ノ木地区」については総括報告書が刊行されている（秋田市教委 2002b・2008b）。また、暫定的ではあるが外郭区画施設については、東門付近のSG1031土取り穴を調査した54次調査の所見がある（秋田市教委 1991・2014b、伊藤武士 2006）。これらの所見から各地区の遺構変遷について整理したのが表1である。

政庁は6期（細分して7期）の変遷があり、IV期はA・Bの小期に分けられる。政庁I期は天平5年（733）の秋田出羽棚の創建から、II期は天平宝字年間（739）の「秋田城」に名称が変わる8世紀第3四半期から、III期は8世紀末・9世紀初頭から、IV期は天長7年（830）の地震後に復興した9世紀第2四半期から（細分してIVA・Bの小期あり）、V期は元慶2年（878）に起きた元慶の乱後に復興した9世紀第4四半期から、VI期は10世紀第1四半期後半から10世紀中葉頃までの秋田城最終末期にあたり、文献史料で記載される秋田城に関連する大きな出来事と一定の整合性がみられる。政庁の区画施設は、奈良時代では、I期は瓦葺きの築地堀跡、II期は北半が非瓦葺きの築地堀跡で南半が材木列堀である。平安時代ではIII・IV・VI期は一本柱列堀、V期は布掘り溝を伴う材木列堀となる。

鶴ノ木地区は5期の変遷があり、I期～IV期は政庁I期～IV期と対応している。鶴ノ木地区V期は不明な点が多く、政庁のV・VI期に相当すると考えられる。奈良時代における鶴ノ木地区I・II期の掘立柱建物群の伽藍配置は観音寺式をとる可能性があり、平安時代のIII・IV期になると建物配置が大きく変化し、四面庇の堂風建物となることが指摘されている。

表1 政庁・鶴ノ木・外郭遺構変遷表

	733	750	760	800	830	850	878	900	950			
政庁	I 期		II 期		III 期	IV A 期	IV B 期	V 期	VI 期			
政庁区画施設	築地塀 (瓦葺き)		築地塀 (非瓦葺き) 材木列塀 (東辺南半・ 南辺)		一本柱列塀	一本柱列塀	一本柱列塀	材木列塀	一本柱列塀			
政庁整地事業・ 遺構の特徴	創建時の整地層		正殿(SB748A) 焼失か		III期造営に 伴う整地 各建物柱廻り 方理土に 焼土・炭化 物混入		建物柱痕跡 に焼土・炭 化物・焼け 壁材混入、 建築炭化材 遺存		後世の削平多 く不明確 建物炭化柱材 遺存			
鶴ノ木地区	I 期		II 期		III 期	IV 期		V 期				
鶴ノ木 建物類型	A-1 類		A-1 類 D 類		B 類	C 類 四面庇堂風建物		詳細不明				
鶴ノ木地区遺構 の特徴等			水洗便所遺構 主要建物焼失か		整地層に焼 土・炭化物 混入		整地層に焼土・炭化物混入					
					建物配置が大きく変化							
外郭	I 期		II 期		III 期		IV 期		V 期			
外郭区画施設	築地塀 (瓦葺き)		築地塀 (非瓦葺き)		材木塀 (柱列塀)		材木塀 (材木列塀)		大溝			
時期	天平5年(733)～		8C第3四半期～		8C末・9C初 ～		9C第2 四半期 ～		9C第3四半 期～	元慶2年(878) ～	10C第1四半期 後半 ～10C中葉	
備考	秋田出羽橋 創建期		天平宝字年間 「秋田城」 改修期		第III期全体 大改修期		天長7年 (800) 大地震埋 覆崩壊		元慶の乱で 焼失		元慶の乱 (878)後 復興期	最終末期

外郭区画施設は5期の変遷があり、外郭Ⅰ・Ⅱ期は政庁Ⅰ・Ⅱ期に対応し、外郭Ⅲ期は政庁Ⅲ・Ⅳ期、外郭Ⅳ期はほぼ政庁Ⅴ期に対応している。一部の調査地でしか確認されていないが、10世紀中葉前後に外郭Ⅴ期が位置づけられている。今のところ政庁Ⅵ期と外郭Ⅴ期の開始時期は若干異なっていると考えられている。奈良時代の外郭Ⅰ期は瓦葺きの築地塀、外郭Ⅱ期は非瓦葺きの築地塀と考えられ、平安時代のⅢ・Ⅳ期は材木塀へ変化している。外郭Ⅲ期は柱材を一定の間隔を空けて立て並べる柱列塀、外郭Ⅳ期は柱材を密に立て並べる材木列塀、外郭Ⅴ期は大溝となっている。

本書における焼山地区の遺構変遷については、これらを実リオリに適用するのではなく、焼山地区における遺構の切り合い関係および遺構に伴う出土遺物や検出整地層の年代から変遷を整理するが、上述のような政庁・鶴ノ木・外郭の時期区分を念頭におきながら最終的な整理を行っていきたい。

第2節 保護と活用整備の経過

1 保護の経過

(1) 史跡指定と保存管理計画策定

秋田城は、昭和10年8月に史跡指定申請が行われ、昭和10年10月15日、文部省の部会で可決され、同年10月22日に指定された。文部省の官報告示第410号によって、正式に国指定を受けたのは、昭和14年9月7日であるが、これは指定に必要な史跡の地番等の資料整理に時間を要したためである。

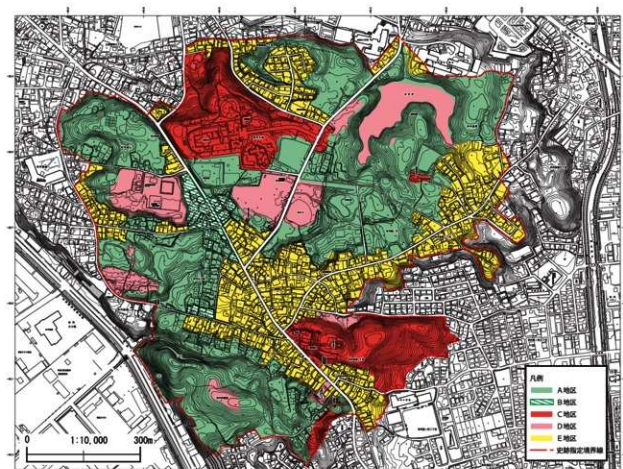


図4 史跡秋田城跡保存管理計画図

その後、現状変更の急増に伴い、昭和34～37年にかけて実施された国営発掘調査を経て、昭和47年、秋田市教育委員会に秋田城跡発掘調査事務所を設置し、継続調査に着手するとともに保護管理体制を強化し、昭和52年に「保存管理計画」を作成した。また、同年に史跡の追加指定申請を行い、昭和53年3月22日の官報告示第51号で告示されている。その後調査による史跡実態把握の進展と社会環境の変化や、整備基本計画の策定との関わりから、昭和62年3月に「保存管理計画」を改定している。また、調査の進展に伴い地区区分の変更を行う必要が生じたことから、平成26年3月に「保存管理計画」をさらに改定しており、現在の保存管理計画は第3版目となっている（秋田市教委2014b、図4）。

現在の保存管理計画においては、今回報告の焼山地区は、大部分がA地区（重要保存地区・土地公有化対象・史跡整備以外の現状変更不許可）、南東部はB地区（政庁南西部一画であるが人家密集地区・史跡保存上必要と認めた場合は買取、現状変更原則不許可）、中央部南側は昭和24年に秋田市上下水道局用地となっておりD地区（史跡整備以外の現状変更不許可）、南西・南側一部・中央部北側はE地区（人家密集地区・非公有化対象・現状変更原則許可）となっている。

(2) 土地公有化

秋田城跡の土地公有化は、史跡指定地周辺に土地開発が波及し、保存問題が深刻化する中、昭和40年の現状変更の不許可第一号が発生したことを受け、昭和41年度から土地買い上げ事業として開始された。それ以降現状変更が認められない重要保存地区について、秋田市が事業主体となり、国庫補助事業として土地の買い上げを実施してきた。昭和44年度から同46年度にかけて大規模な一筆測量を実施し、

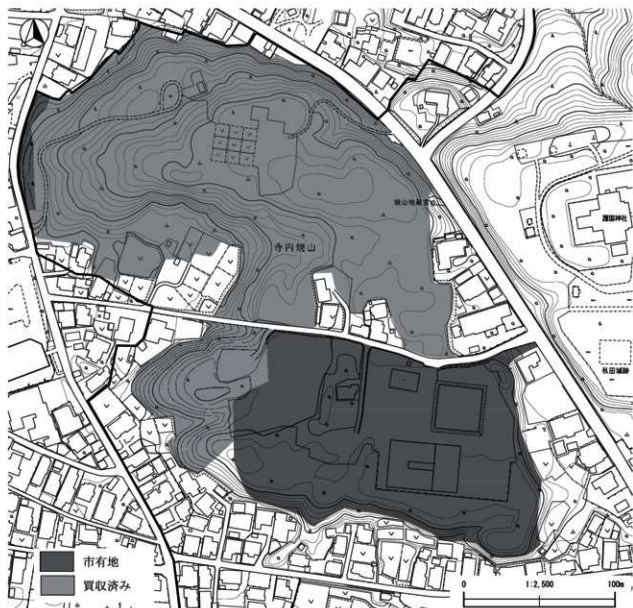


図5 史跡秋田城跡焼山地区土地公有化状況

地権者の買取請求に対応するとともに、公有地の散在防止のために高野・鶴ノ木地区を第1拠点、焼山地区を第2拠点、大小路地区を第3拠点、神屋敷地区を第4拠点として、円を広げる方向で公有化を進めてきた。

今回報告対象である焼山地区のうち、秋田城跡歴史資料館が所在するエリア一帯は、秋田市上下水道局用地となっているものの、大部分は民有地であり、国営発掘調査で掘立柱建物跡群等が発見されたことを受け、重点的に買い上げが行われてきた。令和4年度末の時点で、公有化予定面積390,221.05㎡のうち、77.36%にあたる301,857.91㎡を公有化している。焼山地区は、公有化予定地の約8割が買取済みとなっており、史跡秋田城跡内でも公有化が進展している地区の一つとなっている（図5）。

2 活用整備の経過

秋田城跡では、より積極的な史跡の活用を図ることを目的に昭和61年度に「秋田城跡整備基本計画」を策定し（秋田市教委1987b）、平成元年度から環境整備事業に着手している。

平成元～9年度に鶴ノ木地区、平成16～21年度に政庁城および鶴ノ木地区水洗廁舎復元、平成22～令和3年度に城内東大路の復元を行ってきた。

II 研究史と保護の経過

今回の報告対象地区である焼山地区においては、旧焼山浄水場跡地により遺構が削平されてしまった部分に平成6～9年度に管理運営施設を、平成24～27年度に展示・ガイダンス施設を整備し、平成28年4月に秋田市立秋田城跡歴史資料館として開館した。さらに、既に整備済みであった政庁城と秋田城跡歴史資料館は、旧国道により分断されていたが、これをつなぐために平成30～令和3年度に史跡公園連絡橋の整備を実施している（図6）。

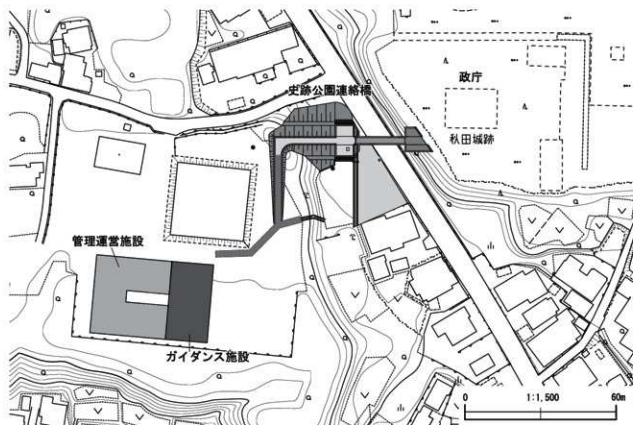


図6 焼山地区整備状況

第三章 調査の経過と記録の方法

第1節 調査の経過

1 文化財保護委員会による調査

秋田城跡の発掘調査は、昭和33年に高清水丘陵北側の弊切山で行われた宅地造成による無断現状変更をきっかけに、秋田県教育委員会が緊急発掘調査を実施したのが最初である。この結果を受けて、文化財保護委員会（現文化庁）は調査団を結成し、翌年の昭和34～37年まで4ヶ年計画で国営調査を実施した。

調査団は、団長を文化財保護委員会の斉藤忠文化財調査官（当時）が勤め、在京の大学教授や岩手大学、秋田大学の教授・学生、それに地元研究者を中心として結成され、主に7・8月の夏期に発掘調査が実施された。調査地域はほぼ丘陵全体に及び、秋田城の中心部と考えられていた護国神社境内地南側の広場や大規模な建物跡が発見された神社西側の焼山地区、それに旧高清水小学校グラウンド東の鶴ノ木地区等、主要地域についてはトレンチを拡張して広範囲の調査が行われた。

発掘調査の結果、丘陵南側の通称勅使館地区を含む土塁が秋田城の外郭を構成していること、護国神社境内地南側の広場は柵列が巡る「内城」の存在、鶴ノ木地区で発見された掘立柱建物跡は、天長7年（830）に出羽国大地震の際に記載されている「四天王寺」であること、が指摘された。焼山地区は、先の第二章第1節第1項で述べたように、昭和36・37年度の第3次調査および第4次調査の2ヶ年にわたり行われ、①大規模な掘立柱建物跡群が確認され「倉庫」の機能を有する可能性があること、②南側では鉄生産施設が存在すること、③秋田城北西部の外郭線が通ること、④北西部で中世遺構が確認されること、が指摘されている。

2 秋田市教育委員会による調査

(1) 調査に至る経緯

史跡秋田城跡の発掘調査は、昭和34～37年度の国営調査以降昭和46年度まで実施されていなかったが、昭和40年代に入り史跡指定地周辺に土地開発が波及し、保存問題が深刻化してくると、保存管理計画の策定が急務となった。国営調査が行われた以外の地区では保存のための基礎資料がなかったため、保存管理計画策定に必要な史跡指定地の遺構の分布状況・変遷・重要度を明確にするための発掘調査を実施することとなった。基本的には、秋田城跡の外郭線の把握や政庁・鶴ノ木・大小路・焼山地区等の遺構密集地の実態解明を目的とし、5ヶ年計画を基本とした年次計画とこれを包括する60年におよぶ第1期長期計画が策定された。

昭和47年度から国の指導を得て一貫した継続調査を行うために、秋田市は秋田城跡発掘調査事務所（現・秋田城跡歴史資料館）を開設した。発掘調査事業は国庫補助事業として、調査指導機関を宮城県多賀城跡調査研究所とし、今日に至るまで継続的に実施している。

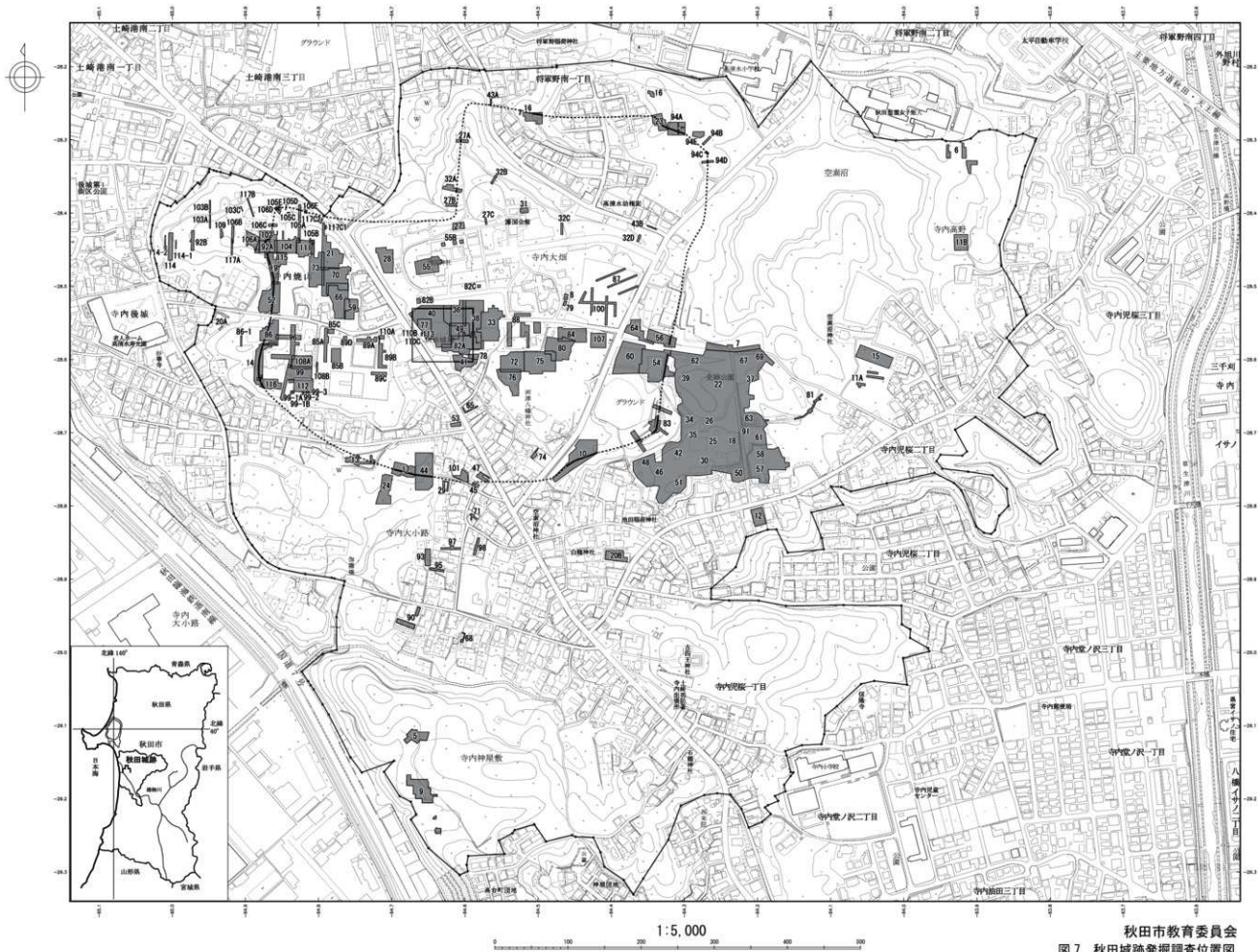
(2) 全体年次計画と実績および調査成果

令和4年度末までの発掘調査一覧は表2・3、発掘調査位置は図7である。調査回数については、昭和34年度の国営調査を1次とし、同37年までの1年度ごとの調査を1回の回数として第4次までとした。秋田城跡調査事務所が昭和47年度から開始し、調査回数は、1現場を1次とし、5次調査から付し、令和4年度末で117次調査まで行っている。また、これまで地区ごとの調査成果がまとまった段階で正報

III 調査の経過と記録の方法

表2 秋田城跡発掘調査実績一覧(1)

50年計画	年度(西暦)	次数	調査地区	調査面積(m ²)	調査目的	調査成果	備考	その他事業	
-	-	S34~37(1959~1962)	-	-	文化財保護委員会による第1次~第4次固定発掘調査	-	-	-	
第1次	S47 (1972)	5	神居敷	530	外郭範囲確認	土層(11世紀以降)	動使館の土層確認		
		6	高野	700	外郭範囲確認				
		7	高野	330	外郭範囲確認	城外東大路検出			
	S48 (1973)	8	大畑	75	現状変更対応				
		9	神居敷	774	外郭範囲確認	堀穴建物群	動使館の遺構確認		
		10	鶴ノ木	1,179	外郭範囲確認	築地層・橋伏建物	土層ではなく、築地層を確認		
	S49 (1974)	11	高野	196	外郭範囲確認				
		12	尻橋	450	現状変更対応				
		13	大小路	499	外郭範囲確認	築地層・橋伏建物	外郭南東辺		
	S50 (1975)	14	横山	761	外郭範囲確認	築地層・橋伏建物	外郭西辺		
		15	高野	633	墳丘の確認		空室前1号墳を確認		
		16	百草野南	470	外郭範囲確認	築地層・橋伏建物	外郭北辺,外郭範囲一辺550mの不整形と推定		
	第2次	S51 (1976)	17	大小路	650	外郭範囲確認	堀穴建物群	赤褐色土層A・Bの分類	
			18	鶴ノ木	1,692	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群検出	S50の一部着手	
			19	横山	491	外郭範囲確認	築地層・橋伏建物	外郭西辺,創建期から築地層	
S52 (1977)		20	鶴ノ木	162	現状変更対応				
		21	横山	900	外郭範囲確認	横山地区建物群検出		保存管理計画策定,一部追追加指定	
		22	鶴ノ木	1,296	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群			
S53 (1978)		23	百草野南	350	外郭範囲確認	築地層・橋伏建物	外郭北辺		
		24	大小路	640	外郭範囲確認	住居群検出			
		25	鶴ノ木	1,476	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群	SE100天平六年木簡		
S54 (1979)		26	鶴ノ木	1,683	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群検出,古代瓦			
		27	大畑	207	外郭範囲確認	土取穴	外郭北西辺,築地層等は未検出		
		28	大畑	1,008	政庁城柵		政庁城柵確認されたなかった		
S55 (1980)		29	大小路	53	現状変更対応	築地層	良好な崩壊瓦割		
		30	鶴ノ木	1,780	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群検出			
		31	大畑	102	現状変更対応				
S56 (1981)	32	大畑	299	外郭範囲確認	ITで築地層跡,橋伏建物				
	33	大畑	1,162	政庁城柵	大畑地区殿上1号群検出	政庁城柵確認されたなかった			
	34	鶴ノ木	864	鶴ノ木地区遺構確認	古代瓦,井ノ跡				
S57 (1982)	35	鶴ノ木	972	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群				
	36	大畑	906	政庁城柵	政庁北西部,北東建物,政庁区画	2~4号連続,2号(出芽管付簡)			
	37	鶴ノ木	517	鶴ノ木地区遺構確認	山池の調査	山池の調査			
S58 (1983)	38	大畑	1,578	政庁城柵	政庁北西部,東辺区画施設・東門	5号連続瓦文書			
	39	鶴ノ木	607	鶴ノ木地区遺構確認	古代瓦,テラス状遺構	整地遺物,6号連続瓦文書			
	40	大畑	1,280	政庁城柵	政庁正部,北西部,南建物	白磁,7号連続瓦文書			
S60 (1985)	41	大畑	440	政庁城柵	政庁城南東コーナー一部検出	政庁城の規模確定			
	42	鶴ノ木	1,728	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群				
	43	百草野南	270	現状変更対応	築地層一部確認	立会調査,外郭北辺			
S61 (1986)	44	大小路	1,260	外郭範囲確認	築地層,崩壊瓦層	(釋)墨書2号,外郭南辺	整備基本計画策定,保存管理計画改定		
	45	大小路	181	現状変更対応	社殿跡(外郭南門の一部)				
	46	鶴ノ木	504	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群				
S62 (1987)	47	大小路	104	現状変更対応					
	48	鶴ノ木	966	築地層の把握	鶴ノ木地区建物群	外郭南辺付近,区画施設未検出			
	49	大畑	470	政庁城柵	政庁東建物	中世が主体			
S63 (1988)	50	鶴ノ木	567	鶴ノ木地区遺構確認		中世が主体			
	51	鶴ノ木	792	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群,二本柱遺構				
	52	横山	1,044	外郭範囲確認	築地層,橋伏建物	外郭西辺			
第4次	H元 (1989)	53	大小路	70	現状変更対応				
		54	鶴ノ木(西部)	1,273	外郭範囲確認	外郭東門,築地層等区画施設,SG1031土取り穴	外郭東辺,8~15-18-27~29-31~38号連続瓦文書,出羽田大榎堂(8号),出羽田計帳・具注帳(9号),書状(10号),出羽守・介解文(11号),存因計帳(18号),出草(28号),木簡・木製品多数,土器など基準資料	鶴ノ木地区環境整備事業着手	
		55	大畑	812	現状変更対応	堀穴群,龍立柱建物	外郭区画施設の変遷に言及		
H3 (1991)	56	鶴ノ木(西部)	760	外郭範囲確認	外郭区画施設	護国神社後援・再建に伴う調査			
	57	鶴ノ木	1,300	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群	材木層検出,築地層不明,創建期東門は確認できなかった			
	58	鶴ノ木	1,340	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群				
H5 (1993)	59	横山	462	横山地区遺構確認	横山地区建物群	庭衣遺			
	61	鶴ノ木(西部)	507	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群				
	62	鶴ノ木	1,700	鶴ノ木地区遺構確認	城外東大路(7号固め遺構)	和同開珎造銭			
H6 (1994)	63	鶴ノ木	450	鶴ノ木地区遺構確認	土代木先頭合巻				
	64	鶴ノ木	490	鶴ノ木地区遺構確認	古代木先頭合巻				
	65	鶴ノ木(西部)	786	大畑地区遺構確認	殿上1号群検出	外郭東門跡の一部検出			
H7 (1995)	66	大畑	530	現状変更対応					



秋田市教育委員会
図7 秋田城跡発掘調査位置図

表3 秋田城跡発掘調査実績一覧(2)

5年計画	年度(西暦)	次数	調査地区	調査面積(m ²)	調査目的	調査成果	備考	その他事業	
第5次	H8 (1996)	66	焼山	1,132	焼山地区遺構確認	焼山地区建物群検出			
		67	鶴ノ木	672	鶴ノ木地区遺構確認	沼地跡			
		68	大小路	387	現状変更対応	居住域検出			
	H9 (1997)	69	鶴ノ木	664	鶴ノ木地区遺構確認	沼地跡		鶴ノ木地区および外郭東門復元完成	
		70	焼山	1,121	焼山地区遺構確認	焼山地区建物群			
第6次	H10 (1998)	71	大小路	295	現状変更対応	木道	中世遺物		
		72	大畑	1,300	大畑地区遺構確認	鍛冶工房群	非鉄製小札甲, 煎薬十灰5・6, 16・17・19~26・31~33号漆紙文書, 死亡帳(16号)		
	H11 (1999)	74	大畑	50	現状変更対応				
		75	大畑	1,286	大畑地区遺構確認	建物群・鍛冶工房群	26号漆紙文書「御社帳」		
		H12 (2000)	76	大畑	745	大畑地区遺構確認	焼山地区建物群検出	H10に一部重なり, 30号漆紙文書	
H13 (2001)		77	大畑	300	政庁城柵掘				
	78	大畑	90	政庁城柵掘	政庁東辺区画施設				
第7次	H14 (2002)	79	大畑	23	現状変更対応				
		H14 (2002)	80	大畑	1,260	大畑地区	政庁跡総括報告書		
	H15 (2003)	81	大畑	1,260	大畑地区	建物群・鍛冶工房群			
		82	大畑	1,157	政庁城柵掘			環境整備事業に伴う遺構確認	
		H16 (2004)	83	鶴ノ木	495	外郭西門確認	築地塙, 材木塙, 櫓状建物	外郭南東コーナー一部検出	政庁・古代木洗厨舎復元整備開始
		84	大畑	708	大畑地区遺構確認	城内東大路	6期の道路変遷		
		H17 (2005)	85	焼山	504	焼山地区遺構確認	焼山地区建物群, 城内区画施設		
			86	焼山	663	外郭西門把握	築地塙・材木塙	外郭西門検出できず	
		H18 (2006)	87	大畑	432	現状変更対応	鍛冶工房群		
			88	大畑	621	大畑地区遺構確認	城内東大路・鍛冶工房群		
89	焼山		478	焼山地区遺構確認	焼山地区建物群				
90	大小路		203	現状変更対応	住居・竪立柱建物跡				
H19 (2007)	91	鶴ノ木	489	鶴ノ木地区遺構確認	鶴ノ木地区建物群				
第8次	H20 (2008)	92A	焼山	415	外郭西門把握	外郭西門			
		92B	焼山	415	外郭西門把握	中世後期の八脚門			
		93	大小路	172	城外南大路・外郭南門の把握	城外南大路に直行する東西道路			
	H21 (2009)	94	大畑	700	外郭北門把握	築地塙・材木塙	外郭北東隅検出, 外郭北門は未検出	政庁・古代木洗厨舎復元整備完成	
		95	大小路	60	城外南大路・外郭南門の把握	城外南大路の敷地層・溝跡等	中世・中世の道路遺構も検出		
	H22 (2010)	96	焼山	678	焼山地区遺構確認	城内区画施設		城内東大路復元開始	
		97	大小路	92	城外南大路・外郭南門把握	城外南大路			
	H23 (2011)	98	大小路	74	現状変更対応・城外南大路周辺把握	竪立柱建物・駆込建物・生産施設	道路遺構は未検出		
		99	焼山	757	焼山地区遺構確認	城内区画施設			
	第9次	H24 (2012)	100	大畑	463	大畑地区遺構確認	生産施設	環境整備事業に伴う遺構確認	ガイダンス施設事業着手
101			大小路	172	城外南大路・外郭南門把握	外郭南門			
H25 (2013)		102	焼山	720	外郭西門把握	外郭西門, 外郭区画施設			
		103	焼山	27	焼山地区遺構確認	中世後期の土塁			
H26 (2014)		104	焼山	588	焼山地区遺構確認	城内西大路の道路硬化面			
		105	焼山	191	焼山地区遺構確認	築地塙, 材木塙	外郭北西辺		
H27 (2015)		106	焼山	535	焼山地区遺構確認	城外西大路道路, 外郭区画施設, 櫓状建物, 中世材木塙		ガイダンス施設完成	
H28 (2016)	107	大畑	423	大畑地区遺構確認	城内東大路	6期の道路変遷	秋田城跡歴史資料館開館		
第10次	H29 (2017)	108	焼山	534	焼山地区遺構確認	城内区画施設内の焼土遺構群		史跡公園遺構事務事業着手	
		109	焼山	41	焼山地区遺構確認	城外西大路, 中世材木塙			
	110	焼山・大畑	45	現状変更対応		連絡橋整備に伴う遺構確認			
	H30 (2018)	111	焼山	496	焼山地区遺構確認	城内西大路の硬化面, 焼山地区建物群	39号漆紙文書(具注歴)		
第11次	R1 (2019)	112	焼山	564	焼山地区遺構確認	城内区画施設内の後土遺構群			
		113	大畑	6	現状変更対応		連絡橋整備に伴う遺構確認		
	R2 (2020)	114	焼山	257	焼山地区遺構確認	城外南大路, 中・近世火葬窯			
		115	焼山	242	焼山地区遺構確認	外郭区画施設			
R3 (2021)	116	焼山	385	焼山地区遺構確認	外郭, 区画施設西側の焼土遺構等		連絡橋, 城内東大路完成		
R4 (2022)	117A	焼山	123	焼山地区遺構確認	中世切岸遺構, 材木塙		AR・VRサービス開始		
	117B	焼山	123	焼山地区遺構確認	中世土塁・中世材木塙				
	117C	焼山	123	焼山地区遺構確認	外郭区画施設				
R5 (2023)					焼山地区総括報告書				

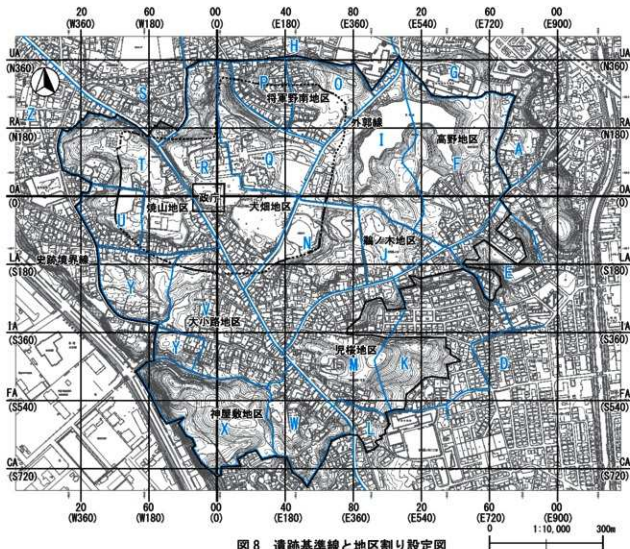


図8 遺跡基準線と地区割り設定図

告書を刊行しており、平成13年度に「政庁跡」（秋田市教委2002b）を、平成19年度に「鶴ノ木地区」（秋田市教委2008b）を刊行している。

第2節 記録の方法

1 遺跡基準線と地区割設定の表示記号

本遺跡は、長期にわたって調査を行うため、調査地域、検出遺構や遺物の整理にあたっては、統一的な分類表示で行うこととし、原則として宮城県多賀城跡調査研究所の方法に従っている。

秋田城跡の遺跡基準線と地区割り設定は図8のとおりである。秋田城では丘陵のほぼ中央部にあたる旧護国神社グラウンド南寄り（現在の秋田城政庁正殿東）に任意の測量原点（0, 0）を設置した。なお、この測量原点は、世界測地系座標で、 $X=-28,562.592$ 、 $Y=-64,607.889$ である。さらにこの測量原点から真北を求め南北方向の基準線を定め、それに直交する線を東西方向の基準線とした。また、これらの基準線をもとに秋田城測量座標とするが、南北方向においては、秋田城測量原点から北側は「N」を、南側は「S」もしくはマイナス記号（「-」）を冠し、東西方向においては、東側は「E」を、西側は「W」もしくはマイナス記号（「-」）を冠し測量座標地を表現する。（例：N177, W291）もしくは（177, -291）

調査区画の割り付けは、基準線に沿って3m方眼を設定し個々の区画を呼ぶ記号としてアルファベット2文字と、2桁の数字の組み合わせを用いている(表4)。すなわち原点を通る東西基準線をOAと定め、北へ3m毎にOB、OC、OD…OTとし、東西基準線から北へ60mの線をPA、120mの線をQA、180mの線をRA、240mの線をSA、300mの線をTA、360mの線をUAとする。同様に南の基準線も3m毎にNT、NS、NR…とし、東西基準線から南へ60mの線をNA、120mの線をMA、180mの線をLA、240mの線をKA、300mの線をJA、360mの線をIA、420mの線をHA、480mの線をGA、540mの線をFA、600mの線をEA、660mの線をDA、720mの線をCAとする。また、原点を通る南北基準線をO0と定め、西へ3m毎に01、02、03…99(99の次は00、その次は01…)とした。同様に、東の基準線も3m毎に99、98、97…00(00の次は99、その次は98)と定めた。そして東西方向線と南北方向線の直交する地点の南東交点をグリッド名としている。

さらに秋田城跡では、史跡指定地内を字界および道路により区分し、A~Yまでの中地区割り記号を付し、その上に「秋田城跡」の略号である「DAK」を冠して標示している。頭文字の「D」は東北地方の城柵跡を意味し、AKは秋田城跡のローマ字による頭文字である。報告対象の焼山地区は、「DAKT」もしくは「DAKU」である。

2 遺構・遺物の表示方法

発掘調査により発見される遺構には発見順に一連番号を付けている。この番号の前に遺構であるSと遺構

の種類を示すアルファベット記号を付して用いる(表5)。また、ほぼ同位置・同規模で改築された遺構は同番号の後にA・B…を付し区別している。これらの記号および種類は遺構登録台帳に記載する。遺物の標示は、遺構内は遺構ごとに、遺構外は3m四方のグリッド単位で取り上げている。また、出土状況に応じて位置データを記録した点取りで取り上げている。この際、番号の前に遺物の材質を示すアルファベット記号を付すことにしている。遺物カードには遺物の一連番号、出土位置、取り上げ日を記入している。

3 土器の名称

秋田城跡から出土する土器類は、土師器・須恵器・赤褐色土器の3種類に分類している。

土師器は、酸化炭焼成されている土器で、非ロクロ成形とロクロ成形がある。非ロクロ成形のうち坯類と鉢類には内面にミガキ調整と黒色処理が施される。器種としては、供膳具の坏・高坏・台付坏、貯蔵具の壺・甕・鉢、煮炊具の甕などがある。ロクロ成形のものは、埴・皿・鉢等の供膳具があり、内面または内外面にミガキ調整と黒色処理が施される。非ロクロ成形の煮炊具(甕等)は土師器に分類される。

表4 秋田城座標とグリッド名

南北方向 南北座標	記号名	東西方向 東西座標	
N360	UA	E900	0 0
N303~357	TB~TT	E843~897	1 9 ~ 0 1
N300	TA	E840	2 0
N243~297	SB~ST	E783~837	3 9 ~ 1 9
N240	SA	E780	4 0
N183~237	RB~RT	E723~777	5 9 ~ 4 1
N180	RA	E720	6 0
N123~177	QB~QT	E663~717	7 9 ~ 6 1
N120	QA	E660	8 0
N63~117	PB~PT	E603~657	9 9 ~ 8 1
N60	PA	E600	0 0
N3~57	OB~OT	E543~597	1 9 ~ 0 1
N0	OA	E540	2 0
S3~57	NT~NB	E483~537	3 9 ~ 2 1
S60	NA	E480	4 0
S63~117	MT~MB	E423~477	5 9 ~ 4 1
S120	MA	E420	6 0
S123~177	LT~LB	E363~417	7 9 ~ 6 1
S180	LA	E360	8 0
S183~S237	KT~KB	E303~357	9 9 ~ 8 1
S240	KA	E300	0 0
S243~297	JT~JB	E243~297	1 9 ~ 0 1
S300	JA	E240	2 0
S303~357	IT~IB	E183~237	3 9 ~ 2 1
S360	IA	E180	4 0
S363~417	HT~HB	E123~177	5 9 ~ 4 1
S420	HA	E120	6 0
S423~447	GT~GB	E63~117	7 9 ~ 6 1
S480	GA	E60	8 0
S483~537	FT~FB	E3~57	9 9 ~ 8 1
S540	FA	0	0 0
S543~597	ET~EB	W3~57	0 1 ~ 1 9
S600	EA	W60	2 0
S603~657	DT~DB	W63~117	2 1 ~ 3 9
S660	DA	W120	4 0
S663~717	CT~CB	W123~177	4 1 ~ 5 9
S720	CA	W180	6 0
		W183~237	6 1 ~ 7 9
		W240	8 0
		W243~297	8 1 ~ 9 9
		W300	0 0
		W303~357	0 1 ~ 1 9
		W360	2 0

表5 遺構・遺物の分類記号

遺 構		遺 物					
SA	柱列・櫓列	SG	苑池	D	土器	A	土製品
SB	建物	SH	広場	S	石製品	C	繊維製品
SC	廊	SI	堅穴建物	T	鉄製品	B	漆器
SD	溝	SK	土坑	M	木製品	X	その他
SE	井戸	SKF	フラスコ状ピット	K	瓦・埴		
SF	築地	SX	その他				

須恵器は、ロクロ成形で、窯で還元炎焼成された土器で、秋田出羽権創建期にあたる8世紀前半では関東・北陸・陸奥からの搬入品と考えられるものが主体を占め、その後8世紀中頃以降は在地生産供給が増加する。器種としては、供膳具の坏・皿・碗・台付坏・双耳坏・高坏・蓋、貯蔵具の壺・甕等がある。

調査機関である秋田市では、ロクロ成形・酸化炎焼成であるが黒色処理を行わない土師質の土器について、その色調を冠し「赤褐色土器」と呼称し、他のロクロ土師器と区別している。赤褐色土器は特に平安初期以降に出土土器の組成の中で大きな割合を占め、秋田城跡および出羽北半の様相において特徴的である。赤褐色土器の器種としては、供膳具の坏・台付坏・蓋・皿・台付皿、煮炊具の甕・鍋・脚付き鍋・甌、貯蔵具の鉢などがある。また、赤褐色土器のうち坏類の底部から体部下端および下半にかけてケズリ調整を施すものを坏B、無調整のものを坏Aとしている。ロクロ成形の煮炊具（甕）は赤褐色土器に分類される。

上記のような分類とその編年については、別編1「秋田城跡の出土土器・瓦の編年」で整理している。

第3節 焼山地区発掘調査成果の概要

焼山地区の調査位置図および一覧は図9と表6に、遺構概略図については図10に示した。以下、各調査地点について概要をまとめる。

1 国営調査

(1) 昭和36年 第3次発掘調査

焼山地区の北方地区において、梁間3間×桁行7間の南北棟掘立柱建物跡が検出された。その規模は「雄大」であり、「正殿的な建物」ではないが、「付属的な性質のもの」、あるいは「倉庫の類」と推測されている。南方地区においては、丘陵斜面部に土塁遺構、南北方向の溝跡、堅穴建物跡4軒、鉄洋やフイゴ羽口が出土するピット群が発見された。

(2) 昭和37年 第4次発掘調査

A区とB区が設定され、A区は3次調査の北方地区の北側、B区はA区のさらに北側の地点である。またこの他、焼山地区の西側にあたる西土塁地区、北端にあたる北土塁地区、北西の日本海に向かって突出する舌状台地にあたる三浦氏邸内地区が設定された。

A区からは梁間2間×桁行5間の南北棟掘立柱建物跡、B区では梁行3間×桁行5間の東西棟掘立柱建物跡が検出されている。A区の掘立柱建物跡は、「倉庫あるいは、これに関連する庁舎の跡」、B区の掘立柱建物跡は「櫓跡」と推定されている。また、B区ではこの他、溝跡、堅穴建物跡、土師器窯跡が発見されたと報告されている。西土塁地区では、三時期の変遷のある北東から南西方向の土塁が検出された。平瓦・丸瓦、須恵器、土師器が出土している。北土塁地区は、掘立柱建物跡が検出された地区のさらに北側の秋田城跡の最北端部の地点で、この地点から二時期の変遷をもつ東西方向の土塁が検出された。三浦氏邸内地区では、不整形もしくは楕円形のピットが人骨を伴い検出されており、土坑墓と解されている。厚手大型壺の須恵器が出土しており、中世の所産と判断されている。これらから、元弘4年

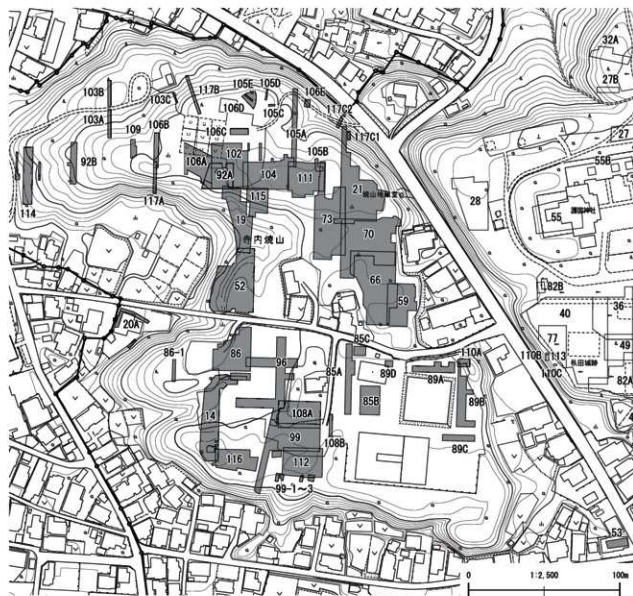


図9 焼山地区調査位置図

(1334)の「曾我太郎光高謄言上文书」、または天正14年(1586)の『奥羽永慶軍記』に記される本地城舞台の戦乱(湊合戦)との関連が指摘されている。以上のような国営調査で発見された遺構概略図は、昭和37年第4次発掘調査概報において提示されている(図11、文化財保護委員会1962)。

2 第14次発掘調査(昭和49年度)

焼山地区西部、4次の国営調査の「西土塁地区」の南側の地点である。調査の結果、外郭西辺となる南北方向のSF177築地塀跡が発見された。また、SF177築地塀跡と平行してSD176溝跡を検出した。SD176溝跡を跨ぐように2間×1間のSB178掘立柱建物跡が発見されており、槽状建物跡と考えられた。調査区北側では、土取り穴(SK179②・180~190)が検出された。土取り穴は三時期あると考えられ、創建期段階、創建期以降、近世に分類されている。なお、本書では、断面図の再検討から、SF177築地塀跡は二時期の変遷があると考えられSF177A・Bに細分した。また、SD176溝跡はその後の周辺調査の所見に基づき、材木塀跡とした。

3 第19次発掘調査(昭和51年度)

焼山地区西部の地点で、外郭北西部と推定されていた地点である。調査の結果、外郭西辺となる北西~南

III 調査の経過と記録の方法

表6 焼山地区発掘調査一覧

年度 (西暦)	回数	発掘調査地	調査 面積 (㎡)	調査対象 面積 (㎡)	調査期間	文献	調査担当者
S49 (1974)	14	焼山地区西部	761	1,812	1974年6月6日～9月19日	秋田市教委1975	小松正夫 日野久 石郷同誠一
S51 (1976)	19	焼山地区西部	491	946	1976年7月2日～11月5日	秋田市教委1977	小松正夫 日野久 石郷同誠一
	20A	焼山地区西部	76	396	1976年9月24日～10月6日		
S52 (1977)	21	焼山地区中央部	900	2,432	1977年4月5日～6月22日	秋田市教委1978	小松正夫 日野久 石郷同誠一
S63 (1988)	52	焼山西部	1,044	1,044	1988年7月5日～12月15日	秋田市教委1989	小松正夫 日野久 西谷隆 納谷信広
	53	大小路北 部(焼山南東部)	70	70	1988年8月8日～8月20日		
H4 (1992)	59	焼山地区中央部	462	462	1992年9月18日～11月17日	秋田市教委1993	小松正夫 日野久 伊藤武士
H8 (1996)	66	焼山地区中央部	1,132	1,132	1996年4月10日～8月28日	秋田市教委1997	伊藤武士 進藤靖
H9 (1997)	70	焼山地区中央部	1,121	1,121	1997年7月9日～11月28日	秋田市教委1998	伊藤武士 進藤靖
H12 (2000)	73	焼山地区中央部	-	-	1998年10月28日～11月6日 (表土剥ぎのみ実施)	秋田市教委1999	伊藤武士 進藤靖
			880	1,312	2000年4月10日～7月31日	秋田市教委2001	西谷隆 進藤靖
H17 (2005)	85	焼山地区中央部	504	763	2005年4月18日～7月21日	秋田市教委2006	安田忠市 伊藤武士
	86	焼山地区西部	663	1,953	2005年6月27日～11月22日		
H18 (2006)	89	焼山地区東部	478	976	2006年8月2日～11月28日	秋田市教委2007a	安田忠市 伊藤武士
H20 (2008)	92	焼山地区北西部	415	415	2008年4月16日～9月4日	秋田市教委2009a	伊藤武士 小野隆志
H22 (2010)	96	焼山地区西部	678	2,140	2010年4月21日～8月23日	秋田市教委2011	伊藤武士 小野隆志
H23 (2011)	99	焼山地区南西部	757	942	2011年6月30日～10月31日	秋田市教委2012	伊藤武士 小野隆志
H25 (2013)	102	焼山北西部	726	798	2013年5月20日～9月26日	秋田市教委2014a	伊藤武士 神田和彦
	103	焼山北西部	77	964	2013年10月9日～11月7日		
H26 (2014)	104	焼山北西部	588	588	2014年4月16日～8月7日	秋田市教委2015	伊藤武士 神田和彦
	105	焼山北西部	191	1,020	2014年8月8日～11月10日		
H27 (2015)	106	焼山北西部	535	944	2015年5月11日～10月13日	秋田市教委2016	伊藤武士 神田和彦
H29 (2017)	108	焼山南西部	534	684	2017年5月9日～9月20日	秋田市教委2018	神田和彦 児玉駿介
	109	焼山北西部	41	204	2017年9月21日～10月6日		
	110	焼山東部・政庁 西部	45	253	2017年10月11日～10月31日		
H30 (2018)	111	焼山北西部	496	496	2018年5月14日～9月27日	秋田市教委2019	伊藤武士 佐藤桃子
R元 (2019)	112	焼山南西部	564	564	2019年5月8日～9月27日	秋田市教委2020	伊藤武士 佐藤桃子
R2 (2020)	114	焼山北西部	257	629	2020年4月27日～8月21日	秋田市教委2021	伊藤武士 佐藤桃子
	115	焼山北西部	242	242	2020年8月17日～10月28日		
R3 (2021)	116	焼山南西部	385	416	2021年5月1日～9月14日	秋田市教委2022	伊藤武士 佐藤桃子
R4 (2022)	117	焼山北西部	123	805	2022年5月11日～8月30日	秋田市教委2023	神田和彦
計			15,236	26,523			

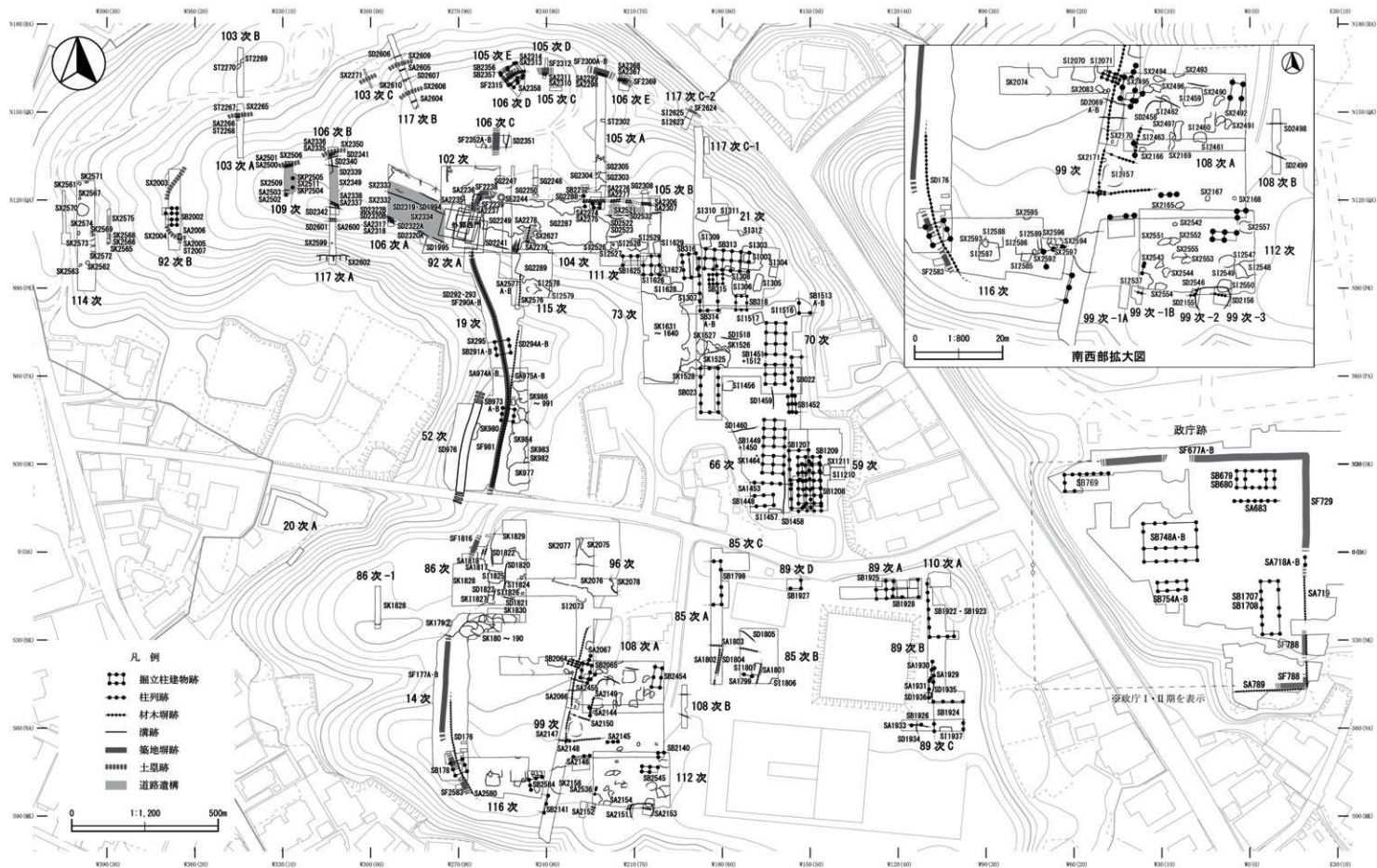


図10 焼山地区遺構概略図

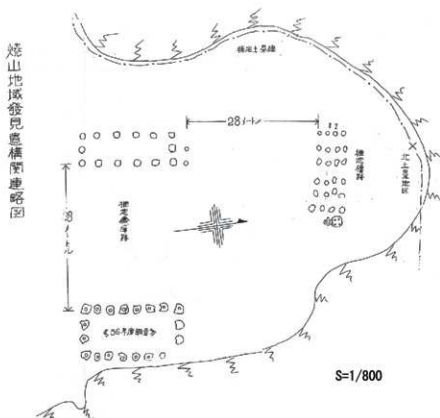


図 11 国営調査焼山地区発見遺構概略図（文化財保護委員会 1962 に加筆）

東方向の SF290 築地塀跡を検出した。SF290 築地塀跡は、断面観察により新旧二時期あることが指摘されている。本書では SF290A を新段階、SF290B を古段階と区別した。また、古段階の築地塀跡の基底部整地層から、8 世紀前葉の土師器が出土したことから、秋田城跡の創建期段階から外郭区画施設は築地塀であることが指摘されている。付随する遺構として、調査区南側の地形的にもっとも低い部分に SF290 築地塀跡の下に SX295 暗渠排水溝が発見されている。また、SF290 築地塀跡の上部に SD292 と SD293 溝状遺構が発見されている。これらは今日的には、いずれも材木塀跡の布張り部分であると考えられる。SD292 溝状遺構（材木塀跡）の柱痕跡部分は、SA296 として報告されているが、本書では SD292 に伴うものとして考えた。SD293 溝状遺構（材木塀跡）からは、埋土炭化材が倒れた状態で遺存していたことが報告されている。これとは別に SD294 溝跡が検出されており、SF290 築地塀などとは方向が異なっている。断面図の再検討から、SD294 溝跡は、新旧二時期存在することがわかり、SD294A を新段階、SD294B を古段階とし、後の 104 次・115 次調査の所見からみて、材木塀跡の布張り溝部分であると考えられる。また、SD292・293 溝状遺構（材木塀跡）を跨ぐように 2 間×1 間の SB291A・B 掘立柱建物跡が発見されている。これらは檜状建物跡と考えられる。

4 第 20 次 A 地区発掘調査（昭和 51 年度）

焼山地区西部の地点で、住宅建築に伴う事前緊急調査として実施した。築地塀跡等の外郭線が発見された 14 次・19 次・52 次調査よりも一段低い地点である。調査の結果、古代の遺構・遺物は発見されなかった。

5 第 21 次発掘調査（昭和 52 年度）

焼山地区中央部北側の地点で、国営調査である 4 次調査で「北側土塁」「推定檜跡」「堅穴住居」「土師器窯跡」が検出された地点である。調査の結果、掘立柱建物跡、堅穴建物跡等が発見された。

SB313 掘立柱建物跡は、66 次調査概報（秋田市教委 1997）の再検討にて、総柱式建物跡であること、SB3

III 調査の経過と記録の方法

13→SI303 としていた切り合い関係をSI303→SB313としている。また、SB318は70次調査において、SI307とSB316は73次調査において再検出し規模が確定している。また、73次調査においてSB317はSB316の抜き取り穴の一部であり、独立した掘立柱建物跡ではないことが判明したため、本報告では欠番とした。

6 第52次発掘調査（昭和63年度）

焼山地区西部で、19次調査の南側、14次調査の北側である。国営調査である4次調査の「西土塁地区」が含まれている。調査の結果、外郭西辺となる南北方向のSF981築地塀跡が検出された。築地塀本体では二時期あるかどうか不明であったが、北側で寄柱がかさ上げされて構築されていることから、新旧二時期あることが推測されている。築地塀跡の直上にSA974材木塀跡が検出されている。本報告では断面の再検討により新旧二時期あると判断し、SA974Aを新段階、SA974Bを古段階とした。また、調査区北側で、SA974から北東方向に分離するSA975材木塀跡が検出されており、本書では断面の再検討により新旧二時期あると判断し、SA975Aを新段階、SA975Bを古段階とした。これらの材木塀跡は、19次調査の溝状遺構（材木塀跡）と対応する。この他、調査区西側では幅3～4mをもつSD976溝跡（大溝）が発見されている。また、SA974材木塀跡を跨ぐように2間×1間のSB973掘立柱建物跡が検出されており、櫓状建物跡であると考えられた。このSB973は概報の段階では三時期の変遷の可能性が指摘されたが、断面図の再検討および周辺調査地の所見から二時期の変遷とし、SB973Aを新段階、SB973Bを古段階とした。また、SF981築地塀跡の東側を中心に、土取り穴（SK977・982～992）が展開し、検出層位・出土遺物から、SK984～986・990は創建期段階、SK977は近世、それ以外は創建期以降の段階の土取り穴であると判断された。なお、後述するが、本調査区では堆積層で焼土・炭化土層が広く確認されている。この堆積層は崩壊瓦層より上位で、上述のSA974B（古段階）により切られていることが確認されている。

7 第53次発掘調査（昭和63年度）

焼山地区南東部、大小路北部の地点で、住宅改築に伴う緊急調査として実施した。調査の結果、時期不明の小ピットの他、中世陶器、須恵器、赤褐色土器、瓦が少量出土した。

8 第59次発掘調査（平成4年度）

焼山地区中央部で、国営調査である4次調査の南側の地点である。調査の結果、掘立柱建物跡、堅穴建物跡等が検出された。掘立柱建物跡は3棟発見されており、いずれも南北棟である。SB1209掘立柱建物跡は総柱式建物で梁間3間×桁行7間以上、SB1207・1208掘立柱建物跡は側柱建物で梁間2間×桁行5～6間以上であり、いずれも大型の建物である。SB1207掘立柱建物跡は間仕切りがある。

9 第66次発掘調査（平成8年度）

焼山地区中央部で、59次調査の西～北部隣接地である。調査の結果、掘立柱建物跡、柱列跡、堅穴建物跡等が検出された。本調査地において、国営調査である3次で検出されたSB022掘立柱建物跡と4次調査のSB023掘立柱建物跡の南半部を再検出している。この他、SB1448～1451の4棟の掘立柱建物跡が検出されている。SB1449とSB1450掘立柱建物跡は、調査段階では、別棟の建物として報告しているが、本書では一連の建物跡で2棟の建物が連結している可能性があるため（伊藤武士2006）、一つの建物跡として報告を行う。また同様に、本調査地で検出されたSB1451掘立柱建物跡も、後述する70次調査で検出されたSB1512掘立柱建物跡と一連の建物跡として報告を行う。

10 第70次発掘調査（平成9年度）

焼山地区中央部で、21次調査の南側、66次調査の北側の隣接地である。調査の結果、掘立柱建物跡、堅穴建物跡、溝跡等が検出された。本調査において、国営調査である3次調査で検出されたSB022掘立

柱建物跡と4次調査のSB023掘立柱建物跡の北半部を再検出している。SB1451掘立柱建物跡は、66次調査で南半が発見されていたが、本調査で北半を検出した。また、21次調査で検出されていたSB318の南半が検出した。SB314の南梁行きを再検出し、掘り方断面の精査の結果、新旧2時期あることが判明している。このことから、本書ではSB314A(新)・SB314B(古)とした。66次調査の概要で述べたように、SB1512掘立柱建物跡は、66次調査で検出されたSB1451掘立柱建物跡を一連の建物として報告を行う。

11 第73次発掘調査(平成10・12年度)

焼山地区中央部で、21次・70次調査の西側の地点である。平成10年度は表土剥ぎを実施したのみで、平成12年度に遺構精査を行っている。調査の結果、掘立柱建物跡、堅穴建物跡、溝跡、土取り穴、土坑が検出された。SB1625掘立柱建物跡を検出し、東西棟の梁間2間×桁行3間以上の総柱式であることが判明した。21次調査で検出されていたSB316掘立柱建物跡の西半を検出し、その結果、21次調査で東半が検出されていたSB317掘立柱建物跡は、SB316の柱抜き取り穴等と考えられた。また、21次調査で検出されていたSI307堅穴建物跡の西半が検出された。その他、新たにSI1626～1629堅穴建物跡が検出され、調査区南半は、SK1631～1640土取り穴が広く検出された。SK1631土取り穴埋土からは30号漆紙文書が発見された。

12 第85次発掘調査(平成17年度)

焼山地区中央部および南西部で、59次・66次調査の南側の地点である。調査の結果、掘立柱建物跡、柱列跡、材木堀跡、溝跡、堅穴建物跡等が検出された。掘立柱建物跡は調査区北部で検出され、梁間2間以上×桁行5間の大型の建物で、59次・60次等の当調査区の北側で検出された掘立柱建物跡に類似するものである。調査区南半では、SA1801～1803材木堀跡が検出されており、掘立柱建物群が規則的に配置されている焼山地区中央部とは様相が異なることが判明した。SA1801～1803材木堀跡は、その検出層位の年代から、9世紀第2四半期以降と考えられ、平安期に入り焼山地区南西部が新たに利用されることが分かった。

13 第86次発掘調査(平成17年度)

焼山地区西部で、14次・52次調査の間の地点である。政庁から外郭東門までの東西軸線を西側に折り返した位置にあたり、丘陵西端部に小さな尾根が張り出す地形となっており、外郭西門や、政庁から外郭西門を通る城内西大路の存在が推定される地点である。調査の結果、外郭西門や城内西大路は見られず、築地堀跡、材木堀跡、溝跡、堅穴建物跡、土取り穴、焼土遺構等が検出された。調査区は近世以降の土取り穴であるSK1828により大きく削平を受けているものの、SF1816築地堀跡、SA1817・1818材木堀跡が検出され、14次と52次の延長となる外郭線が調査区内を通ることが判明した。また、9世紀代の堅穴建物跡4軒が検出され、焼土遺構等も検出されていることから、居住域、かつ、何らかの火を使用する加工作業が行われていたと考えられた。したがって、城内西大路と外郭西門は、近世の土取りにより消失したのではなく、そもそも当調査区には配置されていない可能性が指摘された。

14 第89次発掘調査(平成18年度)

調査区中央部で、85次調査の東側、政庁の西側の地点である。政庁推定西門跡の位置から西に延びる城内西大路の存在が推定される地点である。調査の結果、城外西大路は確認されず、掘立柱建物跡、柱列跡、材木堀跡、溝跡、堅穴建物跡等が検出された。SB1922・1923・1924掘立柱建物跡は、梁間3間×桁行3～6間以上の南北棟建物である。梁間3間の建物跡は、21次・59次・66次・70次調査等で検出されている梁間2間が中心の掘立柱建物跡とは様相が異なっている。また、SB1922は火災により廃絶したと考えられ、柱が炭化材として遺存していた。調査区北側で検出されたSB1925は梁間2間×桁行4間

III 調査の経過と記録の方法

の東西棟建物跡であり、21次・59次・66次・70次調査等で検出された掘立柱建物跡と類似している。また、城外西大路は検出されず、推定政庁西門から延びる城外西大路の推定ライン上にこれらの掘立柱建物跡が存在していることから、城内東側と東西対象となるような直線的な道路は城内西側には存在しないと考えられた。

15 第92次発掘調査（平成20年度）

焼山地区北西部で、19次調査の北側隣接地点である。調査地点はA・B地点の二箇所を設定している。焼山地区北西部は、外郭北西隅にあたると思われる、緩やかな西潟の尾根が日本海に向けて張り出す地形となっており、外郭西門の有力推定地と考えられた。調査の結果、A区において6期の変遷のある八脚門の外郭西門跡（SB1986～1991）が発見された。その他、外郭西門の南側に取り付くSA1992材木堀跡や、外郭西門跡の東に延びる城外西大路の道路側溝と考えられる溝跡（SD1994・1995）が検出された。B区では、出土遺物や層位から16世紀後半と考えられる八脚門形式のSB2002掘立柱建物跡と、これに取り付くSX2003・2004土塁およびSA2005・2006材木堀跡が検出され、土塁跡の直下にはST2007火葬墓が発見された。これらはいずれも16世紀後半以降と考えられ、中世後期の遺構と考えられた。この92次B区による中世遺構の検出は、国営調査である4次調査の「三浦邸地区」の調査結果で指摘されていたことであったが、焼山地区北西部は古代のみならず、中世においても利用されていることが改めて確認された。

16 第96次発掘調査（平成22年度）

焼山地区南西部、85次調査の西側、86次調査の東側の地点である。85次調査で検出された材木堀跡で区画されている南西部の利用実態を明らかにするために実施した。調査の結果、掘立柱建物跡、材木堀跡、柱列跡、溝跡、竪穴建物跡、土取り穴、焼土遺構等が検出された。このうち、SA2066材木堀跡は、その方向・方位と位置関係から、85次調査で検出されたSA1801～1803材木堀跡とともに、東西約60m、南北27m以上の範囲で城内南西部を区画する施設であることが判明した。この区画施設に伴う遺構として、SB2065掘立柱建物跡やSI2072竪穴建物跡があり、その年代は、9世紀第2四半期以降であることが判明した。

17 第99次発掘調査（平成23年度）

焼山地区南西部、96次調査の南側の地点である。85・96次調査で明らかになってきた焼山地区南西部の城内区画施設の広がりを確認するために実施した。主要な調査区の他に南側に拡張区として1A・1B・2・3拡張区の4地区を設定した。調査の結果、掘立柱建物跡、柱列跡、材木堀跡、溝跡、竪穴建物跡、土取り穴、土坑、焼土遺構等が検出された。このうち、86次調査で検出されており今次調査で検出されたSA2066材木堀跡と、今次調査の拡張区で検出されたSA2151～2153材木堀跡は、85次調査で検出されたSA1801～1803と共に、9世紀第2四半期以降に焼山地区南西部の城内区画施設を構成するものと考えられた。その結果、区画施設は最大で東西約60m×南北約60mの方形をなすことが判明した。また、今次調査では、焼土遺構や鉄製品、鉄滓、フイゴ羽口等が出土することから、鉄生産に関わる施設である可能性が指摘された。

18 第102次発掘調査（平成25年度）

焼山地区北西部、92次A区と重複し、北東側に拡張させた調査区である。拡張トレンチを2本、北東側に設定している。調査の結果、92次調査で発見されていた外郭西門跡（SB1986～1991）のうち、92次調査で調査区外となっていたSB1991・1988・1987の柱掘り方を検出し、外郭西門跡の規模を確定した。また、築地堀跡、材木堀跡、溝跡、土取り穴などを検出した。この内、SF2338・2339築地堀跡、SA2335～2337材木堀跡は、外郭西門に取り付く外郭区画施設であり、その取り付け方が判明した。

19 第 103 次発掘調査（平成 25 年度）

焼山地区北西部に A～C 区の 3 本の調査トレンチを設定した。92 次 B 区で検出されていた中世後期の北側 SX2003 土塁跡の延長を検出する目的で設定した。調査の結果、土塁跡、材木堀跡、火葬墓が発見された。このうち、SX2265 土塁跡は 92 次調査 B 区で検出されていた SX2003 土塁跡の延長であると考えられた。また、SX2265 土塁跡の下部から ST2267・2268 火葬墓が検出された。これら火葬墓の出土遺物は、16 世紀後半であるため、その上部の SX2265 土塁跡も、92 次調査の土塁跡と同様に、16 世紀後半以降のものであると考えられた。また、SX2265 土塁跡は、103 次調査 C 区 SX2271 土塁跡と連続すると予想され、さらに東側へ延びることが確認された。

20 第 104 次発掘調査（平成 26 年度）

焼山地区北西部、102 次調査の東側隣接地である。92 次・102 次調査で発見された外郭西門の城内側で、道路遺構などを検出する目的で設定した。調査の結果、掘立柱建物跡、柱列跡、材木堀跡、道路整地のための溝状遺構、道路遺構（道路硬化面）が確認された。しかし、本調査区には、近世の大規模な SG2287 土取り穴によって、大きく削平を受けていることが判明し、SX2627 道路遺構（道路硬化面）は確認されたものの、道路側溝は確認できず道路幅などは不明であるが、SX2627 道路遺構は、出土遺物から 9 世紀後半と考えられた。また、この道路遺構を横断する形で配置され、これよりも新しい南北方向の SA2278・2279 材木堀跡が検出された。SA2278 材木堀跡の出土遺物から、これらの材木堀跡は 10 世紀第 1 四半期以降と考えられた。さらに、調査区北東部では、東西方向の区画施設である SA2276・2277 材木堀跡が検出され、これらの時期および外郭線のあり方について、課題を残した。

21 第 105 次発掘調査（平成 26 年度）

焼山地区北西部、104 次調査の北側に A 区を設定した。この他に、外郭区画施設の延長の確認のために、B～E 区の拡張区を設定した。A 区では調査の結果、築地堀跡、材木堀跡、土取り穴等を検出した。このうち、SF2300A・B 築地堀跡と SA2298・2299 材木堀跡は、秋田城の外郭区画施設の一部であることが判明し、92 次・102 次調査で検出されていた外郭西門から、想定よりも北側に位置していることがわかった。このことから、C～E 区のトレンチを設定し、外郭西門までの取り付けについて追求することとし、その結果、D 区で、SF2312 築地堀跡と SA2310・2311 材木堀跡、E 区で SF2315 築地堀跡と SA2313・2314 材木堀跡を検出し、外郭線は、外郭西門から大きく北東側に膨らむことがわかった。この他、B 区では SA2306・2307 材木堀跡が検出され、これらは、104 次調査北東部の SA2276・2277 材木堀跡の延長であると考えられた。

22 第 106 次発掘調査（平成 27 年度）

焼山地区北西部、外郭西門が検出された 92・102 次調査地の西側に A 区を設定した。A 区のさらに西側 18m の地点に B 区を設定した。これらは外郭西門から延びると予想される城外西大路の確認のためである。また、外郭西門が検出された 92 次・102 次調査の北側に C 区および D 区を、105 次 A 区の東側に E 区を設定した。これらは、105 次調査 A 区・D 区・E 区で検出された外郭区画施設と外郭西門の間で、外郭線のつながりを確認するためである。調査の結果、A 区では城外西大路である道路遺構、道路側溝、道路整地溝、土取り穴等が検出された。道路遺構は尾根状の地形に沿ってやや北に触れながら西へ延びている。道路幅約 9m の平安期の SX2331 と、奈良期の幅約 12m の SX2332 が検出された。SX2331 道路遺構の下部には道路遺構と直交する方向に溝状遺構が多数確認された SX2333 が検出された。これは道路整地に伴う掘り込み溝と考えられ、「道路整地溝」とした。SX2332 道路遺構の下部にも同様に SX2334 道

III 調査の経過と記録の方法

路整地溝が検出された。また A 区からは、調査区南端、丘陵の縁辺部で SA2317・2318 材木堀跡が検出された。これらは B 区での調査結果から、中世の区画施設であると考えられた。B 区では、A 区の延長となる SX2349 道路遺構が検出され、奈良期の幅 12m の道路遺構であると考えられた。また、調査区北端と南端の丘陵縁辺部には、SA2335～2338 材木堀跡が検出された。SA2338 材木堀跡の布掘り埋土から 14～15 世紀代の珠洲系中世陶器が出土し、これらの材木堀跡が中世遺構であることが判明した。丘陵縁辺を北と南を囲むように材木堀跡が検出され、同位置で新旧二時期あることが分かった。C 区では外郭西門跡から北側に延びる SF2352A・B が検出された。上部は完全に削平を受けており、築地積土の確認はできなかったが、基底部の掘り込み溝が検出され築地堀基底幅が約 2.1m であることが判明した。D 区は 105 次 E 区でトレンチ調査を行った部分を面的に調査した。調査の結果、SF2315 築地堀跡、SA2313・2314 材木堀跡が再度検出され、古代の外郭線が 102 次調査区から 106 次 C 区を通り、106 次 D 区に至ることが再確認された。また、2 間×1 間の SB2356・2357 掘立柱建物跡がこれらの外郭線を跨ぐ形で検出され、槽状建物跡が存在していることが確認された。E 区では SF2369 築地堀跡、SA2367・2368 材木堀跡が検出され、105 次 A 区の東側に外郭線が延びることが判明した。

23 第 108 次発掘調査（平成 29 年度）

焼山地区南西部、99 次調査の北側の地点である。城内区画施設の内側の利用状況を確認するために、調査を行った。面的調査として A 区、トレンチ調査として B 区を設定した。調査の結果、A 区において掘立柱建物跡、堅穴建物跡、焼土遺構、溝跡、土坑等が検出された。特に焼土遺構は、瓢箪形や楕円形を呈し、長軸が北で東にやや傾くか、もしくは西で北にやや傾く配置となっており、85・96・99 次調査で確認された城内区画関連遺構に方位が類似する遺構群と考えられた。鉄滓・フイゴ羽口・鉄製品・金床石などが出土することから、鉄生産関連遺構と考えられた。また SI2459 等、真北に近い方位である堅穴建物跡は、出土遺物から 9 世紀第 4 半期以降であると考えられ、区画施設廃絶後に真北方向の堅穴建物群へと変遷すると考えられた。

24 第 109 次発掘調査（平成 29 年度）

調査区北西部、106 次調査 B 区のさらに西側の地点で、城外西大路の延長を確認するために行った。調査の結果、平安期の道路幅約 8m の SX2509 道路遺構、奈良期の道路幅 10.8m 以上の SX251 道路遺構が発見された。また、106 次 B 区でも検出されていた台地上で検出される中世材木堀跡の延長となる SA2500～2503 材木堀跡や SKP2504・2505 柱掘り方が検出された。

25 第 110 次発掘調査（平成 29 年度）

焼山地区中央部、89 次調査北東隣接地の地点で、史跡公園連絡橋整備に伴う確認調査のため実施した。焼山地区の A 区、政庁地区側の B・C 区を設定した。A 区は現況で盛土状地形を呈していたが、調査の結果、盛土は近代以降の造成土であり、古代整地層等は調査区から確認されず、地山粘土層而まで削平を受けていることが判明した。

26 第 111 次発掘調査（平成 30 年度）

焼山地区北西部、104 次調査の東側隣接地で、城内西大路の検出を目的として実施した。調査の結果、道路硬化面のみの検出であるが、SX2521 道路遺構が検出され、外郭西門から 104 次調査の SX2267 を経てさらに東側に延びることが確認された。南側道路側溝である SD2523 溝跡は検出されたが、北側道路側溝は地形の削平により検出されず、道路幅は不明である。また、8 世紀後半～9 世紀前半の SI2526～2529 堅穴建物跡が調査区南半で検出され、SI2528 からは具注磨である 39 号漆紙文書が発見された。

27 第 112 次発掘調査（令和元年度）

焼山地区南西部、99 次調査の南側隣接地点で、城内区画施設の内側の利用状況を確認するために、調査を行った。調査の結果、城内区画施設構築以前の 8 世紀段階の S12550 堅穴建物跡が検出された。また、城内区画施設が機能している 9 世紀第 2 四半期以降は、梁間 2 間×桁行 1 間の SB2545 掘立柱建物跡や焼土遺構が検出されている。また、S12547 堅穴状遺構は、埋土から鉄製品や焼土炭化物、鉄滓が出土し、鍛冶など生産・加工に関わる活動を行っていたと考えられた。9 世紀第 4 四半期以降は、真北に近い方位である S12537 堅穴建物跡となり、108 次調査と同様に区画施設の廃絶後に一定の方位規制に基づく堅穴建物群に変遷すると考えられた。

28 第 114 次発掘調査（令和 2 年度）

焼山地区北西部の西端、92 次調査 B 区のさらに西側の地点である。城外西大路の位置の把握を目的として調査を行った。調査の結果、上層から中世～近世初頭にかけての火葬墓、溝跡、仏教関係遺構を確認し、墓域として利用されている状況が確認された。このうち、III-3 層検出の骨片が多量に出土した SK2561～2569 火葬墓、SD2559～2558 溝跡、一字一石経が出土する SX2570 集石遺構は、模鋳銭の銭種が限定され、SD2558 から寛永通寶が出土することから、16 世紀末から 17 世紀の近世遺構であると考えられた。これより下層の IV 層検出の SK2571～2574 火葬墓は、銭種が限定されない模鋳銭が出土していることなどから、14 世紀～16 世紀後半の中世遺構であると考えられた。古代については、奈良時代から平安時代にかけての城外西大路に関連する SX2575 道路遺構が検出された。道路遺構は、整地層と硬化面からなり、VII-1 層および VII-2 層の二時期あったと考えられた。整地層の年代から 8 世紀から 9 世紀代第 1 四半期と考えられ、城外西大路を検出している 106 次調査 A 区・B 区、109 次調査の結果を踏まえると、下層の VII-2 層は 8 世紀前半の創建期段階、上層の VII-1 層は 8 世紀末～9 世紀初頭に相当する可能性が高いと考えられた。ただし、道路側溝が確認されていないため、この遺構が道路遺構そのものかどうかは検討を要する。

29 第 115 次発掘調査（令和 2 年度）

焼山北西部、19 次調査北東側および 104 次調査南側隣接地点である。19 次調査で外郭西辺となる築地堀跡から分岐して北東側に延びる SD294 溝跡（材木堀跡）が検出されている。また、104 次調査では 10 世紀前葉以降の南北方向の SA2278・2279 材木堀跡が検出されている。これらが一連の区画施設であるか、また、年代や変遷を明らかにすることを目的として実施した。調査の結果、出土遺物から 10 世紀中葉と考えられる V 層面で SA2577A・B 材木堀跡が検出され、19 次調査の SD294 と 104 次調査の SA2278・2279 が一連の区画施設であることが確認された。また、8 世紀後半の S12578・2579 堅穴建物跡が検出された。

30 第 116 次発掘調査（令和 3 年度）

焼山地区南西部、14 次調査の南東隣接地、99 次調査の西側の地点である。調査区東側の 99 次調査区より東側では 9 世紀第 2 四半期以降に城内区画施設が存在し、鉄生産に関わる鍛冶工房関連遺構が検出されていた。今次調査は、この城内区画施設より西側の地点であり、区画施設の外侧でどのような利用実態があるか確認するために実施した。調査の結果、調査区西側では、14 次調査の SF177 築地堀跡および SD176 溝跡（材木堀跡）の延長である SF2583 築地堀跡と SA2580 材木堀跡を検出した。また、調査区東側では掘立柱建物跡、堅穴建物跡、焼土遺構、土坑等を検出した。S12586～2588 堅穴建物跡では、焼土面や炭化物面を伴い、工房的な性格をもつものと考えられた。また、SX2592～2597 焼土遺構もフイゴ羽口、金床石が出土することから、鉄生産・加工に関する遺構であると考えられた。これらのことから、城外区画施設の内側だけでなく、西側にも鉄関連の生産施設が広がっていたことが確認された。

31 第117次発掘調査（令和4年度）

焼山地区北西部で、A～C区の3箇所のトレンチを設定した。A区は106次B区南側の斜面部に設定し、106次調査B区で検出されていた中世の区画施設に関連する遺構の検出を目的とした。調査の結果、台地縁辺に14世紀代と考えられるSD2601溝跡とSA2600材木堀跡、台地裾部に16世紀代と考えられるSX2602切岸状遺構が検出された。B区は103次調査の東側の斜面部であり、斜面に対して直角となるように設定した。調査の結果、土塁跡、材木堀跡、溝跡などが検出され、すべて中世遺構であることが判明した。これらの中世遺構は、二時期の変遷があり、古い段階は、台地上の調査区南側で検出されたSA2604材木堀跡・SX2608土塁跡・SD2607溝跡である。新しい段階は、台地裾部、調査区北側のSA2605材木堀跡、SX2609土塁跡、SD2606溝跡で、出土遺物から年代は16世紀後半と考えられた。C区では106次調査E区まで確認されていた古代秋田城の外郭区画施設の延長の検出を目的として行った。調査の結果、C-2区でSF2624築地堀跡を検出したが、築地堀の裾部と崩壊瓦が検出されたのみであり、築地主体部は旧国道開削時に削平を受けていることが判明した。C-2区ではその他に、築地堀内側の城内側に8世紀第3四半期のSI2623竪穴建物跡を検出し、SF2624築地堀跡の真下に8世紀第2四半期の創建期段階のSI2625竪穴建物跡を検出した。



昭和49年（1974）

14次調査の発掘調査員および作業職員



昭和51年（1976）

19次調査の作業風景

第IV章 焼山地区の地形と基本層序

第1節 自然地形

秋田城跡の現況地形において、広い平坦面を有し、標高が高いのは標高45mラインの部分である(図12)。この標高45mラインは、焼山地区から大畑地区にかけてみられ、史跡の中央から北西部分に偏っている。本報告を行う焼山地区は、秋田城の中でも最も標高の高い地点の一つであったと考えられる。焼山地区と大畑地区は、現在は旧国道により分断されているが、もとは一体的な地形であった。政庁城と焼山地区の標高を発掘調査に基づく旧地形で細かく比較すると、1.4m程度政庁城の方が高くなっていることがわかる(図13)。焼山地区側の調査地点である89次調査C区の古代最上層の整地層5層と政庁側の調査地点である110次調査B区のV層、77次調査の③層の古代最上層の整地層の上面の標高を比較すると、政庁城側である77次調査および110次調査B区・C区で確認された最上位の古代整地層は標高46m前後であるが、焼山地区の89次調査C区では5層上面は44.60mで、政庁側の110次調査B区のV層および77次調査の③層は46.03~46.04mとなる。このような旧地形復元を念頭に焼山地区から政庁城に向かうと、政庁側がやや高く、ゆるやかに上っていく景観であったと考えられる。したがって、古代秋田城においては、政庁城が最も高い地点であり、その次が本報告で扱う焼山地区であるといえる。

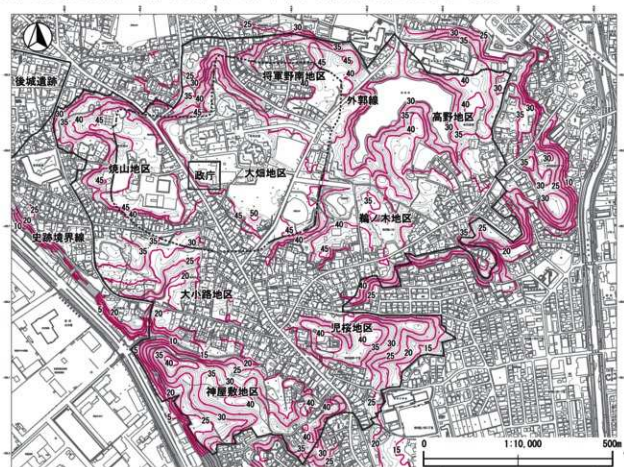


図12 秋田城跡現況地形図

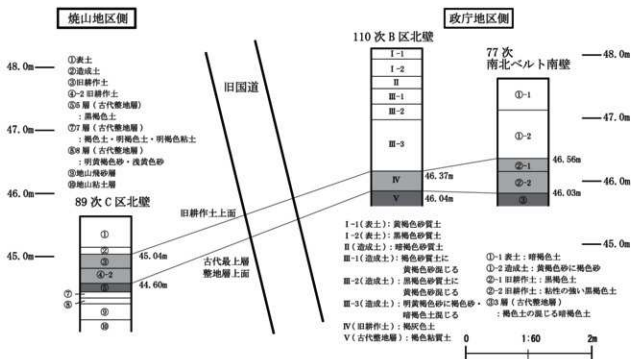


図13 焼山地区と政庁地区の旧地形レベルの比較

第2節 焼山地区の基本層序と年代について

1 焼山地区の各調査地点の層序の整理

各調査地区の層序と年代については、各調査の概報・年報にて検討がなされている。焼山地区は広範囲にわたり、各調査地点で遺構の状況や後世の利用状況により土層の堆積状況が異なるが、ある一定の範囲においては土層の色調と出土遺物の年代が類似している。ここでは、焼山地区を以下の5つのエリアに区分し、各地点の層序を整理した（図14、註1）。

- ①外郭西門周辺：92次A区、102次、104次、105次B・C区、106次A区、111次、115次
- ②外郭周辺：14次、19次、52次、105次A・D・E区、106次C・D・E区、116次、117次C-2区
- ③中央部：21次、59次、66次、70次、73次、85次、89次、110次A区、117次C-1区
- ④南西部：85次、86次、96次、99次、108次、112次
- ⑤北西部：92次B区、103次、106次B区、109次、114次、117次A・B区

85次調査の層序は基本的には中央部に区分されるが、南西部とも共通する部分があるため両者に含めている。これらのエリアごとに各調査地点の層序の対応関係を整理したのが、表7～14である。これらの整地層を焼山地区全体で整理したものが表15である。年代比定資料が出土している層は網掛けで示し、出土遺物を図15～17に、出土遺物の属性は表16～18に示した。なお、各遺物の年代決定については、本来は総括の部分で行うべきであるが、個別の議論については各年次報告書の考察で行っているため、表16～18の右端に「時期」として示した。時期決定については別編1の土器・瓦の編年に基づき行っている。

2 各地区の基本層序と年代について

整理した結果、焼山地区の各エリアにおいて基本層序を設定することができ、出土遺物から各基本層序の年代を推定することができる。以下、各エリアの基本層序と推定年代をまとめると以下ようになる。



図 14 焼山地区基本層序地区区分

(1) 外郭西門周辺 (表 7・8)

外郭西門および外郭西門から延びる城内外の道路遺構が存在する地点である。層序は、①表土、②旧耕作土 1 (近現代)、③造成土 (近世以降)、④旧耕作土 2、⑤西門中世整地 I (15 世紀後半以降)、⑥西門古代整地 VII (10 世紀代)、⑦西門古代整地 VI (9 世紀第 4 四半期～10 世紀第 1 四半期)、⑧西門古代整地 V (9 世紀第 3 四半期～第 4 四半期、道路造成土)、⑨西門古代整地 IV (9 世紀第 3 四半期)、⑩西門古代整地 III (8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期、道路造成土を含む)、⑪西門古代整地 II (8 世紀後半)、⑫西門古代整地 I (8 世紀第 2 四半期か) ⑬旧表土、⑭地山飛砂、⑮地山腐植土、⑯地山粘土、⑰地山砂礫、である。

外郭西門周辺においては、中世の整地層が 1 層、古代の整地層が 7 層確認される。このうち古代整地層 I は明確な年代比定資料が出土していないため、前後の堆積層の年代から年代を推定している。

(2) 外郭周辺 (表 9・10)

外郭線とその周辺である。層序は、①表土、②造成土・旧耕作土 (近世以降)、③外郭古代整地 VII (10 世紀以降)、④外郭古代整地 VI (9 世紀第 4 四半期か)、⑤外郭古代整地 V (築地崩壊土、9 世紀前半)、⑥外郭古代整地 IV (築地崩壊土 1、8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期)、⑦外郭焼土炭化物層 (8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期)、⑧外郭自然堆積層と外郭古代整地 III (8 世紀後半)、⑨外郭崩壊瓦層 2 (8 世紀第 4 四半期)、⑩外郭崩壊瓦層 1 (8 世紀第 3 四半期)、⑪外郭古代整地 II (8 世紀第 3 四半期)、⑫外郭古代整地 I (8 世紀第 2 四半期)、⑬旧表土、⑭地山飛砂、⑮地山腐植土、⑯地山粘土、⑰地山砂礫、である。

外郭周辺では、築地塀が付近に存在するために、築地崩壊土や崩壊瓦層などが認められ、古代の整地層が 7 層確認される。注目すべきは、外郭古代整地 IV と III の間に挟まれる外郭焼土炭化物層である。52 次調査

IV 焼山地区の地形と基本層序

SK984 埋土でこの焼土炭化物層が確認され、同層の遺物に 8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期のものが含まれており（図 135・2・10）、堆積年代を示すと考えられる（註 2）。類似した焼土炭化物層は、52 次だけでなく、105 次 E 区・106 次 D 区で部分的に検出されている。また、崩壊瓦層はほとんどの調査区で 8 世紀第 3 四半期の崩壊瓦層 1 の 1 回のみであるが、117 次 C-2 区のみ 8 世紀第 4 四半期と考えられる 2 回目の崩壊瓦層 2 が検出されている。後述するように 117 次 C-2 区は築地塀に近接する場所に堅穴建物跡が検出されており、複雑な様相を呈している。117 次 C-2 区では、崩壊瓦層の下層に古代整地Ⅱという 8 世紀第 3 四半期と考えられる整地層が確認されている。これも築地塀付近に堅穴建物が存在しているため、特に整地している可能性がある。また、19 次 3 層および 105 次 A 区Ⅳ-2 層のように、崩壊瓦層の上部に自然堆積層と考えられる土層の堆積が認められる。崩壊瓦の堆積後、一定の時間が経過していることがわかる。

(3) 中央部（表 11）

掘立柱建物群が集中する地点である。層序は、①表土、②造成土（近代）、③旧耕作土（近世以降）、④中央古代整地Ⅴ（10 世紀以降）、⑤中央古代整地Ⅳ（9 世紀第 4 四半期）、⑥中央古代整地Ⅲ（9 世紀第 2 四半期～第 3 四半期）、⑦中央古代整地Ⅱ（8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期）、⑧中央古代整地Ⅰ（8 世紀第 2 四半期）、⑨旧表土、⑩地山飛砂、⑪地山腐植土、⑫地山粘土、である。

中央部においては、古代整地層としてⅠ～Ⅴの 5 層が確認される。このうち、中央古代整地ⅠとⅢは明確な年代比定資料が出土していないため、前後の堆積層の年代から年代を推定している。また、中央整地Ⅳの 89 次 B 区南半から C 区で検出されている 6 層は炭化物が多く混入し、出土遺物の年代から元慶の乱に由来するものと推定されるが、焼山地区では唯一の元慶の乱に伴う炭化物が含まれる整地層となっている。

(4) 南西部（表 12）

城内区画施設が存在する地点である。層序は、①表土、②造成土（近代）、③旧耕作土（近世以降）、④南西古代整地Ⅶ（10 世紀第 1 四半期以降）、⑤南西古代整地Ⅵ（9 世紀第 4 四半期）、⑥南西古代整地Ⅴ（9 世紀第 3 四半期）、⑦南西古代整地Ⅳ（9 世紀第 2 四半期）、⑧南西古代整地Ⅲ（8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期）、⑨南西古代整地Ⅱ（8 世紀第 3 四半期）、⑩南西古代整地Ⅰ（8 世紀第 2 四半期）、⑪地山飛砂、⑫地山腐植土、⑬地山粘土、である。

南西部においては、古代整地層がⅠ～Ⅶの 7 層が確認される。いずれも年代比定資料が出土している。

(5) 北西部（表 13・14）

外郭西門周辺を除く、焼山地区の北西部の北西方向に延びる台地上で、外郭西門から延びる道路状遺構および中世遺構が存在する地点である。層序は、①表土、②造成土・旧耕作土等（近世以降）、③北西近世整地Ⅰ（16 世紀末～17 世紀初頭）、④北西中世整地Ⅱ（16 世紀後半）、⑤北西中世整地Ⅰ（14～15 世紀）、⑥飛砂上層（古代末～中世）、⑦北西古代整地Ⅲ（道路造成土、8 世紀第 4 四半期～9 世紀前半）、⑧北西古代整地Ⅱ（道路造成土、8 世紀）、⑨北西整地Ⅰ（8 世紀）、⑩旧表土上層、⑪飛砂下層、⑫旧表土下層、⑬地山粘土、⑭地山砂礫、である。

北西部では、近世以降の整地層が 1 層、中世の整地層が 2 層、古代の整地層が 3 層確認される。古代の整地層は、北西古代整地Ⅱ・Ⅲは城外西大路の道路造成土である。また、北西部には、古代整地層と中世整地層の間に飛砂層（飛砂上層）が確認され、前後の堆積層の関係から古代末から中世にかけてのものと考えられる。また、古代整地層の下層は、旧表土が 2 層確認され、2 枚の旧表土の間にも飛砂層（飛砂下層）が確認されている。このことから、秋田城北西部では、飛砂層は古代秋田城の創建以前と古代秋田城が廃絶後の古代末以降の 2 回、飛砂の堆積があったと考えられる。

表7 外郭西門周辺土層堆積関係一覽(1) (92次A区・102次・104次・105次B区)

基本層序	基本層序 年代		92次A区		102次		104次		105次B区	
	1層	2層	1層	2層	1層	2層	1層	2層	1層	2層
表土			表土		表土		表土		表土	
旧耕作土1	近現代	近現代	旧耕作土	旧耕作土	近現代	近現代	旧耕作土	旧耕作土	近現代	近現代
造成土1	近世以降	近世以降	造成土	造成土	近現代	近現代				
旧耕作土2	近世以降	近世以降	旧耕作土	旧耕作土	近世					
西門 中世築地 I	15C後半以降									
西門 古代築地Ⅱ	10C代	古代	明褐色土・ 黄褐色土	明褐色土・ 黄褐色土	10CⅠ以降?					
西門 古代築地Ⅲ	9CⅢ～10CⅠ			①灰黄褐色粘質土 ②暗褐色砂質土 ③黒褐色砂質土	9CⅢ～10CⅠ		暗褐色 砂質土	暗褐色 砂質土	暗褐色 砂質土	9CⅢ以降
西門 古代築地Ⅳ (道路造成土)	9CⅢ～④						①褐色土 ②褐色土 ③褐色土に黄褐色 粘土	①褐色土 ②褐色土 ③褐色土に黄褐色 粘土		
西門 古代築地Ⅴ	9CⅢ			褐色砂質土						
西門 古代築地Ⅵ (道路造成土 含む)	8CⅢ～9CⅠ	8C末・9C初	明褐色粘土・ 明褐色土・ 褐色土	明褐色土に 灰褐色粘土 ②褐色土に 暗褐色土	8CⅢ～9CⅠ		褐色砂質土	褐色砂質土	8CⅢ～9CⅠ	
西門 古代築地Ⅶ	8C後半			①黄褐色土に 明褐色土 ②褐色土に 明褐色土	8C後半					
西門 古代築地Ⅷ	8CⅡ?	8CⅡ? 遺物なし	褐色土(粘土)・ 明褐色粘土	褐色粘質土に 灰褐色粘土ブロック	8CⅡ? 遺物なし					
田表土			明褐色土 黄褐色土	明褐色土 黄褐色土						
地山飛砂			地山飛砂	地山飛砂	地山飛砂		明褐色砂	明褐色砂	地山飛砂	地山飛砂
地山礫積土			地山礫積土	地山礫積土	地山礫積土		黒褐色粘土	黒褐色粘土	黒褐色 粘質土	地山礫積土
地山粘土			明褐色粘土	明褐色粘土	地山粘土		明褐色粘土	明褐色粘土	明褐色粘土	明褐色粘土
地山砂礫										

Ⅳ 焼山地区の地形と基本層序

年代比定資料出土層

表8 外郭西門周辺土層堆積関係一覽(2) (105次C区・106次A区・111次・115次)

基本層序	基本層序年代	105次C区		106次A区		111次			115次					
		I層	表土	I層	表土	I層	表土	I層	表土	I層	表土			
表土														
田耕作土1	近現代	II層	造成土			II層	田耕作土		II層	造成土			近現代	
造成土	近世以降												近世以降	
田耕作土2	近世以降			II層	造成土・耕作土								田耕作土	
西門中世築地I	15C後半以降												III層	
西門古代築地VII	10C代							III層		III層	III層	III層	III層	
西門古代築地VI	9C④～10C①									III層			III層	
西門古代築地V (道路造成土)	9C③～④							IV-1層						
西門古代築地IV	9C③							IV-2層						
西門古代築地III (道路造成土 含む)	8C③～9C①			III層	褐色土に にふい黄褐色砂			V-1層					VI層	
西門古代築地II	8C後半							V-2層					V層	
西門古代築地I	8C②?			IV層	1 黄褐色粘土に 明褐色土アング 2 明褐色土に黄褐色土 3 褐色土に黄褐色土 4 黄褐色土に灰白色泥								V層	
田表土														
焼山飛砂		VII層	明黄褐色砂											
焼山裾積土		VIII層	黄褐色 粘質土											
焼山粘土		VIII層	黄褐色粘土			V層	黄褐色粘土							
焼山砂礫						VI層	黄褐色砂質土							

IV 焼山地区の地形と基本層序

表10 外郭周辺土層堆積関係一覧(2) (105次E区・106次C区・106次D区・106次E区・116次・117次C-2区)

基本層序 年代	105次E区・106次D区		106次C区		106次E区		116次		117次C-2区	
	I層 表土	II層 造成土	III層 表土	IV層 造成土	V層 表土	VI層 造成土	VII層 表土	VIII層 造成土	IX層 表土	X層 表土
表土										
遺構土・ II層伴土	近世 10C 以降	近世～現代								近代以降
外郭 古代築造VI	10C 以降									近代以降
外郭 古代築造VI	9C③?									
外郭 古代築造V (築造準層12)	9C 前半	①に多い黄褐色 粘土に黄褐色 粘土	①黄褐色土②暗褐色土③ 暗褐色土④暗褐色土⑤暗褐色 土⑥黄褐色土⑦暗褐色土							
外郭 古代築造IV (築造準層11)	8C① ～ 9C①	①黄褐色粘土 ②黄褐色粘土	築造準層土 8C末～9C前 半	IV-1層 暗褐色粘土 IV-2層 暗褐色粘土	IV-1層 暗褐色粘土 IV-2層 暗褐色粘土	築造準層土 8C末・9C① 以降	築造準層土 8C末・9C① 以降	IV層 赤褐色粘質土 8C③～8C④		
外郭 土灰化物層	8C① ～ 9C①	黄褐色土に赤 褐色土・灰化物 が混じる粘土層								
外郭 自然河川層	8C後半									
外郭 古代築造III	8C①									
外郭 築造準層2	8C①									
外郭 築造準層1	8C②									
外郭 古代築造II	8C③									
外郭 古代築造I	8C②	①黄褐色粘質土 に黄褐色 土。②暗褐色砂質 土。	暗褐色土 8C②	V層 暗褐色砂質土 遺物なし	V層 暗褐色砂質土 遺物なし					
旧表土	V層	黄褐色砂質土	旧表土							
焼山飛砂	VI層	明黄褐色砂	焼山飛砂							
焼山飛砂	VI層	黄褐色粘土	焼山飛砂							
焼山粘土	VII層	黄褐色粘土	焼山粘土							
焼山砂礫										

表11 中央部土層堆積関係一覧(21次・59次・66次・70次・73次・85次・89次・110次A区・117次C-1区)

基本層序	年代比定資料出土層									
	21次	59次	66次	70次	73次	85次	89次		110次A区	117次C-1区
表土	1層 表土	1層 表土	1層 表土	1層 表土	1層 表土	1層 表土	1層 表土	1層 表土	1層 表土	1層 表土
造成土							2層 造成土	2層 造成土	2層 造成土	
旧耕作土			2層 旧耕作土	2層 旧耕作土	2層 旧耕作土	3層 旧耕作土	3層 旧耕作土	3層 旧耕作土	3層 旧耕作土	
中央古代							4層 黒褐色土	4層 旧耕作土	4層 旧耕作土	
9C①							5層 黒褐色土	5層 黒褐色土	5層 黒褐色土	
9C②							6層 暗褐色土、 灰化物多く 底土の炭 灰入	6層 暗褐色土、 灰化物多く 底土の炭 灰入	6層 暗褐色土、 灰化物多く 底土の炭 灰入	
9C③										
9C④										
9C⑤										
9C⑥										
9C⑦										
9C⑧										
9C⑨										
9C⑩										
9C⑪										
9C⑫										
9C⑬										
9C⑭										
9C⑮										
9C⑯										
9C⑰										
9C⑱										
9C⑲										
9C⑳										
9C㉑										
9C㉒										
9C㉓										
9C㉔										
9C㉕										
9C㉖										
9C㉗										
9C㉘										
9C㉙										
9C㉚										
9C㉛										
9C㉜										
9C㉝										
9C㉞										
9C㉟										
9C㊱										
9C㊲										
9C㊳										
9C㊴										
9C㊵										
9C㊶										
9C㊷										
9C㊸										
9C㊹										
9C㊺										
9C㊻										
9C㊼										
9C㊽										
9C㊾										
9C㊿										
110次A区										
117次C-1区										

IV 焼山地区の地形と基本層序

表12 南西部土層堆積関係一覽(85次中央部と重なり) 86次 96次 99次 108次 112次

基本層序	85次中央部と重なり		86次			96次			99次			108次		112次		
	基本層序	層序年代	1層	2層	3層	4層	5層	6層	7層	8層	9層	10層	11層	12層	13層	14層
表土			1層	表土	1層	表土	1層	表土	1層	表土	1層	表土	1層	表土	1層	表土
造成土	近代		2層	造成土	2層	造成土	2層	造成土	2層	造成土	2層	造成土	2層	造成土	2層	造成土
旧耕作土	近代以降		3層	旧耕作土	3層	旧耕作土	3層	旧耕作土	3層	旧耕作土	3層	旧耕作土	3層	旧耕作土	3層	旧耕作土
南西 古代部Ⅶ	10C1 以降		4層	黒褐色土・ 暗褐色土	4層	黒褐色土・ 暗褐色土	4層	暗褐色土	4層	暗褐色土	4層	暗褐色土	4層	暗褐色土	4層	暗褐色土
南西 古代部Ⅵ	9C③		5層	褐色土	5層	褐色土	5層	褐色土	5層	褐色土	5層	褐色土	5層	褐色土	5層	褐色土
南西 古代部Ⅴ	9C③		6層	褐色土	6層	褐色土	6層	褐色土	6層	褐色土	6層	褐色土	6層	褐色土	6層	褐色土
南西 古代部Ⅳ	9C②		7層	明黄色粘土・ 褐色土	7層	明黄色粘土・ 褐色土	7層	明黄色粘土・ 褐色土	7層	明黄色粘土・ 褐色土	7層	明黄色粘土・ 褐色土	7層	明黄色粘土・ 褐色土	7層	明黄色粘土・ 褐色土
南西 古代部Ⅲ	8C①～ 9C①		8層	明黄色粘土・ 褐色土	8層	明黄色粘土・ 褐色土	8層	明黄色粘土・ 褐色土	8層	明黄色粘土・ 褐色土	8層	明黄色粘土・ 褐色土	8層	明黄色粘土・ 褐色土	8層	明黄色粘土・ 褐色土
南西 古代部Ⅱ	8C②?		9層	明黄色粘土	9層	明黄色粘土	9層	明黄色粘土	9層	明黄色粘土	9層	明黄色粘土	9層	明黄色粘土	9層	明黄色粘土
南西 古代部Ⅰ	8C②		10層	褐色土	10層	褐色土	10層	褐色土	10層	褐色土	10層	褐色土	10層	褐色土	10層	褐色土
焼山飛砂			11層	明黄色粘土	11層	明黄色粘土	11層	明黄色粘土	11層	明黄色粘土	11層	明黄色粘土	11層	明黄色粘土	11層	明黄色粘土
焼山層Ⅴ土			12層	明黄色粘土	12層	明黄色粘土	12層	明黄色粘土	12層	明黄色粘土	12層	明黄色粘土	12層	明黄色粘土	12層	明黄色粘土
焼山粘土			13層	明黄色粘土	13層	明黄色粘土	13層	明黄色粘土	13層	明黄色粘土	13層	明黄色粘土	13層	明黄色粘土	13層	明黄色粘土

表13 北西部土層堆積関係一覧(1) (92次B区・103次・106次B区)

基本層序	92次B区			103次			106次B区			
	基本層序年代	1層 表土 造成土	2層 造成土	3層 黒褐色砂質土	1層 表土 造成土	2層 旧耕作土 造成土	3層 旧耕作土 造成土	1層 表土	2層 造成土	3層 造成土
北西 中世整地 I	16C末 ～17C初									
北西 中世整地 II	16C 後半	4層 ①赤い黄褐色土、②褐色土、③明褐色砂質土、④明褐色土、⑤明褐色砂質土、⑥明褐色土、⑦明褐色土、⑧黄褐色砂質土	中世 16C後半 SX2003・ 2004土層盛 土					1 褐色粘質土 2 褐色土に黄褐色粘質土		近現代
北西 中世整地 I	14～ 15C代									
焼砂上層	古代末～ 中世?				III-1層 明黄褐色砂					
北西 古代整地 III (道路造成土)	9C①～ 9C前半									
北西 古代整地 II (道路造成土)	8C代?							IV-1層 黄褐色土地A～Eに細分	8C②?⑦ (道路礫化面)	
北西 古代整地 I	8C代							IV-2層 褐色粘質土	8C②?⑦ (道路礫化面)	
旧表土上層					III-2層 こぶい、黄褐色土					
焼砂下層					III-3層 ①褐色砂質土、②こぶい、黄褐色砂質土に明黄褐色砂、③褐色砂質土					
旧表土下層					III-4層 黄褐色砂					
焼山粘土		8層 明褐色粘土								V層 黄褐色粘土
焼山砂礫					III-5層 こぶい、黄褐色土に小礫混じる					VI層 黄褐色砂質土
										焼山粘土 焼山砂礫

IV 焼山地区の地形と基本層序

表14 北西部土層堆積関係一覽(2) (109次・114次・117次A区・117次B区)

基本層序	109次		114次		117次A区		117次B区	
	基本層序 年代	I層 表土	II層 表土	III層 造成土	IV層 表土	I層 表土	II層 暗褐色土	I層 表土
造成土・ 旧耕作土等	近世 以降			近世以降			無砂層	
北西 近世整地 I	16C末 ～17C初			近世 16C末・17C初				II-1層 褐色砂質土 中世 16C末・17C初
北西 中世整地 II	16C 後半							II-2層 にぶい黄褐色砂 質土 中世 16C後半?
北西 中世整地 I	14～ 15C代	II層 1 灰黄褐色粘質 土, 2 暗褐色粘 質土, 3 灰黄褐色粘 質土, 4 褐色粘質 土			IV層 にぶい黄褐色砂 質土 中世 14C～ 16C後半?			II-3層 暗褐色砂質土 中世 16C後半?
飛砂上層	古代末～ 中世?				V層 黄褐色砂 飛砂(上層)			II-1層 褐色砂質土 中世 14～15C?
北西 古代整地田 (道路造成土)	8C①～ 9C前半	III層 褐色土	8C①～9C後半 100次4区III層 におき (道路造成土)	9C①以降				III層 明黄褐色砂 飛砂(上層)
北西 古代整地 II (道路造成土)	8C代?	IV層 にぶい黄褐色土	8C2? 100次4区IV層 におき (道路造成土)	8C～9C1? (道路硬化面) 8C～9C1? (道路硬化面)				
北西 古代整地 I	8C代			8C代				
旧表土上層								IV層 褐色砂質土 旧表土
飛砂下層								V層 暗褐色砂質土 旧表土
旧表土下層								VI層 褐色砂質土 旧表土
地山粘土		V層 明黄褐色粘土	地山粘土					VII層 明黄褐色砂 飛砂 (下層)
地山砂礫		VI層 明黄褐色砂礫	地山砂礫					VIII層 黄褐色粘土～褐 色粘土 IX層 黄褐色粘土 地山粘土 X層 黄褐色砂礫 地山砂礫

3 各地区の基本層序の対比について

各地区全体の基本層序と年代を対比させると、表 15 となる。焼山地区全体に及ぶ整地は 3 回行われている。①秋田出羽権創建期における 8 世紀第 2 四半期、②8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期、③9 世紀第 4 四半期である。①の 8 世紀第 2 四半期の整地層は褐色土や褐色砂質土、②の 8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期は黄褐色粘土や明褐色土、③の 9 世紀第 4 四半期は外郭周辺を除き暗褐色土や褐色土を呈することが多く土色・土質にも一定の共通性がみられる。

以上のような焼山地区全体におよぶ共通する古代整地層は、次章以降に示す遺構の変遷と密接に関わっていると考えられ、鍵層となる。一方で、中世整地層は、外郭西門周辺および北西部のみに堆積しており、後述する中世遺構の分布とほぼ一致している。

註 1: 20 次調査 A 地区および 53 次調査の土層については、古代の遺構が確認されなかったため、ここでの検討では除外している。また、本書の作成にあたり、各調査区の基本層序と年代比定資料については、再検討を行った。基本的には、各調査の概報・年報での検討と一致するが、下記の点については、本書で見解を改めている。①14 次・19 次・52 次については、各調査区の概報において基本層序の検討がなされていないため、本書において断面図等の記載から基本層序を設定した。層序断面図については、第 V 章第 2 節の図 53・55・57 に示した。②105 次 B 区 IV 層から出土の須志器蓋(10-119)を 9 世紀第 1 四半期としていたが、これを 9 世紀第 3 四半期とした。

註 2: 当該層の炭化物について放射性炭素年代測定を行ったところ、較正年代で 7 世紀中葉と 8 世紀中葉の年代を示した(別編 2 第 1 節参照)。土器の年代より古い値が出されているが、古木効果等によるものと考えられ、少なくとも当該層を 8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期と考えることに対して、矛盾していない。

表 15 基本層序の対比

外郭西門周辺		外郭周辺		中央部		南西部		北西部	
基本層序	基本層序年代	基本層序	基本層序年代	基本層序	基本層序年代	基本層序	基本層序年代	基本層序	基本層序年代
表土		表土		表土		表土		表土	
旧耕作土1	近現代			造成土	近代	造成土	近代		
造成土	近世以降	造成土・旧耕作土	近世以降	旧耕作土	近世以降	旧耕作土	近世以降	造成土・旧耕作土等	近世以降
旧耕作土2	近世以降								
								北西近世整地Ⅰ	16C末～17C初
								北西中世整地Ⅱ	16C後半
西門中世整地Ⅰ	15C後半以降							北西中世整地Ⅰ	14～15C代
								飛砂土層	古代末～中世?
西門古代整地Ⅷ	10C代	外郭古代整地Ⅷ	10C以降	中央古代整地Ⅴ	10C以降	南西古代整地Ⅷ	10C①以降		
西門古代整地Ⅵ	9C③～10C①	外郭古代整地Ⅵ	9C③?	中央古代整地Ⅳ	9C③	南西古代整地Ⅵ	9C④		
西門古代整地Ⅴ(道路造成土)	9C③～④			中央古代整地Ⅲ	9C②～③?	南西古代整地Ⅴ	9C③		
西門古代整地Ⅳ	9C③	外郭古代整地Ⅴ(高地崩壊土②)	9C前半			南西古代整地Ⅳ	9C②		
西門古代整地Ⅲ(道路造成土)	8C④～9C①	外郭古代整地Ⅳ(高地崩壊土①)	8C④～9C①	中央古代整地Ⅱ	8C④～9C①	南西古代整地Ⅲ	8C④～9C①	北西古代整地Ⅲ(道路造成土)	8C④～9C前半
		外郭焼土炭化物層	8C④～9C①						
西門古代整地Ⅱ	8C後半	外郭自然堆積層	8C後半					北西古代整地Ⅱ(道路造成土)	8C代?
		外郭古代整地Ⅲ	8C④						
		外郭崩壊瓦層2	8C④			南西古代整地Ⅱ	8C③?		
		外郭崩壊瓦層1	8C③						
		外郭古代整地Ⅱ	8C③						
西門古代整地Ⅰ	8C②?	外郭古代整地Ⅰ	8C②	中央古代整地Ⅰ	8C②?	南西古代整地Ⅰ	8C②	北西古代整地Ⅰ	8C代
旧表土		旧表土		旧表土				旧表土上層	
地山飛砂		地山飛砂		地山飛砂		地山飛砂		飛砂下層	
								旧表土下層	
地山腐植土		地山腐植土		地山腐植土		地山腐植土		地山腐植土	
地山粘土		地山粘土		地山粘土		地山粘土		地山粘土	
地山砂礫		地山砂礫						地山砂礫	

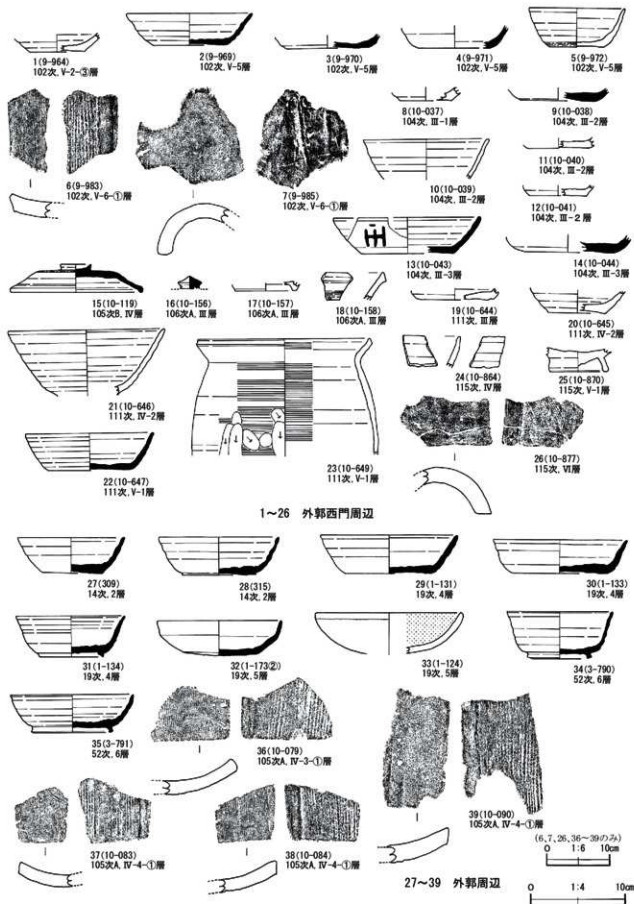


図15 整地層年代比定資料(1)

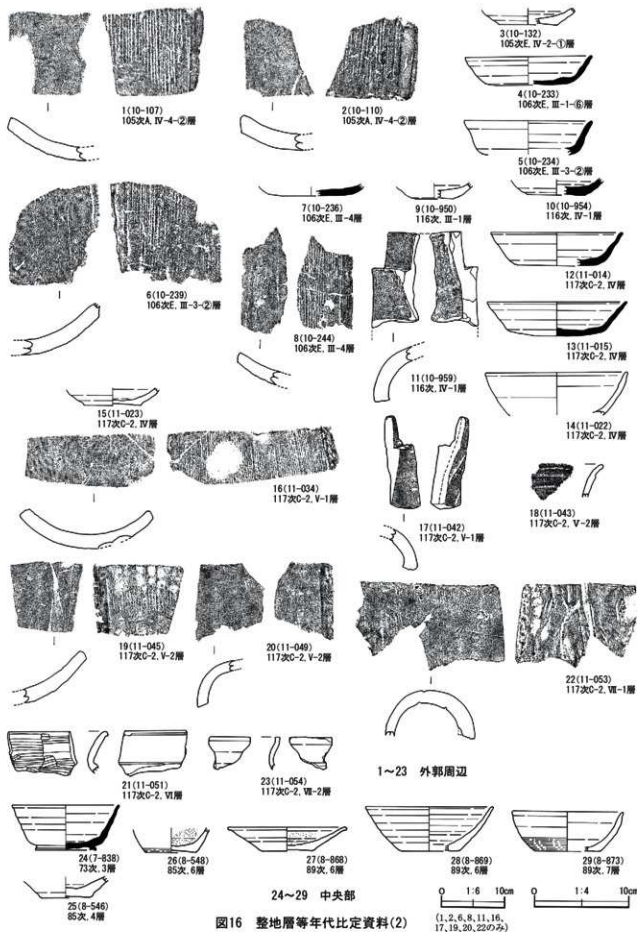


図16 整地層年代比定資料(2)

IV 焼山地区の地形と基本層序

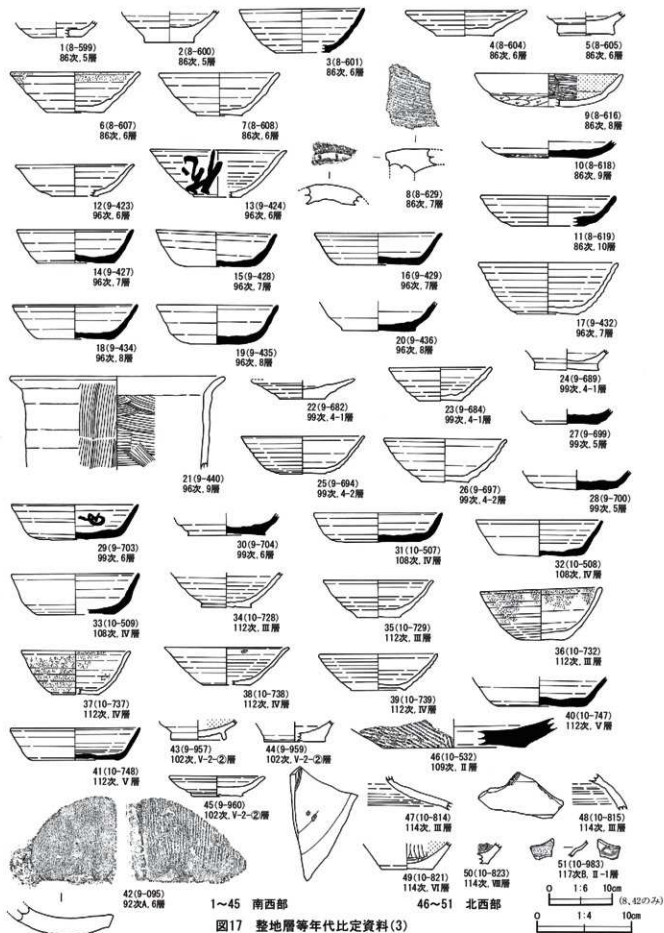


図17 整地層年代比定資料(3)

表16 整地層等年代比定資料一覧(1)

外郭西門周辺

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図15-1	102	9-964	赤褐色土器	坏A	V-2層	-	-	5.8	底部余切り	9C④
図15-2	102	9-969	須恵器	坏	V-5層	13.4	3.4	7.7	底部余切り, 余切り痕が重複	9C①
図15-3	102	9-970	須恵器	坏	V-6層	-	-	8.6	底部へラ切り後, 軽いナダ調整	8C①~9C①
図15-4	102	9-971	須恵器	坏	V-5層	-	-	7.6	底部へラ切り後, 軽いナダ調整	8C①~9C①
図15-5	102	9-972	赤褐色土器	坏B	V-5層	10.1	4.1	5.5	底部磨滅しており, 切り離し不明, 体部下端ケズリ調整, 内面ナダ調整により平滑	9C①
図15-6	102	9-983	瓦	平瓦	V-6-①層 (SG2245)	-	-	-	一枚作り, 凸面縄目の印が散見, 凹面布目圧痕, 焼成良好, 軟質, 灰色, 凸面に砂粒が目立つ	2群
図15-7	102	9-985	瓦	丸瓦	V-6-①層 (SG2245)	-	-	-	凸面縄目の印が散見と全面ナダ調整, 凹面布目圧痕, 焼成やや不良, 軟質, 灰色	1-3群
図15-8	104	10-037	赤褐色土器	坏A	Ⅲ-1層	-	-	5.4	底部余切り	9C④
図15-9	104	10-038	須恵器	坏	Ⅲ-2層(SX2827硬化面)	-	-	7.8	底部へラ切り後, 軽いナダ調整, 内面に漆付着	9C後半
図15-10	104	10-039	赤褐色土器	坏A	Ⅲ-2層(SX2827硬化面)	13.2	-	-	口縁部破片	9C後半
図15-11	104	10-040	赤褐色土器	坏A	Ⅲ-2層(SX2827硬化面)	-	-	6.4	底部余切り	9C後半
図15-12	104	10-041	赤褐色土器	坏A	Ⅲ-2層(SX2827硬化面)	-	-	6.0	底部余切り	9C後半
図15-13	104	10-043	須恵器	坏	Ⅲ-3層	15.6	3.8	9.6	底部へラ切り後, 軽いナダ調整, 体部外面に「ト」の墨書	8C①~9C①
図15-14	104	10-044	須恵器	坏	Ⅲ-3層	-	-	9.0	底部へラ切り後, 軽いナダ調整	8C①~9C①
図15-15	105B	10-119	須恵器	蓋	B区, IV層	13.8	2.9	-	天井部へラ切り後, ナダ調整, 天井部に「道細」の墨書	9C②
図15-16	106A	10-156	須恵器	壺	Ⅲ層(SN2331硬化面)	-	-	-	擬宝珠状のつまみ	8C①~9C①
図15-17	106A	10-157	赤褐色土器	台付坏	Ⅲ層(SN2331硬化面)	-	-	9.4	高台部破片	9C前半
図15-18	106A	10-158	赤褐色土器	甕	Ⅲ層(SN2331硬化面)	-	-	-	小型, 外面摩耗, 内面に横方向のカキ目調整	9C前半
図15-19	111	10-644	赤褐色土器	Ⅲ	Ⅲ層	-	-	8.0	底部余切り	10C以降
図15-20	111	10-645	赤褐色土器	坏A	IV-2層	-	-	6.0	底部余切り	9C②
図15-21	111	10-646	赤褐色土器	坏A	IV-2層	16.6	-	-	二次的焼痕	9C②
図15-22	111	10-647	須恵器	坏	V-1層	13.6	3.9	8.7	底部へラ切り後, ナダ調整, 底部外面に「切」の墨書, 底部内面「十」の刻書	9C①
図15-23	111	10-649	赤褐色土器	甕	V-1層	18.2	-	-	丸底錐形, 外面は口縁部から体部上半にかけてカキ目調整後, 口縁部ナダ調整, 体部外面縦方向の手持ちケズリ調整, 二次的焼痕	8C①~9C①
図15-24	115	10-864	中世陶器	平碗	IV層	-	-	-	瀬戸美濃系, 灰釉	古瀬戸後期IV期, 15C後半
図15-25	115	10-870	赤褐色土器	台付坏	V-1層	-	-	5.7	底部破片	10C②~③
図15-26	115	10-877	瓦	丸瓦	VI層	-	-	-	凸面ナダ調整, 凹面布目圧痕, 焼成良好, 軟質, 褐色	1-1群

外郭周辺①

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図15-27	14	309	須恵器	坏	2層	11.2	3.8	6.1	底部へラ切り後, ナダ調整, 内面と口縁部外面に自然釉	8C③
図15-28	14	315	須恵器	坏	2層	12.5	4.0	7.8	底部へラ切り後, ナダ調整, 底部外面に「主」の墨書	8C③
図15-29	19	1-131	須恵器	坏	4層	14.3	4.0	9.0	底部へラ切り後, 周縁部ナダ調整	8C③
図15-30	19	1-133	須恵器	坏	4層	14.0	3.5	9.8	底部へラ切り後, ナダ調整, 底部外面に「ロ」の墨書	8C③
図15-31	19	1-134	須恵器	台付坏	1層	11.4	4.4	6.7	底部へラ切り, 高台取付け後, 高台周辺ナダ調整, 赤みを帯びる	8C③
図15-32	19	1-173②	須恵器	坏	5層, 築地基底部開闢灰色土	12.9	3.7	7.9	体部から底部全面に手持ちへラケズリ調整, 底部切り離し不明, 口縁部と体部の境目に一枚の痕	8C②
図15-33	19	1-124	土師器	坏	5層, 築地基底部開闢灰色土	15.2	-	-	内面黒色処理, 外面は口縁部下部から底部に不定方向の手持ちへラケズリ調整, 内面は体部横方向・底部不定方向のヒガキ調整	8C②
図15-34	52	3-790	須恵器	台付坏	6層, VI層	11.1	5.0	5.9	底部へラ切り, 高台取付け後, 高台周辺ナダ調整, 内外面に自然釉	8C③
図15-35	52	3-791	須恵器	台付坏	6層, VI層	12.8	4.0	7.9	底部へラ切り, 高台取付け後, 高台周辺ナダ調整 一枚作り, 凸面縄目の印が散見, 凹面布目圧痕と余切り痕, 焼成良好, 軟質, 灰色~暗灰色, 凸面に砂粒が目立つ, 狭帯部端部にベンガラ付着	2群
図15-36	105A	10-079	瓦	平瓦	ASK, IV-3-①層	-	-	-	一枚作り, 凸面縄目の印が散見, 凹面布目圧痕, 焼成良好, 軟質, 灰白色	1-1群
図15-37	105A	10-083	瓦	平瓦	ASK, IV-4-①層	-	-	-	一枚作り, 凸面縄目の印が散見, 凹面布目圧痕, 焼成良好, 軟質, 灰色	1-2群
図15-38	105A	10-084	瓦	平瓦	ASK, IV-4-①層	-	-	-	一枚作り, 凸面縄目の印が散見, 凹面布目圧痕, 焼成良好, 軟質, 灰色	1-2群
図15-39	105A	10-090	瓦	平瓦	ASK, IV-4-①層	-	-	-	一枚作り, 凸面縄目の印が散見, 凹面布目圧痕と余切り痕, 焼成やや不良, 軟質, 黒色(いぶし)	1-3群
図16-1	105A	10-107	瓦	平瓦	ASK, IV-1-②層	-	-	-	一枚作り, 凸面縄目印が散見, 凹面布目圧痕, 焼成やや不良, 軟質, 灰色	1-2群
図16-2	105A	10-110	瓦	平瓦	ASK, IV-1-②層	-	-	-	一枚作り, 凸面縄目印が散見, 凹面布目圧痕, 焼成やや不良, 軟質, 黒色(いぶし)	1-3群

IV 焼山地区の地形と基本順序

表17 整地層等年代比定資料一覽(2)
外郭周辺②

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図16-3	10E	10-132	赤褐色土器	坏A	E区、IV-2(1)層	-	-	6.2	底部糸切り	9C前半
図16-4	10E	10-233	須恵器	坏	E区、Ⅲ-1(6)層	13.4	3.0	7.8	底部へつ切り後、軽いナデ調整、二次的被熱痕	9C①～②
図16-5	10E	10-234	赤褐色土器	坏	E区、Ⅲ-3(2)層	13.6	3.6	-	底部へつ切り後、軽いナデ調整、胎土に3～9mmの凝灰岩粒が混じる	8C後半
図16-6	10E	10-239	瓦	平瓦	E区、Ⅲ-3(2)層	-	-	-	一枚作り、凸面鑢目印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、軟質、灰色、凸面に砂の付着が多い	2群
図16-7	10E	10-236	須恵器	坏	E区、Ⅲ-4層	-	-	9.0	底部へつ切り、摩耗している	8C②
図16-8	10E	10-244	瓦	平瓦	E区、Ⅲ-4層	-	-	-	一枚作り、凸面鑢目印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、軟質、灰色	1-2群
図16-9	116	10-950	赤褐色土器	坏A	Ⅲ-1層	-	-	4.0	底部糸切り	10C以降
図16-10	116	10-954	須恵器	坏	IV-1層	-	-	6.0	底部へつ切り後、ナデ調整	9C①
図16-11	116	10-959	瓦	丸瓦	IV-1層	-	-	-	凸面鑢目印き後、ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成不良、硬質、淡黄色	3-1群
図16-12	117 C-2	11-014	須恵器	坏	C-2区、IV層	14.0	3.4	8.0	底部へつ切り後、軽いナデ調整	8C③
図16-13	117 C-2	11-015	須恵器	坏	C-2区、IV層	14.8	3.6	9.8	底部へつ切り後、軽いナデ調整	8C③
図16-14	117 C-2	11-022	赤褐色土器	坏A	C-2区、IV層	15.0	-	-	内外面ナデ調整	9C①
図16-15	117 C-2	11-023	赤褐色土器	坏A	C-2区、IV層	-	-	6.0	底部糸切り	9C①
図16-16	117 C-2	11-034	瓦	平瓦	C-2区、V-1層上面	-	-	-	一枚作り、凸面鑢目印き痕、凹面布目圧痕、焼成やや不良、軟質、褐色	4-1群
図16-17	117 C-2	11-042	瓦	丸瓦	C-2区、V-1層	-	-	-	有段、凸面ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成良好、軟質、褐色	4-1群
図16-18	117 C-2	11-043	土師器	甕	C-2区、V-2層	-	-	-	多重沈滲、頸部2条の沈滲	8C前葉～中葉
図16-19	117 C-2	11-045	瓦	平瓦	C-2区、V-2層	-	-	-	一枚作り、凸面鑢目の印き痕後、ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成やや不良、軟質、灰色	1-2群
図16-20	117 C-2	11-049	瓦	丸瓦	C-2区、V-2層	-	-	-	凸面鑢目の印き痕後、ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成良好、軟質、黒色(いぶし焼成)	1-3群
図16-21	117 C-2	11-051	土師器	甕	C-2区、VI層	-	-	-	多重沈滲、頸部1条の沈滲、内面横方向のハケ目調整	8C③
図16-22	117 C-2	11-053	瓦	丸瓦	C-2区、VII-1層上面	-	-	-	凸面鑢目の印き痕後、ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成良好、軟質、灰色	1-2群
図16-23	117 C-2	11-054	土師器	甕	C-2区、VII-2層	-	-	-	内外面ハケ目調整	8C②～③

中央部

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図16-24	73	7-838	須恵器	台付坏	3層	11.2	4.7	6.4	底部へつ切り、高台取り付け後、高台周辺ナデ調整	9C①
図16-25	85	8-546	赤褐色土器	甕	4層	-	-	5.1	底部糸切り、擬高台	10C①
図16-26	85	8-548	赤褐色土器	坏B	6層	-	-	5.3	底部糸切り後、体部下端ケズリ調整、内面に煤が強く付着、灯明土	9C①
図16-27	89	8-868	赤褐色土器	坏	6層	12.6	2.5	5.2	底部糸切り	9C①
図16-28	89	8-869	赤褐色土器	坏A	6層	13.4	4.7	5.8	底部糸切り、外面全体に二次的被熱痕	9C①
図16-29	89	8-873	赤褐色土器	坏B	7層	11.8	4.2	6.8	底部糸切り後、体部下端ケズリ調整	8C①～9C①

南西部①

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図17-1	86	8-599	赤褐色土器	坏A	5層	-	-	5.0	底部糸切り	10C②～③
図17-2	86	8-600	赤褐色土器	坏A	5層	-	-	5.2	底部糸切り、柱状高台	10C②～③
図17-3	86	8-601	赤褐色土器	坏A	6層	13.0	4.6	5.6	底部糸切り	9C後半
図17-4	86	8-604	赤褐色土器	坏A	6層	12.9	2.7	6.0	底部糸切り	9C①
図17-5	86	8-605	赤褐色土器	坏A	6層	-	-	5.5	底部糸切り、柱状高台	10C③
図17-6	86	8-607	赤褐色土器	坏A	6層	13.5	4.2	6.1	底部糸切り	9C③
図17-7	86	8-608	赤褐色土器	坏A	6層	12.5	4.5	4.8	底部糸切り	10C①
図17-8	86	8-629	瓦	軒丸瓦	7層	-	-	-	15番細中兼華文軒丸瓦、凸面五当部周縁に明確な鑢目印き痕、焼成良好、硬質、暗灰色	8C末以降
図17-9	86	8-616	土師器	坏	8層	15.4	3.4	6.2	内面黒色処理、丸底、有段、外面は体部下半から口径部にナデ調整、内面は体部横方向・底部不定向方にミガキ調整、底部外面中央若干くぼむ	8C②～③
図17-10	86	8-618	須恵器	坏	9層	-	-	8.4	底部全面から体部下端ケズリ調整のため、切り離し不明	8C②
図17-11	86	8-619	須恵器	坏	10層	14.2	3.2	8.0	丸底風、底部へつ切り後、丁寧なナデ調整	8C②
図17-12	96	9-423	赤褐色土器	坏A	6層	12.6	3.3	5.0	底部糸切り、二次的被熱痕	9C①

表18 整地層等年代比定資料一覧(3)
南西部(2)

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図17-13	96	9-424	赤褐色土器	坏A	6層	14.1	5.1	5.0	底部糸切り, 体部外面に倒置で依 ^レ の墨書, 二次的被熱痕	9C④
図17-14	96	9-427	須恵器	坏	7層	12.4	3.5	8.0	底部へラ切 ^レ 後, ナダ調整	9C②
図17-15	96	9-428	須恵器	坏	7層	12.8	3.6	8.0	底部へラ切 ^レ 後, ナダ調整	9C②
図17-16	96	9-429	須恵器	坏	7層	13.6	3.3	8.6	底部へラ切 ^レ 後, 軽 ^イ ナダ調整	9C②
図17-17	96	9-432	赤褐色土器	坏A	7層	15.0	5.4	6.4	底部糸切り, 二次的被熱痕	9C③
図17-18	96	9-434	須恵器	坏	8層	13.2	3.6	8.0	底部へラ切 ^レ 後, ナダ調整, 二次的被熱痕	9C①
図17-19	96	9-435	須恵器	坏	8層	12.8	4.1	7.0	底部へラ切 ^レ 後, 丁寧なナダ調整, 二次的被熱痕	9C①
図17-20	96	9-436	須恵器	坏	8層	-	-	-	底部糸切り	9C①
図17-21	96	9-440	土師器	甕	9層	22.4	-	-	長胴形, 頸部「く」の字状, 外面は頸部から体部上半を縦位のハケ目調整後, 口縁部にナダ調整, 内面は口縁部から体部上半に横位のハケ目調整後, 口縁部にナダ調整	9C①
図17-22	99	9-682	赤褐色土器	皿	4-1層	-	-	4.8	小型, 底部糸切り	10C②
図17-23	99	9-684	赤褐色土器	坏A	4-1層	10.8	3.5	4.6	底部糸切り	10C②
図17-24	99	9-689	赤褐色土器	坏A	4-1層	-	-	6.8	高さ台状, 底部糸切り	10C②
図17-25	99	9-694	赤褐色土器	坏A	4-2層	12.8	4.0	4.8	底部糸切り後, 軽 ^イ ナダ調整	9C④
図17-26	99	9-697	赤褐色土器	坏A	4-2層	12.8	4.6	5.0	底部糸切り	9C④
図17-27	99	9-699	須恵器	坏	5層	-	-	6.6	底部糸切り, 体部下端軽 ^イ ナダ調整	9C②
図17-28	99	9-700	須恵器	坏	5層	-	-	8.6	底部へラ切 ^レ 後, 軽 ^イ ナダ調整, 二次的被熱痕	9C②
図17-29	99	9-703	須恵器	坏	6層	13.4	3.5	9.3	底部へラ切 ^レ 後, 軽 ^イ ナダ調整, 体部内面に「手」の墨書	9C①
図17-30	99	9-704	須恵器	坏	6層	-	-	8.2	底部糸切り, 箱形	9C①
図17-31	108	10-507	須恵器	坏	IV層	10.0	3.1	13.5	底部へラ切 ^レ 後, ナダ調整	9C④
図17-32	108	10-508	須恵器	坏	IV層	13.3	3.8	8.8	底部へラ切 ^レ 後, ナダ調整	9C④
図17-33	108	10-509	須恵器	坏	IV層	13.5	4.3	8.0	底部糸切り後, 軽 ^イ ナダ調整	9C④
図17-34	112	10-728	赤褐色土器	坏A	皿層	-	-	5.3	底部糸切り, 糸切り粗雑	10C①
図17-35	112	10-729	赤褐色土器	坏A	皿層	11.4	3.9	4.6	底部糸切り, 二次的被熱痕	10C①
図17-36	112	10-732	赤褐色土器	坏A	皿層	12.7	5.4	5.1	底部糸切り, 灯明皿 ^ホ	10C①
図17-37	112	10-737	赤褐色土器	坏A	IV層	11.4	4.6	5.0	底部糸切り, 二次的被熱痕	9C④
図17-38	112	10-738	赤褐色土器	坏A	IV層	13.2	4.0	4.9	底部糸切り, 二次的被熱痕	9C④
図17-39	112	10-739	赤褐色土器	坏A	IV層	12.4	3.9	6.0	底部糸切り, 二次的被熱痕	9C④
図17-40	112	10-747	須恵器	坏	V層	-	-	8.6	底部へラ切 ^レ 後, ナダ調整	8C④
図17-41	112	10-748	須恵器	坏	V層	13.8	3.4	9.2	底部へラ切 ^レ 後, ナダ調整, 底部外面に「内」の墨書	8C④
図17-42	92A	9-095	瓦	平瓦	A区, 6層	-	-	-	一枚作り, 凸面縦目印き痕, 凹面布目圧痕, 燒成良好, 硬質, 灰色~黄灰色	3-2群
図17-43	102	9-957	土師器	台付埴	V-2-2層(SG2245)	-	-	高台5.5	内面黒色地埋, 大型	10C①
図17-44	102	9-959	赤褐色土器	坏A	V-2-2層(SG2245)	-	-	6.4	底部糸切り	10C①
図17-45	102	9-960	赤褐色土器	皿	V-2-2層(SG2245)	10.1	2.1	5.5	柱状高台状, 底部糸切り	10C①

北西部

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図17-46	109	10-532	中世陶器	甕	B層	-	-	-	珠洲系, 底面に砂が付着している, 体部下端に平行印き痕	珠洲IV~V期, 16C末~17C前半
図17-47	114	10-814	陶磁器	三耳甕	皿層	-	-	-	肥前系, 外面に施釉	肥前1期, 16C末~17C初
図17-48	114	10-815	陶磁器	三耳甕	皿層	-	-	-	肥前系, 外面に施釉	肥前1期, 16C末~17C初
図17-49	114	10-821	土師器	埴	VI層	-	-	-	内面黒色地埋, 底部糸切り後, ナダ調整, 内面は体部縦位・底部横位のヒガキ調整	9C①
図17-50	114	10-823	土師器	甕	VII層	-	-	-	小型平底, 内面ハケ目調整	8C代
図17-51	117B	10-983	中世磁器	皿	B区, II-1層	-	-	-	中国産, 内外面に染付	染付産F群, 16C末~17C初

第V章 古代の検出遺構と出土遺物

古代の遺構で検出した遺構は、掘立柱建物跡43棟、区画施設（築地塀跡・材木塀跡）73基（条）、溝跡27条、道路遺構9箇所、竪穴建物跡・竪穴状遺構57軒、焼土遺構35基、井戸跡1基、土坑125基、火葬墓1基、土取り穴51基である。これらの遺構ごとに、原則として遺構番号順に示した。遺構番号の数字部分が100番以下のものは、国営調査で発見されていた遺構で、秋田市による発掘調査によって発見された遺構は101番からである。掘立柱建物跡、区画施設、溝跡については、先に基本層序で示した地区区分（外郭西門周辺、外郭周辺、中央部、南西部、北西部）で遺構の性格が異なると考えられるため、それぞれの地区区分順に、細分し報告している。各遺構および出土遺物は、全体の概要を文章で報告し、個別の説明については一覧表で示した。土層注記は基本的には当該断面図付近に掲載するが、掘立柱建物跡についてはスペースの関係上、同じページに掲載できない場合は、91～96頁に別記した。その場合、当該断面に「※○○の土層注記は別記」と示した。なお、掘立柱建物跡や区画施設等における遺構の数については、同位置に新旧二時期あるものは遺構番号にA・Bと付し1棟（基・条）と数えた。ほぼ同位置でも少し位置がずれているものについては、それぞれに遺構番号を付し、遺構番号1つにつき1棟（基・条）と数えた。

各遺物・遺構の年代決定については、本来は総括の部分で行うべきであるが、個別の議論については各年次報告書の考察において行っているため、遺物一覧表の右端で「時期」として記載した。同様に遺構一覧表においても、第IV章で検討した「検出層位の年代」、出土遺物から推定される「出土遺物の年代」として整理し、両者から推定される「時期」を右端に記載した。この場合、掘立柱建物跡などの柱掘り方出土の遺物について、柱抜き取り埋土と柱掘り方埋土が峻別されているものについては、構築年代と廃絶年代を判断し記載している。また、布掘りを伴う材木塀跡は布掘り埋土と抜き取り埋土、竪穴建物跡は床面等と埋土によりそれぞれ構築・廃絶年代を推定した。埋土出土のみ、もしくは遺物取り上げの記載がないものについては、出土遺物の年代幅で年代のみを記載している。また、遺構類型についても、「時期」の上段に記載した。

第1節 掘立柱建物跡（図18～50、表16～27）

焼山地区検出の古代の建物跡については43棟発見され、構造的にすべて掘立柱建物であり、礎石建物は検出されていない。当該遺構は検出地区ごとに性格が異なるため、1 外郭西門跡、2 外郭線で確認される櫓状建物跡、3 中央部の掘立柱建物跡、4 南西部の掘立柱建物跡、5 北西部の掘立柱建物跡の順で記載する。この各区分内での報告順は、原則的に遺構番号順とする。

1 外郭西門跡（図19～24、表19）

焼山地区の北西に張り出した台地上の92次・102次調査において6棟発見された。すべて梁間（東西）2間×桁行（南北）3間の南北棟掘立柱建物であり、三間一戸の八脚門形式と推定される。SB1986～1991の6棟が少しずつ位置と方位をずらしているため、複雑な切り合い関係を持ちながら確認された。切り合い関係からSB1991（Ⅰ期）→SB1990（Ⅱ期）→SB1989（Ⅲ期）→SB1988（Ⅳ期）→SB1987（Ⅴ期）→

SB1986（VI期）と6期の変遷がある。

建物遺構（柱掘り方）については、後世の削平を受けており、東側で深く、西側で浅く遺存している。そのため、検出される柱掘り方や抜き取り痕の平面規模は、東側が大きく、西側が小さくなっている。また、旧地形は北西から南西方向に傾斜しているため、柱底部の高さについても建物の南～南西側の柱がやや低くなる傾向がある。外郭西門として把握された柱掘り方のうち、建物として組み合わさないものが、11基程存在する。小型の掘り方については、建物構築時の足場の柱掘り方等と考えられるが、複雑な重複関係があるため、判断としない。また、外郭西門北東部は、近世土取り穴（SG2249）により一部削平を受けている。

外郭西門の建物方位は北で7～18°東であり、すべて北で東側に振れている。これは外郭西門が位置する舌状台地が、北西方向に延びているためであり、地形的制約によるものと考えられる。これは、後述する城外西大路の方向とも密接に関わると考えられる。

建物規模は各建物でばらつきがあるが、SB1989（III期）が最も大きくなり、SB1988（IV期）が最も小さい。前段階より特に大型化するものは、SB1989（III期）とSB1987（V期）である。また、SB1991（I期）とSB1990（II期）は桁行に対する梁間の比率が小さく細長形状をしており、SB1989（III期）～SB1986（VI期）は、桁行に対する梁間の比率が大きく、幅広な形状をしている。

詳細は後述するが、外郭西門周辺でそれぞれの門に取り付く外郭区画施設が検出されている。それぞれの位置・切り合い関係から推定される外郭区画施設との対応関係は次のとおりである。外郭西門北側では、SF2239 築地塀跡がSB1991（I期）、SF2238 築地塀跡がSB1990（II期）、SA2236 材木塀跡がSB1989（III期）、SA2237 材木塀跡がSB1988（IV期）SA2235 材木塀跡がSB1987（V期）と対応すると考えられる。南側ではSF290 築地塀跡がSB1991（I期）およびSB1990（II期）に、SA1992 材木塀跡がSB1989（III期）と対応すると考えられる。

出土遺物と検出層位の年代からみれば、SB1991（I期）は8世紀第2四半期以降、SB1990（II期）は8世紀後半に構築され、8世紀末・9世紀初頭で廃絶していると考えられる。SB1989（III期）・SB1988（IV期）は8世紀末・9世紀初頭以降、SB1987（V期）・SB1986（VI期）は少なくとも9世紀第2四半期以降と考えられる。

2 櫓状建物跡（図25～27、表19・20）

梁間1間×桁行2間の掘立柱建物跡が、外郭線に沿って5棟、4箇所検出されている。このうち、SB291A・B（19次）、SB973A・B（52次）、SB2356・2357（106次D区）の3地点では、新旧二時期が同一地点で確認されている。SB178（14次）のみ新旧二時期が確認されていないが、上記3地点と同様に新旧二時期あった可能性がある。

いずれも、築地崩壊土と考えられる整地層が検出面となる。外郭区画施設との対応関係としては、SB178がSD176 材木塀跡、SB291A・BがSD292・293 材木塀跡、SB973A・BがSA974A・B、SB2356・2357がSA2313・2314 材木塀跡を跨ぐような配置となっている。

出土遺物と検出層位の年代からみれば、いずれも8世紀第4四半期以降と考えられる。

3 中央部掘立柱建物跡（図28～44、表20～23）

政庁域と外郭線の間平坦部の21次・59次・66次・70次・73次・85次・89次・111次調査地で24棟検出された掘立柱建物跡の一群である。これらの調査地点のうち、掘立柱建物跡が密集する21次・59次・66次・70次調査地は、表土・耕作土の直下が旧地形の旧表土となっており、古代整地層が確認され

V 古代の検出遺構と出土遺物（1掘立柱建物跡）

ず、耕作等の後世による削平を受けている。なお、当該地区は、掘立柱建物群が発見された国営調査 3 次・4 次調査地を含むものである。

発見された掘立柱建物群の大部分は南北方向の建物で、規則的に配置されている。ただし、北側で検出されている SB1313・1625・1925 は東西棟の建物である。建物の方位規制は、多少の振れ幅はあるが基本的には真北方向を基準としている。東西棟建物であったとしても、真北に直交した配置となっている。そして、21 次・59 次・66 次・70 次・73・85 次北部・89 次西側の部分では、南北方向の建物は東西 2 列に並列する規則的配置がなされていることが大きな特徴である。

建物規模・掘り方の特徴から、大きく 4 類（細分して 7 類）に分けることができる。

A 類：梁間 3 間×桁行 7 間以上の南北棟の総柱式建物で、柱掘り方は直径 1.5～2m の円形または不整形の方形のもの。柱痕跡は 40～50 cm である。SB1209 (59 次) が該当する。同位置での立て替えは認められない。

B 類：梁間 2～3 間×桁行 3～7 間の南北棟側柱建物で、柱掘り方は一辺ないし直径が 1～2m の方形・円形・楕円形のもの。柱痕跡は 30～42 cm である。これらは、さらに配置と建物規模により 3 種に細分することが可能である。

B-1 類：梁間 2 間×桁行 5～7 間以上で、中央部中央に集中する一群。建物配置は東西 2 列に並列する規則的配置がなされている。SB022 (3・66・70 次、註 1)、SB023 (4・66 次)、SB314A・B (21・73 次)、SB1207 (59 次)、SB1208 (59 次)、SB1513A・B (70 次)、SB1798 (85 次)、SB1927 (89 次) が該当する。すべて側柱建物であるが、SB1207 には間仕切りが確認される。また、SB1207 と SB1208 はほぼ同位置における建て替えであり、SB314A・B、SB1513A・B も同位置における建て替えが認められる。

B-2 類：梁間 3 間×桁行 6 間以上で、中央部南東の政庁寄りに配置される一群。SB1922～1924 (89 次) が該当する。このうち、SB1922 と SB1923 は同位置の建て替えで、SB1922 が新しく、SB1923 が古い。建て替え後の SB1922 には柱材が遺存しており、柱抜き取りに多量の炭化物が混入しており、火災による消失と判断される。

B-3 類：梁間 2 間×桁行 3 間の小型で、建物方位が 6° 西に振れ、中央部中央に位置するもの。SB316 (21・73 次) が該当する。

C 類：梁間 2 間×桁行 4～6 間、総柱式建物の一群。柱掘り方は 0.5～1.5m の円形・楕円形・隅丸方形、柱痕跡は 20～30 cm で、A・B 類と比較して柱掘り方は小さい。位置と柱掘り方等により 2 種に細分できる。

C-1 類：梁間 2 間×桁行 5～6 間、柱掘り方が 0.5～1.5m の円形もしくは楕円形の総柱式建物の一群。中央部中央に配置される。SB313 (21 次)、SB1449+1450 (66 次)、SB1451+1512 (66・70 次)、SB1625 (73・111 次) が該当する。SB313 と SB1625 は東西棟、SB1449+1450 と SB1451+1512 は南北棟で、全体として逆 L 字形の配置となる。

C-2 類：梁間 2 間×桁行 4 間、柱掘り方は 1 辺 1.0～1.5m の隅丸方形の総柱式建物である。中央部南棟の政庁寄りに配置される。SB1925 (89 次) が該当する。C-1 類と比較して柱掘り方がやや大きく、隅丸方形をとる。また、C-1 類は真北ないし、やや東に振れるのに対し、C-2 類はやや西に振れる。また、SB1925 には柱材が遺存していた。

D 類：梁間 1～2 間×桁行 1～2 間、柱掘り方直径 0.2～0.9m の規模の小さい側柱建物である。建物配

置や方位に規則性が認められない。SB315(21次)、SB318(21・70次)、SB1448(66次)、SB1452(66次)が該当する。

この他に、規模が不明であり、分類が不可能であったSB1926・1928(89次)がある。

C-1類について、第三章第3節で述べたように、SB1449+1450は、遺構検出時では南側SB1449(2間×2間)と北側SB1450(2間×3間)の2棟の建物と認識していたが、本報告では1つ建物として報告している。また、南側SB1451(2間×2間)と北側SB1512(2間×3間)のSB1451+1512も同様である。SB1449+1450は桁行方向の南から3間目の柱間、すなわち南側SB1449と北側SB1450の間、は柱間間隔が他と異なり、また、建物方位も南側SB1449と北側SB1450で若干異なる。SB1451+1512も同様に、桁行の柱間間隔は、南側SB1451では3.3m、北側SB1512では3.6m、両者をつなぐ南から3間目の柱間は3.5mとそれぞれ異なり、方位も若干異なる。これらのことから、SB1449+1450、SB1451+1512は、それぞれ南側に2間×2間、北側に3間×3間が連結した双倉である可能性が高い。同様な特徴はSB1625でも認められ、桁行方向3間目が柱間間隔2.1mとやや狭くなっている。このことから、SB1625は東西に2間×2間が連結した双倉の可能性はある。SB313も東西に2間×2間が連結した双倉構造の可能性はあるが、上述のような柱間間隔の差異は認められなかった。

また、柱材が炭化材として遺存していたB-2類のSB1922(89次)とC-2類のSB1925(89次)について、これらの樹種同定の結果、SB1922はスギ、SB1925がサクラ属であるとの同定結果がある(別編2第2節参照)。

これらの掘立柱建物跡の切り合い関係は、SB022(B類)→SB1452(D類)、SB314A・B(B類)→SB313(C類)、SB1209(A類)→SB1207・SB1208(B類)、SB1923(B類)→SB1922(B類)、SB1928(分類不明)→SB1925(C類)という新旧関係がある。上述の建物群の単位で切り合い関係を整理すると、A類→B類→C類およびD類、となる。C類とD類の新旧関係は不明である。

また、後述する竪穴建物跡との切り合い関係は、SI303→SB313(C類)、SB314A・B(B類)→SI307、という新旧関係がある。

出土遺物の年代では、SB313(C類)の柱掘り方から8世紀第4四半期～9世紀第1四半期の須恵器、SB316(B類)の柱抜き取り埋土から8世紀第4四半期の須恵器、SB1513(B類)の柱掘り方から8世紀後半の瓦、SB1625(C類)の柱掘り方から8世紀第4四半期～9世紀第1四半期の須恵器、SB1922(B類)の柱抜き取り埋土から8世紀第4四半期の須恵器、SB1923(B類)の柱掘り方から8世紀後半の瓦、SB1925(C類)の柱抜き取り埋土から9世紀前半の須恵器、SB1926(分類不明)の柱抜き取り埋土から9世紀第4四半期の須恵器が出土している。また切り合い関係をもつ竪穴建物跡では、SI303から8世紀後半の須恵器、SI307から8世紀第4四半期～9世紀第1四半期の須恵器が出土している。

これらの切り合い関係および出土遺物の年代を整理すると、A類は8世紀第2四半期、B類は8世紀後半、C類は8世紀第4四半期～9世紀第1四半期以降となる。D類については、少なくともB類よりは新しいと言えるが、C類との新旧関係は不明である。

4 南西部掘立柱建物跡(図45～47、表24)

外郭線の内側、南西部の96次・99次・108次・112次・116次で7棟検出された掘立柱建物である。平坦な台地上であるが、近世～近代にかけて耕作地として利用されており、畑の畝などにより上部が削平をうけている。掘立柱建物跡は、梁間1～2間、桁行2～3間で中央部の掘立柱建物跡と比べ規模は小さい。後述する南西部における方形の城内区画施設との配置関係と建物方位、構造から以下の4類に分

V 古代の検出遺構と出土遺物（1掘立柱建物跡）

類することができる。

A類：城内区画施設内の側柱建物で、建物方位が北で7°～15°東に振れる一群。SB2065(96次)、SB2454(108次)、SB2545(112次)が該当する。これらは、城内区画施設の材木跡等の方位と一致する。

B類：城内区画施設内の側柱建物で、建物方位が北で4°西に振れる。SB2140(99次)が該当する。城内区画施設内であるが、建物方位はこれに一致しない。

C類：城内区画施設外の側柱建物で、建物方位が一定しない。SB2141(99次)とSB2584(116次)が該当する。

D類：城内区画施設外での総柱建物である。SB2064(96次)が該当する。建物方位は北で19°東に振れ、城内区画施設の方位に近い。

掘立柱建物同士の切り合い関係としては、SB2065（A類）→SB2064（B類）がある。

出土遺物は、SB2064の柱掘り方から9世紀第4四半期以降の赤褐色土器、SB2065の柱掘り方から9世紀前半の須恵器と柱抜き取り埋土から9世紀第4四半期の赤褐色土器、SB2545の柱掘り方から9世紀第2四半期の須恵器、SB2584の柱掘り方から9世紀第1四半期の須恵器が出土する。これに加え、検出層位と切り合い関係のある遺構の年代を考慮して整理すると、A類は9世紀第2四半期～9世紀第4四半期、B類は9世紀第4四半期以降、C類は9世紀第2四半期～9世紀第4四半期カ、D類は9世紀第4四半期以降と考えられる。また、SB2065から鉄鏝、SB2140から鋸先、SB2545から不明鉄製品が出土し、後述する南西部の焼土遺構等と同様に鉄製品が出土するという特徴がある。

5 北西部掘立柱建物跡（図47、表24）

以上の他に、北西部の外郭西門東側の104次調査で1棟検出されたSB2272がある。柱掘り方が2基検出され、西側は削平のため、規模などは不明であるが、SA2276・SA2277を跨いでいると考えられ、櫓状建物となる可能性がある。柱掘り方から9世紀前の須恵器が出土することから、9世紀前半以降のものと考えられる。

註1：SB022は国営調査(3次)調査で発見されたものであるが、梁間3間×桁行7間と報告されている（文化財保護委員会1961、図版9-②）。秋田市調査の66次・70次調査で再検出し、西側桁行柱列は発見され桁行7間と確認できたが、東側側斜面は地形が削平されており、梁間間数については不明であった。本報告では、次の理由でSB022は梁間2間であると推定している。①SB022南側で発見された側柱建物である59次調査のSB1207～1208はいずれも梁間2間であること、②59次調査のSB1207～1209は3棟の建物が重複しており、重複関係を整理しないと梁間3間建物のようにみえるため、SB022の東側には重複した建物があった可能性があったのではないかと推定している。

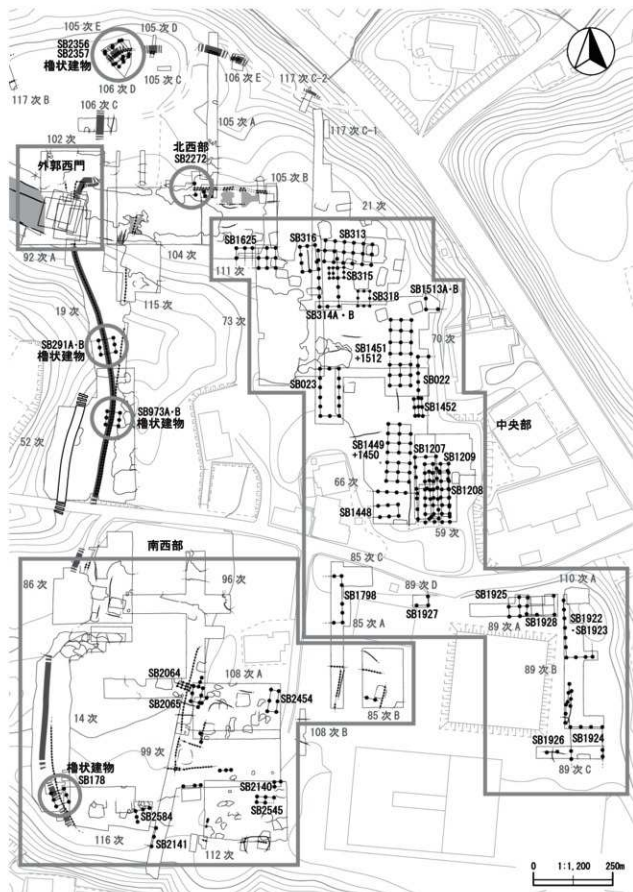
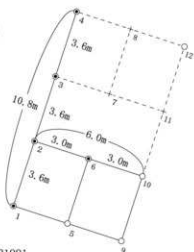
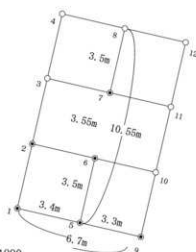


図 18 掘立柱建物跡概略図

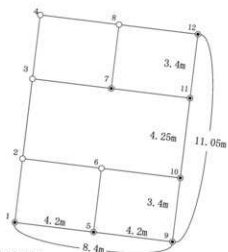
V 古代の検出遺構と出土遺物 (1掘立柱建物跡)



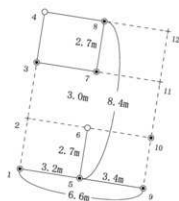
(I期) SB1991
建物方位N18° E



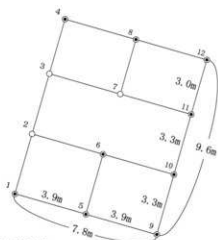
(II期) SB1990
建物方位N13° E



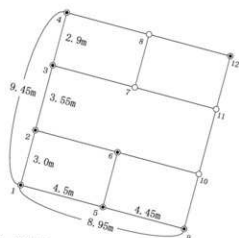
(III期) SB1989
建物方位N7° E



(IV期) SB1988
建物方位N9° E



(V期) SB1987
建物方位N16° E



(VI期) SB1986
建物方位N15° E

● 柱痕跡検出 ○ 柱掘り方検出 + 推定柱位置



図19 外郭西門跡 (SB1986 ~ 1991 掘立柱建物跡) 概略図

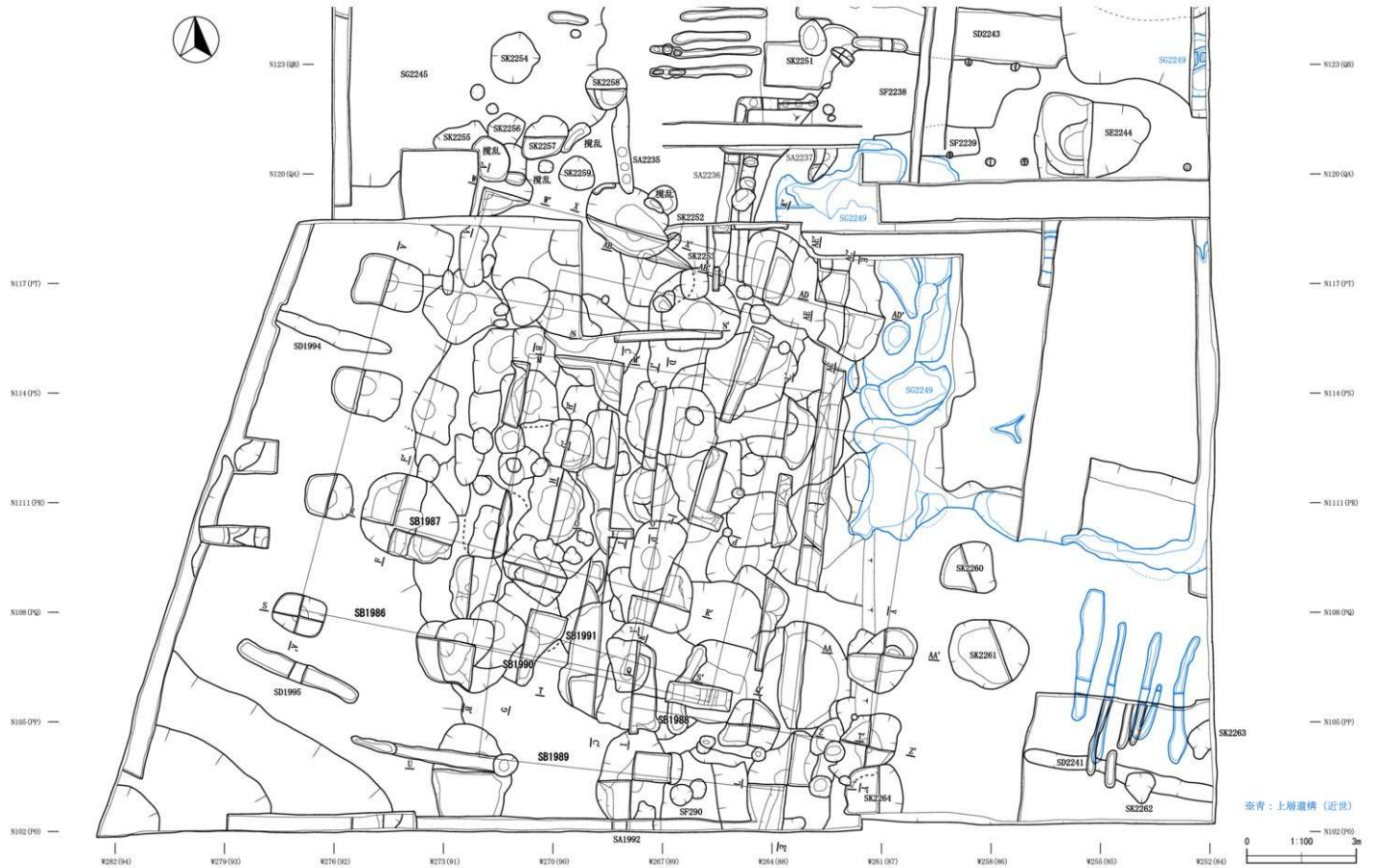


図 20 外郭西門跡 (SB1986 ~ 1991) 掘立柱建物跡

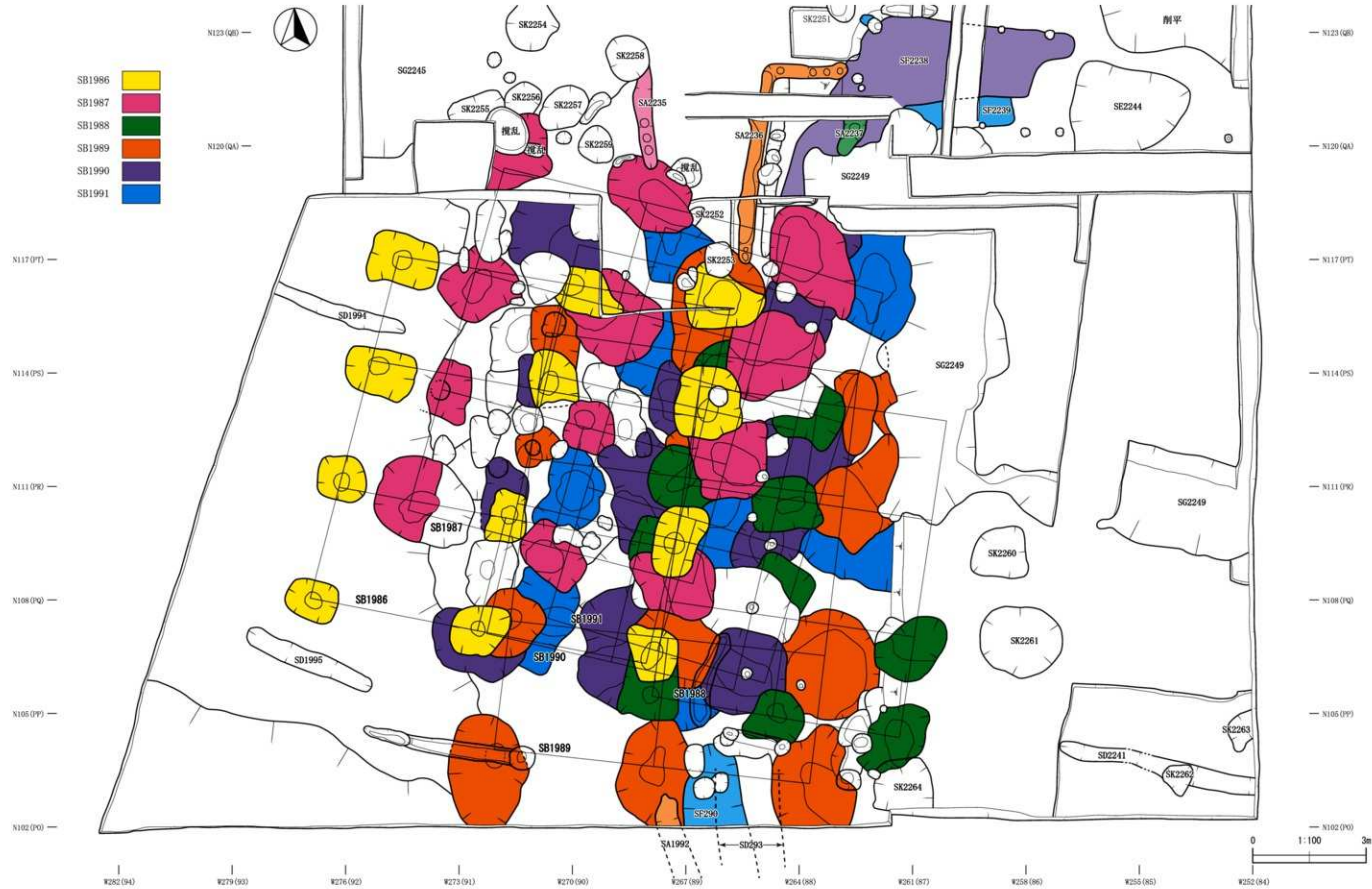


図21 外郭西門跡（SB1986～1991）掘立柱建物跡
時期別色分け図

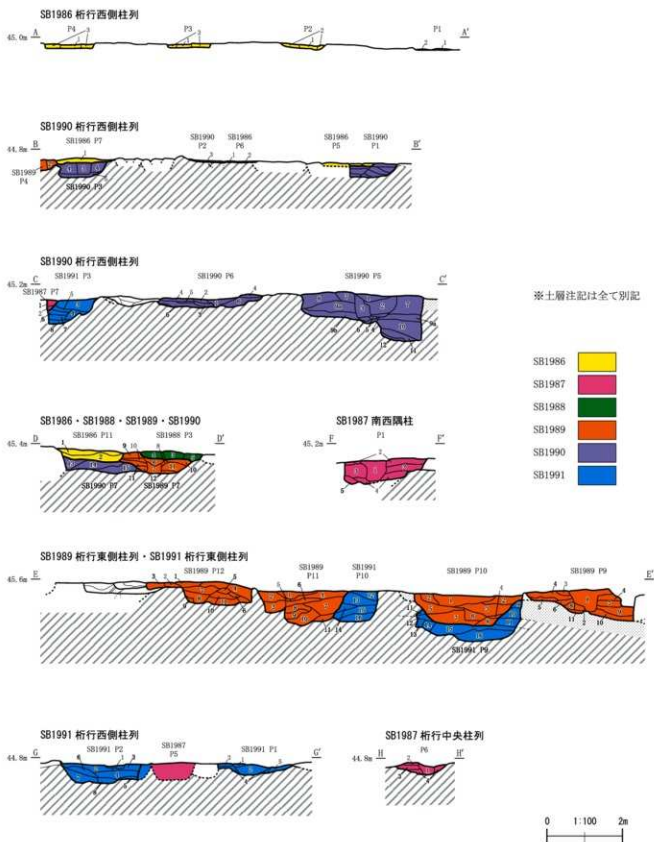


図 22 外郭西門跡 (SB1986～1991 掘立柱建物跡) 柱掘り方断面図①

V 古代の検出遺構と出土遺物 (1掘立柱建物跡)

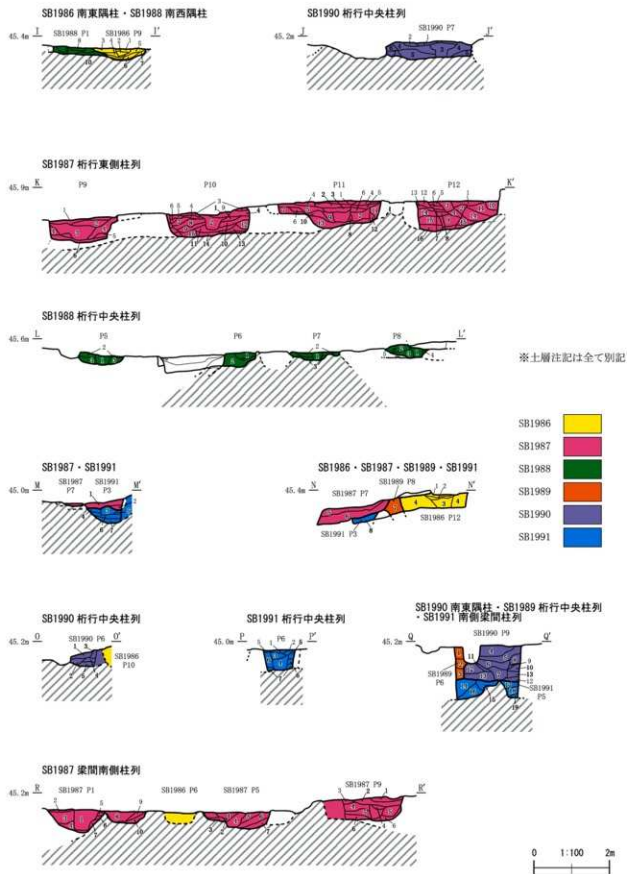


図 23 外郭西門跡 (SB1986～1991 掘立柱建物跡) 柱掘り方断面図②

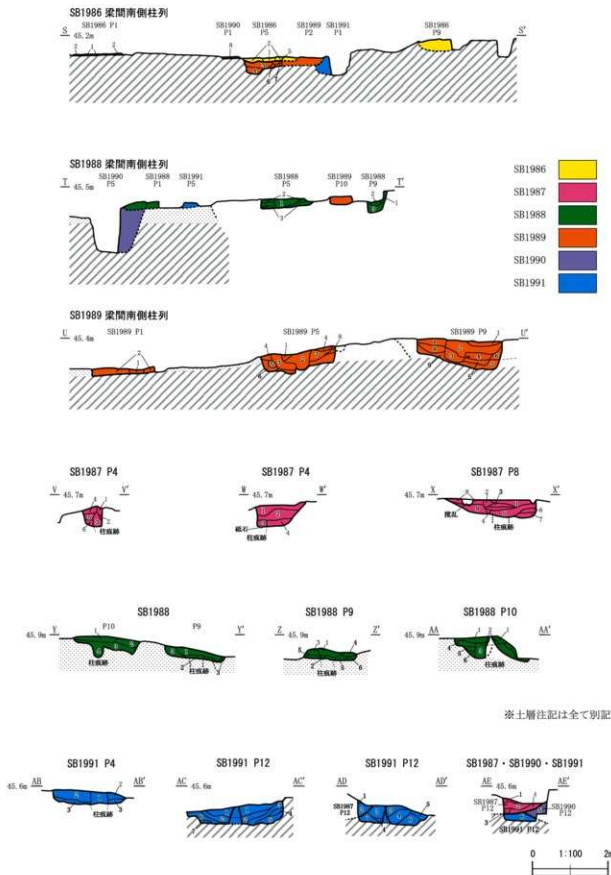
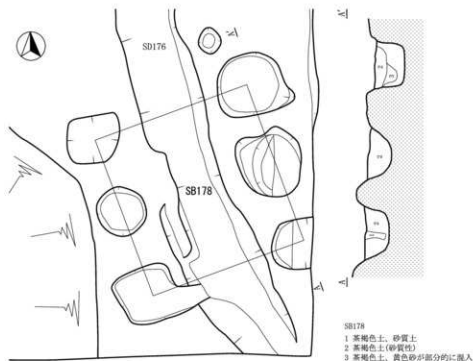
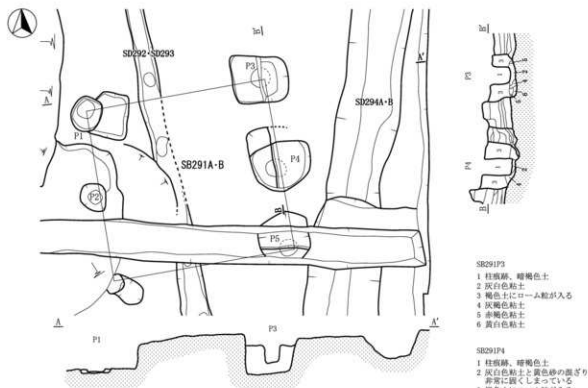


図 24 外郭西門跡 (SB1986 ~ 1991 掘立柱建物跡) 柱掘り方断面図③



SB178 (14次)



SB291A-B (19次)



図25 槽状建物跡①(SB178, 291A-B 掘立柱建物跡)

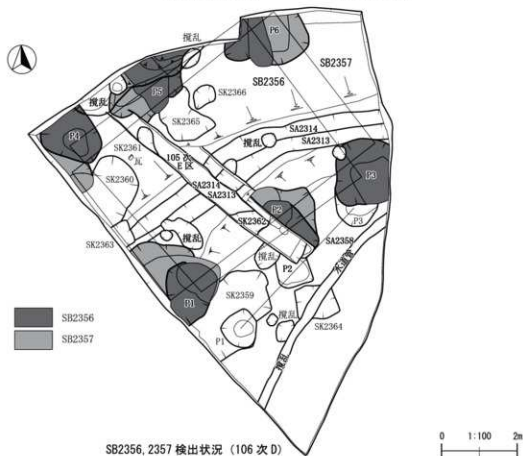
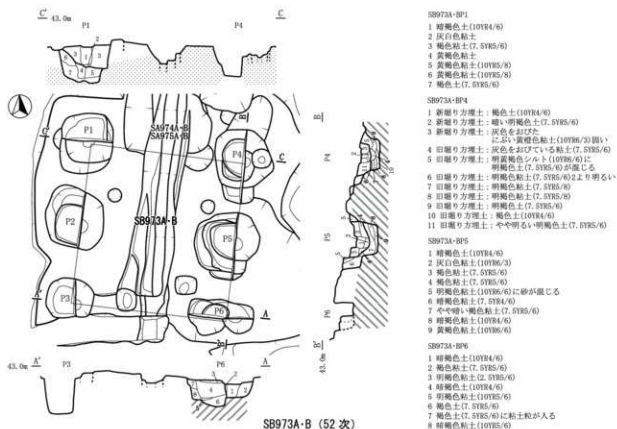


図 26 槽状建物跡②(SB973A-B, 2356, 2357 掘立柱建物跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (1 掘立柱建物跡)

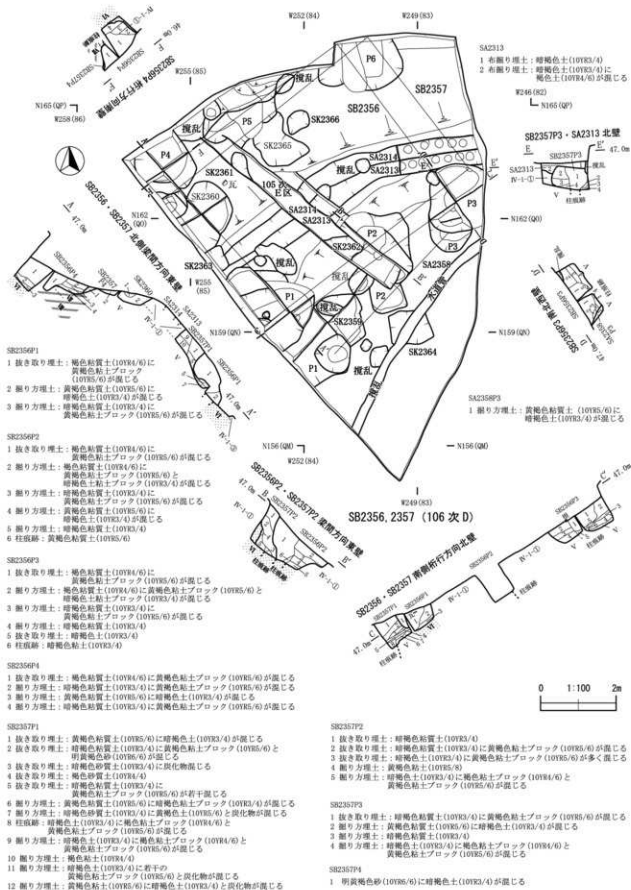


図 27 櫓状建物跡③(SB2356, 2357 掘立柱建物跡)



図 28 中央部掘立柱建物跡群概略図（北半）

V 古代の検出遺構と出土遺物 (I 掘立柱建物跡)

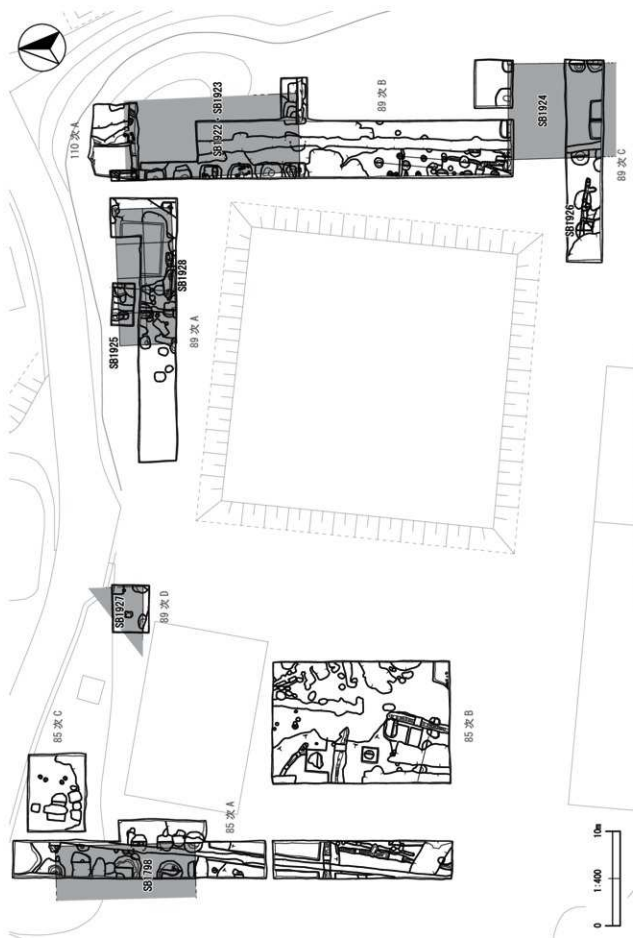


図 29 中央部掘立柱建物跡群概略図 (南半)

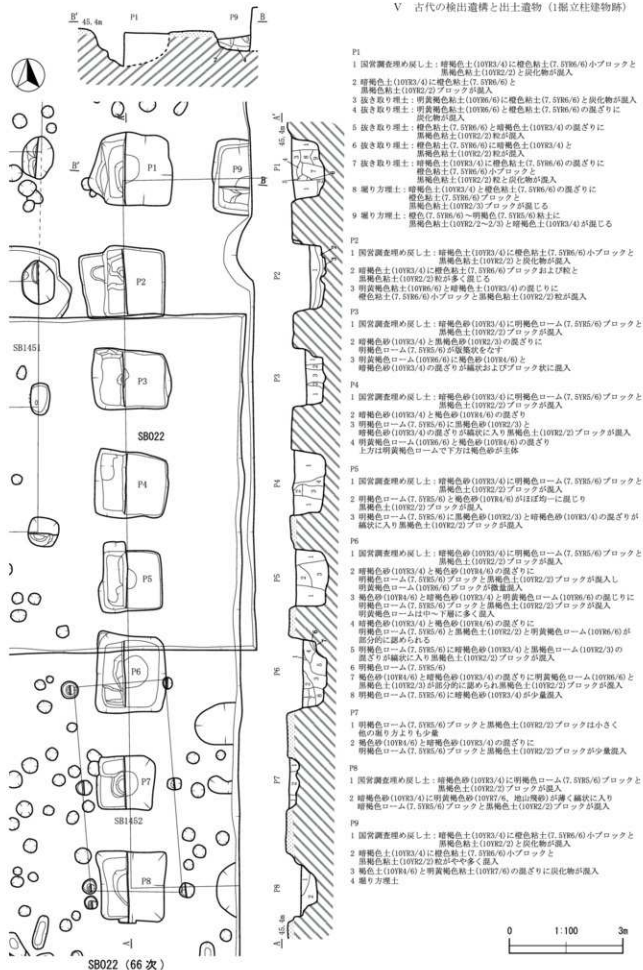


図30 中央部掘立柱建物跡①(SB022 掘立柱建物跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (1掘立柱建物跡)

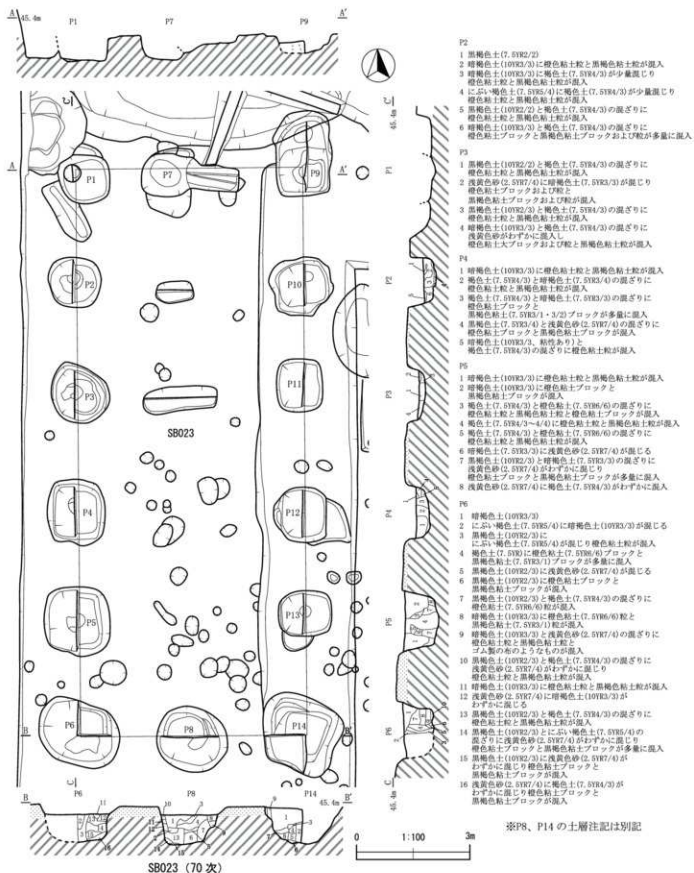
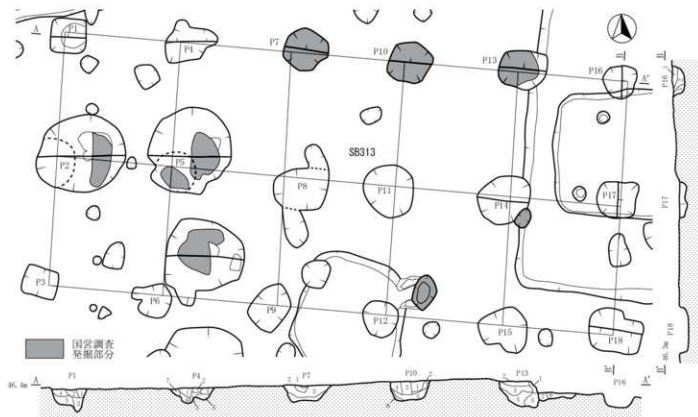
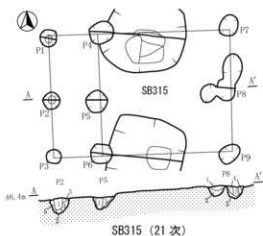


図31 中央部掘立柱建物跡②(SB023掘立柱建物跡)



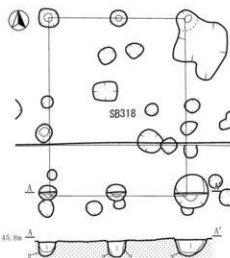
SB313 (21次)

- | | | | | | |
|---|---|--------------------------------------|--|--|--|
| SB313P1
1 赤褐色砂
2 赤褐色粘質土
3 暗褐色砂
4 黒色砂、炭化物混入
5 褐色砂 | SB313P4
1 調査調査掘り込み
2 暗褐色砂
3 黄褐色砂
4 褐色砂
5 暗褐色砂
6 黄褐色砂
7 褐色砂 | SB313P7
1 褐色砂
2 暗褐色砂
3 明褐色砂 | SB313P10
1 調査調査掘り込み
2 褐色砂
3 暗褐色砂
4 褐色砂
5 明褐色砂
6 汚れた黄色砂 | SB313P13
1 調査調査掘り込み
2 暗褐色砂
3 明褐色砂
4 褐色砂
5 褐色砂に黄色砂が混入
6 褐色砂
7 明褐色砂 | SB313P16-P17
1 暗褐色砂
2 明褐色砂
3 褐色砂に黄色砂が混入 |
|---|---|--------------------------------------|--|--|--|



SB315 (21次)

- | | |
|--|---|
| SB315P2-P5
1 赤褐色粘質土
2 赤褐色粘土
3 赤褐色砂
4 褐色土
5 赤褐色砂 | SB315P8
1 赤褐色砂
2 1よりやや薄い
3 褐色粘質土
4 褐色土、砂を多く含む
5 汚れた砂 |
|--|---|



SB318 (21・70次)

- SB318
1 抜き取り埋土：褐色土(7.53R4/3)
2 褐色土(7.53R4/3)と黄褐色砂(2.53R7/4、地山焼砂)の混ざり

図 32 中央部掘立柱建物跡③(SB313, 315, 318 掘立柱建物跡)

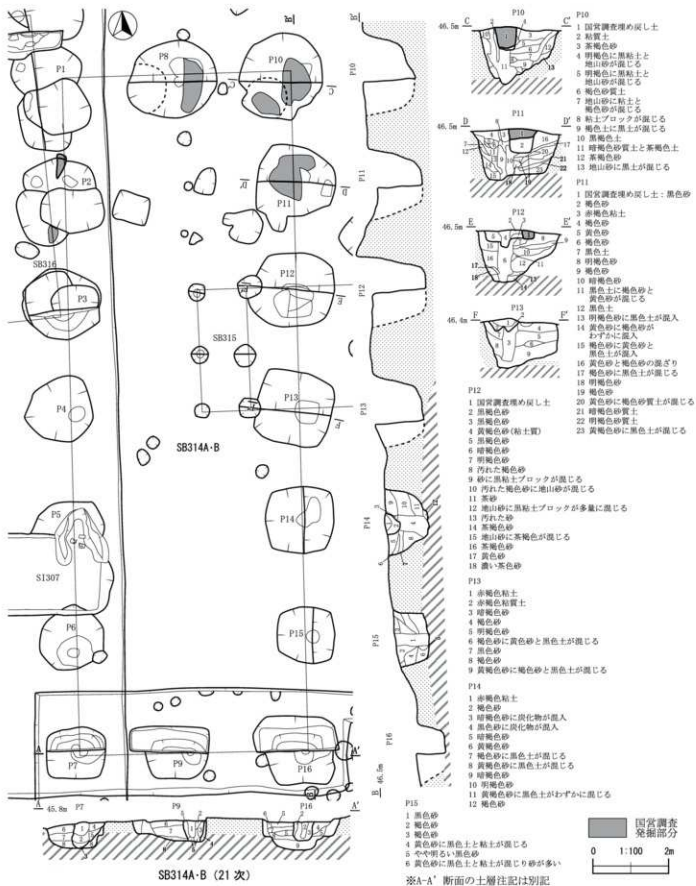
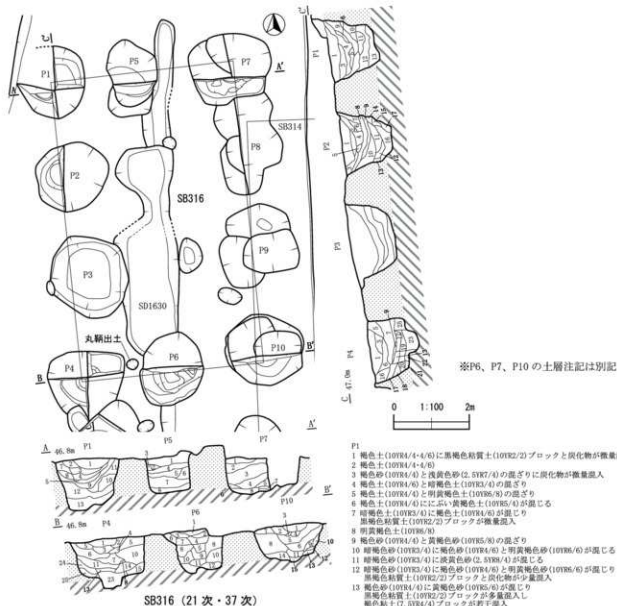


図 33 中央部掘立柱建物跡④(SB314A-B 掘立柱建物跡)



P4

- 1 褐色土(10YR4/4-6)に黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックと炭化物が微量混入
- 2 褐色土(10YR4/4)と黄褐色土(10YR5/8)の混ざりに炭化物が微量混入
- 3 褐色土(10YR4/4)と浅黄褐色土(5YR7/4)の混ざりに炭化物が微量混入
- 4 暗褐色土(10YR2/4)と黄褐色土(10YR5/8)が混ざり黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックが微量混入
- 5 暗褐色土(10YR3/4)に褐色土(10YR4/6)が混ざり黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックが微量混入
- 6 褐色土(10YR4/4)に黄褐色土(10YR5/8)が混ざり
- 7 暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土(10YR5/8)が混ざり
- 8 暗褐色土(10YR3/4)に褐色土(10YR4/6)と明黄褐色土(10YR6/6)が混ざり
- 9 浅黄褐色土(10YR8/4)に褐色土(7.5YR4/4-10YR4/6)が混ざり
- 10 暗褐色土(10YR3/4)に炭化物が少量混入
- 11 褐色土(10YR4/4-6)に黒褐色粘土(10YR2/2)ブロックが少量混入
- 12 暗褐色土(10YR2/4)に黄褐色土(10YR5/8)と褐色土(10YR4/6)が混ざり
- 13 12よりも黄褐色土が多い
- 14 暗褐色土(10YR3/4)に褐色土(10YR4/6)と明黄褐色土(10YR6/6)が混ざり黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックと炭化物が少量混入
- 15 黒褐色粘質土(10YR2/2)に明黄褐色土(5YR7/6)が混ざり
- 16 明黄褐色粘土(10YR4/6)ブロックが若干混入し炭化物が少量混入
- 17 褐色土(10YR4/4-6)
- 18 12よりも黄褐色土が多い
- 19 黄褐色土(10YR5/8)と黄褐色土(10YR3/3)が混ざり明黄褐色土(10YR6/6)ブロックが若干混入
- 20 褐色土(10YR4/4)に明黄褐色土(5YR7/6)と黄褐色粘質土(10YR5/8)が混ざり炭化物が微量混入
- 21 浅黄褐色土(5YR8/4)に暗褐色土(10YR3/4)が若干混ざり
- 22 浅黄褐色土(5YR8/4)
- 23 浅黄褐色土(5YR8/4)と褐色土(10YR4/4)と暗褐色土(10YR3/3)の混ざり
- 24 暗褐色粘質土(10YR2/2)に明黄褐色土(5YR7/6)が混ざり
- 25 明黄褐色粘土(10YR4/6)ブロックが若干混入し黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックが微量混入
- 26 褐色土(10YR4/4)に明褐色土(10YR5/6)が混ざり
- 27 黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックが若干混入し炭化物が微量混入
- 28 褐色土(10YR4/4)に黄褐色土(10YR5/8)が混ざり
- 29 黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックが多量混入し褐色土(7.5YR4/4)ブロックが若干混入

P1

- 1 褐色土(10YR4/4-6)に黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックと炭化物が微量混入
- 2 褐色土(10YR4/4-6)
- 3 褐色土(10YR4/4)と浅黄褐色土(5YR7/4)の混ざりに炭化物が微量混入
- 4 褐色土(10YR4/4)と暗褐色土(10YR3/4)の混ざり
- 5 褐色土(10YR4/4)と明褐色土(10YR5/8)の混ざり
- 6 褐色土(10YR4/4)に黄褐色土(10YR5/8)が混ざり
- 7 暗褐色土(10YR3/4)に褐色土(10YR4/6)が混ざり
- 8 黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックが微量混入
- 9 明黄褐色土(10YR6/6)
- 10 暗褐色土(10YR3/4)と黄褐色土(10YR5/8)の混ざり
- 11 暗褐色土(10YR3/4)に浅黄褐色土(5YR7/4)が混ざり
- 12 暗褐色土(10YR3/4)に褐色土(10YR4/6)と明黄褐色土(10YR6/6)が混ざり
- 13 黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックが少量混入
- 14 褐色土(10YR4/4)に黄褐色土(10YR5/8)が混ざり
- 15 黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックが多量混入し褐色土(7.5YR4/4)ブロックが若干混入

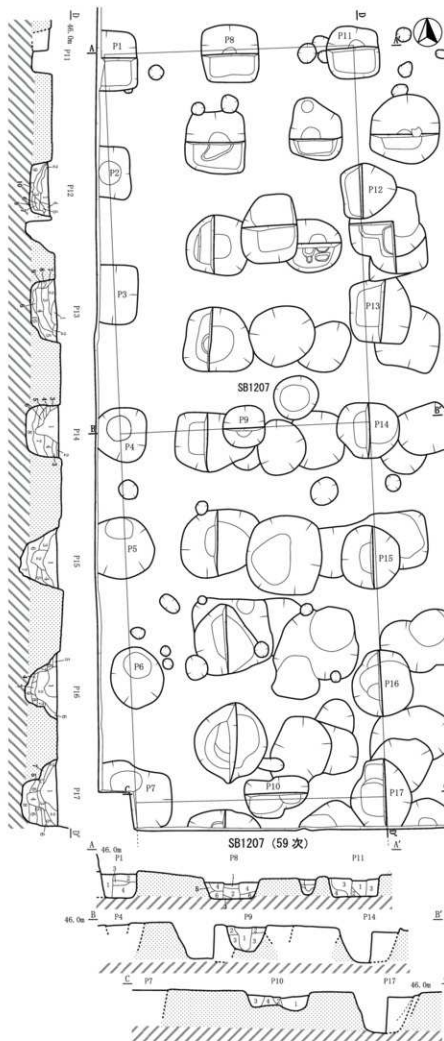
P2

- 1 褐色土(10YR4/4-6)に黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックと炭化物が微量混入
- 2 褐色土(10YR4/4-6)と暗褐色土(10YR3/4)の混ざり
- 3 褐色土(10YR4/4)に明黄褐色土(10YR6/6)が混ざり
- 4 暗褐色土(10YR3/3)に褐色土(10YR4/4)と明黄褐色土(10YR6/6)が混ざり
- 5 褐色土(10YR4/4-6)と暗褐色土(10YR3/4)の混ざり
- 6 褐色土(10YR4/4)に明黄褐色土(10YR6/6)が若干混ざり
- 7 褐色土(10YR4/4)と明黄褐色土(10YR6/6)の混ざり
- 8 暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土(10YR5/8)が混ざり
- 9 暗褐色土(10YR3/4)に褐色土(10YR4/6)と暗褐色土(10YR3/3)の混ざり
- 10 暗褐色土(10YR3/4)に明黄褐色土(10YR6/6)と浅黄褐色土(5YR7/4)が混ざり
- 11 浅黄褐色土(5YR8/4)に褐色土(10YR4/6)が若干混ざり
- 12 明黄褐色土(10YR6/6)に褐色土(10YR4/6)が混ざり
- 13 浅黄褐色土(5YR8/4)と褐色土(10YR4/4)と褐色土(10YR3/3)の混ざり
- 14 暗褐色土(10YR3/4)に暗褐色土(10YR3/6)と明黄褐色土(10YR6/6)が混ざり
- 15 黒褐色粘質土(10YR2/2)ブロックと炭化物が少量混入
- 16 浅黄褐色土(5YR8/4)に褐色土(10YR4/4)と褐色土(10YR3/3)が混ざり
- 17 褐色土(10YR4/4)に黒褐色土(10YR2/3)が混ざり
- 18 褐色土(10YR4/6)ブロックが混入
- 19 暗褐色土(10YR2/3)に褐色土(10YR4/6)が混ざり

P5

- 1 褐色土(10YR4/4)に暗褐色土(10YR3/3)と浅黄褐色土(5YR8/4)が混ざり
- 2 暗褐色土(10YR3/4)に褐色土(10YR3/6)が混ざり
- 3 暗褐色土(10YR3/4)に褐色土(10YR4/4)が混ざり
- 4 暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土(10YR5/8)が混ざり黄褐色土ブロックが若干混入
- 5 明黄褐色土(10YR6/6)
- 6 暗褐色土(10YR3/4)に褐色土(10YR4/6)と明黄褐色土(10YR6/6)が混ざり
- 7 暗褐色土(10YR3/4)に褐色土(10YR4/6)と明黄褐色土(10YR6/6)が混ざり
- 8 暗褐色土(10YR2/3)に褐色土(10YR4/6)と炭化物が少量混入
- 9 暗褐色土(10YR2/3)に褐色土(10YR4/6)が混ざり

図34 中央部掘立柱建物跡⑤(SB316 掘立柱建物跡)



- P12
- 1 抜き取り埋土：褐色土(T. SYR4/3)に明褐色粘土と黒褐色土が混入
 - 2 抜き取り埋土：明褐色粘土(T. SYR5/6)
 - 3 抜き取り埋土：明褐色土(T. SYR3/4)に明褐色粘土が混入
 - 4 抜き取り埋土：褐色土(T. SYR4/4)に明褐色粘土が混入
 - 5 抜き取り埋土：褐色土(T. SYR4/3)に黒褐色土が混入
 - 6 抜き取り埋土：褐色土(T. SYR4/3)に明褐色粘土が混入
 - 7 抜き取り埋土：褐色土(T. SYR4/3)と黒褐色粘土の混ざり
 - 8 浅黄色砂(C. SYR7/4)と黒褐色土(SYR2/1)の混ざり
 - 9 浅黄色砂(C. SYR7/4)
 - 10 浅黄色砂(C. SYR7/4)と暗褐色土(T. SYR3/4)の混ざり
- P13
- 1 抜き取り埋土：浅黄色砂(C. SYR7/4)に暗褐色土(T. SYR3/4)が若干混入
 - 2 抜き取り埋土：暗褐色土(T. SYR3/4)に明褐色土および粘土と炭化物が混入
 - 3 抜き取り埋土：浅黄色砂(C. SYR7/4)に暗褐色土が混入し、粘土と炭化物が混入
 - 4 抜き取り埋土：暗褐色土(T. SYR3/4)に浅黄色砂(C. SYR7/4)と明褐色粘土が混入
 - 5 抜き取り埋土：褐色砂(T. SYR4/4)の混ざり
 - 6 浅黄色砂(C. SYR7/4)に暗褐色土(T. SYR3/4)が若干混入
 - 7 浅黄色砂(C. SYR7/4)と褐色砂(T. SYR4/4)の混ざり
 - 8 褐色砂(T. SYR4/4)に明褐色土が混入
 - 9 浅黄色砂(C. SYR7/4)に褐色土(T. SYR4/4)が混入
 - 10 浅黄色砂と褐色砂の混ざりに黒褐色土(SYR2/1)が混入
- P14
- 1 褐色土(T. SYR4/3)に粘土と炭化物が多く混入
 - 2 暗褐色土(SYR3/2)に明褐色土(T. SYR3/4)と褐色砂(T. SYR4/4)が混ざり炭化物混入
 - 3 褐色砂(T. SYR4/3)に明褐色粘土および粘土と炭化物が混入
 - 4 褐色砂(T. SYR4/4)に炭化物混入
 - 5 褐色砂(T. SYR4/3)に粘土と炭化物混入
 - 6 浅黄色砂(C. SYR7/4)と褐色砂(T. SYR4/4)の混ざり
 - 7 褐色砂(T. SYR4/4)に明褐色粘土(T. SYR5/6)と炭化物が混入
 - 8 浅黄色砂(C. SYR7/4)に黒褐色土(SYR2/1)が混入
- P15
- 1 抜き取り埋土：褐色土(T. SYR4/6)に粘土と炭化物が混入
 - 2 抜き取り埋土：褐色土(T. SYR4/6)に明褐色粘土(T. SYR6/8)が混入
 - 3 抜き取り埋土：褐色土(T. SYR4/4)に粘土と炭化物が多く混入
 - 4 褐色土(T. SYR4/4)と浅黄色砂の混ざり
 - 5 褐色土(T. SYR4/4)に明褐色粘土(T. SYR5/6)が混入
 - 6 褐色砂(T. SYR4/4)と浅黄色砂(C. SYR7/4)と暗褐色土(SYR2/1)の混ざり
 - 7 褐色砂(T. SYR4/4)と明褐色粘土(T. SYR5/6)と炭化物が混入
 - 8 浅黄色砂(C. SYR7/4)に黒褐色土(SYR2/1)が混入
- P16
- 1 抜き取り埋土：褐色土(T. SYR4/3)と明褐色粘土(T. SYR6/8)が若干混入し粘土と炭化物混入
 - 2 抜き取り埋土：褐色土(T. SYR4/3)と黒褐色土(T. SYR3/2)の混ざりに炭化物が若干混入
 - 3 浅黄色砂(C. SYR7/4)と褐色土(T. SYR4/3)が混入
 - 4 浅黄色砂(C. SYR7/4)と褐色土(T. SYR4/3)の混ざり
 - 5 褐色土(T. SYR4/3)
 - 6 浅黄色砂(C. SYR7/4)と褐色砂(T. SYR4/4)の混ざり
 - 7 浅黄色砂(C. SYR7/4)と褐色砂(T. SYR4/4)と浅黄色砂の混ざりに明褐色土(SYR2/1)が混入
 - 8 褐色砂(T. SYR4/4)と浅黄色砂の混ざりに明褐色粘土と黒褐色土が混入
 - 9 浅黄色砂(C. SYR7/4)に黒褐色土が混入
- P17
- 1 抜き取り埋土：褐色土(T. SYR4/6)と粘土と炭化物が混入
 - 2 抜き取り埋土：明褐色粘土(T. SYR6/8)が混入
 - 3 抜き取り埋土：褐色土(T. SYR4/4)および粘土と炭化物が多く混入
 - 4 褐色土(T. SYR4/6)と明褐色粘土(T. SYR5/6)の混ざりに粘土と炭化物が若干混入
 - 5 褐色土(T. SYR4/6)に明褐色粘土が混入
 - 6 褐色土(T. SYR4/4)と明褐色粘土が混入
 - 7 褐色土(T. SYR4/4)と浅黄色砂(C. SYR7/4)と暗褐色土(SYR2/1)の混ざり

※A-A'、B-B'、C-C' 断面の土層注記は別記

図 35 中央部掘立柱建物跡⑥(SB1207)掘立柱建物跡

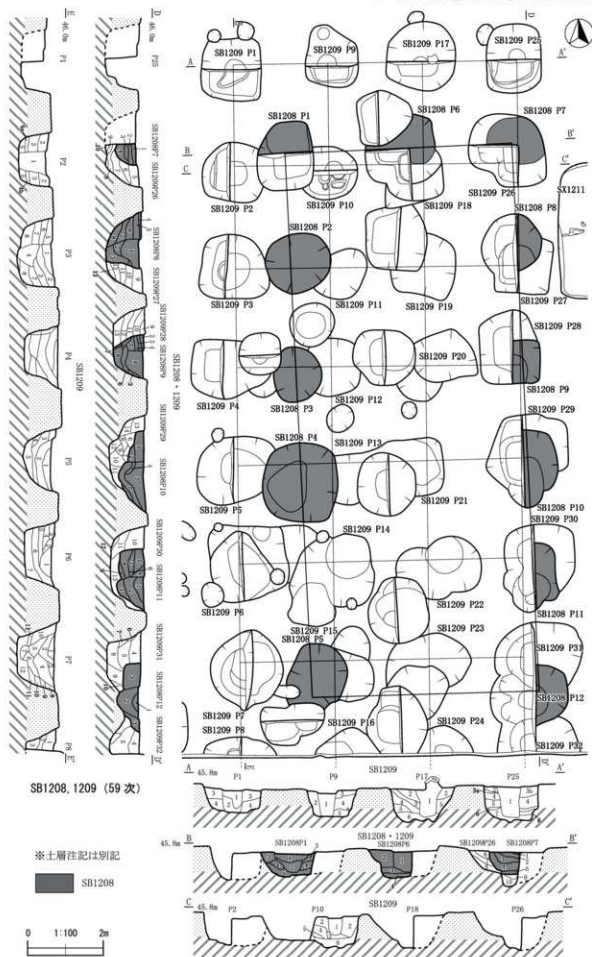


図36 中央部掘立柱建物跡⑦(SB1208, 1209 掘立柱建物跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (1掘立柱建物跡)

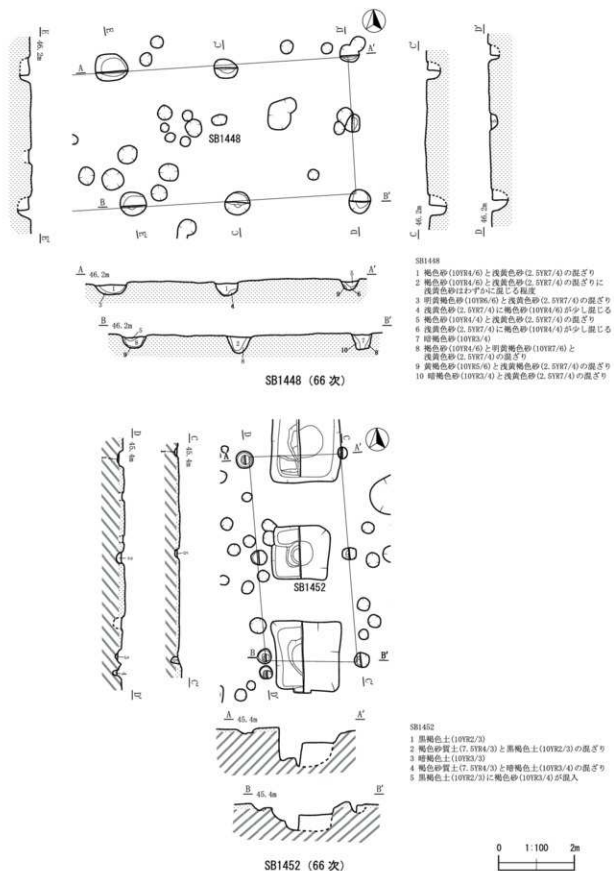
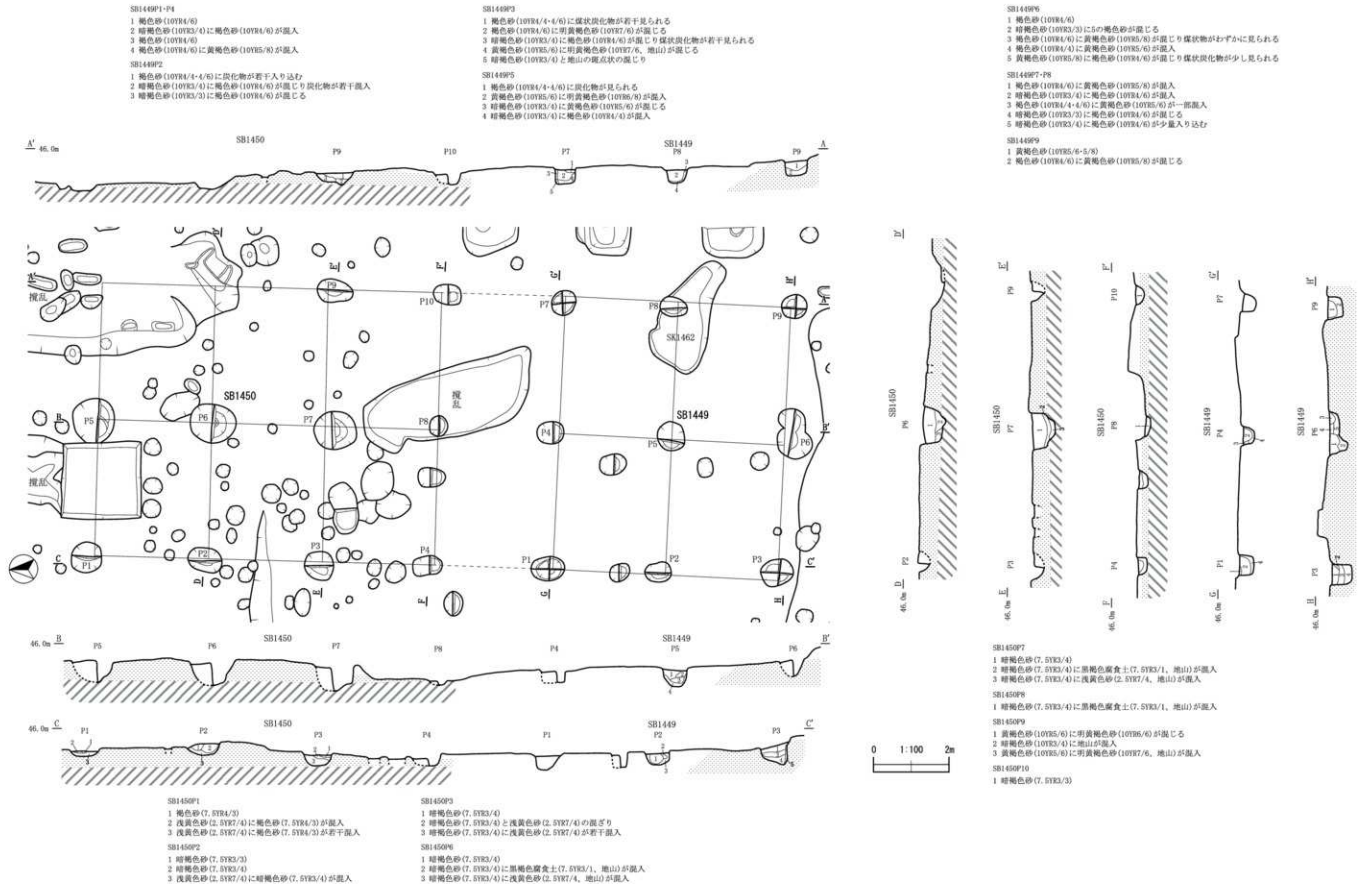


図 37 中央部掘立柱建物跡⑧ (SB1448, 1452 掘立柱建物跡)



SBI1449+1450 (66 次)

図 38 中央掘立建物群⑨(SBI1449+1450 掘立建物群)

SB1451P1

- 1 黒褐色土(10192/2)に浅黄褐色(2, 5)977/4)が混じり黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 2 黒褐色土(10192/2)に黒褐色土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)ブロッコおよび珪石が多数混入
- 3 黒褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざり黒褐色粘土(10192/2)と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 4 浅黄褐色(2, 5)977/4)と黒褐色粘土(10192/2)の混ざり
- 5 黒褐色土(10192/2)に浅黄褐色(2, 5)977/4)がわずかに混じり黒褐色粘土(10192/2)粒が混入
- 6 黒褐色土(10192/2)に浅黄褐色(2, 5)977/4)がわずかに混入

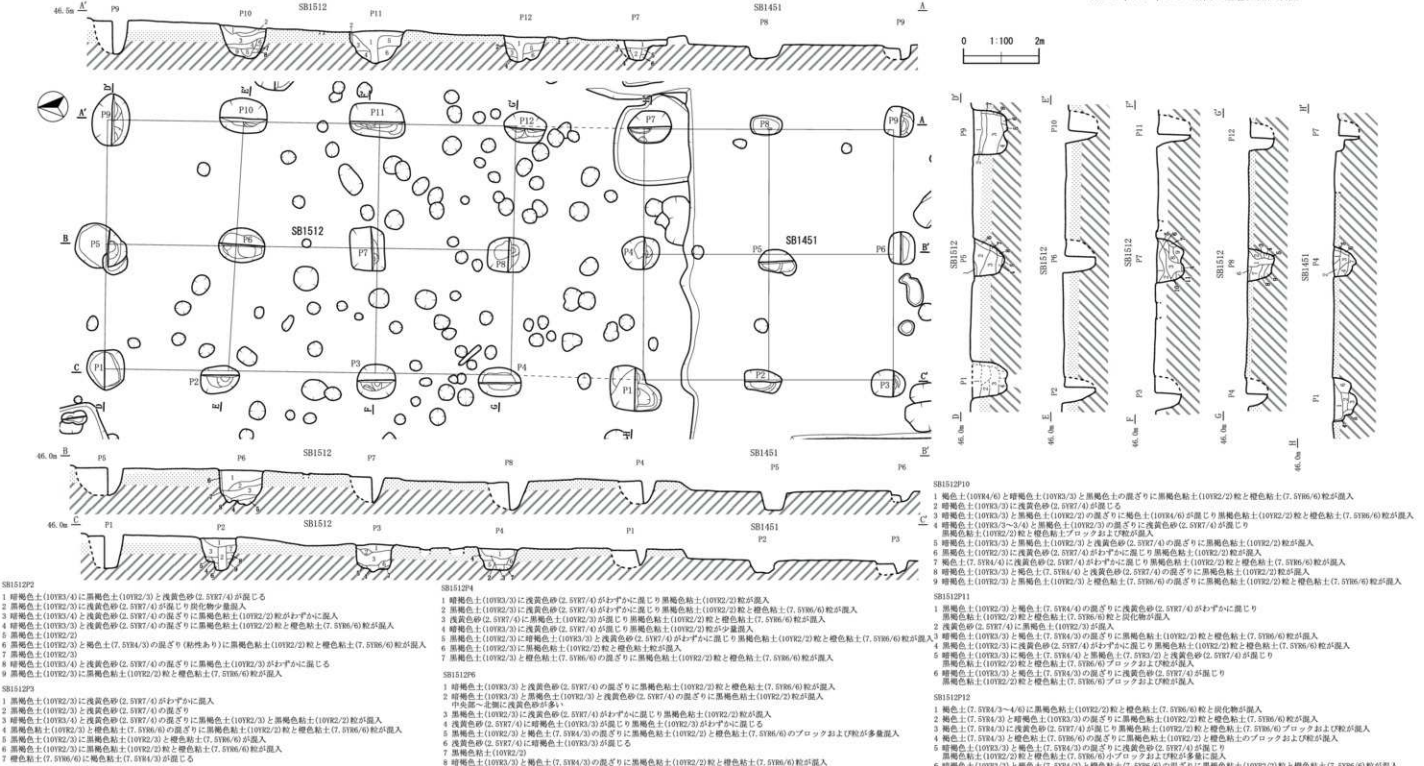
SB1451P4

- 1 黒褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 2 黒褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒が混入
- 3 黒褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 4 黒褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 5 浅黄褐色(2, 5)977/4)に黒褐色土(10192/2)が混入
- 6 黒褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒が少量混入
- 7 黒褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入

SB1451P7

- 1 褐色土(7, 5)934/4)と黒褐色土(10192/2)の混ざりに浅黄褐色(2, 5)977/4)がわずかに混じり
- 2 黒褐色土(10192/2)と橙褐色土(7, 5)936/6)粒と黒褐色粘土(7, 5)936/6)ブロッコが混入
- 3 褐色土(7, 5)934/4)に浅黄褐色(2, 5)977/4)がわずかに混じり黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 4 褐色土(7, 5)934/4)と黒褐色土(10192/2)の混ざりに浅黄褐色(2, 5)977/4)がわずかに混入
- 5 暗褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)ブロッコ粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 6 黒褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入

SB1451-D', F-F', G-G' 断面の土層注記は別記



SB1512P2

- 1 暗褐色土(10192/2)に黒褐色土(10192/2)と浅黄褐色(2, 5)977/4)が混じり
- 2 暗褐色土(10192/2)に浅黄褐色(2, 5)977/4)が混じり褐色土が少量混入
- 3 暗褐色土(10192/2)と浅黄褐色(2, 5)977/4)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒がわずかに混入
- 4 暗褐色土(10192/2)と浅黄褐色(2, 5)977/4)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 5 暗褐色土(10192/2)
- 6 暗褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 7 暗褐色土(10192/2)
- 8 暗褐色土(10192/2)と浅黄褐色(2, 5)977/4)の混ざりに黒褐色土(10192/2)粒がわずかに混じり
- 9 暗褐色土(10192/2)に黒褐色土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入

SB1512P4

- 1 暗褐色土(10192/2)に浅黄褐色(2, 5)977/4)がわずかに混じり黒褐色粘土(10192/2)粒が混入
- 2 暗褐色土(10192/2)に浅黄褐色(2, 5)977/4)がわずかに混じり黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 3 浅黄褐色(2, 5)977/4)に黒褐色土(10192/2)が混入
- 4 暗褐色土(10192/2)に浅黄褐色(2, 5)977/4)が混入
- 5 暗褐色土(10192/2)に暗褐色土(10192/2)と浅黄褐色(2, 5)977/4)がわずかに混じり黒褐色土(10192/2)粒が混入
- 6 暗褐色土(10192/2)と橙褐色土(7, 5)936/6)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 7 暗褐色土(10192/2)と橙褐色土(7, 5)936/6)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入

SB1512P10

- 1 褐色土(10194/4)と黒褐色土(10192/2)と黒褐色土(10192/2)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 2 暗褐色土(10192/2)に浅黄褐色(2, 5)977/4)が混入
- 3 暗褐色土(10192/2)と黒褐色土(10192/2)の混ざりに褐色土(10194/4)が混入
- 4 暗褐色土(10192/2)と黒褐色土(10192/2)の混ざりに浅黄褐色(2, 5)977/4)が混入
- 5 暗褐色土(10192/2)と橙褐色土(7, 5)936/6)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒が混入
- 6 暗褐色土(10192/2)に浅黄褐色(2, 5)977/4)がわずかに混じり黒褐色粘土(10192/2)粒が混入
- 7 褐色土(7, 5)934/4)に浅黄褐色(2, 5)977/4)がわずかに混じり黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 8 暗褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)と浅黄褐色(2, 5)977/4)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒が混入
- 9 暗褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)と浅黄褐色(2, 5)977/4)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入

SB1512P11

- 1 暗褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに浅黄褐色(2, 5)977/4)がわずかに混じり
- 2 黒褐色土(10192/2)と橙褐色土(7, 5)936/6)粒と橙褐色土(7, 5)936/6)粒が混入
- 3 暗褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 4 暗褐色土(10192/2)に浅黄褐色(2, 5)977/4)がわずかに混じり黒褐色粘土(10192/2)粒が混入
- 5 暗褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)と浅黄褐色(2, 5)977/4)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 6 暗褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入

SB1512P12

- 1 褐色土(7, 5)934/4)に黒褐色土(10192/2)粒と橙褐色土(7, 5)936/6)粒と固化物が混入
- 2 暗褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙色粘土(7, 5)936/6)粒が混入
- 3 褐色土(7, 5)934/4)に浅黄褐色(2, 5)977/4)が混じり黒褐色粘土(10192/2)粒と橙褐色土(7, 5)936/6)ブロッコおよび珪石が混入
- 4 暗褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙褐色土(7, 5)936/6)ブロッコおよび珪石が混入
- 5 暗褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに浅黄褐色(2, 5)977/4)が混入
- 6 暗褐色土(10192/2)と褐色土(7, 5)934/3)の混ざりに黒褐色粘土(10192/2)粒と橙褐色土(7, 5)936/6)粒が混入

SB1451+1512 (66・70次)

図 39 中央部掘立建物跡①(SB1451+1512 掘立建物跡)

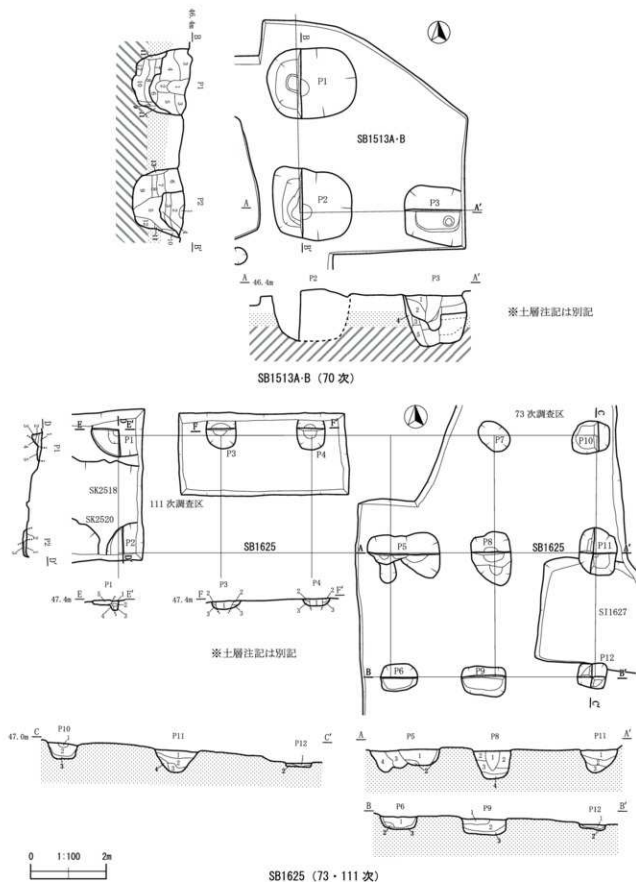


図40 中央部掘立柱建物跡①(SB1513A・B, 1625 掘立柱建物跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (1掘立柱建物跡)

P2

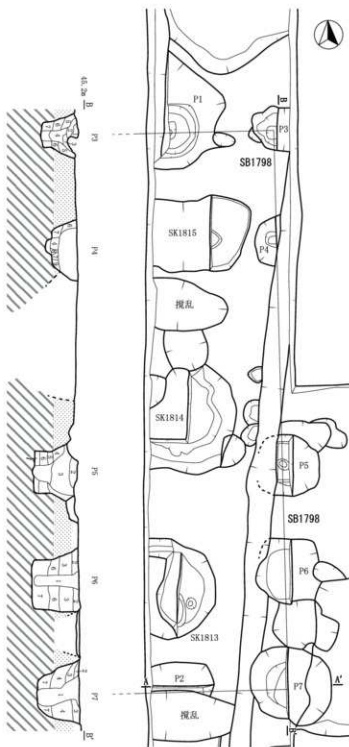
- 1 暗褐色土(10YR3/2)
- 2 暗褐色土(10YR3/4)と浅黄色砂(2.5YR7/4)の混ざり
- 3 暗褐色土(10YR3/4)
- 4 褐色土(10YR4/6)に暗褐色粘土(10YR2/2)と明褐色粘土(7.5YR5/6)小ブロックが混入
- 5 浅黄色砂(2.5YR7/4)に褐色土(10YR4/4)と黒褐色粘土(10YR2/2)と明褐色粘土(7.5YR5/6)小ブロックが混入

P3-P4

- 1 明褐色粘土(10YR7/6)
- 2 明褐色粘土(10YR7/6)と褐色土(10YR4/4)の混ざり
- 3 黒褐色土(10YR2/2)
- 4 黒褐色土(10YR2/2)
- 5 暗褐色砂(10YR3/4)に浅黄色砂(2.5YR7/4)が混入
- 6 暗褐色砂(10YR3/4)と浅黄色砂(2.5YR7/4)の混ざり
- 7 浅黄色砂(2.5YR7/4)に暗褐色砂と黒褐色粘土(10YR2/2)が若干混入
- 8 4に浅黄色砂(2.5YR7/4)が混入
- 9 浅黄色砂(2.5YR7/4)と黒褐色粘土(10YR2/2)の混ざり

P5~P7

- 1 暗褐色土(10YR3/4)
- 2 褐色土(10YR4/6)と浅黄色砂(2.5YR7/4)の混ざり
- 3 褐色土(10YR4/4)と浅黄色砂(2.5YR7/4)の混ざりに黒褐色粘土(10YR2/2)と明褐色粘土(7.5YR5/6)小ブロックが混入
- 4 暗褐色土(10YR3/4)と浅黄色砂(2.5YR7/4)の混ざりに黒褐色粘土(10YR2/2)と明褐色粘土(7.5YR5/6)小ブロックが混入
- 5 浅黄色砂(2.5YR7/4)に褐色土(10YR4/4)が混入
- 6 暗褐色土(10YR3/4)と浅黄色砂(2.5YR7/4)と明褐色粘土(7.5YR5/6)の混ざり
- 7 浅黄色砂(2.5YR7/4)に褐色土(10YR4/4)と明褐色粘土(7.5YR5/6)小ブロックが混入



SB1798 (85次)

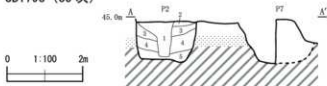


図41 中央部掘立柱建物跡⑫(SB1798 掘立柱建物跡)

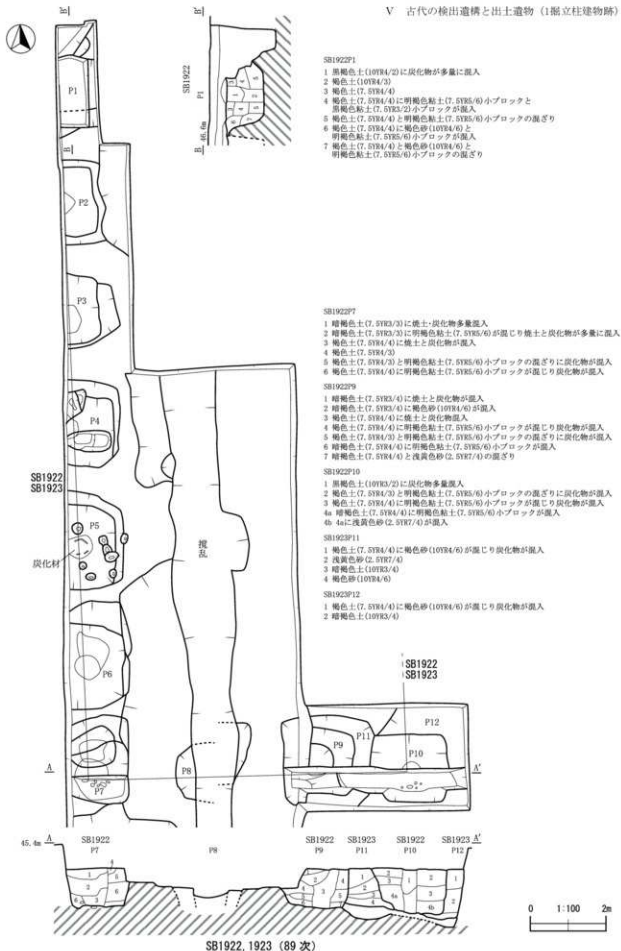


図42 中央部掘立柱建物跡⑬(SB1922, 1923 掘立柱建物跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (1)掘立柱建物跡

SB1924P1-P3

- 1 褐色土(7.5YR4/3)に炭土と炭化物が混入
- 2 明黄褐色粘土(10YR6/6)に褐色土が混入
- 3 明黄褐色粘土(10YR7/6)
- 4 褐色土(7.5YR4/6)

SB1924P2

- 1 褐色土(7.5YR4/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)と暗褐色土(7.5YR3/4)および炭土と炭化物が若干混入
- 2 褐色土(7.5YR4/4)と暗褐色土(7.5YR3/4)の混ざりに炭土と炭化物が若干混入
- 3 褐色土(7.5YR4/4)と暗褐色土(7.5YR3/4)が混じり炭土と炭化物が若干混入
- 4 褐色土(7.5YR4/6)
- 5 褐色土(7.5YR4/6)と明黄褐色砂(10YR6/6)の混ざり
- 6 褐色土(7.5YR4/6)に明黄褐色砂(10YR6/6)が混入

SB1924P6-P7

- 1 明黄褐色粘土(10YR6/6)に褐色土(7.5YR4/3)が混入
- 2 褐色土(7.5YR4/3)と暗褐色土(7.5YR3/2)の混ざりに炭化物が多量に混入
- 3 褐色土(7.5YR4/3)
- 4 暗褐色土(7.5YR3/4)に炭化物が混入
- 5 褐色土(7.5YR4/6)
- 6 褐色土(7.5YR4/6)と浅黄色砂(2.5YR7/4)の混ざり
- 7 褐色土(7.5YR4/6)に浅黄色砂(2.5YR7/4)が混入
- 8 明黄褐色粘土(10YR6/6)に褐色土(10YR4/6)が混入
- 9 褐色土(10YR4/6)
- 10 褐色土(10YR4/6)と浅黄色砂(2.5YR7/4)の混ざり

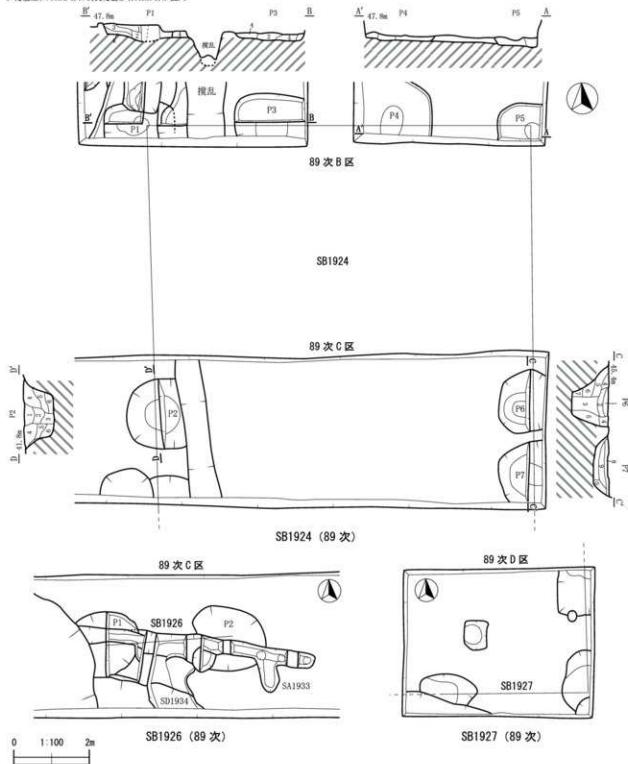


图 43 中央部掘立柱建物跡⑭(SB1924, 1926, 1927 掘立柱建物跡)

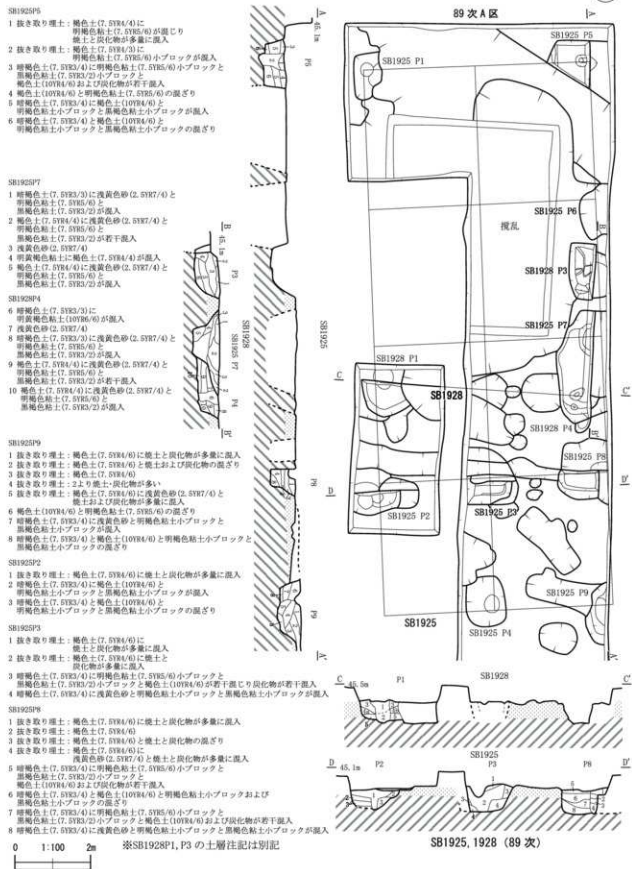
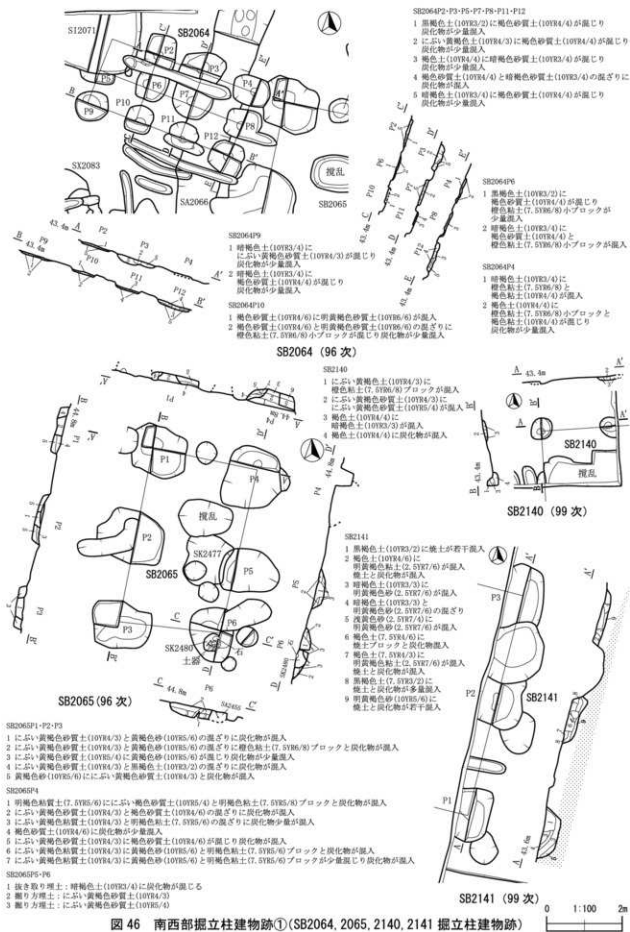


図 44 中央部掘立柱建物跡⑮(SB1925, 1928 掘立柱建物跡)

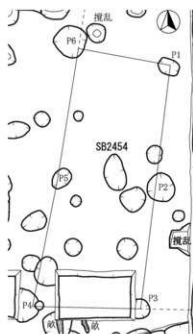
V 古代の検出遺構と出土遺物 (1掘立柱建物跡)



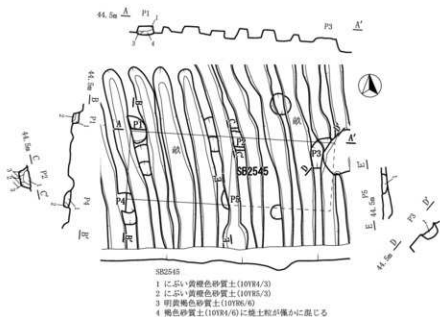
図 45 南西部掘立柱建物跡群概略図



V 古代の検出遺構と出土遺物 (1 掘立柱建物跡)

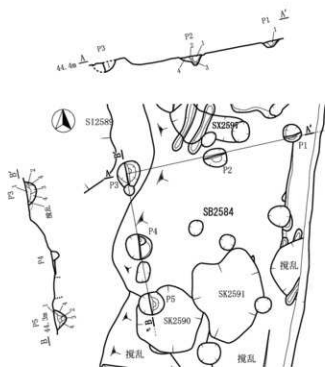


SB2454 (108次A)



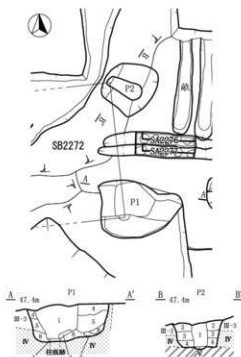
SB2545 (112次)

- SB2545
 1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)
 2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3)
 3 明黄褐色砂質土 (10YR6/6)
 4 褐色砂質土 (10YR4/6) に陸土粒が極かに混じる



SB2584 (116次)

- SB2584
 1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)
 2 褐色砂質土 (10YR4/4)
 3 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/4)
 4 褐色砂質土 (10YR4/6)



北西部 SB2272 (104次)

- SB2272
 P1
 1 黄褐色粘土 (10YR5/6) に暗褐色砂質土 (10YR3/4) と黒色砂質土 (10YR2/1) が混じる
 2 明黄褐色砂 (10YR6/6) に黒色砂質土 (10YR2/1) が混じる
 3 明黄褐色砂 (10YR6/6)
 4 暗褐色砂質土 (10YR3/4) に陸土粒混入
 5 暗褐色砂質土 (10YR3/4) に明黄褐色砂 (10YR6/6) が若干混じる
 6 明黄褐色砂 (10YR6/6) ににぶい黄褐色砂 (10YR5/4) が混じる
 7 黄褐色粘土 (10YR5/6)
 8 暗褐色砂質土 (10YR3/4) に明黄褐色砂 (10YR6/6) が多く混じる
 P2
 1 黄褐色砂質土 (10YR2/2)
 2 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
 3 暗褐色砂質土 (10YR3/4) に明黄褐色砂 (10YR6/6) が若干混じる
 4 暗褐色砂質土 (10YR3/4) に明黄褐色砂 (10YR6/6) が多く混じる
 5 黒褐色粘質土 (10YR2/2)



図 47 南西部・北西部掘立柱建物跡 (SB2454, 2545, 2584, 2272 掘立柱建物跡)

別記 掘立柱建物跡土層記

図 22 外郭西門跡 (S1986~1991 掘立柱建物跡) 柱掘り方断面図①

[A-A'] S1986 榊行西側土層記]

S1986P1~P4:1 黄褐色粘質土(1095/6), 2 黄褐色粘質土(1095/8), 3 褐色粘質土(1094/4)

[B-B'] S1990 榊行西側土層記]

S1990P7:1 黄褐色土(1095/6)

S1990P8:2 褐色土(7, 593/3)に明褐色粘土(7, 595/5)が小ブロック状に混入

S1990P3:3 暗褐色土(1093/2), 4 褐色土(7, 594/2), 5 褐色土(7, 594/2)に明褐色粘土(7, 595/6)が混入

S1990P4:1 暗褐色土(1093/4), 2 黄褐色土(1095/6)に明黄褐色粘土(1096/6)が混入

S1990P2:3 黄褐色土(1095/6)に明黄褐色粘土(1096/6)が混入

[C-C'] S1990 榊行西側土層記]

S1990P7:1 褐色粘質土(1094/4)に明黄褐色粘土(1097/6)が混入, 2 褐色粘質土(1094/4)

S1990P1P3:3 黄褐色粘質土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 4 褐色粘質土(1094/4)に明黄褐色粘土(1097/6)が少量混入, 5 褐色粘質土(1094/4)に明黄褐色粘土(1097/6)が少量混入, 6 褐色粘質土(1094/4)に明黄褐色粘土(1097/6)と炭化物が混入, 7 明黄褐色粘土(1096/6)に明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 8 褐色粘土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)と明黄褐色粘土(1097/6)が混入

S1990P6:1 黄褐色粘土(1095/8)と褐色粘土(1094/4)の混ざりに明褐色粘土と炭化物が少量混入, 2 黄褐色粘土(1095/8)と褐色粘土(1094/4)の混ざり, 3 明褐色粘土(1095/8), 4 明黄褐色粘土(1096/8)に黄褐色粘土(1095/6)と明褐色粘土(7, 595/8)と炭化物が混入, 5 明黄褐色粘土(1096/8)に明褐色粘土(7, 595/8)が少量混入, 6 褐色粘質土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックと炭化物が混入

S1990P5:1 明褐色粘土(2, 597/6)と暗褐色粘土(1093/4)の混ざりに明褐色粘土(7, 595/8)が少量混入, 2 明黄褐色粘土(2, 597/6)に暗褐色粘土(1093/4)と明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 3 褐色粘土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)と明黄褐色粘土(1096/6)が混入, 4 褐色粘土(1094/4)に暗褐色粘土(1093/4)と明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 5 褐色粘土(1094/4)と明褐色粘土(7, 595/8)の混ざりに暗褐色粘土(1093/4)が少量混入, 6 褐色粘土(1094/4)に暗褐色粘土(1093/4)と明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 7 明黄褐色粘土(2, 597/6)に褐色粘土(7, 595/8)と炭化物が少量混入, 8 明黄褐色粘土(2, 597/6)に明褐色粘土(7, 595/8)と暗褐色粘土(1093/4)が少量混入, 9a 褐色粘土(1094/4)と明褐色粘土(7, 595/8)の混ざりに暗褐色粘土(1093/4)が少量混入, 9b 褐色粘土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)と暗褐色粘土(1093/4)と炭化物が混入, 10 明黄褐色粘土(2, 597/6)と明褐色粘土(7, 595/8)の混ざりに暗褐色粘土(1093/4)が混入, 11 褐色粘土(1094/4)と明褐色粘土(7, 595/8)の混ざりに暗褐色粘土(1093/4)が混入, 12 褐色粘土(1094/4)

[D-D'] S1986-S1988-S1989-S1990]

S1986P1:1 暗褐色粘質土(1093/3)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックが混入, 2 暗褐色粘質土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックが混入

S1988P3:3 黄褐色粘質土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 4 暗褐色粘土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)と褐色粘質土(1094/4)が混入, 5 暗褐色粘土(1093/4)に明褐色粘土(7, 595/8)が混入

S1989P7:6 明褐色粘土(1095/8)に褐色粘土(1094/4)が混入, 7 暗褐色粘質土(1093/4)に明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 8 暗褐色粘質土(1093/4)に明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 9 黄褐色粘土(1095/5)に明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 10 褐色粘土(7, 594/4), 11 明褐色粘土(7, 595/8), 12 暗褐色粘質土(1093/4)

S1990P7:13 褐色粘質土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックが混入, 14 褐色粘質土(1094/4)と明褐色粘土(7, 595/8)ブロックの混ざり, 15 暗褐色粘質土(1093/3)

[E-E'] S1989 榊行東側土層記-S1991 榊行東側土層記]

S1989P12:1 黒褐色粘質土(1092/2), 2 明褐色粘土(7, 595/8), 3 黒褐色粘質土(1092/2), 4 黄褐色粘土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)と黄褐色粘土(1095/6)が混入, 5 黄褐色粘土(1095/6), 6 明褐色粘土(7, 595/8), 7 褐色粘土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)と黄褐色粘土(1095/6)が混入, 8 褐色粘土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックと暗褐色粘質土(1095/3)が混入, 9 褐色粘土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックが混入, 10 褐色粘土(1094/4), 11 明褐色粘土(7, 595/8)に暗褐色粘質土(1095/3)が少量混入

S1989P11:1 褐色粘質土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 2 褐色粘質土(1094/4)に暗褐色粘質土(1093/4)が混入, 3 褐色粘土(1094/4)に明黄褐色粘土(2, 597/6)が混入, 4 明黄褐色粘土(1096/8)に褐色粘土(1094/4)と明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 5 褐色粘土(1094/4), 6 暗褐色粘土(7, 593/3)に明黄褐色粘土(1096/8)と褐色粘土(1096/8)が混入, 7 褐色粘土(1094/4)と黄褐色粘質土(1095/6)の混ざりに暗褐色粘土(2, 597/6)と明褐色粘土(7, 595/8)と炭化物が少量混入, 8 暗褐色粘質土(7, 595/3)に褐色粘質土(1094/4)が混入, 9 黄褐色粘土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックが少量混入, 10 黄褐色粘土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックと暗褐色粘土(7, 593/3)ブロックが少量混入, 11 暗褐色粘質土(7, 593/3)に明黄褐色粘土(2, 597/6)が混入

S1991P10:12 褐色粘質土(1094/4)に暗褐色粘土(7, 593/3)と明黄褐色粘土(1097/6)が少量混入, 13 褐色粘土(1094/4)に明黄褐色粘土(2, 597/6)が混入, 14 明黄褐色粘土(2, 597/6)に褐色土(1094/4)が少量混入, 15 褐色粘土(1094/4)に明黄褐色粘土(2, 597/6)と炭化物が混入, 16 褐色粘土(1094/4)に明黄褐色粘土(2, 597/6)が混入

S1989P10:1 褐色粘質土(1095/6)に明褐色粘土(1096/8)と炭化物が少量混入, 2 黄褐色粘質土(1095/6)に明黄褐色粘土(1096/6)が混入, 3 褐色粘土(1094/4)と黄褐色粘質土(1095/6)の混ざりに暗褐色粘土(2, 593/3)と明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 4 黄褐色粘質土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)と炭化物が少量混入, 5 明黄褐色粘土(2, 597/6)に暗褐色粘土(7, 593/3)が少量混入, 6 褐色粘土(1094/4)と明褐色粘土(7, 595/8)の混ざり, 7 黄褐色粘土(1095/6)と褐色粘土(1094/4)の混ざりに明褐色粘土(7, 595/8)と暗褐色粘土(7, 595/8)が混入, 8 褐色粘質土(1094/4)に黄褐色粘土(1095/6)が混入, 9 黄褐色粘土(1095/6)と褐色粘土(1094/4)の混ざりに明褐色粘土(7, 595/8)と暗褐色粘土(7, 595/8)が混入, 10 黄褐色粘質土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)が少量混入, 11 明黄褐色粘土(2, 597/6)に明褐色粘土(7, 595/8)と暗褐色粘土(1093/4)が少量混入, 12 明黄褐色粘土(2, 597/6)と明褐色粘土(7, 595/8)の混ざり, 13 明黄褐色粘土(2, 597/6), 14 暗褐色粘土(7, 593/3), 15 褐色粘質土(1094/4)に明黄褐色粘土(2, 597/6)が混入, 16 明黄褐色粘土(2, 597/6)

S1989P9:1 黄褐色粘質土(1095/6), 2 暗褐色粘質土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックと黒褐色粘土(1093/2)ブロックが混入, 3 黄褐色粘質土(1095/8)に明褐色粘土(1097/6)と炭化物が少量混入, 4 褐色粘質土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)と炭化物が少量混入, 5 褐色粘土(1094/4)に明黄褐色粘土(2, 597/6)が混入, 6 褐色粘質土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックが混入, 7 黄褐色粘質土(1095/8)に明褐色粘土(7, 595/8)と炭化物が混入, 8 褐色粘質土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックが混入, 9 褐色粘土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 10 褐色粘土(1094/4)と明褐色粘土(7, 595/8)の混ざりに暗褐色粘土(7, 593/3)ブロックが少量混入, 11 褐色粘土(1094/4)

[F-F'] S1987 南西側土層記]

S1987P1:1 黄褐色土(1095/6)に炭化物が少量混入, 2 黄褐色粘質土(1095/6)と炭化物が少量混入, 3 褐色粘質土(1094/4)に明黄褐色粘質土(1096/8)が混入, 4 明黄褐色粘質土(1096/8)に褐色粘質土(1094/4)が混入, 5 褐色粘質土(1094/4)

[G-G'] S1991 榊行西側土層記]

S1991P2:1 明黄褐色粘土(1095/8)に明褐色粘土ブロック(7, 595/8)が混入, 2 黄褐色粘土(1095/8)に黒褐色粘土(1093/2)が混入, 3 黄褐色粘土(1095/8)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックが混入, 4 黄褐色粘質土(1095/6)に明褐色粘土(1093/2)ブロックが混入, 5 黄褐色粘土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックと黒褐色粘土(1093/2)ブロックが混入, 6 黄褐色粘質土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックが少量混入, 7 黄褐色粘土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)と炭化物が混入, 8 褐色粘質土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)と炭化物が混入, 9 褐色粘土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)が混入, 10 褐色粘土(1094/4)と明褐色粘土(7, 595/8)の混ざりに暗褐色粘土(7, 593/3)ブロックが少量混入, 11 褐色粘土(1094/4)

[H-H'] S1987 榊行中央土層記]

S1987P6:1 明黄褐色粘土(1096/6)に明褐色粘土(7, 595/8)の混ざりに炭化物が少量混入, 2 明黄褐色粘土(1096/6)に明褐色粘土(7, 595/8)が少量混入, 3 褐色粘質土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)が少量混入, 4 褐色粘質土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)が少量混入, 5 褐色粘質土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックが混入

[I-I'] S1987 榊行中央土層記]

S1987P6:1 明黄褐色粘土(1096/6)に明褐色粘土(7, 595/8)の混ざりに炭化物が少量混入, 2 明黄褐色粘土(1096/6)に明褐色粘土(7, 595/8)が少量混入, 3 褐色粘質土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)が少量混入, 4 褐色粘質土(1095/6)に明褐色粘土(7, 595/8)が少量混入, 5 褐色粘質土(1094/4)に明褐色粘土(7, 595/8)ブロックが混入

V 古代の検出遺構と出土遺物 (1 掘立柱建物跡)

図 23 外郭西門跡 (SB1986~1991 掘立柱建物跡) 柱掘り方断面図②

[J-1] SB1986 南東趾・SB1988 南西趾跡]

SB1989P1: 黄褐色土(O195/6)に明褐色粘土(7.5YR5/6)と炭化物が少量混入, 2 黄褐色砂(O195/8)に黄褐色粘質土(O194/8)が混入, 3 黄褐色砂(O195/6)に明黄褐色粘土(O198/8)が混入, 4 黄褐色砂(O195/8)に褐色粘土(O195/6)が混入, 5 褐色土(O194/0)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が混入, 6 褐色砂質土(O194/4), 7 暗褐色粘土(O193/4)

SB1988P18: 褐色土(O194/4), 9 褐色砂(O194/4)に明黄褐色砂(2.5YR5/6)が混入, 10 明黄褐色砂(2.5YR5/6)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が混入

[J-2] SB1990 軒行中央趾跡]

SB1990P7: 1 黄褐色粘土(O195/6)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が少量混入, 2 褐色砂質土(O194/4)に黄褐色粘土(O195/6)が混入, 3 褐色粘質土(O194/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が混入, 4 褐色粘質土(O194/4)と明褐色粘土(7.5YR5/6)ブロックの混ざり, 5 暗褐色砂質土(O193/3), 6 明黄褐色粘土(7.5YR5/6), 7 明黄褐色粘土(7.5YR5/6)と暗褐色粘質土の混ざり

[K-1] SB1987 扉部趾跡]

SB1987P9: 1 暗褐色土(O193/3), 2 黄褐色砂質土(O195/6)に明褐色粘土(7.5YR5/6)ブロックと暗褐色粘土(7.5YR2/4)ブロックが混入, 3 褐色土(O194/4)に明黄褐色粘土(O195/6)ブロックが混入, 4 褐色砂質土(O194/4)に明褐色粘土(O195/6)ブロックと黒褐色土(7.5YR2/2)が混入, 5 明褐色粘質土(7.5YR5/8), 6 褐色砂質土(O194/4)に明黄褐色粘土(O195/6)ブロックが混入

SB1987P10: 1 褐色土(O194/4)と暗褐色土(O193/4)の混ざり, 2 暗褐色土(O193/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)と黒褐色粘土(7.5YR2/2)が混入, 3 明黄褐色粘土(O197/6), 4 暗褐色土(O193/3), 5 明褐色粘土(7.5YR5/6)と黒褐色粘土(7.5YR2/2)の混ざりに浅黄色砂(2.5YR7/4)が混入, 6 浅黄色砂(2.5YR7/4), 7 5に類似も黒褐色粘土の割合多い, 8 明褐色粘土(7.5YR5/6)と黒褐色粘土(7.5YR2/2)と暗褐色土(O193/4)の混ざり, 9 明褐色粘土(7.5YR5/6)と黒褐色粘土(7.5YR2/2)の混ざりに暗褐色土(O193/4)が混入, 10 暗褐色土(O193/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が若干混入, 11 暗褐色土(O193/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)と黒褐色粘土(7.5YR2/2)が交互層状に混入, 12 5に類似も黒褐色粘土の割合多い, 13 明褐色土(O193/4), 14 暗褐色土(O193/3), 15 暗褐色土(O193/3)と明褐色粘土(7.5YR5/6)の混ざり

SB1987P11: 1 抜き取り埋土: 褐色砂質土(O194/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)と炭化物が少量混入, 2 抜き取り埋土: 暗褐色粘質土(O194/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)と炭化物が混入, 3 抜き取り埋土: 褐色粘質土(O194/4)に褐色砂質土(O194/4)と炭化物が混入, 4 抜き取り埋土: 暗褐色粘質土(O193/3)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が混入, 5 黄褐色粘質土(O195/6)に褐色砂質土(O194/4)が混入, 6 褐色粘質土(O194/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)ブロックと炭化物が混入, 7 褐色土(O194/4), 8 褐色砂質土(O194/4)と明褐色粘土(7.5YR5/6)ブロックが混入, 9 褐色砂(O194/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が混入, 10 褐色砂(O194/4), 11 黄褐色砂質土(O195/8)に褐色砂(O194/4)と明褐色粘土(7.5YR5/6)が混入, 12 明褐色粘土(7.5YR5/6), 13 褐色粘土(O194/6)

SB1987P12: 1 抜き取り埋土: 黄褐色砂質土(O195/6)に明褐色粘土(7.5YR5/6)と炭化物が少量混入, 2 抜き取り埋土: 暗褐色砂質土(O193/3)に炭化物が少量混入, 3 抜き取り埋土: 褐色粘質土(O194/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が混入, 4 抜き取り埋土: 褐色粘質土(O194/4)に明褐色粘土(O194/4)が混入, 5 抜き取り埋土: 明褐色粘土(7.5YR5/6), 6 抜き取り埋土: 黄褐色粘質土(O195/6)に褐色砂質土(O194/4)が混入, 7 抜き取り埋土: 明褐色粘土(7.5YR5/6)に褐色砂質土(O194/4)が混入, 8 抜き取り埋土: 褐色土(O194/0), 9 抜き取り埋土: 褐色粘質土(O194/4)に褐色粘土(7.5YR5/6)が少量混入, 10 明黄褐色砂質土(O195/8)に褐色土(O194/4)と炭化物が少量混入, 11 暗褐色土(O193/4)に炭化物が少量混入, 12 明褐色粘質土(O194/4), 13 明褐色粘土(7.5YR5/6)に黄褐色砂(O195/8)が混入, 14 褐色土(O194/4)に明褐色粘土(O194/4)と明褐色粘土(O195/6)が混入, 15 褐色土(O194/4)に黄褐色粘質土(O195/6)が混入, 16 15に類似, 17 浅黄色砂(2.5YR7/4)が混入

[L-1] SB1988 軒行中央趾跡]

SB1988P5: 1 埋方土: 黄褐色粘質土(O195/6)に明黄褐色粘質土(O195/6)が少量混入, 2 埋方土: 黄褐色砂質土(O195/8), 3 埋方土: 黄褐色砂質土(O195/8)に明黄褐色粘質土(O195/6)が少量混入

SB1988P6: 1 明褐色粘土(7.5YR5/6)と黒褐色粘土(O194/4)と明黄褐色粘土(O197/6)が混入, 2 褐色粘質土(O194/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)ブロックと黒褐色粘土(O192/3)と炭化物が混入, 3 明褐色粘質土(2.5YR5/6)に明褐色粘土(7.5YR5/6)ブロックと黒褐色粘土(O192/3)が混入, 4 明褐色粘質土(O194/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)ブロックと炭化物が混入, 2 黄褐色粘土(O195/8)に明褐色粘土(7.5YR5/8)ブロックと明黄褐色粘質土(O195/6)が混入, 3 明褐色粘土(7.5YR5/6)に黒褐色粘土(O192/2)が少量混入

SB1988P8: 1 褐色土(O194/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)ブロックが混入, 2 明褐色粘質土(7.5YR5/6)と黒褐色粘土(O192/2)と炭化物が少量混入, 3 黒褐色粘質土(O192/2)に浅黄色砂(O195/6)と明褐色粘土(7.5YR5/8)ブロックが混入, 4 黒褐色粘土(O192/2)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が混入, 5 黒褐色粘質土(O192/2)に明褐色粘土(7.5YR5/8)ブロックが混入

[M-1] SB1987-SB1991]

SB1987P7: 1 褐色粘質土(O194/4)に明黄褐色粘土(O197/6)が混入, 2 褐色粘質土(O194/4)

SB1989P3: 褐色粘質土(O194/4)に明黄褐色粘土(O197/6)ブロックと炭化物が混入, 4 褐色粘質土(O194/4)に明黄褐色粘土(O197/6)が少量混入, 5 褐色粘質土(O194/4)に明黄褐色粘土(O197/6)と炭化物が混入, 6 明黄褐色粘土(O195/6)に明褐色粘土(7.5YR5/8)が混入, 7 褐色粘質土(O194/4)に明褐色粘土(7.5YR5/8)と明黄褐色粘土(O197/6)が混入

[N-1] SB1986-SB1987-SB1989-SB1991]

SB1986P2: 1 抜き取り埋土: 明褐色粘土(7.5YR5/6)に褐色土(7.5YR4/4)が混入, 2 抜き取り埋土: 明褐色粘土(7.5YR5/6)と褐色土(7.5YR4/4)の混ざり, 3 抜き取り埋土: 褐色土(7.5YR4/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)と黒褐色粘土ブロックが混入, 4 埋方埋土: 褐色土(7.5YR4/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)と黒褐色粘土(O193/6)が若干混入

SB1987P5: 1 灰褐色土(O196/4), 6 黄褐色土(O195/6)

SB1988P8: 7 埋方埋土: 褐色土(O194/0)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が多く混入

SB1989P3: 8 埋方埋土: 褐色土(7.5YR4/3)

[O-0] SB1990 軒行中央趾跡]

SB1990P6: 1 黄褐色粘質土(O195/8)に褐色粘土(O194/4)と明褐色粘土(O195/8)が混入, 2 黄褐色粘土(O195/8)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が少量混入, 3 黄褐色粘土(O195/8)に褐色粘土(O194/4)が混入, 4 黄褐色粘質土(O195/8)に褐色粘土(O194/4)が混入, 5 黄褐色粘土(O195/8)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が混入

[P-P] SB1991 軒行中央趾跡]

SB1991P6: 1 暗褐色土(O193/4)と浅黄色砂(2.5YR7/4)の混ざり, 2 暗褐色土(O193/4)と浅黄色砂(2.5YR7/4)と明褐色粘土(7.5YR5/6)の混ざり, 3 暗褐色土(O193/4)と浅黄色砂(2.5YR7/4)と明褐色粘土(7.5YR5/6)の混ざり, 4 暗褐色土(O193/4)に浅黄色砂(2.5YR7/4)が混入, 5 褐色土(O194/4)に暗褐色粘土(7.5YR5/6)と浅黄色砂(2.5YR7/4)が混入, 6 褐色土(7.5YR4/3)に暗褐色土(7.5YR3/4)が混入, 7 褐色土(7.5YR4/3)と暗褐色土(7.5YR3/4)と黒褐色粘土(7.5YR2/2)の混ざり

[Q-Q] SB1990 南東趾・SB1989 軒行中央趾跡・SB1991 南側扉部趾跡]

SB1989P6: 1 褐色土(7.5YR4/3)に浅黄色砂(2.5YR7/4)が混入, 2 褐色土(7.5YR4/3)と浅黄色砂(2.5YR7/4)と明褐色粘土(7.5YR5/6)の混ざり, 3 褐色土(7.5YR4/3)に浅黄色砂(2.5YR7/4)と明褐色粘土(7.5YR5/6)が混入

SB1990P9: 4 抜き取り埋土: 褐色土(7.5YR4/3)に浅黄色砂(2.5YR7/4)が混入, 5 抜き取り埋土: 褐色土(7.5YR4/3)に浅黄色砂(2.5YR7/4)が若干混入, 6 抜き取り埋土: 暗褐色土(7.5YR3/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)が若干混入, 7 抜き取り埋土: 明褐色粘土(7.5YR5/6)と浅黄色砂(2.5YR7/4)が混入, 8 抜き取り埋土: 暗褐色土(7.5YR3/4), 9 抜き取り埋土: 3に類似(明褐色粘土が多い), 10 褐色土(7.5YR4/3), 11 埋方埋土: 明褐色粘土(7.5YR5/6)ブロックと浅黄色砂(2.5YR7/4)の混ざりに黒褐色粘土(7.5YR3/4)が混入, 12 埋方埋土: 明褐色粘土(7.5YR5/6)と浅黄色砂(2.5YR7/4)の混ざりに暗褐色粘土(7.5YR3/4)が混入, 13 埋方埋土: 明褐色粘土(7.5YR5/6)と浅黄色砂(2.5YR7/4)と暗褐色粘土(7.5YR3/4)が混入

SB1990P5: 14 浅黄色砂(2.5YR7/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)ブロックと暗褐色粘土(O193/4)が混入, 15 浅黄色砂(2.5YR7/4)と明褐色粘土(7.5YR5/6)ブロックの混ざり, 16 浅黄色砂(2.5YR7/4)と黒褐色粘土(7.5YR3/4)ブロックの混ざり, 17 12に類似, 18 13に類似, 19 浅黄色砂(2.5YR7/4)

[R-R] SB1987 扉部趾跡]

SB1987P11: 1 黄褐色土(O195/6)に炭化物が少量混入, 2 黄褐色粘質土(O195/6)に炭化物が少量混入, 3 黄褐色粘質土(O195/6)に明黄褐色粘質土(O196/8)と炭化物が混入, 4 褐色粘質土(O194/4)に炭化物が少量混入, 5 明黄褐色粘質土(O196/8), 6 明黄褐色粘質土(O196/8), 7 明黄褐色粘質土(O196/8)に黄褐色土(O195/6)が混入, 8 明黄褐色粘質土(O196/8)に明黄褐色粘質土(O196/8)と炭化物が少量混入, 9 黄褐色粘質土(O195/6), 10 黄褐色粘質土(O195/6)に明黄褐色粘質土(O196/8)が混入

ロックが少量混入

- SR1987P1: 黄褐色土(10YR5/6)に橙紅色土(7.5YR5/8)と炭化物が少量混入。2 橙紅色土(7.5YR5/8)に黄褐色土(10YR5/6)が混入。3 橙紅色土(7.5YR5/8)に黄褐色土(10YR5/6)が少量混入。4 暗褐色砂質土(10YR3/4)に橙紅色土(7.5YR5/8)と炭化物が少量混入。5 褐色砂質土(10YR4/4)に橙紅色土(7.5YR5/8)と炭化物が混入。6 褐色砂質土(10YR4/4)に橙紅色土(7.5YR5/8)と褐色粘土(7.5YR5/8)が混入。7 7 黄褐色粘土。2 黄褐色粘土。2 黄褐色粘土(10YR5/8)に明褐色粘土(7.5YR5/8)が混入。3 黄褐色粘土(10YR5/8)に明褐色粘土(7.5YR5/8)と褐色粘土(7.5YR5/8)が混入。4 黄褐色粘土(10YR5/8)に明褐色粘土(7.5YR5/8)と褐色粘土(7.5YR5/8)が混入。5 褐色粘土(10YR4/4)に明褐色粘土(7.5YR5/8)が混入。6 褐色粘土(10YR4/4)に暗褐色粘土(10YR3/4)と明褐色砂(7.5YR7/6)と炭化物が混入。

図 24 外郭西門跡 (SR1986~1991 掘立柱建物跡) 柱掘り方断面図③

[S-S' SR1986 掘明南側土列]

SR1986P1: 1 黄褐色粘質土(10YR5/6)、2 褐色粘質土(10YR4/6)

SR1986P5: 1 褐色粘質土(10YR4/6)に明黄褐色粘土(10YR6/6)ブロックが混入。2 褐色粘質土(10YR4/6)

SR1986P2: 3 黄褐色粘質土(10YR5/6)に明黄褐色粘土(10YR6/6)ブロックと褐色粘質土(10YR4/6)が混入。4 黄褐色粘質土(10YR5/6)に明黄褐色粘土(10YR6/6)ブロックが混入。5 黄褐色粘質土(10YR5/6)に褐色粘土(7.5YR5/8)と褐色粘土ブロック(10YR4/6)と炭化物が混入。6 褐色粘土(7.5YR5/8)に黄褐色砂(10YR6/8)が混入。7 明黄褐色砂(7.5YR7/6)に褐色粘土(10YR4/6)と4/6ブロックと橙紅色土(7.5YR5/8)ブロックが混入

SR1990P1: 8 黄褐色粘質土(10YR4/4)

[T-T' SR1988 掘明南側土列]

SR1988P5: 1 掘方埋土 黄褐色粘質土(10YR5/6)に明黄褐色粘質土(10YR5/6)が少量混入。2 掘方埋土 黄褐色砂質土(10YR5/8) , 3 掘方埋土 黄褐色砂質土(10YR5/8)に明褐色粘土(7.5YR5/6)ブロックが少量混入

SR1988P9: 1 掘方埋土 褐色粘質土(10YR4/6)に褐色土(10YR4/4)が混入。2 掘方埋土 褐色粘質土(10YR4/6)に暗褐色粘質土(10YR3/4)が混入。3 掘方埋土 黄褐色砂質土(10YR5/6)に褐色粘土(10YR4/6)ブロックが混入

[U-U' SR1989 掘明南側土列]

SR1989P1: 1 褐色砂(10YR4/4)、2 褐色砂(10YR4/4)に明褐色粘土(10YR5/8)と炭化物が少量混入

SR1989P5: 1 明黄褐色粘質土(10YR6/6)に明褐色粘土(10YR6/6)が混入。2 黄褐色粘質土(10YR5/6)に明黄褐色粘土(10YR6/6)ブロックと黒褐色粘質土(10YR3/2)ブロックが混入。3 黄褐色粘質土(10YR5/6) , 4 黄褐色粘質土(10YR5/6)に明黄褐色粘土(10YR6/6)ブロックが混入。5 黄褐色粘土(10YR5/8) , 6 黒褐色粘質土(10YR3/2) , 7 暗褐色粘質土(10YR4/4)に黄褐色粘土(10YR5/8)ブロックが混入。8 明黄褐色粘土(10YR6/6)に炭化物が少量混入

SR1989P9: 1 黄褐色粘質土(10YR5/8)に明黄褐色粘土(10YR7/6)と炭化物が少量混入。2 黄褐色粘質土(10YR5/6) , 3 黄褐色粘質土(10YR5/6)に明褐色粘土(7.5YR5/8)ブロックと黒褐色粘土(10YR3/2)ブロックが混入。4 褐色粘質土(10YR4/4)に明褐色粘土(7.5YR5/8)ブロックが混入。5 褐色粘質土(10YR4/4)に明褐色粘土(7.5YR5/8)と褐色粘土(10YR4/4)に明黄褐色砂(7.5YR7/6)が混入。6 褐色粘質土(10YR4/6)に褐色粘土(10YR4/4)に明褐色粘土(7.5YR5/8)と褐色粘土(10YR4/4)に明黄褐色砂(7.5YR7/6)が混入

[Y-Y' SR1987P4]

SR1987P4: 1 抜き取り埋土 土に黄褐色粘土(10YR5/6)に褐色粘土(10YR5/1)が若干混入。2 抜き取り埋土 黄褐色粘土(10YR5/6)に褐色粘土(10YR5/1)が少量混入。3 柱頭跡埋土 褐色土(10YR4/4)に褐色粘土(10YR5/1)が混入。4 掘方埋土 土に黄褐色粘質土(10YR5/6) , 5 掘方埋土 土に黄褐色粘質土(10YR5/6) , 6 掘方埋土 褐色粘土(10YR4/4)に褐色粘土(10YR5/1)が混入

[F-F' SR1987P4]

SR1987P4: 1 抜き取り埋土 土に黄褐色粘土(10YR5/6)に褐色粘土(10YR5/1)が若干混入。2 抜き取り埋土 黄褐色粘土(10YR5/6)に褐色粘土(10YR5/1)が少量混入。3 柱頭跡埋土 褐色土(10YR4/4)に褐色粘土(10YR5/1)が混入。4 掘方埋土 褐色土(10YR4/4)に褐色粘土(10YR5/1)が多量に混入

[X-X' SR1987P8]

SR1987P8: 1 抜き取り埋土 褐色粘質土(10YR4/4)に炭化物が若干混入。2 抜き取り埋土 褐色粘質土(10YR4/6) , 3 抜き取り埋土 褐色粘質土(10YR4/6)に灰黄褐色砂質土(10YR4/2)と炭化物が混入。4 抜き取り埋土 褐色粘土(10YR4/4)に炭化物が若干混入。5 抜き取り埋土 暗褐色土(10YR3/4)と明黄褐色粘土(10YR6/6)ブロックと土に黄褐色粘土(10YR4/4)の混ざり。6 掘方埋土 土に黄褐色粘質土(10YR5/6) , 7 掘方埋土 土に黄褐色粘質土(10YR5/6)に明黄褐色粘土(10YR6/6)ブロックと土に黄褐色粘質土(10YR4/6)が若干混入。8 掘方埋土 褐色粘土(10YR4/6)に炭化物が少量混入。9 掘方埋土 褐色粘土(10YR4/6)に明黄褐色粘土(10YR6/6)ブロックが少量混入

[Y-Y' SR1988]

SR1988P9: 1 抜き取り埋土 褐色粘質土(10YR4/6)に暗褐色砂質土(10YR3/4)が多く混入。2 柱頭跡埋土 褐色砂質土(10YR4/4) , 3 掘方埋土褐色砂質土(10YR4/6)に褐色砂質土(10YR4/4)が混入

SR1988P10: 1 抜き取り埋土 褐色砂質土(10YR4/6)に暗褐色砂質土(10YR3/4)が多く混入。2 抜き取り埋土 褐色砂質土(10YR4/6)に暗褐色土(10YR3/4)が混入。3 抜き取り埋土 褐色砂質土(10YR4/6) , 4 柱頭跡埋土 土に黄褐色砂質土(10YR4/4)

[Z-Z' SR1988P9]

SR1988P9: 1 抜き取り埋土 褐色粘質土(10YR4/6)に暗褐色砂質土(10YR3/4)が多く混入。2 柱頭跡埋土 褐色砂質土(10YR4/4) , 3 掘方埋土 褐色砂質土(10YR4/6) , 4 掘方埋土 暗褐色砂質土(10YR3/4)に褐色砂質土(10YR4/6)が混入。5 掘方埋土 褐色砂質土(10YR4/6)に褐色砂質土(10YR4/4)が混入。6 掘方埋土 褐色砂質土(10YR4/4)

[AA-AA' SR1988P10]

SR1988P10: 1 抜き取り埋土 褐色砂質土(10YR4/6)に暗褐色砂質土(10YR3/4)が多く混入。2 抜き取り埋土 褐色砂質土(10YR4/6) , 3 柱頭跡埋土 土に黄褐色砂質土(10YR4/4) , 4 掘方埋土 明黄褐色砂質土(10YR6/6) , 5 掘方埋土 明黄褐色砂質土(10YR6/6)に土に黄褐色砂質土(10YR6/6)が若干混入。6 掘方埋土 明黄褐色砂質土(10YR6/6)に土に黄褐色砂質土(10YR6/6)が多く混入

[AB-AB' SR1991P4]

SR1991P4: 1 抜き取り埋土 暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色粘土(10YR5/8)ブロックが混入。2 掘方埋土 暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色粘土(10YR5/8)ブロックが若干混入。3 掘方埋土 暗褐色土(10YR3/4)

[AC-AC' SR1991P12]

SR1991P12: 1 抜き取り埋土 2 抜き取り埋土 3 掘方埋土 褐色粘質土(10YR4/4)に黄褐色粘土(10YR5/8)ブロックが混入。4 掘方埋土 暗褐色粘質土(10YR3/3)に褐色砂質土(10YR4/4)が混入。5 掘方埋土 褐色粘質土(10YR4/4) , 6 掘方埋土 褐色粘質土(10YR4/4)に黄褐色粘土(10YR5/8)ブロックが混入。7 掘方埋土 褐色粘質土(10YR4/4)

[AD-AD' SR1991P12]

SR1991P12: 1 掘方埋土 暗褐色土(10YR3/3) , 2 掘方埋土 褐色粘土(10YR4/4)

SR1991P12: 3 抜き取り埋土 褐色砂質土(10YR4/4) , 4 抜き取り埋土 暗褐色粘質土(10YR3/3) , 5 掘方埋土 暗褐色粘土(10YR4/4) , 6 掘方埋土 黄褐色粘土(10YR5/8)に暗褐色土(10YR4/4)が若干混入。7 掘方埋土 褐色砂質土(10YR4/4)

[AE-AE' SR1987-1990-SR1991]

SR1987P12: 1 掘方埋土 黄褐色粘土(10YR5/8)に暗褐色土(10YR3/4)が混入。2 掘方埋土 暗褐色粘質土(10YR3/4)に褐色土(10YR4/4)が混入。3 掘方埋土 明黄褐色粘土(10YR6/8)に灰白色(10YR8/1)粒が混入。4 掘方埋土 黄褐色粘土(10YR5/8)に暗褐色土(10YR3/4)が混入

SR1990P12: 5 掘方埋土 土に黄褐色砂質土(10YR3/4)

SR1991P12: 6 掘方埋土 暗褐色砂質土(10YR3/4)

図36 中央部孤立柱建物跡⑦ (SB1208, 1209 孤立柱建物跡)

[A-A']

SB1209P1: 褐色土(G.5YR4/4)、2 褐色土(G.5YR4/4)と暗褐色土(G.5YR3/3)の混ざり、3 褐色土(G.5YR4/4)と暗褐色土(G.5YR3/3)と黒褐色土(SB12/1) 腐食土が混入、4 褐色土(G.5YR4/4)と黒褐色土(SB12/1) 腐食土が混入

SB1209P4: 暗褐色土(G.5YR3/3)、2 褐色土(G.5YR4/3)、3 褐色土(G.5YR4/3)と黒褐色土が混入、4 褐色土(G.5YR4/3)と浅黄色砂(SB17/4) 地山砂の混ざり、5、4に黒褐色土が混入

SB1209P7: 暗褐色土(G.5YR3/4)と浅黄色砂が混入、2 褐色土(G.5YR4/3)と黒褐色土と明褐色粘土(G.5YR5/6)が混入、3 褐色砂(G.5YR4/3)と明褐色粘土(G.5YR5/6)の混ざり、4 褐色砂(G.5YR4/3)と明褐色粘土が若干混入、5 浅黄色砂(SB17/4)に褐色土(G.5YR4/3)が混入、6 浅黄色砂(SB17/4)と黒褐色土の混ざり

SB1209P5-1: 暗褐色土(G.5YR3/4)、2 暗褐色土(G.5YR3/3)と褐色土(G.5YR4/3)、3 浅黄色砂(SB17/4)、3 褐色砂(G.5YR4/3)と浅黄色砂の混ざり、4 浅黄色砂(SB17/4)と黒褐色土が多く混入、5 浅黄色砂(SB17/4)と黒褐色土が混入、6 黒褐色土(SB12/1)、7 暗褐色土(G.5YR3/3)

[B-B']

SB1209P1-1: 明褐色粘土(G.5YR5/6)と褐色土(G.5YR4/4)の混ざりに焼土と炭化物が混入、2 褐色砂(G.5YR4/4)と黒褐色土(SB12/1)と明褐色粘土が混入、3 褐色砂(G.5YR4/4)と褐色砂(G.5YR4/3)の混ざり、4 褐色砂(G.5YR4/3)と浅黄色砂(SB17/4)の混ざり、5 浅黄色砂(SB17/4)と黒褐色土(SB12/1)が混入

SB1209P6: 1 明褐色粘土(G.5YR5/6)と褐色土(G.5YR4/4)の混ざりに焼土と炭化物が混入、2 褐色砂(G.5YR4/3)、3 浅黄色砂(SB17/4)と褐色砂(G.5YR4/3)の混ざり、4 黒褐色土(SB12/1)と浅黄色砂の混ざり

SB1209P7: 1 明褐色粘土(G.5YR5/6)と褐色土(G.5YR4/4)の混ざりに焼土と炭化物が混入、2 褐色土(G.5YR4/4)に焼土と炭化物が混入、3 1に類似、4 褐色砂(G.5YR4/4)に明褐色粘土と黒褐色土が混入、5 黒褐色粘土(SB12/1)と明褐色粘土(G.5YR5/6)の混ざり

SB1209P26: 6 褐色砂(G.5YR4/4)に黒褐色土が若干混入、7 褐色砂(G.5YR4/3)と浅黄色砂(SB17/4)の混ざり、9 褐色砂(G.5YR4/3)と浅黄色砂の混ざり、8に類似、10 浅黄色砂と黒褐色土と明褐色粘土の混ざり

[C-C']

SB1209P11: 1 褐色砂(G.5YR4/4)に明褐色粘土(G.5YR5/6)が混入、2 暗褐色土(G.5YR3/4)と褐色土(G.5YR4/4)と浅黄色砂(SB17/4)の混ざり、3 暗褐色土(G.5YR3/3)と褐色土(G.5YR4/4)の混ざりに黒褐色土が混入、4 暗褐色土(G.5YR3/4)と浅黄色砂(SB17/4)の混ざりに褐色土が混入、5 暗褐色土(G.5YR3/3)と暗褐色土(G.5YR3/4)と黒褐色土(SB12/1)が混入

[D-D']

SB1209P7-1: 褐色土(G.5YR4/4)と明褐色粘土の混ざりに焼土と炭化物が混入、2 褐色土(G.5YR4/4)、3 明褐色粘土(G.5YR5/6)と褐色土(G.5YR4/4)の混ざりに焼土と炭化物が混入、4 褐色土(G.5YR4/4)

SB1209P25: 1 褐色土(OH10R/6)と浅黄色砂(SB17/4)が混入、6 暗褐色土(G.5YR3/3)と明褐色粘土ブロックの混ざりに互が混入、7 褐色土(OH10R/6)に明褐色粘土ブロックが混入、8 黒褐色土(SB12/1)と明褐色粘土と浅黄色砂の混ざり、9 浅黄色砂と明褐色粘土の混ざり、10 浅黄色砂と黒褐色土と明褐色粘土の混ざり

SB1209P8: 1 褐色土(G.5YR4/4)と明褐色粘土の混ざりに焼土と炭化物が混入、2 褐色土(G.5YR4/4)、3 2に浅黄色砂と黒褐色土が混入、4 明褐色粘土(G.5YR5/6)、5 褐色土(G.5YR4/4)と黒褐色土が若干混入、6 褐色土(G.5YR4/3)と浅黄色砂が混入、7 褐色土(G.5YR4/3)に明褐色粘土と黒褐色土が混入、8 浅黄色砂(SB17/4)と褐色土(G.5YR4/3)が若干混入

SB1209P27: 9 褐色土(G.5YR4/4)、10 褐色土(G.5YR4/4)と浅黄色砂と黒褐色土が混入、11 浅黄色砂(SB17/4)に褐色土(G.5YR4/4)と黒褐色土が混入、12 11に類似、13 褐色土と黒褐色土の比率が低く、13 浅黄色砂と黒褐色土の混ざり

SB1209P9: 1 褐色土(G.5YR4/4)に明褐色粘土と焼土と炭化物が混入、2 褐色土(G.5YR4/4)、3 褐色土(G.5YR4/4)に明褐色粘土が混入、4 褐色土(G.5YR4/4)に浅黄色砂が混入、5 褐色土(G.5YR4/4)に明褐色粘土が混入、6 褐色土(G.5YR4/4)と明褐色粘土の混ざりに互が混入、7 褐色土(G.5YR4/4)、8 褐色土(G.5YR4/4)と黒褐色土と浅黄色砂が混入

SB1209P29: 9 褐色土(G.5YR4/4)に明褐色粘土が混入、10 褐色土(G.5YR4/4)と明褐色粘土の混ざり、11 褐色土(G.5YR4/4)に明褐色粘土が混入、12 褐色土(G.5YR4/4)に浅黄色砂が混入、13 褐色土と浅黄色砂の混ざりに黒褐色土が混入

SB1209P10: 1 褐色土(G.5YR4/4)に明褐色粘土が混入、2 褐色土(G.5YR4/4)と浅黄色砂(SB17/4)の混ざり、3 褐色土(G.5YR4/3)に焼土と炭化物が多量混入、4 褐色土(G.5YR4/4)、5 褐色土(G.5YR4/3-4)に焼土と炭化物が混入

SB1209P29-6: 褐色土(G.5YR4/4)と明褐色粘土の混ざり、7 褐色土(G.5YR4/4)に明褐色粘土が混入、8 褐色土(G.5YR4/4)と浅黄色砂(SB17/4)の混ざり、9 浅黄色砂(SB17/4)と黒褐色土と褐色土(G.5YR4/4)の混ざり、10 褐色土(G.5YR4/4)に明褐色粘土と黒褐色土が混入、11 褐色土(G.5YR4/4)に浅黄色砂が混入、12 9に類似、13 褐色土(G.5YR4/6)に明褐色粘土と互が混入、14 褐色土(G.5YR4/6)

SB1209P11: 1 褐色土(G.5YR4/6)に明褐色粘土と焼土と炭化物が混入、2 褐色土(G.5YR4/4)に焼土と炭化物が混入、3 褐色土(G.5YR4/4)、4 褐色土(OH10R/6)、5 褐色土(G.5YR4/4)と黒褐色土と明褐色粘土が混入、6 褐色土(G.5YR4/4)と明褐色粘土と黒褐色土が混入、7 褐色土(G.5YR4/4)と浅黄色砂(SB17/4)の混ざり

SB1209P30: 10 5に類似、褐色土(G.5YR4/4)に明褐色粘土と褐色土が混入、11 褐色土(G.5YR4/3)と浅黄色砂の混ざり、12 褐色土(G.5YR4/3)に黒褐色土が混入、13 9に黒褐色土が混入

SB1209P12: 1 暗褐色土(G.5YR3/4)に焼土と炭化物が混入、2 褐色土(G.5YR4/6)に焼土と炭化物が混入、3 褐色土(G.5YR4/6)に明褐色粘土が混入、4 褐色土(OH10R/6)、5 褐色土(OH10R/6)に明褐色粘土が若干混入、6 褐色土(G.5YR4/3)、7 褐色土(OH10R/6)、8 褐色土(OH10R/6)と浅黄色砂の混ざり、9 浅黄色砂(SB17/4)に褐色土(OH10R/6)が若干混入、10 9に類似、11 9に黒褐色土が混入

[E-E']

SB1209P2-1: 褐色砂(G.5YR4/4)に明褐色粘土(G.5YR5/6)と黒褐色土(SB12/1)が若干混入、2 褐色砂(G.5YR4/4)に明褐色粘土が混入、3 褐色砂(G.5YR4/3)に明褐色粘土ブロックと黒褐色土が混入、4 褐色砂(G.5YR4/3)と浅黄色砂、5 褐色砂(G.5YR4/3)、6 褐色砂(G.5YR4/3)と浅黄色砂と黒褐色土が混入

SB1209P3: 1 抜き取り埋土、褐色砂(G.5YR4/3)に明褐色粘土と黒褐色土が若干混入、2 抜き取り埋土、浅黄色砂(SB17/4)と褐色砂(G.5YR4/3)の混ざり、3 抜き取り埋土、褐色砂(G.5YR4/3)に明褐色粘土が若干混入、4 褐色砂(G.5YR4/4)に明褐色粘土と黒褐色土が混入、5 褐色砂(G.5YR4/4)に浅黄色砂が混入、6 褐色砂(G.5YR4/3)、7 褐色砂(G.5YR4/4)に黒褐色土が混入、8 褐色砂(G.5YR4/3)と浅黄色砂(SB17/4)の混ざりに黒褐色土が混入

SB1209P5: 1 褐色砂(G.5YR4/4)と浅黄色砂(SB17/4)の混ざりに明褐色粘土(G.5YR5/6)が混入、2 明褐色粘土(G.5YR5/6)、3 褐色砂(G.5YR4/4)と浅黄色砂(SB17/4)の混ざり、4 浅黄色砂、5 浅黄色砂(SB17/4)と褐色砂(G.5YR4/4)が若干混入

SB1209P6: 1 明褐色土(G.5YR5/6)、2 褐色砂(G.5YR4/4)、3 褐色砂(G.5YR4/4)と浅黄色砂が混入、4 浅黄色砂(SB17/4)、5 浅黄色砂(SB17/4)と褐色砂(G.5YR4/4)の混ざり、6 浅黄色砂(SB17/4)に褐色砂(G.5YR4/4)が混入、7 浅黄色砂(SB17/4)に褐色砂(G.5YR4/4)が混入、8 褐色砂(G.5YR4/4)と褐色砂(G.5YR4/4)が混入

SB1209P7: 1 褐色砂(G.5YR4/4)と明褐色粘土の混ざり、2 明褐色粘土(G.5YR5/6)、3 褐色砂(G.5YR4/4)に浅黄色砂、4 褐色砂(G.5YR4/4)と明褐色粘土と浅黄色砂の混ざり、5 褐色砂(G.5YR4/4)に浅黄色砂、6 褐色砂(G.5YR4/4)と暗褐色土(G.5YR3/4)と褐色砂(G.5YR4/4)が混入、7 暗褐色砂(G.5YR3/4)と浅黄色砂(SB17/4)、8 暗褐色砂(G.5YR3/4)と浅黄色砂の混ざり、9 暗褐色砂(G.5YR3/4)、10 褐色砂(G.5YR4/4)、11 浅黄色砂(SB17/4)、12 暗褐色砂(G.5YR3/4)に浅黄色砂が混入

SB1209P8: 1 褐色砂(G.5YR4/4)に明褐色粘土が混入、2 暗褐色砂(G.5YR3/4)、3 暗褐色砂(G.5YR3/4)に浅黄色砂と黒褐色土(SB12/1)が混入

図39 中央部孤立柱建物跡⑧ (SB1451+1512 孤立柱建物跡)

[SB1451-SB1512 D-D']

SB1512P1: 1 黒褐色土(OH10R/3)、2 黒褐色土(OH10R/3)と黒褐色粘土(OH10R/2)粒が混入、3 浅黄色砂(SB17/4)に暗褐色土(OH10R/4)が混入、4 暗褐色土(G.5YR3/3)に黒褐色土(OH10R/2)粒と橙褐色土(G.5YR6/6)粒が混入

SB1512P5: 1 暗褐色土(OH10R/3)に浅黄色砂(SB17/4)がわずかに混入、2 褐色土(OH10R/4-4R)、3 暗褐色土(OH10R/3-3/4)、4 黒褐色土(OH10R/3)に黒褐色粘土

V 古代の横出遺構と出土遺物(1掘立柱建物跡)

(1092/2)粒が混入, 5 褐色土(G.591/3)に黒褐色粘土(1092/2)ブロックが混入, 6 褐色土(1091/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざり, 7 暗褐色土(1093/3)に浅黄色砂(2.597/4)が混じる, 8 黒褐色土(1092/2)

SB15297-1 褐色土(1091/4)と暗褐色土(1093/4)の混ざりに炭化物が混入, 2 黒褐色土(1092/2)に褐色土(1091/4)と暗褐色土(1093/4)が混じり黒褐色粘土(1092/2)が混入, 3 暗褐色土(1093/3~3/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒が混入, 4 黒褐色土(1092/2)に黒褐色粘土(1092/2)と褐色粘土(7.598/6)粒が混入, 5 黒褐色土(1092/2)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざり, 6 黒褐色土(1092/2)に褐色土(7.598/4)が混じり黒褐色粘土(1092/2)粒と褐色粘土(7.598/6)粒が混入, 7 暗褐色土(1093/4)と褐色粘土(2.597/4)の混ざり, 8 黒褐色土(1092/2)

【SB1451-SB1512 P-F】

SB15297-1 暗褐色土(1093/3)と黒褐色土(1092/2)の混ざりに浅黄色砂(2.597/4)がわずかに混じり黒褐色粘土(1092/2)粒と褐色粘土(7.598/6)ブロックおよび粒が混入, 2 暗褐色土(1093/3)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒と褐色粘土(7.598/6)粒が少量混入, 3 暗褐色土(1093/3)に黒褐色粘土(1092/2)と浅黄色砂(2.597/4)がわずかに混じり黒褐色粘土(1092/2)粒と褐色粘土(7.598/6)ブロックおよび粒が少量混入, 4 褐色土(7.598/6)と褐色土(7.598/4)の混ざり, 5 浅黄色砂(2.597/4)に暗褐色土(1093/3)が混じり黒褐色粘土(1092/2)粒が少量混入, 6 黒褐色土(1092/2)に暗褐色土(1093/3)が混じり黒褐色粘土(1092/2)粒と褐色粘土(7.598/6)粒が少量混入, 7 暗褐色土(1093/3)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色土(1092/2)と黒褐色粘土(7.598/6)粒が混入, 8 暗褐色土(1093/3)と褐色粘土(7.598/6)粒が混入, 9 黒褐色土(1092/2)に褐色粘土(7.598/6)粒が混入, 10 褐色粘土(7.598/6)と褐色土(7.598/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)と黒褐色粘土(1092/2)粒が混入, 11 褐色粘土(7.598/4)に褐色粘土(7.598/6)ブロックおよび粒と黒褐色粘土(1092/2)粒が混入

【SB1451-SB1512 G-C】

SB15297-1 暗褐色土(1093/3)に黒褐色粘土(1092/2)粒と褐色粘土(7.598/6)ブロックおよび粒が混入, 2 暗褐色土(1093/3)に褐色粘土(7.598/6)粒が混じり黒褐色粘土(1092/2)粒が少量混入, 3 褐色粘土(7.598/6)と黒褐色土(1092/2)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒と褐色粘土(7.598/6)粒が混入, 4 暗褐色土(1093/3)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒と褐色粘土(7.598/6)粒が混入, 5 暗褐色土(1093/3)と褐色粘土(7.598/6)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒と褐色粘土(7.598/6)ブロックが混入, 6 暗褐色土(1093/3)に浅黄色砂(2.597/4)が混じり黒褐色土(1092/2)粒と褐色粘土(7.598/6)粒が混入, 7 暗褐色土(1093/3)と黒褐色土(1092/2)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒と褐色粘土(7.598/6)粒が混入, 8 暗褐色土(1093/3)と褐色土(7.598/4)の混ざりに浅黄色砂(2.597/4)がわずかに混じり黒褐色粘土(1092/2)粒と褐色粘土ブロックおよび粒が混入, 9 黒褐色土(1092/2)と褐色粘土(7.598/6)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒と褐色粘土(7.598/6)粒が混入

図 40 中央部掘立柱建物跡① (SB1513A-B.1625 掘立柱建物跡)

【SB1513A-B 70㍎】

SB15311-1 新建物抜き取り埋土: 暗褐色土(1093/4)と赤褐色土(1091/8~4/6 焼土混じり)の混ざりに明赤褐色土(595/3)ブロックと炭化物が混入, 2 新建物抜き取り埋土: 暗褐色土(1093/4)~褐色土(1091/4)に明赤褐色土(595/3)ブロックが少量混入, 3 新建物埋方埋土: 褐色粘土(7.598/6)と褐色土(1091/4)の混ざり, 4 新建物埋方埋土: 褐色土(1091/4)と明黄褐色粘土(1097/7-6-6)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)ブロックが混入, 5 新建物埋方埋土: 褐色土(1091/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに明黄褐色粘土(1096/6)粒と黒褐色粘土(1092/2)粒が混入, 6 新建物埋方埋土: 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに明黄褐色粘土(1097/6)粒と黒褐色粘土(1092/2)粒が少量混入, 7 旧建物抜き取り埋土: 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒が混入, 8 旧建物抜き取り埋土: 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒が混入, 9 旧建物抜き取り埋土: 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒が混入, 10 旧建物抜き取り埋土: 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒が混入, 11 旧建物埋方埋土: 浅黄色砂(2.597/4)と黒褐色粘土(1092/2)粒が混入, 12 旧建物埋方埋土: 浅黄色砂(2.597/4)と黒褐色粘土(1092/2)粒が混入

SB15312-1 新建物抜き取り埋土: 褐色粘土(7.598/6)と暗褐色土(1093/4)の混ざりに明赤褐色土(595/3)粒が混入, 2 新建物抜き取り埋土: 褐色粘土(7.598/6)に褐色土(1091/4)が混じる, 3 埋土層: 黄褐色砂(1097/7)粒と黒褐色粘土(1092/2)粒と炭化物が混入, 3 新建物抜き取り埋土: 褐色粘土(7.598/6)と暗褐色土(1093/4)の混ざりに黒褐色粘土(1096/6)ブロックと炭化物が混入, 4 新建物抜き取り埋土: 褐色粘土(7.598/6)~明褐色土(7.595/6)と褐色土(1091/4)がわずかに混じる, 5 旧建物抜き取り埋土: 暗褐色土(1093/4)と褐色粘土(7.598/6)の混ざりに浅黄色砂(2.597/4)と黒褐色粘土(1092/2)粒が少量混入, 6 旧建物埋方埋土: 褐色土(1091/4)と暗褐色土(1093/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒と炭化物が混入, 7 旧建物埋方埋土: 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒が少量混入, 8 旧建物埋方埋土: 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒が少量混入, 9 旧建物埋方埋土: 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒が少量混入, 10 暗褐色土(1093/4)に浅黄色砂(2.597/4)と黒褐色粘土(1092/2)粒が混入, 11 旧建物埋方埋土: 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざり, 12 旧建物埋方埋土: 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)粒が混入, 13 浅黄色砂(2.597/4)に暗褐色砂(1093/4)がわずかに混入

SB15313-1 暗褐色砂(1093/4)に浅黄色砂(2.597/4)がわずかに混じる, 2 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)ブロック粒が混入, 3 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)ブロックが混入, 4 褐色砂(1091/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざり, 5 暗褐色砂(1093/4)と浅黄色砂(2.597/4)の混ざりに黒褐色粘土(1092/2)ブロックが混入

【SB1625 73-111 ㍎】

SB1625P-1 暗褐色砂質土(1093/5), 2 に赤黄褐色砂質土(1091/2), 3 褐色砂質土(1091/4), 4 に赤黄褐色砂質土(1095/4), 5 黒褐色砂質土(1092/2)

SB1625P-2 黒褐色砂質土(1092/2), 2 暗褐色砂質土(1093/3), 3 褐色砂質土(1091/4-4/6)

SB1625P-3P-1 暗褐色砂質土(1093/4), 2 褐色砂質土(1091/4), 3 褐色砂質土(1091/6)

SB1625P-5 暗褐色土(1093/4), 2 焼砂層と暗褐色砂(1093/4)と褐色砂(1091/4)の混ざり, 3 褐色土(1091/4)と暗褐色砂(1093/4)の混ざり, 4 暗褐色砂(1093/3-3/4)と褐色砂(1091/4)

SB1625P-6 1 暗褐色砂(1093/4), 2 暗褐色砂(1093/4)に褐色砂(1091/4)が混じる, 3 焼砂層に暗褐色砂(1093/4)と褐色砂(1091/4)が混じる

SB1625P-8 1 黒褐色砂(1092/2)と暗褐色土(1093/4)の混ざり, 2 褐色砂(1091/4)と暗褐色砂(1093/4)の混ざり, 3 暗褐色砂(1093/3-3/4)に浅黄色砂(2.598/4)が混じる, 4 焼砂層と暗褐色砂(1093/4)と褐色砂(1091/4)の混ざり

SB1625P-9 1 褐色砂(1091/4)と暗褐色砂(1093/4)の混ざり, 2 暗褐色砂(1093/4)に褐色砂(1091/4)が混じる, 3 焼砂層と暗褐色砂(1093/4)と褐色砂(1091/4)の混ざり

SB1625P-10 1 褐色砂(1091/4)に暗褐色砂(1093/4)が混じる, 2 褐色砂(1091/4)に暗褐色砂(1093/4)と明黄褐色砂(1098/8)が混じる, 3 明黄褐色砂(1098/8)に浅黄色砂(2.598/4)が混じる

SB1625P-11 1 褐色砂(1091/4)と暗褐色砂(1093/4)の混ざり, 2 暗褐色砂(1093/4)と褐色砂(1091/4-4/6)の混ざり, 3 褐色砂(1091/4-4/6), 4 褐色砂(1091/4-4/6)と浅黄色砂(2.598/4)の混ざり

SB1625P-12 1 暗褐色砂(1093/4)に明黄褐色砂(1098/6)が混じる, 2 焼砂層に暗褐色砂(1093/4)と褐色砂(1091/4)が混じる

図 44 中央部掘立柱建物跡② (SB1925.1928 掘立柱建物跡)

【SB1925P1-P3】

SB1925P1-1 抜き取り埋土: 褐色土(7.598/4)に明褐色粘土(7.595/6)と焼土・炭化物が混入, 2 暗褐色土(7.593/4)に明褐色粘土(7.595/6)ブロックと黒褐色粘土(7.593/2)小ブロックと褐色土(1091/4)と炭化物が若干混入, 3 抜き取り埋土: 褐色土(7.598/4), 4 抜き取り埋土: 褐色土(7.598/6)と焼土・炭化物の混ざり, 5 抜き取り埋土: 褐色土(7.598/4)と焼土・炭化物が多量混入, 5 暗褐色土(7.593/4)と褐色土(1091/6)と明褐色粘土(1091/6)と黒褐色粘土(1091/6)の抜き取り埋土

SB1925P3-1 抜き取り埋土(明褐色埋土層): 明黄褐色粘土(1096/6), 2 抜き取り埋土: 褐色土(7.598/4)に暗褐色土(1092/2)と焼土と炭化物が混入, 3 抜き取り埋土: 褐色土(7.598/4), 3 明黄褐色粘土(1096/6)が若干混入, 4 暗褐色土(7.593/3)に明黄褐色粘土(1096/6)が混入, 5 明黄褐色粘土に褐色土(7.598/4)が混入, 6 褐色土(7.598/4)と浅黄色砂(2.597/4)と明褐色粘土(7.595/6)と黒褐色粘土(7.593/2)が混入

表19 掘立柱建物跡遺構属性一覧(1)
外郭西門跡

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱掘り方	柱底跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図 19-24	92A	SB1986	掘立柱 建物跡 (外郭西 門跡)	6層	桁行2間 9.15m(西 橋北から、 2.9+3.55 +3.3)×梁 間2間 8.95m(南 梁西から、 4.5+4.45)	南北棟 八脚門	N15° E	一辺1.2 ~1.8mの 隅丸方 形、深さ 西側10~ 15cm、東 側30~ 40cm	直径10~ 50cm	SB1987・ SB1988・ SB1989・ SB1990・ SB1991→ →SK2253	102次調査で 再検出、柱底 面の高さ東西 の高低差あり、 西側が低い	8C末・ 9C初	不明	外郭西門 VI期 9C②以降 9C②以降 のSB1987より 新しい
図 19-24	92A	SB1987	掘立柱 建物跡 (外郭西 門跡)	6層(92 次)、V-5層 (102次)	桁行2間 9.6m(東 橋北から、 3.0+3.3 +3.3)×梁 間2間 7.8m(南 梁西から、 3.9+3.9)	南北棟 八脚門	N16° E	一辺1.6 ~2.2m、 深さ西側 50~80 cm、東側 70~80cm	直径36~ 42cm	SB1988・ SB1989・ SB1990・ SB1991・ SK2556→ →SB1986・ SK2557	102次調査で 再検出し、P1- 8柱掘り方を 確認	8C①~ 9C①	掘り方9C ②	外郭西門 V期 9C②以降
図 19-24	92A	SB1988	掘立柱 建物跡 (外郭西 門跡)	6層(92 次)、V-6層 (102次)	桁行2間 8.4m(中 央橋北から、 2.7+3.0 +2.7)×梁 間2間 6.6m(南 梁西から、 3.2+3.0)	南北棟 八脚門	N9° E	一辺1.4 ~2.0m、 深さ20~ 60cm	直径26~ 32cm	SB1989・ SB1990・ SB1991→ →SB1987・ SB1986・ SK2264	102次調査で 再検出し、P9- 10柱掘り方を 確認	8C後半	掘り方8C 末・9C初	外郭西門 IV期 8C末・9C 初以降
図 19-24	92A	SB1989	掘立柱 建物跡 (外郭西 門跡)	6層	桁行2間 11.05m(東 橋北から、 3.4+4.25 +3.4)×梁 間2間 8.4m(南 梁西から、 4.2+4.2)	南北棟 八脚門	N7° E	長軸2.4 ~2.9m× 短軸1.8 ~2.4m、 深さ西側 で20~50 cm、東側 で60~80 cm	直径39~ 42cm	SB1990・ SB1991→ →SB1988・ SB1987・ SB1986・ SA1992	102次調査で 再検出し、P8 柱掘り方の範囲を 修正	8C末・ 9C初	掘り方9C 末・9C初	外郭西門 IV期 8C末・9C 初以降
図 19-24	92A	SB1990	掘立柱 建物跡 (外郭西 門跡)	7層(92 次)、V層(102 次)	桁行2間 10.55m(中 央橋北から、 3.55+3.5) ×梁間2 間6.7m(南 梁西から、 3.4+3.3)	南北棟 八脚門	N13° E	一辺1.6 ~2.6m、 深さ西側 35~75 cm、東側 100cm、不 整形	直径36cm	SB1991→ →SB1989・ SB1988・ SB1987・ SB1986	102次調査で 再検出し、P8 柱掘り方を 確認	8C②?	掘り方8C 後半、抜き 取りの8C末・ 9C初	外郭西門 II期 8C後半構築 後~8C 末・9C初 破壊
図 19-24	92A	SB1991	掘立柱 建物跡 (外郭西 門跡)	7層(92 次)、V-7層 (102次)	桁行2間 10.8m(西 橋北から、 3.6+3.6+3. 6)×梁間2 間6.0m (南から5 列目梁西 から、3.0 +3.0)	南北棟 八脚門	N18° E	一辺1.8 ~2.6m、 深さ西側 30cm、東 側80~ 120cm、方 形	直径39~ 45cm	→SB1990・ SB1989・ SB1988・ SB1987・ SB1986	102次調査で 再検出し、P1- 12柱掘り方を 確認	8C②?	掘り方亦 主	外郭西門 I期 8C②以降

槽状建物跡①

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱掘り方	柱底跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図25	14	SB178	掘立柱 建物跡 (槽状建 物跡)	2層	桁行2間 4.4m(東 橋北から、 2.1+2.3)× 梁間1間 4.3m (北梁4.3)	南北棟 掘立柱 建物 (槽状建 物)	N23° W	直径 1.4m、深さ 0.5~ 0.8m	不明		SD176を併せ、 二時期の変 遷があるか不 明	8C①~ 9C前半		8C①以降

V 古代の検出遺構と出土遺物(1掘立柱建物跡)

表20 掘立柱建物跡遺構属性一覧(2)

槽状建物跡②

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱振り方	柱形状	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図25	19	SB291A・ B	掘立柱 建物跡 (槽状建 物跡)	2層	桁行2間 4.5m(東桁 2.4・ 2.1)×梁 間1間 4.8m(北梁 4.8)	南北棟 掘立柱 建物 (槽状 建物)	N9° W	直径1.3 ～1.5m、 深さ1.2m	直径40cm、 円形		SD292・293を 跨ぐ、二時期 の変遷。 SB291A(新)S B291B(古)	8C④～ 9C前半	掘り方8C ④	SB291A新 段階 SB291B古 段階 8C④以降
図26	52	SB973A・ B	掘立柱 建物跡 (槽状建 物跡)	4層	桁行2間 4.2m(東桁 北から 2.1・2.1)× 梁間1間 4.1m (南梁4.1)	南北棟 掘立柱 建物 (槽状建 物)	N8° E	SB973A(新)直径 0.8～ 1.0m、深さ 40～50cm SB973B(旧)直径 1.0～ 1.5m、深さ 60～90cm	直径30cm、 円形		SA974A・Bを 跨ぐ、二時期 の変遷。 SB973A(新)、 SB973B(古)S B367層で11 三時期の可 能性指摘して いるが、再検 討し二時期の 変遷とした	8C④～ 9C前半		SB973A新 段階 SB973B古 段階 8C④以降
図 26・27	106D	SB2356	掘立柱 建物跡 (槽状建 物跡)	IV-1-①・ ②層	桁行2間 5.2m(南桁 西から 2.6・2.6)× 梁間1間 5.2m(西梁 5.2)	東西棟 掘立柱 建物跡 (槽状建 物跡)	E35° N	直径 1.5m、ゆ がんだ円形	直径32cm	SB2357・ SA2313・ SA235R・ SK2359→	SA2313・2314 を跨ぐ。 SB235と同 位置、新段階	8C末～ 9C前半	掘り方8C 末・9C初、 抜き取り 8C②	新段階 8C末以降
図 26・27	106D	SB2357	掘立柱 建物跡 (槽状建 物跡)	IV-1-①・ ②層	桁行2間 6.8m(南桁 西から 3.4・3.4)× 梁間1間 4.2m(西梁 4.2)	東西棟 掘立柱 建物跡 (槽状建 物跡)	E38° N	直径 1.5m、ゆ がんだ円形	直径35cm	→SB2356・ SA2313	SA2313・2314 を跨ぐ。 SB2356と同 位置、古段階	8C末～ 9C前半		古段階 8C末以降

中央部掘立柱建物跡①

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱振り方	柱形状	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図30	3	SB022	掘立柱 建物跡	4層 (66次)	桁行7間 18.7m(東 桁北から 2.7・2.7・2. 7・2.6・2.6 +2.7・2.7) ×梁間2 間以上(北 東西から 3.0・ …)	南北棟 掘立柱 建物跡	N1° W	1.3～ 1.9m× 1.3～ 2.0mの方 形、深さ35 ～105cm	直径30cm	→SB1452	66次・70次調 査で西側桁 を再検出、3次 防宮調査で 東側3間上の 報告がある が、市調査で は地形削平 により確認で きず	8C② 以前		B-1類
図31	4	SB023	掘立柱 建物跡	4・5層 (66次)	桁行5間 13m(西桁 北から 3.0・3.0・3. 0・3.0・3.0) ×梁間2 間6.0m(北 東西から 3.0・3.0)	南北棟 掘立柱 建物	N1° W	1.0～ 1.5m× 1.1～ 1.8mの方 形または 長軸1.3 ～2.1m× 短軸1.3 ～1.7mの 楕円形、 深さ50～ 105cm	直径30～ 40cm		66次調査で 東側桁を再 検出	8C② 以前		B-1類
図32	21	SB313	掘立柱 建物跡	3層	桁行5間 14.8m(北 桁西から 3・3・3・3・ 2.9)×梁 間2間 6.7m(東梁 北から 3.3・3.4)	東西棟 掘立柱 建物跡	W(° N(° E)	直径1.0 ～1.4m、 深さ40～ 50cm、注 げ円形	南側桁行で 直径25 cm、円形	SI303→	188棟(66 次)において 切り合い関係 再検討、 SB313→ SI303をSI303 →SB313とし、 掘立柱建物 跡と指摘	8C② 以前	掘り方 8C④～ 9C①	C-1類 8C④～ 9C①以降

表21 掘立柱建物跡遺構属性一覧(3)
中央部掘立柱建物跡②

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱脚の方 向	柱面跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図33	21	SB314A・ B	掘立柱 建物跡	3層	桁行6間 18m(東桁 北から 3・3+3+3+ 3)×梁間2 間2間 6m(南梁 西から 3・3)	南北棟 掘立柱 建物跡	N2° W	直径1.3 ~2.0m、 深さ65~ 140cm、方 形もしくは 円形	旧直径40 cm、円形 新直径15 cm	→SB313・ 315・316・ S1307	切り合い関係 で一番古 い。70次で再 検出し、規模 確定。南梁断面 で2回の建 て替え確 認。SB314A(新)、SB314B(古)とした	8C② 以前		B-1期 8C①~ 9C1①廢絶 (8C①~ 9C1①の S1307より 古い)
図32	21	SB315	掘立柱 建物跡	3層	桁行1間 3.5m(北桁 3.5)に西 廊1間 1.3m(1.3 ×梁間2 間3.2m (西梁北か ら1.6+	東西棟 掘立柱 建物跡	N3° W	直径60 cm、深さ35 cm、円形	直径20cm、 円形	SB314→		8C② 以前		D期
図34	21	SB316	掘立柱 建物跡	3層	桁行3間 8.0m(西桁 北から 2.7・2.7・2. 6)×梁間2 間1.8m(南 梁西から 2.4・2.0	南北棟 掘立柱 建物跡	N6° W	長軸1.9 ~2.0m× 短軸1.2 ×1.8m、 深さ1.0~ 1.2m、楕 円形	不明	SD1630・ SB314→	73次で再検 出、規模確 定。73次調査 で、南西隅柱 付近のピット から丸轆出土	8C② 以前	抜き取り 8C④	B-3期 8C①廢絶
図32	21	SB318	掘立柱 建物跡	3層	桁行2間 1.7m(西桁 北から2.3 +2.4)×梁 間2間 3.6m(北 梁西から 1.8・1.8)	南北棟 掘立柱 建物跡	N2° W	直径40~ 90cm、円 形、深さ40 ~50cm	直径20cm、 円形		70次で再検 出、規模確定	8C② 以前		D期
図35	59	SB1207	掘立柱 建物跡	2層	桁行6間 以上19.8 m以上(東 桁北から 3.3+3.3+3. 3+3.3+3.3 ×梁間2 間6.6m (北梁西か ら3.3+ 3.3)	南北棟 掘立柱 建物跡 南北3 間ごと に間仕 切りあ り。2箇所 検出。	N3° W	柱廻り方 直径1.5 mの方形 または直 径1.5~ 1.7mの円 形、深さ60 ~100 cm。 間仕切り 廻り方直 径1~1.2 mの円形	直径10cm	SB1208・ SB1209→		8C② 以前		B-1期
図36	59	SB1208	掘立柱 建物跡	2層	桁行5間 14.5m以 上(東桁北 から3・3 +3・3+2.5) ×梁間2 間6m(北 梁西から 3・3)	南北棟 掘立柱 建物跡	N3° W	直径1.5 ~2.0mの 円形、深さ 60~90cm	不明	SB1209→ →SB1207		8C② 以前		B-1期
図36	59	SB1209	掘立柱 建物跡	2層	桁行7間 以上 18.4m以 上(西桁北 から2.7・ 2.7+2.6+2. 6+2.6+2.6 +2.6+…) ×梁間3 間7.5m(北 梁西から 2.5+2.5+2. 5)	南北棟 総柱式 掘立柱 建物跡	真北	直径1.5 ~2.0mの 円形また は1辺1.4 ~1.8mの 不整形 方形、深さ60 ~100cm	直径10~ 50cm	→SB1208・ SB1207	重複関係で 一番古い	8C② 以前		A期

V 古代の検出遺構と出土遺物（1掘立柱建物跡）

表22 掘立柱建物跡遺構属性一覧(4)
中央部掘立柱建物跡③

図No.	調査 次数	遺構 番号	類別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱掘り方	柱痕跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図37	66	SB1448	掘立柱 建物跡	4層	桁行2間 以上6m以 上(北南東 から3.0× 1.1)×梁間 2間(3.6 m(東東北 から1.8 +1.8))	東西棟 掘立柱 建物跡	N4° W	直径50～ 80cmの円 形,深さ20 ～15cm	不明			8C② 以前		D類
図38	66	SB1449+ 1450	掘立柱 建物跡	3・4層	桁行6間 18.15m(西 桁北から 3.0×3.0×3. 0×3.15×3. 2間×2間× 2間)2間 7.2m(南梁 間から 3.6×3.6)	南北棟 総柱式 掘立柱 建物跡	北側の SB1450 12° E,南側 のSB 1449は N3° E	直径50～ 110cmの 円形,深さ 25～70cm	直径20cm		SB144966次) とSB 145066次)で 一つの建物 で双倉々,北 側SB1450と 南側SB 1449の桁行き 間は14個で 3.15m,東側で 3.3mで建物 の桁行き間隔 よりやや広い, 建物方位もそ れぞれ若干 異なる	8C②?		C-1類 8C②以降
図39	66	SB1451+ SB1512	掘立柱 建物跡	3・4・5層	桁行6間 20.8m(東 桁北から 3.6×3.6×3. 6×3.4×3.3 +3.3)×梁 間2間 6.6m (南梁西か ら3.3×3.3)	南北棟 総柱式 掘立柱 建物跡	北側の SB1512 12° N1° E,南側 のSB 1451は 真北	90×100 cmの方形 且L.L.は 長軸100 ～140cm ×短軸70 ～115cm の楕円 形,深さ55 ～100cm	直径15～ 20cm	SK1522→	SB1451は70 次で北側検 出,規模確 定,SB145166 次とSB 151270次)で 一つの建物 で双倉々,北 側SB1451と 南側SB 1451の桁行き 間は3.4mで 建物の桁行き 間隔と異なる, 建物方位もそ れぞれ若干 異なる	8C②?		C-1類 8C②以降
図37	66	SB1452	掘立柱 建物跡	4・5層	桁行2間 5.5m(東桁 北から 2.7×2.8 m)×梁間 1間(2.4m (南梁2.4))	南北棟 掘立柱 建物跡	N5° W	直径20～ 45cmの円 形,深さ10 ～25cm	不明	SB022→		8C② 以前		D類
図40	70	SB1513A ・B	掘立柱 建物跡	3層	東西1間 以上3.6m 以上(西か ら5.3,6+1) ×南北1 間以上 3.3m以上 (南から 3.3m)	掘立柱 建物跡	N1° W	長軸2.0m ×短軸 1.5～ 1.8mの楕 円形,深さ 1.4～ 1.5m	直径60 cm,新直径 30cm		新田二時期 あり,SB1513A(新), SB1513B(古) といた	8C②?	掘り方8C 後半	B-1類 8C後半以 降
図40	73	SB1625	掘立柱 建物跡	4層(73 次),V-1 層(1118)	桁行5間 12.6m(北 桁西から 2.7×2.4+2. 1+2.7+2.7) ×梁間2 間(6.4m(東 北から 3.1×3.3))	東西棟 総柱式 掘立柱 建物跡	W0° N (真北)	直径0.8 ～1.2m以 上,深さ10 ～20cm, 隅丸方形 もしくは 楕円形	直径30cm		111次(0E0) で再検出,規 模確定,桁行 き北から3間 目が2.1mとな り等間隔でない	8C①～ 8C①	掘り方8C ①～9C①	C-1類 8C①～ 8C①以降

表23 掘立柱建物跡遺構属性一覧(5)
中央部掘立柱建物跡④

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱脚の方 形	柱底跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図41	85	SB1798	掘立柱 建物跡	A区,7層	桁行5間 14.75m(東 折北から 3.0× 0.0)+3.0× 2.75+3.0 ×梁間3 間以上 2.7m以上 (南梁東か ら2.7***)	南北棟 掘立柱 建物跡	N1° W	一辺1.6 ~1.8mの 隅丸方 形,深さ 1.0~ 1.2m	直径28~ 30cm		抜き取り 後,9C②-⑥ 層により埋め 戻され,周辺 を敷地	8C② 以降, 9C④ 以前	B-1層 8C後半~ 9C③	
図42	89	SB1922	掘立柱 建物跡	B区,8層	桁行6間 以上18.0 m以上(西 折南から 3.0×3.0×3. 0+3.0×3.0 ×3.0***) ×梁間3 間以上 8.4m以上 (南梁西か ら3.0× 3.0+2.4***)	南北棟 掘立柱 建物跡	N2° W	一辺1.9 ~2.0m, 深さ1.0~ 1.2m,方 形	直径33~ 42cm,炭化 柱材が遺 存してい るものもあ り	SB1923→	炭化柱材の 遺存と柱抜き 取りに多量の 炭化物が混 入,火災により 焼失,炭化 柱材2点はス ズと同定,別 編2-2参照	8C②??	抜き取り 8C④	B-2層 8C④/腐地
図42	89	SB1923	掘立柱 建物跡	B区,8層	桁行6間 以上,梁間 3間以上, SB1922 と同位置 で,同規 模	南北棟 掘立柱 建物跡	不明	一辺1.9 ~2.3m, 深さ1.0~ 1.2m,方 形	不明だ が,SB1922 と同規模	→SB1922	SB1922と同 位置,SB1922 より古く,柱掘 り方は1回り大 きい	8C②??	掘り方8C 後半	B-2層 8C後半以 降
図43	89	SB1924	掘立柱 建物跡	B-C区,8 層	桁行3間 以上7.2m 以上(東折 北から 3.0×3.6***)+梁間3 間10.1m (南梁西か ら3.3×3.3 +3.0)	南北棟 掘立柱 建物跡	N2° W	一辺1.6 ~2.0m, 深さ0.2~ 1.0m,隅 丸方形	直径30~ 36cm	→SD1936	掘出土	8C②??		B-2層
図44	89	SB1925	掘立柱 建物跡	A区,8層	桁行4間 14.3m(南 折西から 3.5×3.6×3. 6+3.6)× 梁間3間 以上6m以 上(東梁南 から*** +3.0×3.0× ***)	東西棟 總柱式 掘立柱 建物跡	W3° S (N3° W)	一辺1.0 ~1.5m, 深さ0.2~ 1.0m,隅 丸方形	直径27~ 30cm	SB1928→	炭化柱材1点 はサク属と 同定,別編2- 2参照	8C②??	抜き取り 9C前半	C-2層 9C前半/腐 地
図43	89	SB1926	掘立柱 建物跡	C区,7層	東西1間 以上3.3m 以上(*** 3.3***)	掘立柱 建物跡	W3° S (N3° W)	一辺1.6 ~2.0m, ややゆが んだ円形	不明	→SA1933- SD1934		8C④~ 9C①	抜き取り 9C①	分類不明 8C④~ 9C①~ 9C④/腐地
図43	89	SB1927	掘立柱 建物跡	D区,9層	南北2間 以上3m以 上(*** +3.0***)	掘立柱 建物跡	N2° W	一辺1.6m 以上,隅 丸方形	不明		梁間・桁行き 間数が不明 だが,配置は B-1層	8C②以前		B-1層??
図44	89	SB1928	掘立柱 建物跡	A区,8層	南北2間 以上5.4m 以上(南か ら*** +2.7×2.7× ***)×東 西1間 3.6m以上 (西から 3.6***)	掘立柱 建物跡	N3° E	平面形不 明,深さ50 ~60cm	直径21cm	→SB1925		8C②??		分類不明 9C前半以 前/9C前半 の SB1925 (89C)より 古い)

V 古代の検出遺構と出土遺物(1掘立柱建物跡)

表24 掘立柱建物跡遺構属性一覧(6)
南西部掘立柱建物跡

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱掘り方	柱痕跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図46	96	SB2064	掘立柱 建物跡	6層	桁行3間 4.0m(南折 西から) 1.35~1.25 +1.4×梁 間2間 1.8m(東梁 北から 0.9+0.9)	東西棟 総柱式 掘立柱 建物跡	W19° N (N19° E)	-辺0.8 ~1.1m, 深さ10~ 15cm,隅 丸方形	直径18~ 21cm	SB2065~ SA2066→ →SI2071	城内区画施 設外	9C④	掘り方 9C④ 以降	D層 9C④以降
図46	96	SB2065	掘立柱 建物跡	8層(96 次),IV層 (108次)	桁行2間 4.7m(西折 北から) 2.5+2.2)× 梁間1間 2.7m (南梁2.7)	南北棟 掘立柱 建物跡	N10° E	-辺1.3 ~1.5m, 深さ20~ 45cm,ゆ がんだ方 形	直径18~ 20cm	SK2477→ →SB2064・ SK2480・ SA2455	108次で再検 出し,規模確 定鉄線出土 (108次)	9C④~ 9C①	掘り方9C 前半,抜き 取99C③	A層 9C前半横 溝~9C④ 腐絶
図46	99	SB2140	掘立柱 建物跡	4~2層	東西1間 以上1.8m 以上(北1.8) ×南北1 間1.4m以 上	掘立柱 建物跡	N4° W	-辺0.6 ~0.7m, 深さ4~ 32cm,ゆ がんだ円 形	直径21cm		跡先出土	9C④		B層 9C④以降
図46	99	SB2141	掘立柱 建物跡	7層	南北3間 以上2.6,0 以上(北小 53.0-3.0)	掘立柱 建物跡	N14° E	-辺1.4 ~1.6m, 深さ20~ 40cm,隅 丸方形	不明	→SK2163		8C③	抜き取り 8C後半	C層 8C③以降 ~9C③以 前(9C③ のSK2163 より古)
図47	108	SB2454	掘立柱 建物跡	A区,IV 層	東西1間 以上2.8m 以上(西か 5.2,8+ ...),南北2 間以上 6.6m以上 (南から 3.3+3.3+ ...)	掘立柱 建物跡	N10° E	直径約 20cm~ 40cm,ゆ がんだ円 形	不明		不明鉄製品 出土	8C④~ 9C①		A層 8C④~ 9C①以降
図47	112	SB2545	掘立柱 建物跡	V層	桁行2間 5.4(北折 西から) 2.7+2.7)× 梁間1間 1.8m	東西棟 掘立柱 建物跡	W7° N	直径50~ 80cm,深さ 15cm,円 形	不明			8C④	掘り方 9C②	A層 9C②以降
図47	116	SB2584	掘立柱 建物跡	V層	桁行2間 以上4.6m 以上(北折 西から) 2.4+2.2+ ...×梁間2 間以上 3.4m以上 (西梁北か ら1.8+ 1.6+...)	東西棟 掘立柱 建物跡	N15° W	直径1.3 ~1.5m, 深さ20cm, 円形	直径10cm	SK2590→	城内区画施 設外	8C④	掘り方 9C①	C層 9C③以降 (9C②の SK2590よ り新し)

北西部掘立柱建物跡

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱掘り方	柱痕跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図47	104	SB2272	掘立柱 建物跡	III~3層	南北1間 3.6m以上 (西から ...+3.6 m)	東西棟 掘立柱 建物跡	N6° W	直径2.2m 以 上,1.4m 以上,深さ 80~100 cm	直径30cm		SA2276-2277 を跨ぐ	8C④~ 9C①以降	掘り方 9C前半	9C前半以 降

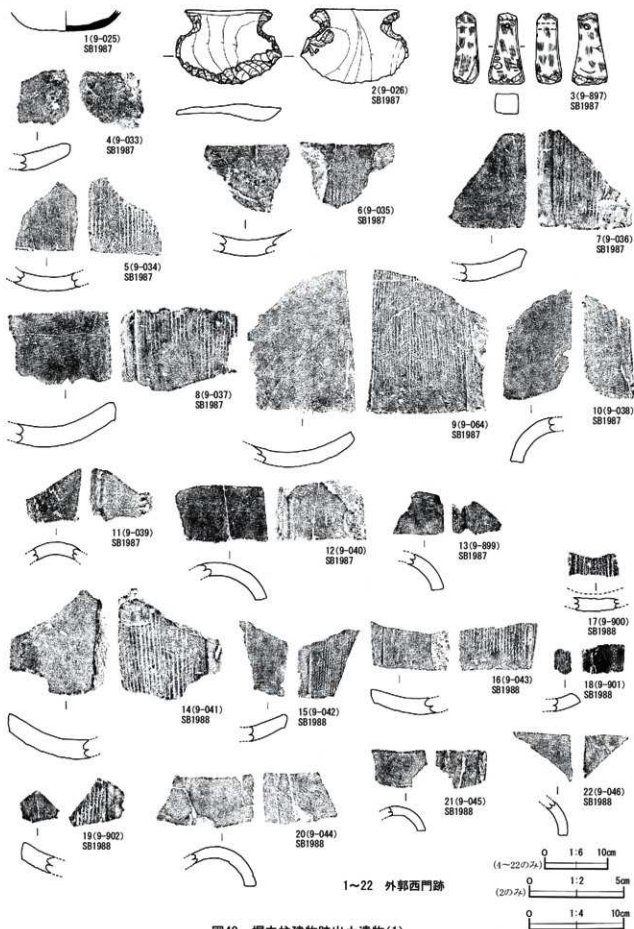


図48 掘立柱建物跡出土遺物(1)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (1) 掘立柱建物跡

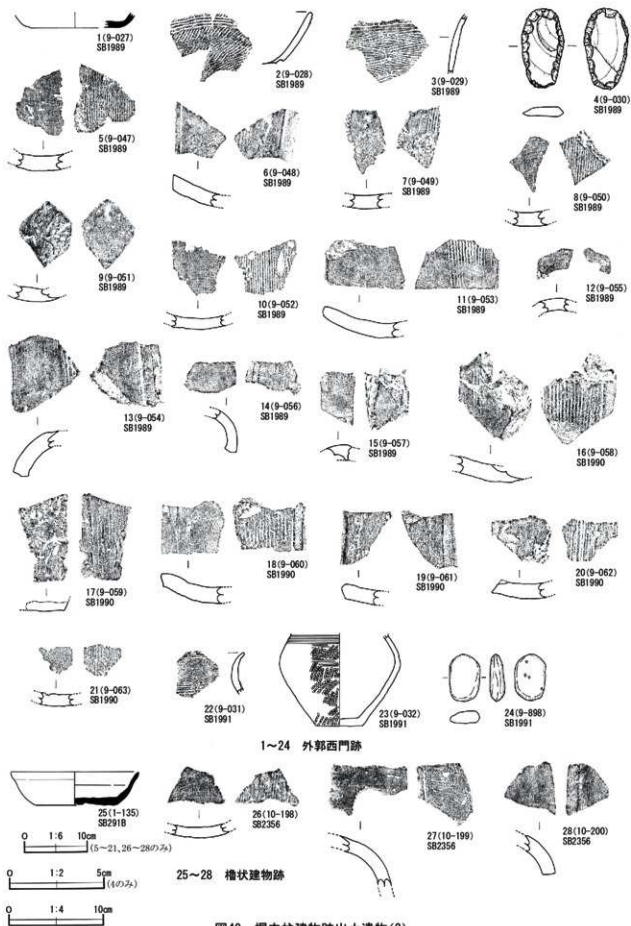


図49 掘立柱建物跡出土遺物(2)

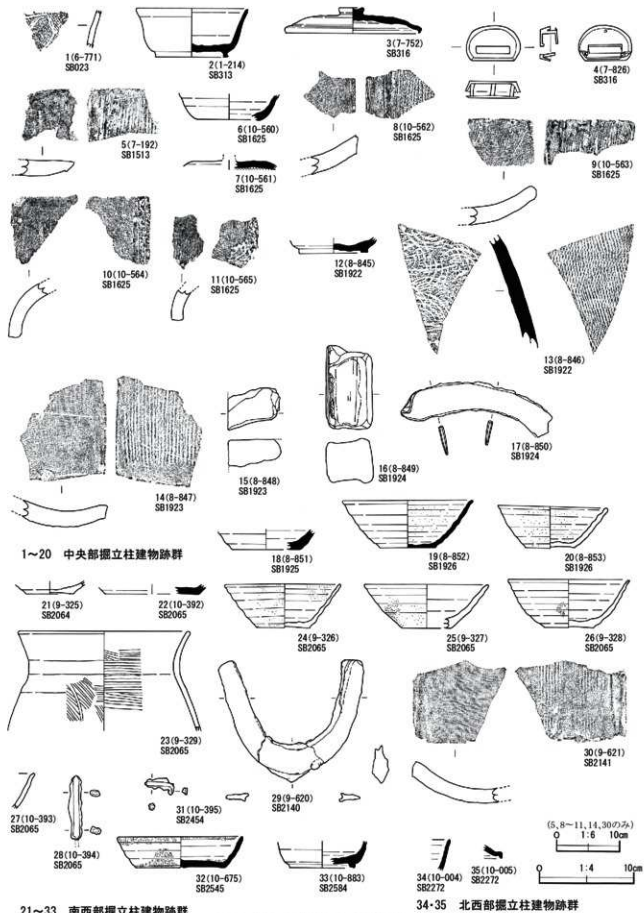


図50 掘立柱建物跡出土遺物(3)

V 古代の検出遺構と出土遺物(1)掘立柱建物跡

表25 掘立柱建物跡出土遺物一覽(1)
外郭西門跡①

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図8-1	92A	9-025	須恵器	坏	SB1987,P1柱 廻り方理土	-	-	9.6	底部へつ切り後、廻りナデ調整、底部内面に「上」、体部 下半に不明書	9C②
図8-2	92A	9-026	石器	石匙	SB1987,P1柱 廻り方理土	-	-	-	珪質頁岩	
図8-3	102	9-897	石製品	砥石	SB1987,P4柱 跡底面	-	-	-	4面使用、上部に穿孔	
図8-4	92A	9-033	瓦	平瓦	SB1987,P6柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成やや 不良、軟質、灰白色、摩滅著しい	1-1群
図8-5	92A	9-034	瓦	平瓦	SB1987,P10柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成良好、 硬質、灰色、凸面に砂粒が目立つ、摩滅している	2群
図8-6	92A	9-035	瓦	平瓦	SB1987,P12柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成良好、 やや軟質、黒色(いぶし焼成)、凸面に砂粒が目立つ、 摩滅著しい	1-3群
図8-7	92A	9-036	瓦	平瓦	SB1987,P12柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成良好、 やや軟質、灰色～灰黄色、摩滅著しい	1-2群
図8-8	92A	9-037	瓦	平瓦	SB1987,P12柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成良好、 軟質、褐灰色～黄灰色、凸面に砂粒が目立つ、摩滅し ている	1-2群
図8-9	92A	9-064	瓦	平瓦	SB1987,P1柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕と糸切り肌、 焼成堅緻、硬質、青灰色～灰色、凸面に砂粒が目立つ	2群
図8-10	92A	9-038	瓦	丸瓦	SB1987,P11柱 廻り方理土	-	-	-	凸面ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成やや不良、やや軟 質、黒色(いぶし焼成)、摩滅している	1-3群
図8-11	92A	9-039	瓦	丸瓦	SB1987,P12柱 廻り方理土	-	-	-	凸面ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成やや不良、やや軟 質、灰白色、摩滅著しい	1-1群
図8-12	92A	9-040	瓦	丸瓦	SB1987,P11柱 廻り方理土	-	-	-	凸面ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成良好、硬質、褐灰色 ～黄灰色、摩滅している	1-2群
図8-13	102	9-899	瓦	丸瓦	SB1987,P8柱 廻り方理土	-	-	-	凸面ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成良好、軟質、黒色 (いぶし焼成)、摩滅している	1-3群
図8-14	92A	9-041	瓦	平瓦	SB1988,P6柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成良好、 やや軟質、黒色～灰白色	1-2群
図8-15	92A	9-042	瓦	平瓦	SB1988,P5柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成良好、 硬質、黄灰色～灰黄色	1-2群
図8-16	92A	9-043	瓦	平瓦	SB1988,P7柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、凸凹面に 板状工具によるナデ調整、焼成良好、硬質、暗灰色	3群
図8-17	102	9-900	瓦	平瓦	SB1988,P9柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面摩滅しており不明、焼 成良好、硬質、灰黄色	3-2群
図8-18	102	9-901	瓦	平瓦	SB1988,P10柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成良好、 軟質、黒色(いぶし焼成)	1-3群
図8-19	102	9-902	瓦	平瓦	SB1988,P10柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成良好、 灰色、軟質	1-2群
図8-20	92A	9-044	瓦	丸瓦	SB1988,P5柱 廻り方理土	-	-	-	有段、凸面ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成やや不良、や や軟質、褐色～黄褐色、摩滅している	1群
図8-21	92A	9-045	瓦	丸瓦	SB1988,P5柱 廻り方理土	-	-	-	有段(玉縁部分)、凸面ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成 やや不良、やや軟質、褐色～黄褐色、摩滅している	1群
図8-22	92A	9-046	瓦	丸瓦	SB1988,P5柱 廻り方理土	-	-	-	有段(玉縁部分)、凸面ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成 やや不良、やや軟質、黄灰色～灰黄色、摩滅している	3-2群
図9-1	92A	9-027	須恵器	坏	SB1989,P11柱 抜き取り理土	-	-	9.4	底部へつ切り後、ナデ調整	8C③～9C①
図9-2	92A	9-028	弥生土器	鉢	SB1989,P1柱 廻り方理土	-	-	-	小型、口縁部外面3条の平行沈線、平行沈線の下部に 列点文、溝文、J3	弥生中期前葉
図9-3	92A	9-029	弥生土器	不明	SB1989,P9柱 廻り方理土	-	-	-	重葺形文状の平行沈線を組み合わせた変形上字文	弥生中期後葉
図9-4	92A	9-030	石器	石匙	SB1989,P1柱 廻り方理土	-	-	-	珪質頁岩	
図9-5	92A	9-047	瓦	平瓦	SB1989,P10柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成良好、 やや軟質、黒色～灰白色、摩滅している	1-2群
図9-6	92A	9-048	瓦	平瓦	SB1989,P11柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成良好、 やや軟質、黒色(いぶし焼成)、摩滅している	1-3群
図9-7	92A	9-049	瓦	平瓦	SB1989,P11柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成良好、 硬質、青灰色～灰色、凸面に砂粒が目立つ	2群
図9-8	92A	9-050	瓦	平瓦	SB1989,P10柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成良好、 硬質、青灰色～灰色、凸面に砂粒が目立つ	2群
図9-9	92A	9-051	瓦	平瓦	SB1989,P10柱 抜き取り部分理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成やや 不良、軟質、灰白色、摩滅著しい	1-1群
図9-10	92A	9-052	瓦	平瓦	SB1989,P5柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成堅緻、 硬質、灰色～黄灰色～にぶい黄色	3-2群
図9-11	92A	9-053	瓦	平瓦	SB1989,P10柱 廻り方理土	-	-	-	一枚作り、凸面鑿目叩き肌、凹面布目圧痕、焼成堅緻、 硬質、暗灰色～黄灰色	3-1群
図9-12	92A	9-055	瓦	丸瓦	SB1989,P11柱 抜き取り理土	-	-	-	凸面ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成やや不良、やや軟 質、褐色～黄褐色、二次的焼成、摩滅している	不明
図9-13	92A	9-054	瓦	丸瓦	SB1989,P12柱 抜き取り理土	-	-	-	凸面ナデ調整、凹面布目圧痕、焼成良好、軟質、黒色 (いぶし焼成)	1-3群

表26 据立柱建物跡出土遺物一覽(2)
外郭西門跡②

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図49-14	92A	9-056	瓦	丸瓦	SB1989_P9柱抜き取り埋土	-	-	-	有段(±縁接合部分)、凸面ナヅ調整、凹面布目圧痕、焼成やや不良、やや軟質、褐色～黄褐色	4-1群
図49-15	92A	9-057	瓦	丸瓦	SB1989_P9柱掘り方埋土	-	-	-	有段(±縁接合部分)、凸面ナヅ調整、凹面布目圧痕、焼成良好、硬質、灰色～黄灰色、にぶい黄色、摩耗している	3-2群
図49-16	92A	9-058	瓦	平瓦	SB1990_P9柱掘り方埋土	-	-	-	一枚作り、凸面縄目印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、やや軟質、黒色(いぶし、焼成)、摩滅している	1-3群
図49-17	92A	9-059	瓦	平瓦	SB1990_P5柱掘り方埋土	-	-	-	一枚作り、凸面縄目印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、やや軟質、灰白色～黄灰色、摩滅している	1-1群
図49-18	92A	9-060	瓦	平瓦	SB1990_P11柱掘り方埋土	-	-	-	一枚作り、凸面縄目印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、硬質、暗灰色～灰色、凸面に砂粒が目立つ	2群
図49-19	92A	9-061	瓦	平瓦	SB1990_P9柱抜き取り埋土	-	-	-	一枚作り、凸面縄目印き痕、凹面布目圧痕、焼成堅固、硬質、暗灰色～灰色、凸面に砂粒が目立つ	3-1群
図49-20	92A	9-062	瓦	平瓦	SB1990_P7柱抜き取り埋土	-	-	-	一枚作り、凸面縄目印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、やや軟質、灰白色～黄灰色、摩滅している	4-2群
図49-21	92A	9-063	瓦	平瓦	SB1990_P2柱抜き取り埋土	-	-	-	一枚作り、凸面縄目印き痕、凹面布目圧痕、焼成堅固、硬質、灰色、凸面に砂粒が目立つ	2群
図49-22	92A	9-031	弥生土器	甕	SB1991_P2柱掘り方埋土	-	-	-	外面へラ切調整後、口縁部端付近と頸部付近に平行沈滲	弥生中期 中葉
図49-23	92A	9-032	弥生土器	甕	SB1991_P2柱掘り方埋土	-	-	4.8	頸部平行沈滲、縄文IR、頸部横位・体部縦位の赤彩、口縁部欠損	弥生中期 中葉
図49-24	102	9-898	礫	自然礫	SB1991_P12柱掘り方底面	-	-	-	泥岩	

槽状建物跡

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図49-25	19	1-135	須恵器	坪	SB2911柱掘り方埋土	13.6	3.6	8.5	底部へラ切後、軽いなヅ調整、底部外面に「上」の墨書	8C④
図49-26	106D	10-198	瓦	平瓦	SB2356_P1掘り方埋土	-	-	-	一枚作り、凸面縄目印き痕、凹面布目圧痕と糸切刃痕、焼成やや不良、軟質、にぶい黄灰色	4-2群
図49-27	106D	10-199	瓦	丸瓦	SB2356_P1抜き取り埋土	-	-	-	凸面ナヅ調整、凹面布目圧痕、焼成やや不良、灰白色、軟質、摩耗している	1-1群
図49-28	106D	10-200	瓦	丸瓦	SB2356_P9掘り方埋土	-	-	-	凸面ナヅ調整、凹面布目圧痕、焼成やや不良、灰白色、軟質、摩耗している	1-1群

中央部据立柱建物跡群①

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図50-1	66	6-771	縄文土器	不明	SB023東側平行柱列柱掘り方埋土	-	-	-	無文系を施文後、数条の沈線による文様	縄文後期
図50-2	21	1-214	須恵器	台付坪	SB313_P11柱掘り方埋土	11.8	5.2	7.6	底部へラ切刃、高台周辺ナヅ調整、底部外面に「×」のヘア記号	8C④～9C①
図50-3	73	7-752	須恵器	蓋	SB316_P5柱掘り方抜き取り埋土	14.0	2.7	-	天井部へラ切刃後、ナヅ調整、内外面に重ね焼き痕	8C④
図50-4	73	7-826	金属製品	鈿帯(丸輪)	SB316_P4-P6間の小ピット埋土	-	-	-	銅製、裏金一部破損	
図50-5	70	7-192	瓦	平瓦	SB1513_P11柱掘り方埋土	-	-	-	凸面縄目印き痕、凹面布目圧痕と一部布目圧痕をヘア状または板状工具によって軽く凹印して消す、焼成良好、硬質、青灰色、凸面に砂粒が目立つ	2群
図50-6	111	10-560	須恵器	坪	SB1625_P4柱掘り方埋土	-	-	7.2	底部へラ切後ナヅ調整	8C④～9C①
図50-7	111	10-561	須恵器	蓋	SB1625_P4柱掘り方埋土	-	-	-	天井部内面を破に転用	8C④～9C①
図50-8	111	10-562	瓦	平瓦	SB1625_P2柱掘り方埋土	-	-	-	一枚作り、凸面縄目の印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、硬質、灰色、砂粒多い	2群
図50-9	111	10-563	瓦	平瓦	SB1625_P2柱掘り方埋土	-	-	-	一枚作り、凸面縄目の印き痕、凹面布目圧痕と糸切刃痕、焼成不良、軟質、灰白色	1-2群
図50-10	111	10-564	瓦	丸瓦	SB1625_P4柱掘り方埋土	-	-	-	凸面ナヅ調整、凹面布目圧痕と糸切刃痕、焼成やや不良、やや軟質、灰白色	1-1群
図50-11	111	10-565	瓦	丸瓦	SB1625_P4柱掘り方埋土	-	-	-	凸面縄目印き痕、ナヅ調整、凹面布目圧痕と糸切刃痕、焼成やや不良、軟質、灰白色～黒色(いぶし、焼成)、摩耗している	1-3群
図50-12	89	8-845	須恵器	台付坪	SB1922_P7柱掘り方抜き取り埋土	-	-	7.3	底部へラ切刃、高台取り付け後、高台周辺ナヅ調整	8C④
図50-13	89	8-846	須恵器	甕	SB1922_P7柱掘り方埋土	-	-	-	外面平行印き目、内面同心円状の当て具痕	
図50-14	89	8-847	瓦	平瓦	SB1923_P9柱掘り方埋土	-	-	-	一枚作り、凸面縄目印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、硬質、青灰色、砂粒目立つ	2群

V 古代の検出遺構と出土遺物（1掘立柱建物跡）

表27 掘立柱建物跡出土遺物一覧(3)
中央部掘立柱建物跡群②

図版番号	次敷	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図50-15	89	8-848	埴	-	SD1923,P9柱廻り方理土	-	-	-	軟質,灰白色	
図50-16	89	8-849	石製品	砥石	SD1924,P5柱抜き取り理土	-	-	-	1面使用	
図50-17	89	8-850	鉄製品	鎌	SD1924,P5柱抜き取り理土	-	-	-	刃先直角,刃部内反り,木柄装着部の折返しは,刃部に対して直角	
図50-18	89	8-851	須恵器	坏	SD1925,P7柱抜き取り理土	-	-	7.2	底部へラ切り後,ナゲ調整	9C前半
図50-19	89	8-852	須恵器	坏	SD1926,P1柱廻り方抜き取り理土	13.8	5.0	5.8	底部糸切り	9C④
図50-20	89	8-853	赤褐色土器	坏A	SD1926,P1柱廻り方抜き取り理土	11.6	4.4	5.2	底部糸切り	9C④

南西部掘立柱建物跡群

図版番号	次敷	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図50-21	96	9-325	赤褐色土器	皿	SD2064,P8柱廻り方理土	-	-	5	底部糸切り	9C④以降
図50-22	108	10-392	須恵器	坏	SD2065,P6廻り方理土	-	-	10	底部切り離し不明	9C前半
図50-23	96	9-329	土師器	甕	SD2065,P3柱廻り方理土	18	-	-	長胴形,内外面口縁部から頸部にナゲ調整,外面の体部上半に縦方向のハケ目調整,内面の頸部から体部上半に横方向のハケ目調整	9C以降
図50-24	96	9-326	赤褐色土器	坏A	SD2065,P1柱抜き取り理土	12.4	4.6	5.6	底部糸切り,強い二次的被熱痕	9C④
図50-25	96	9-327	赤褐色土器	坏A	SD2065,P2柱抜き取り理土	13.2	4.6	5.2	底部糸切り,二次的被熱痕	9C④
図50-26	96	9-328	赤褐色土器	坏A	SD2065,P1柱抜き取り理土	13.0	5.1	5.0	底部糸切り	9C④
図50-27	108	10-393	赤褐色土器	坏A	SD2065,P6抜き取り理土	10.4	-	-	口縁部破片	9C代
図50-28	108	10-394	鉄製品	鉄鏃	SD2065,P5抜き取り理土	-	-	-	残存長66.8mm,基部分欠損	
図50-29	99	9-620	鉄製品	鋤先	SD2140,柱廻り方理土	-	-	-	鋤の刃先	
図50-30	99	9-621	瓦	平瓦	SD2141,P2柱抜き取り理土	-	-	-	一枚作り,内面縄目の印き痕,内面布目圧痕,焼成良好,硬質,灰色	2群
図50-31	108	10-395	鉄製品	不明	SD2454,P5抜き取り理土	-	-	-		
図50-32	112	10-675	須恵器	坏	SD2545,P9柱廻り方理土	13.2	3.3	9.3	底部へラ切り後,軽イナゲ調整	9C②
図50-33	116	10-883	須恵器	台付坏	SD2584,P5柱廻り方理土	-	-	6.8	底部へラ切り後,高台取り付け,高台周辺ナゲ調整,焼成堅固	9C①

その他の掘立柱建物跡

図版番号	次敷	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図50-34	104	10-001	須恵器	坏	SD2272,P1柱廻り方理土	-	-	-	口縁部破片	9C前半
図50-35	104	10-005	須恵器	蓋	SD2272,P1柱廻り方理土	-	-	-	蓋破片	9C前半

第2節 区画施設（図51～76、表28～36）

ここで述べる区画施設は、基本的には地上部に何らかの上部構造をもつ遺構を扱う。具体的には、築地堀跡（SF）、材木堀跡（SA）、柱列跡（SA）である。したがって、上部構造をもたない溝（SD）はここでは扱わず後述する。ただし、外郭線の構成要素の一部である大溝（SD976）は本節で扱う。なお、布張り溝を伴い材木を建て並べる構造のものを「材木堀跡」と総称する。また、材木の柱痕跡が確認できた場合、材木の間隔がやや空いているものを「柱列堀跡」、間隔があまりなく材木を密に建て並べたものを「材木列堀跡」と呼び分けている。また、柱掘り方が一定の間隔で2基以上連続するものを「柱列跡」と呼ぶ。

焼山地区で検出された区画施設は、その性格と配置から3つに分けられる。一つ目は外郭線を構成する一群で、二つ目は南西部で方形の城内区画を構成する一群、三つ目はそれ以外である。以下、この順序で報告する。

1 外郭区画施設（図51～67、表28～32）

秋田城の外郭線を構成する区画施設群である。14次、19次、52次、86次、92次、102次、104次、105次A区・B区・D区・E区、106次C区・D区・E区、115次、116次、117次C-2区の調査地点で49基（条）確認されている。基本的には台地上の縁辺に配置されるが、19次調査地および52次調査地北部では沢状地形を通過している。地形の形状により区画施設の種類の種類には変化はない。

外郭区画施設は、外郭線を構成する位置にある一群（Ⅰ～Ⅳ類）と、これらとは位置を異にする一群（Ⅴ類）に大きく分けられ、さらに遺構の特徴によりⅤ類は3種に細分される（Ⅴ-1～3類）。具体的には、Ⅰ・Ⅱ類は築地堀跡、Ⅲ・Ⅳ類は材木堀跡である。Ⅰ類の築地堀跡をほぼ同位置で積み直したり補修したものをⅡ類の築地堀跡としている。Ⅲ・Ⅳ類は材木堀跡で、Ⅲ類は柱列堀跡、Ⅳ類は材木列堀跡である。これらのⅠ～Ⅳ類はほぼ同位置において作り変えが行われている。Ⅴ類はⅠ～Ⅳ類と若干異なる位置に設けられ、大溝（Ⅴ-1類）、材木堀跡（Ⅴ-2類）、柱列跡（Ⅴ-3類）がある。なお、14次および19次調査の時点でSD176・292・293・294は「溝状遺構」と報告されているが、断面図の再検討や隣接調査地点の特徴から材木堀跡とした。

Ⅰ類：外郭線を構成する位置にある築地堀跡。SF177B（14次）、SF290B（19次）、SF2239（102次）、SF2300A（105次A区）、SF2352A（106次C区）が該当する。なお、この遺構に付随したものととして、SX295（19次）暗渠排水溝、SX2301 性格不明遺構（105次A）がある。

Ⅱ類：外郭線を構成する位置にあるⅠ類の築地堀跡を積み直したものの。SF177A（14次）、SF290A（19次）、SF2238（102次）、SF2300B（105次A）、SF2352B（106次C）、SF2369（106次E）、SF2624（117次C-2）が該当する。

なお、Ⅰ類かⅡ類かの判別がつかない遺構としてSF981（52次）、SF1816（86次）、SF2312（105次D）、SF2315（105次E）、SF2583（116次）がある。

Ⅲ類：外郭線を構成する位置にある材木堀跡で柱列堀跡と考えられるもの。SD292（19次）、SA974B（52次）、SA1818（86次）、SA1992（92A次）、SA2236（102次）、SA2237（102次）、SA2299（105次A）、SA2311（105次D）、SA2314（105次E）、SA2368（106次E）が該当する。

Ⅳ類：外郭線を構成する位置にある材木堀跡で材木列堀跡と考えられるもの。SD293（19次）、SA974A（52次）、SA1817（86次）、SA2235（102次）、SA2298（105次A）、SA2310（105次D）、SA2313（105次E）、

V 古代の検出遺構と出土遺物（2区画施設）

SA2367(106次E)、SA2580(116次)が該当する。

なお、SD176(14次)はⅢ類かⅣ類か判別できないものである。また、Ⅲ類のSA2314、Ⅳ類のSA2313と並行して検出されたSA2358 柱列塀跡(106次D)はⅢ類かⅣ類に付随する遺構であると考えられる。

V類：Ⅰ～Ⅳ類が示す外郭線と若干異なる位置にある区画施設。遺構の種類により下記に細分される

V-1類：大溝。幅3～4m、深さ0.5～1mの溝である。SD976(52次)が該当する。

V-2類：材木塀跡。同位置で新田二時期ある。

V-2類古段階：SD294B(19次)、SA975B(52次)、SA2277・2279(104次)、SA2307(105次B)、SA2577A(115次)が該当する。

V-2類新段階：SD294A(19次)、SA975A(52次)、SA2276・2278(104次)、SA2306(105次B)、SA2577B(115次)が該当する。

V-3類：柱列跡。SA2274・2275(104次)が該当する。ほぼ同位置で新田二時期ある。古段階はSA2275、新段階はSA2274である。

Ⅰ類の築地塀跡は、SF177B(14次)、SF290B(19次)、SF2300A(105次A)、SF2352A(106次C)で、築地塀の基礎部分の詳細な構造が判明している。築地塀の基底部は、地山面もしくは整地層を10～20cm程度掘り下げてから積み土を版築している。また、SF177B(14次)、SF2300A(105次A)、SF2352A(106次C)では基底幅と考えられるところは溝状もしくはピット等が確認されている。いずれも基底幅は約2.1mである。築地塀の積土は、褐色・白色・黒色の色調の異なる粘土を5～10cm単位で積み上げ、SF290Bでは2.1m、SF177Bでは1.4m、SF2300Aでは1.1m遺存している例があった。また、SF177B(14次)、SF290B(19次)、SF981(52次)の調査では、築地塀の両側隣接部に直径20～50cm程度の小ピットが複数付随しており、築地塀跡の寄柱であると考えられる。52次調査のSF981の例では、これらの寄柱は2.4～3mの等間隔で検出されている。Ⅰ類築地塀に葺かれていたと考えられる瓦は、各地点で崩壊瓦として確認されており、14次・19次・52次・105次A区・117次C-2区の崩壊瓦は、主に城内側に分布している。

Ⅱ類の築地塀は、基本的にはⅠ類築地塀を補修するような形で積み直す。したがって、Ⅰ類→Ⅱ類という変遷となる。SF177A(14次)とSF290A(19次)は城外側の西側に積み直している。SF2238(102次)も城外側の北側に積み直している。SF2300B(105次A)は南側、SF2352B(106次C)は東側と、外郭西門より北側の範囲では城内側に積み直している例もある。このⅡ類築地塀の崩壊瓦層は、基本的に確認されておらず、崩壊瓦層はⅠ類築地塀に伴う1層のみである。したがって、Ⅱ類築地塀は、非瓦葺きであったと考えられる。ただし、SF2624築地塀の南側では、崩壊瓦層は2層に細分することができ(117次C-2区、V-1・2層)、Ⅱ類築地塀が瓦葺きだった可能性も残す。しかし、117次C-2区はトレンチ調査によるものであるため、周辺の状況が不明であり、周囲に瓦葺き建物が存在していた可能性なども考えられる。

Ⅲ類(柱列塀跡)とⅣ類(材木列塀跡)の材木塀跡はほぼ同位置に構築されており、いずれの地点でもⅢ類→Ⅳ類という切り合い関係をもっている。また、Ⅲ・Ⅳ類の材木塀跡は、基本的にはⅠ・Ⅱ類築地塀跡の上部ないし築地塀を崩し整地層とした築地崩壊土の上部に構築されている。その特徴は、SD292・293(19次)やSA974A・B(52次)で顕著に確認される。また、SA2236(102次)は、SF2238築地塀跡に接すると痕跡が確認できなくなることから、築地塀上部を駆けるように構築されたものと考えら

れる。ただし、南西部の14次調査のSD176と116次調査のSA2580はI・II類の築地塀跡よりもやや東の城内側に構築されている。

以上のように、外郭区画施設のI～IV類は、I類→II類→III類→IV類と変遷し、その配置はほとんど変わることはない。I類築地塀跡は、SF290Bの基底部下の整地層から8世紀第2四半期の土師器が出土することから、秋田羽根柵創建期(天平5年、733年)と考えられる。II類の築地塀の改修は、SF2238(102次)・SF2300Bの構築面の整地層の年代から8世紀後半と考えられ、また、SF2624(117次C-2区)の積土から出土した土器の年代からも8世紀中葉以降と考えられる。III・IV類の材木塀跡は、布掘り溝の掘り方埋土の土器の年代から、8世紀第4四半期～9世紀第1四半期以降であると考えられる。

V類は複数種類ありやや複雑な様相を呈する。V-1類のSD976(52次)は、幅3～4m、深さ0.5～1mの大溝である。I～IV類が位置する外郭線よりも西側の低地部のみに存在する。出土する土器は10世紀第3四半期のものである。

同様にV-2類は、外郭線から異なる位置で確認され、同位置で新旧二時期認められる材木塀跡である。52次調査地でIII・IV類のSA974A・BとV-2類のSA975A・Bが分岐する地点が確認され、切り合い関係はSA974A・B→SA975A・Bとなっている。SA975A・B(52次)は、SD294A・B(19次)、SA2577A・B(115次)、SA2278・2279(104次)と北側に続き、外郭線よりも東に振れながら北上する。その後、屈曲点は検出されていないが、東に直角に屈曲し、東西方向の材木塀跡であるSA2276・2277(104次・111次)、SA2306・SA2307(105次B)とつながると考えられる。これらのV-2類材木塀跡からの出土遺物は10世紀第1四半期以降のものであるが、SA2577A・Bの検出層面からみて、10世紀第2四半期～第3四半期と考えられる。V-3類のSA2274・2275柱列跡(104次)は、出土遺物がなく年代は不明であるが、V-2類のSA2276・2277(104次)と並行することから、V-2類に付属する施設である可能性が高い。

以上、各類型の変遷としては、I類築地塀跡→II類補修された築地塀跡→III類材木塀跡(柱列塀)→IV類材木塀跡(材木列塀跡)→V類(大溝・材木塀跡・柱列跡)という変遷があると考えられ、I～IV類はほぼ同位置で外郭線を構成する区画施設であるが、V類はこれ以前と配置が大きく異なると考えられる。

なお、105次A区のSF2300Aの築地塀粘土については、別編2第3節で理科学的分析を行っている。その結果、①白色粘土主成分はクリストバライトであり、珪藻土の可能性が高く、消石灰や塩化マグネシウムなどの特別な混和物是用いられていないこと、②白色・褐色粘土を交互に積み重ねたとしても、強度が上がるわけではなく、白色粘土を用いることによりむしろ強度が低下することが判明した。したがって、築地塀の色合いを縞模様にしたという色彩的な装飾性のために白色粘土を混ぜている、と推測している。

2 中央部区画施設 (図68・69、表32)

焼山地区中央部の掘立柱建物群が配置される同じエリアで、柱列跡と材木塀跡が確認されている。66次と89次で5条検出されている。配置されるエリアによって、以下のように分類できる。

A類：中央部中央に配置される柱列跡。SA1453(66次)が該当する。

B類：中央部南東で検出された柱列もしくは材木塀跡。SA1929～1931(89次)、SA1933(89次)が該当する。

いずれの類型も真北方向に近いが、2～7°東に振れる。A類は中央部掘立柱建物跡C-1類であるSB1449+1450と方位と配置が類似しており、この建物に付随する区画施設である可能性が高い。仮に中央部掘立柱建物跡C-1類に伴う柱列であるとすれば、8世紀第4四半期～9世紀第1四半期以降のものである。また、B類は検出層位や切り合い関係のある遺構の年代から、9世紀第4四半期以降であると考えられる。

3 南西部区画施設 (図70～74、表33・34)

V 古代の検出遺構と出土遺物（2区画施設）

焼山地区南西部の外郭線内側の城内において検出された区画施設の一群である。85次南西部、96次、99次、108次、112次の調査地点で19条確認されている。99次中央部、108次、112次調査地においては、古代遺構面上層で近世以降の烟灰跡が多数発見されており、耕作により遺構面が削平されている可能性が高い。遺構は、材木堀跡と柱列跡である。このうち材木列堀跡の一部は、一辺が約60mの方形に組み合い、城内の方形区画を構成し、焼山地区南西部の特徴となっている。これらを整理すると以下のような分類となる。

A類：材木列堀跡で、方形区画を構成する一群。方位は北で7～16°東に振れる。このA類によって、一辺が60mの城内区画施設が形成されている。SA1801・1803(85次)、SA2066(96次)、SA2151～2153(99次)が該当する。

B類：材木列堀跡で、A類が形成する方形区画の小区画となるもの。方位は北で5～16°東に振れ、A類と類似する。SA1802(85次)、SA2147～2150・SA2154(99次)が該当する。

C類：柱列堀跡で、方位が北で3～13°東に振れ、A・B類に類似する。SA1799(85次)、SA2067(96次)、SA2145(99次)が該当する。

D類：柱列堀跡で、方位がC類とは異なり、一定しないもの。SA2144・2146(99次)、SA2455(108次)、SA2536(112次)が該当する。

削平などにより未検出部分はあるが、A類のSA1801が東辺、SA1803が北辺、SA2066が西辺、SA2151～2153が南辺となり、一辺が約60mで、北でやや東に振れる方形の城内区画施設が形成されている。これを「方形区画A」と呼称しておきたい(図70)。

これに伴うような形で、B類が配置されている。特に、SA2147・2148・1802は区画施設内を分割するものである。SA2148東側は削平により遺構は検出されていないものの、仮に南辺をSA2147・2148、東辺をSA1802とし、北辺をA類のSA1803の一部、西辺をA類のSA2066の一部とする方形区画を想定すると、南北39m(SA2147・2148～SA1803間)、東西45m(SA2066～SA1802間)となる。これを「方形区画B」とする(図70)。この方形区画Bは、先の一辺約60mの方形区画Aの前段階の区画施設なのか、方形区画A内での分割なのかは判然としない。また、SA2147は方形区画西辺のSA2066よりも西側に飛び出し、SA2154は方形区画A南辺のSA2151と丁字に組み合うように配置されており、出入り口の可能性がある。

C類の柱列跡は方位がA・B類の方形区画と類似しており、区画内の分割のためのものと考えられる。

各類型の遺構の年代をみると、A類ではSA2066の布掘り掘り方から9世紀第2四半期、抜き取り埋土から9世紀第4四半期の遺物が出土している。その他のA類遺構もこれと矛盾しないことから、A類は9世紀第2四半期～第4四半期と考えられる。B類ではSA2147は検出層位が9世紀第2四半期の整地層で、抜き取り埋土から9世紀後半の遺物が出土していることから、A類とほぼ同時期であると考えられる。C類はSA1799で柱掘り方から9世紀第2～3四半期の遺物が出土しており、この前後の年代と推定できる。したがって、C類もA・B類と同じ年代幅の中で機能していたと考えられる。D類では、SA2536は検出層位が9世紀第4四半期の整地層で、抜き取り埋土から10世紀第1四半期の遺物が出土していることから、9世紀第4四半期～10世紀第1四半期のものと考えられる。この他のD類遺構も、切り合い関係のある遺構の年代からみて9世紀第4四半期以降と考えられ、これと矛盾しない。

以上のように、南東部区画施設は、方形区画施設を構成し、またこれに付随する9世紀第2四半期～第4四半期のA～C類から、9世紀第4四半期以降のD類という変遷となる。

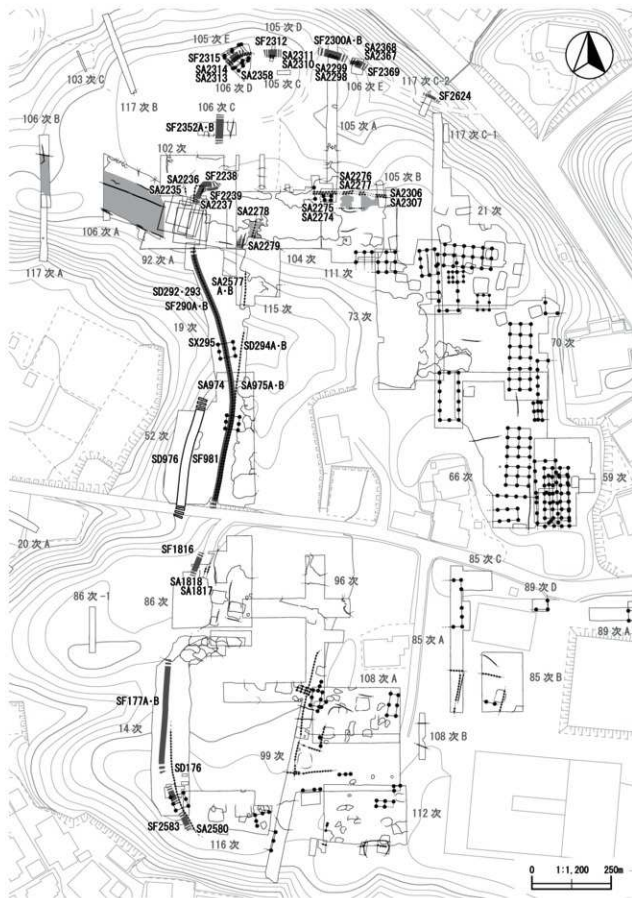


図51 外郭区画施設概略図

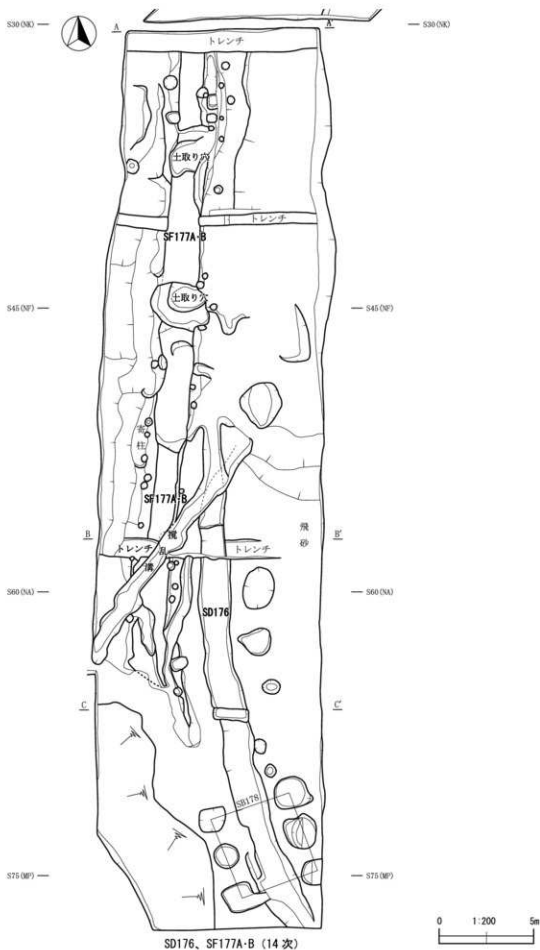


図 52 外部区画施設①(SD176 材木堀跡、SF177A-B 築地堀跡)

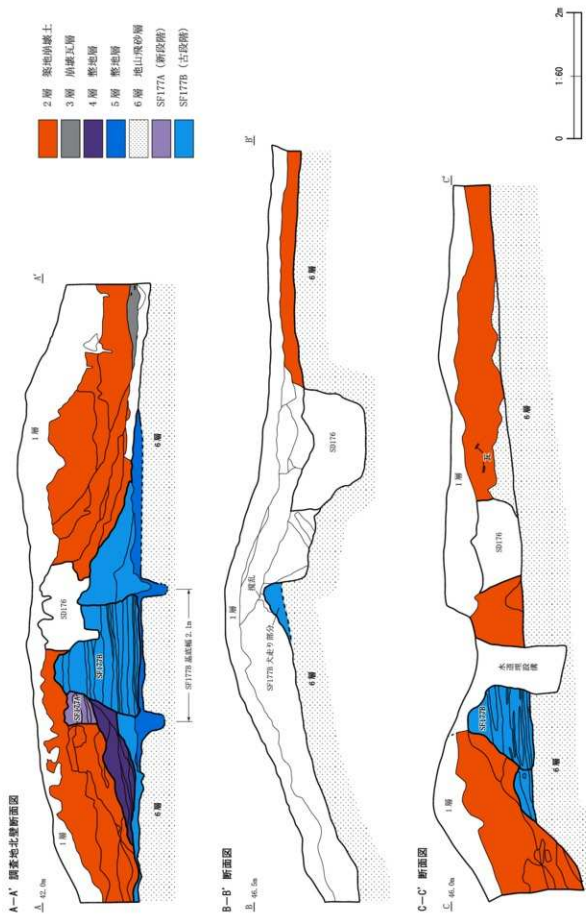
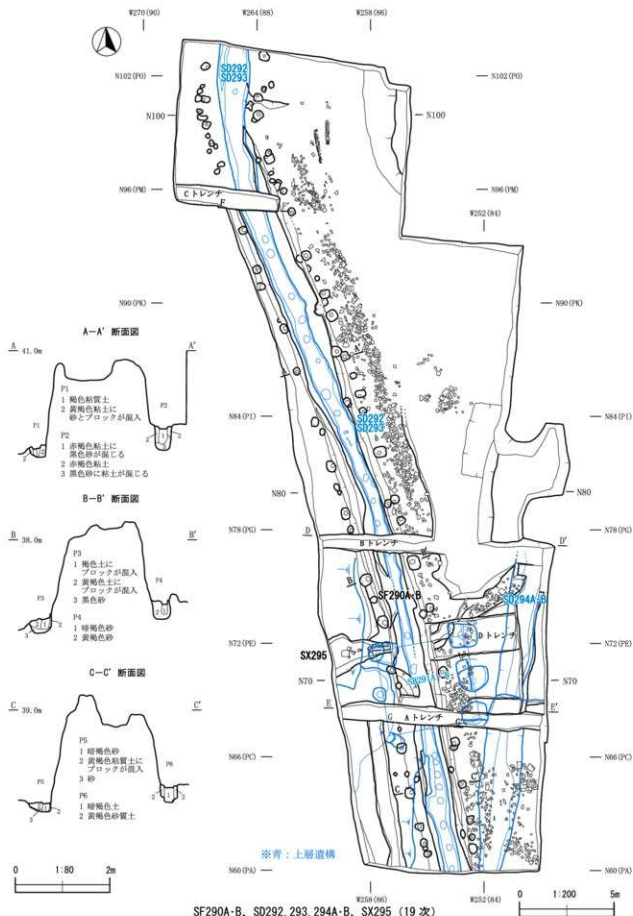


図 53 外郭区画施設②(SD176 材木跡、SF177A・B 菜地跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (2区画施設)



SF290A-B、SD292、293、294A-B、SX295 (19次)

図54 外郭区画施設③(SF290A-B築地塀跡、SD292、293、294A-B材木塀跡、SX295暗渠排水溝)

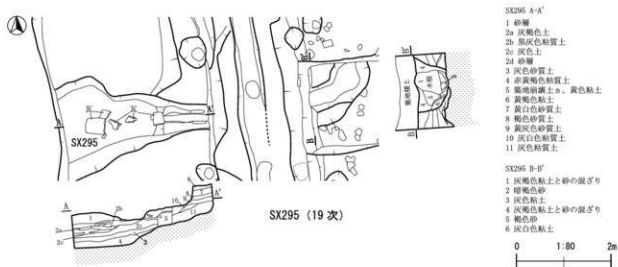
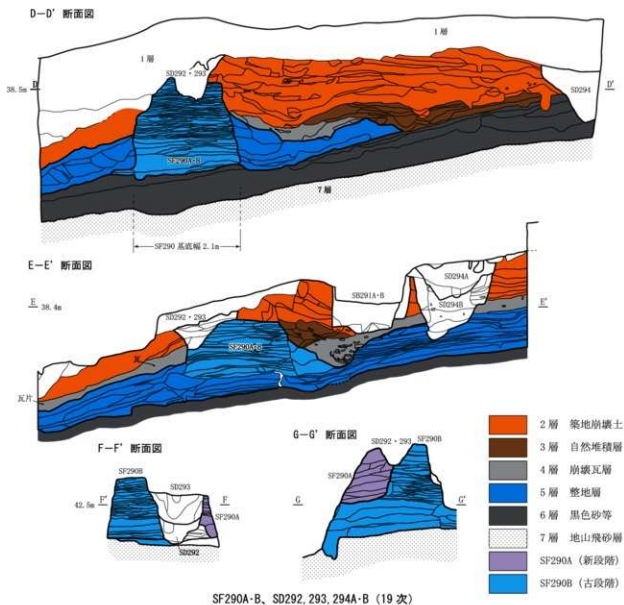
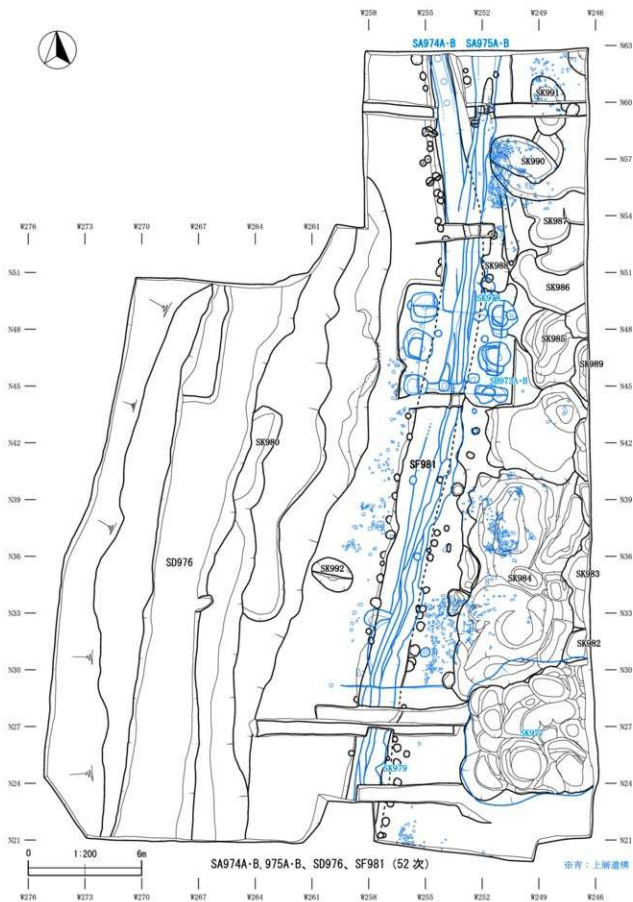


図 55 外部区画施設④(SF290A-B 築地塀跡、SD292, 293, 294A-B 材木塀跡、SX295 暗渠排水溝)



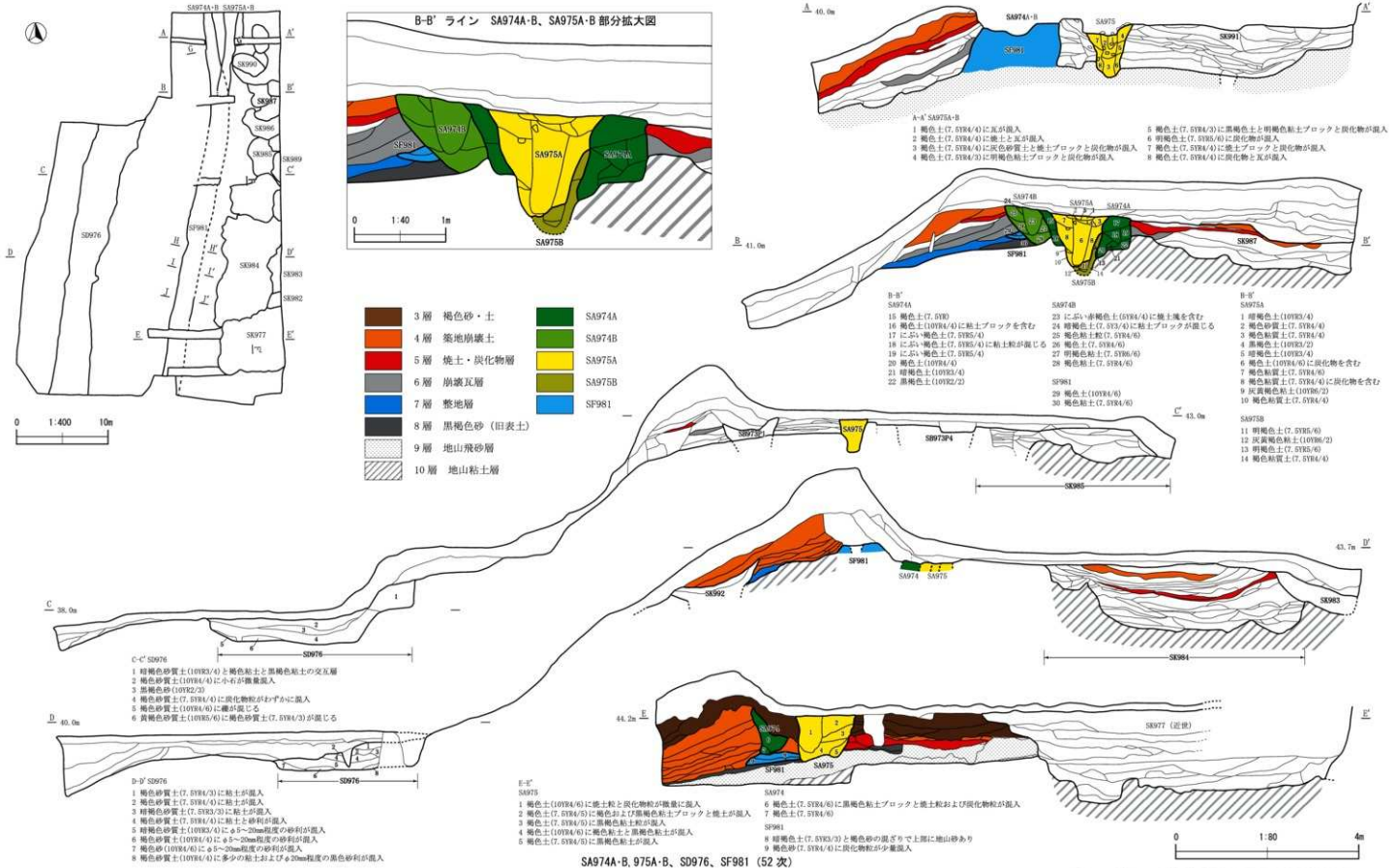
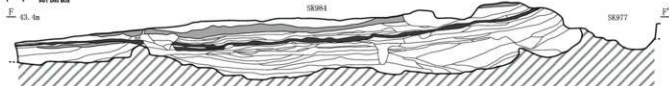
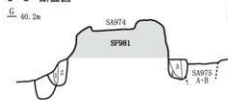


図 57 外部区画施設⑥(SA974A-B、975A-B 材木庫、SD76 溝跡、SF981 築地崩壊跡)

F-F' 断面図



G-G' 断面図



SF981 G-G'

- 1 褐色砂質土(7.5YR4/6)に褐色粘土を多く含む
- 2 褐色砂質土(7.5YR4/4)を多く含む
- 3 褐色砂質土(7.5YR4/6)炭化物粒少量混入
- 4 暗褐色砂質土(7.5YR3/3)炭化物粒少々混入

I-I' 断面図

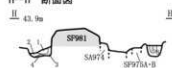


SF981 I-I'

- 1 褐色砂質土(7.5YR4/6)に褐色粘土ブロックと粒が多く混入
- 2 褐色砂質土(7.5YR4/3)に砂質土と褐色粘土ブロックが混じり
- 3 褐色砂質土(7.5YR4/4)に暗褐色土粒と焼土粒が少量混入
- 4 褐色砂質土(7.5YR4/3)に褐色粘土ブロックおよび粒と暗褐色土粒が多く混入
- 5 暗褐色砂質土(7.5YR3/4)

SK984 (52次)

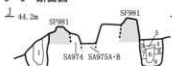
H-H' 断面図



SF981 H-H'

- 1 褐色砂質土(7.5YR4/6)に明褐色ブロックが多く入る
- 2 褐色土(7.5YR4/3)
- 3 褐色砂質土(7.5YR4/4)
- 4 褐色砂質土(7.5YR4/4)
- 5 褐色砂質土(7.5YR4/6)に粘土粒を多く含む
- 6 褐色砂質土(7.5YR4/6)に明褐色粘土粒を含む

J-J' 断面図



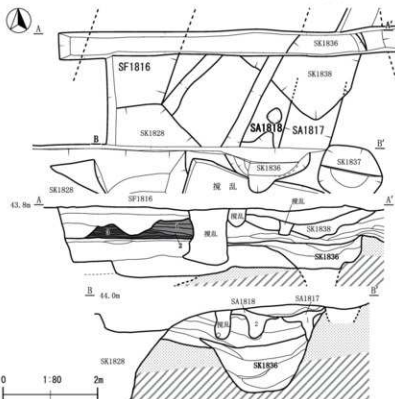
SF981 J-J'

- 1 褐色砂質土(7.5YR4/6)に炭化物粒少量混入
- 2 褐色砂質土(7.5YR4/6)
- 3 褐色土(7.5YR4/6)に褐色粘土ブロックと粒が中心で暗褐色土粒がわずかに混入
- 4 褐色砂質土(10YR4/6)に褐色粘土ブロックと粒が多く混じり炭化物ブロック少量あり
- 5 褐色土(7.5YR4/6)に褐色粘土ブロックと粒が中心
- 6 褐色砂質土(10YR4/6)に褐色粘土粒と暗褐色土粒がまばらに含まれる
- 7 褐色砂質土(7.5YR4/6)に焼土粒がまばらに混入
- 8 褐色砂質土(7.5YR4/4)に褐色粘土ブロックと粒が混入
- 9 褐色土(7.5YR4/6)に褐色粘土ブロックと粒が中心で暗褐色土粒がまばらに混入



0 1:100 3m

SF981 (52次)



SF1816

- 1 明褐色粘土(7.5YR5/6)に褐色土(7.5YR4/4)が混じり
- 2 暗褐色粘土(7.5YR3/1)が若干混入
- 3 明褐色粘土(7.5YR5/6)と暗褐色粘土(7.5YR3/1)の交互層

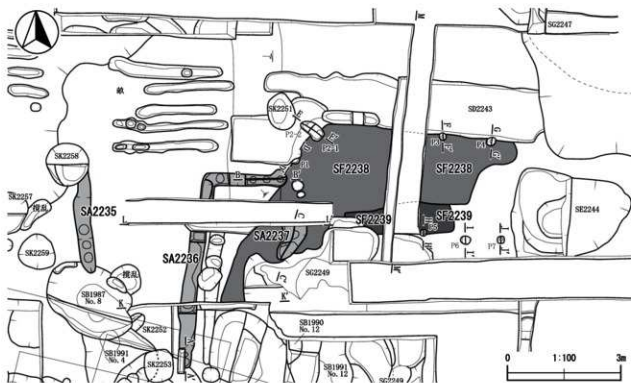
SA1817-SA1818

- 1 SA1817布張り: 褐色土(7.5YR4/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)小ブロックと暗褐色粘土(7.5YR3/2)小ブロックが混じり褐色砂(10YR4/6)が若干混入
- 2 SA1818布張り: 褐色土(7.5YR4/4)に明褐色粘土(7.5YR5/6)小ブロックと暗褐色粘土(7.5YR3/2)小ブロックが混入

SF1816、SA1817、1818 (86次)

図58 外郭区画施設⑦(SK984土取り穴、SF981、1816築地明跡、SA1817、1818材木堀跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (2区画施設)



SA2235, 2236, 2237, SF2238, 2239 (102次)

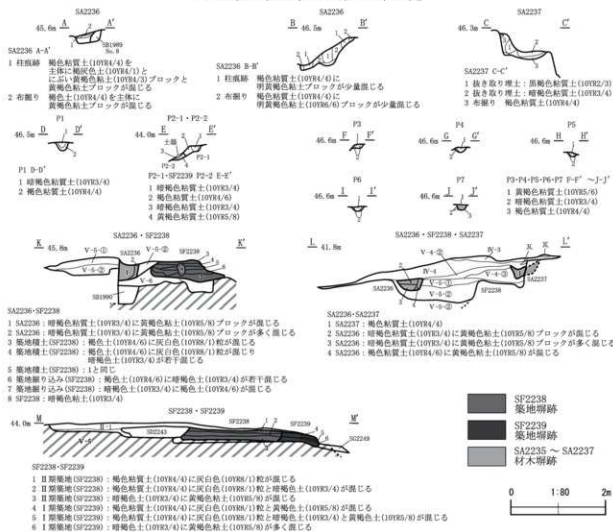
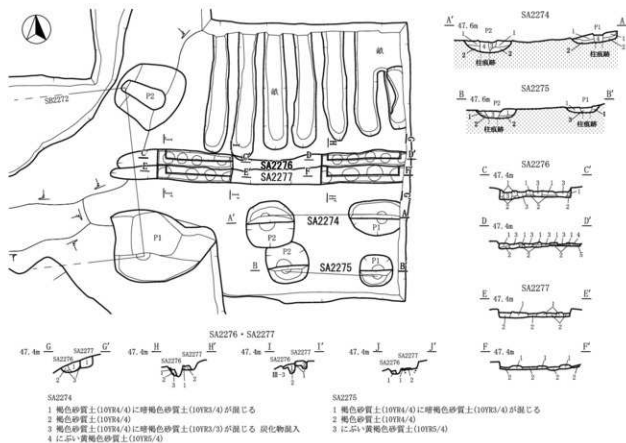
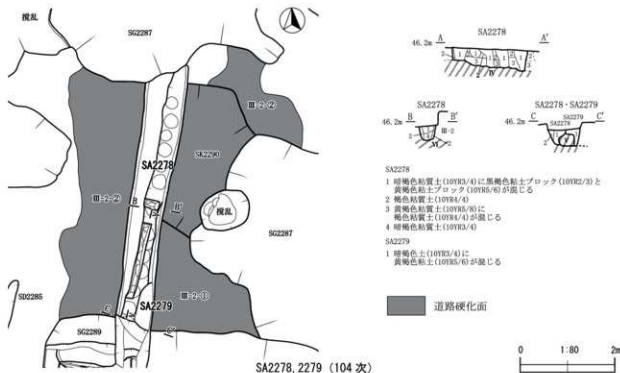


図 59 外郭区画施設⑥(SA2235 ~ 2237 材木塀跡、SF2238, 2239 築地塀跡)



SA2274 ~ 2277 (104次)



SA2278, 2279 (104次)

図 60 外郭区画施設⑨(SA2274, 2275 柱列跡、SA2276 ~ 2279 材木堀跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (2区画施設)

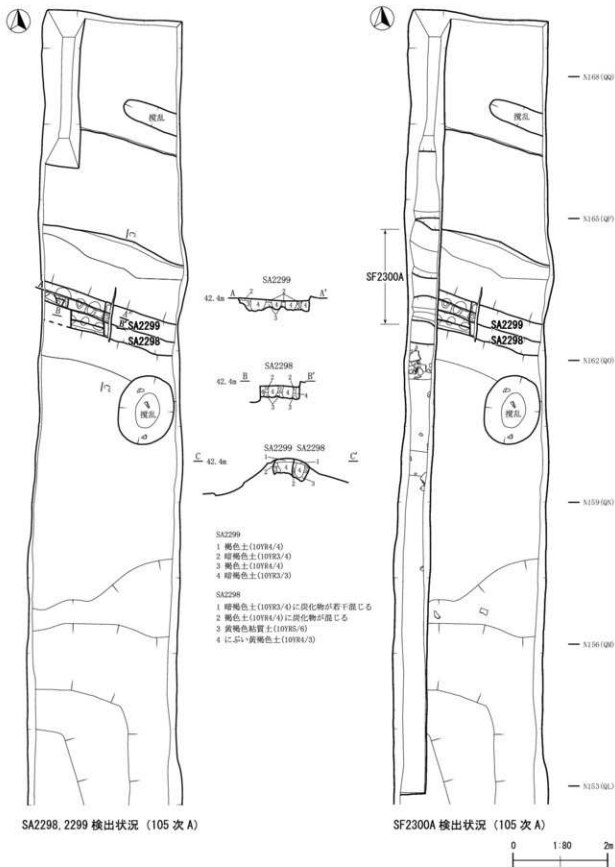


図 61 外郭区画施設⑩(SA2298, 2299 材木堀跡、SF2300A・B 築地堀跡)

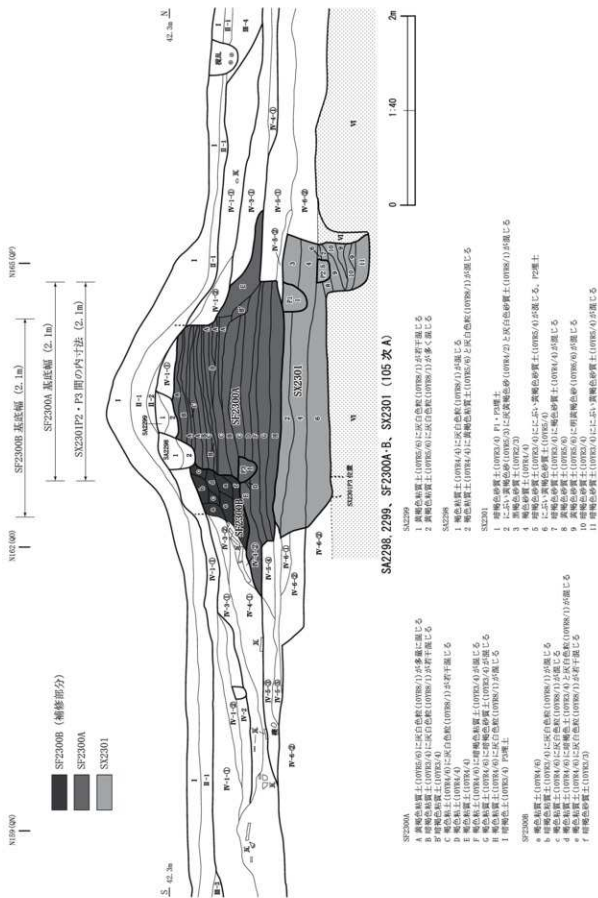


図 62 外郭区画施設①(SA2298, 2299 材木塚跡、SF2300A・B 築地塚跡、SX2301 性格不明遺構)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (2区画施設)

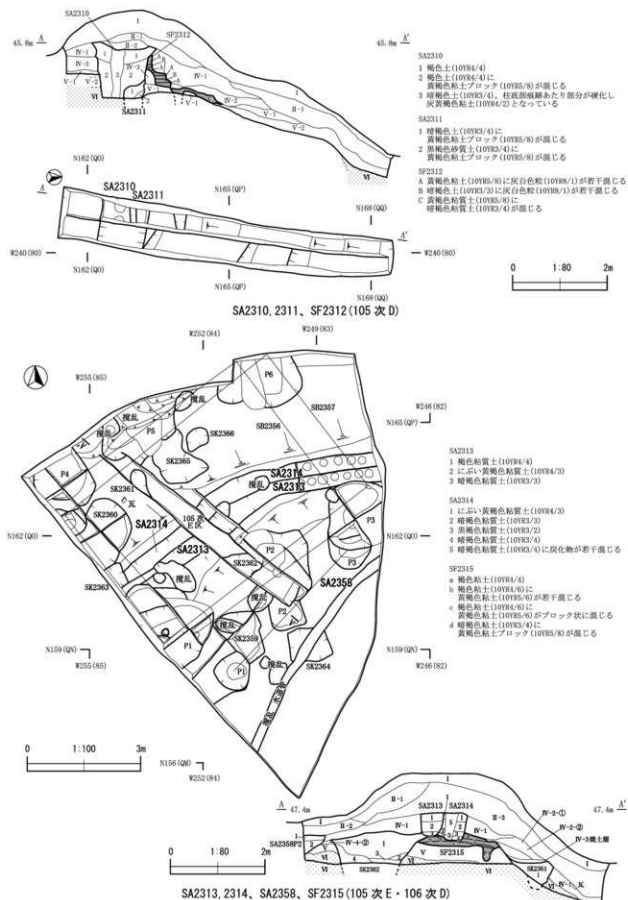
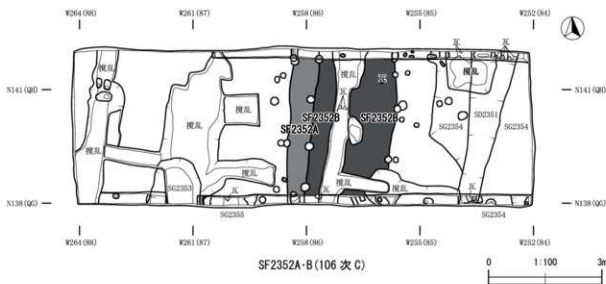
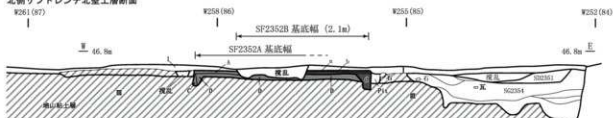


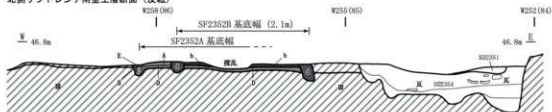
図 63 外郭区画施設⑩(SA2310, 2311, 2313, 2314 材木堀跡、SA2358 柱列跡、SF2312, 2315 築地堀跡)



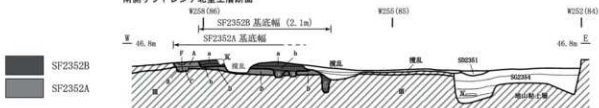
北側サブレンチ北壁土層断面



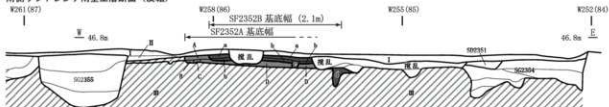
北側サブレンチ南壁土層断面 (反転)



南側サブレンチ北壁土層断面



南側サブレンチ南壁土層断面 (反転)



SF2352B

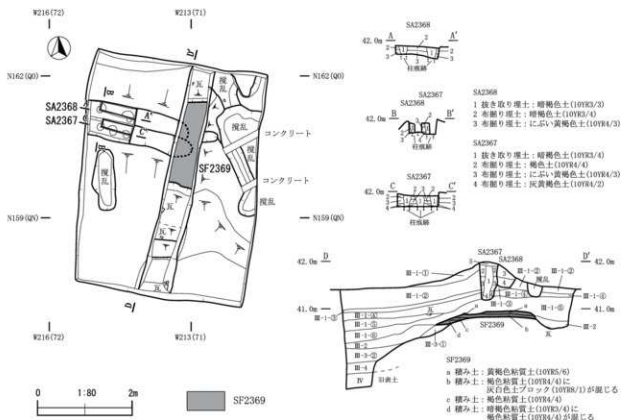
- a 糠み土：暗褐色粘質土(10YK3/3)
- b 糠み土：褐色粘質土(10YR4/4)
- c 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
- d 赤柱埋土：褐色粘土(10YR4/6)

SF2352A

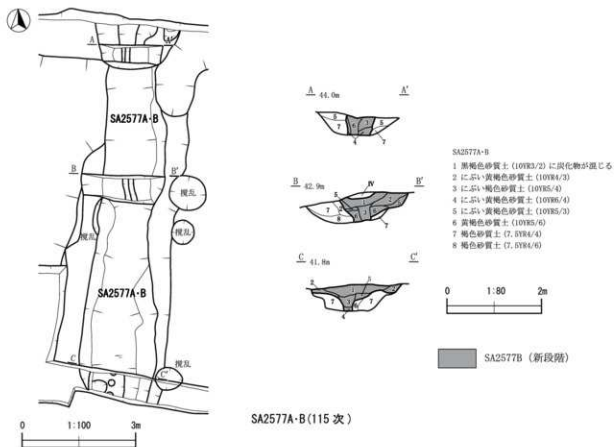
- A 糠み土：暗褐色粘質土(10YK3/4)
- B 基底部埋り込み埋土：黄褐色粘土(10YR5/6)に褐色粘土(10YR4/6)が混じる
- C 基底部埋り込み埋土：暗褐色粘土(10YK3/3)
- D 基底部埋り込み埋土：黄褐色粘土(10YR5/6)に暗褐色粘質土(10YK3/4)が混じる
- E 赤柱埋土：灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
- F 赤柱埋土：暗褐色土(10YK3/3)

図 64 外郭区画施設⑬(SF2352A-B 築地塀跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (2区画施設)



SA2367, 2368, SF2369 (106 次 E)



SA2577A-B (115 次)

図 65 外郭区画施設⑭ (SA2367, 2368, 2577A・B 材木塀跡、SF2369 築地塀跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (2区画施設)

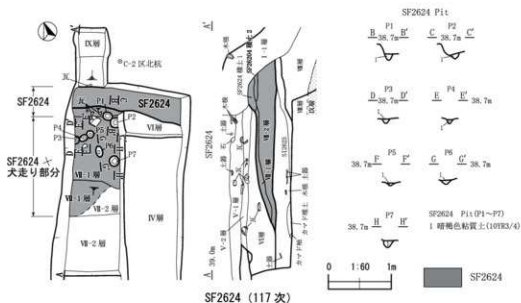


図 67 外郭区画施設⑩(SF2624 築地塀跡)

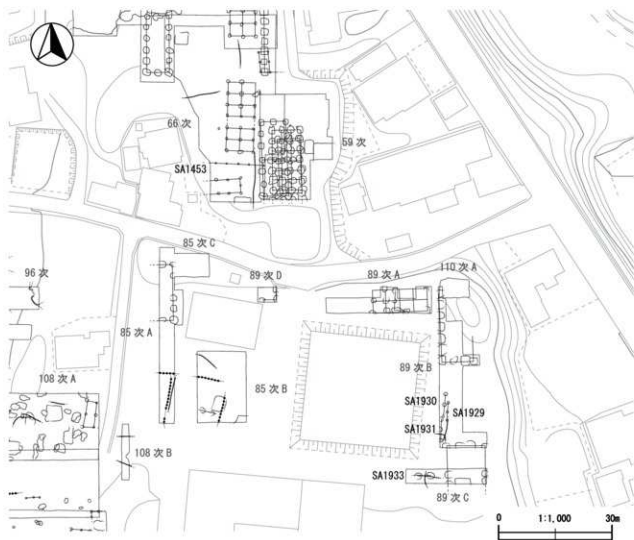


図 68 中央部区画施設概略図

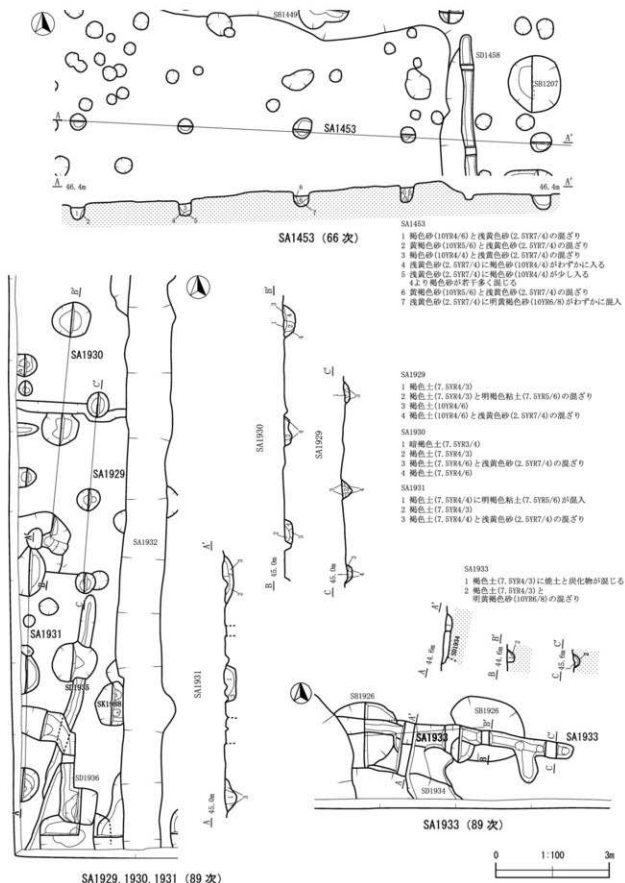


図 69 中央部区画施設 (SA1453, 1929 ~ 1931 柱列跡、SA1933 材木跡跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (2区画施設)

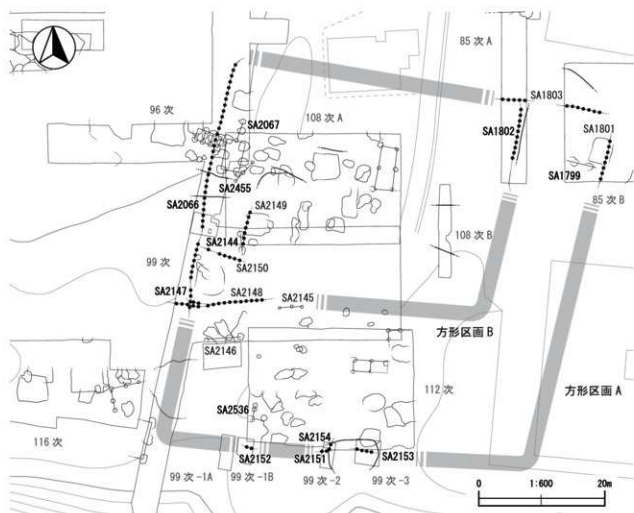


図70 南西部区画施設概略図

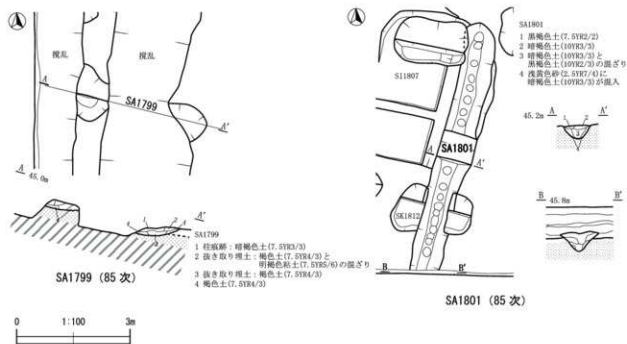


図71 南西部区画施設①(SA1799 柱列跡、SA1801 材木堀跡)

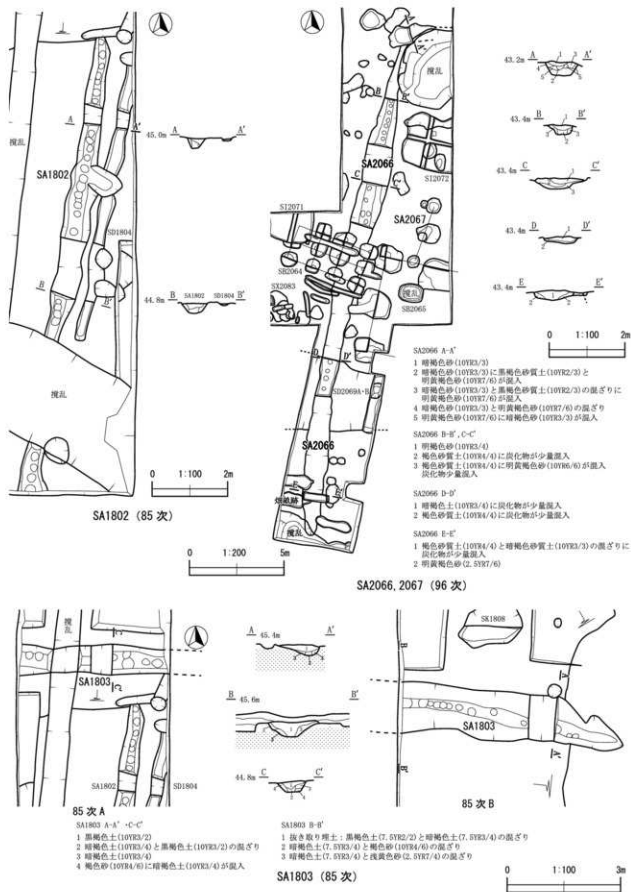
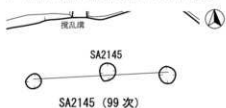


図 72 南西部区画施設②(SA1802, 1803, 2066 材木堀跡、SA2067 柱列跡)

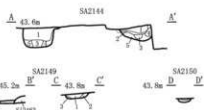
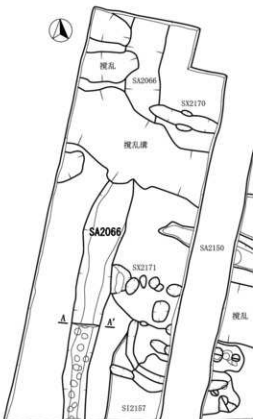
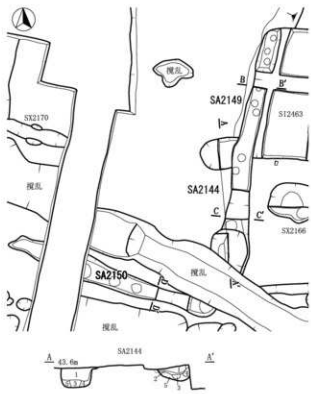
V 古代の検出遺構と出土遺物 (2区画施設)



SA2146

- 1 暗褐色粘質土(7. SYR5/6)と暗褐色土(7. SYR3/4)が混じる
- 2 淡黄褐色砂(2. SYR7/4)に暗褐色土(7. SYR3/4)が少量混入
- 3 抜き取り埋土: 暗褐色土(7. SYR3/3)に淡い黄褐色砂(10YR5/3)と明褐色粘質土(7. SYR5/6)が混入
- 4 抜き取り埋土: 暗褐色土(7. SYR3/3)に淡い黄褐色砂(10YR5/3)が混入
- 5 抜き取り埋土: に淡い黄褐色粘質土(10YR4/3)
- 6 に淡い黄褐色砂(10YR5/3)に淡黄色砂(2. SYR7/4)が混入
- 7 淡黄色砂(2. SYR7/4)に淡い黄褐色砂(10YR5/3)が混入
- 8 に淡い黄褐色砂(10YR5/3)と淡黄色砂(2. SYR7/4)が混じる
- 9 暗褐色土(7. SYR3/3)に明褐色粘質土(7. SYR5/6)が混入
- 10 に淡い黄褐色粘質土(10YR4/3)
- 11 暗褐色土(10YR2/2)に淡黄色砂(2. SYR7/4)が少量混入

SA2146 (99次)



SA2144, SA2149, 2150 (99次)

SA2144

- 1 暗褐色粘質土(10YR3/2)
- 2 暗褐色粘質土(10YR3/2)に淡黄色砂(2. SYR7/4)が混入
- 3 暗褐色粘質土(10YR3/2)
- 4 暗褐色土(10YR2/2)
- 5 淡黄色砂(2. SYR7/4)と暗褐色土(10YR3/4)の混ざり

SA2149

- 1 に淡い黄褐色粘質土(10YR4/3)に炭化物が少量混入
- 2 褐色粘質土(10YR4/4)に炭化物が少量混入
- 3 黄褐色粘質土(10YR5/6)

SA2066 A-A'

- 1 抜き取り埋土: 暗褐色粘質土(10YR4/4)と褐色粘質土(10YR4/4)が混ざり埋土と炭化物が少量混入
- 2 埋り方埋土: 暗褐色粘質土(10YR4/4)に炭化物が少量混入
- 3 埋り方埋土: 褐色粘質土(10YR3/4)に炭化物が少量混入
- 4 埋り方埋土: 褐色粘質土(10YR3/3)に黄褐色粘質土(10YR5/6)と炭化物が混入

SA2066 B-B'

- 1 暗褐色粘質土(7. SYR3/3)に淡黄色砂(2. SYR7/4)が多く混入
- 2 暗褐色粘質土(7. SYR3/3)に淡黄色砂(2. SYR7/4)と炭化物が少量混入
- 3 暗褐色粘質土(10YR3/3)に淡黄色砂(2. SYR7/4)が少量混入

SA2066, 2147 (99次)

SA2147

- 1 暗褐色粘質土(10YR3/4)
- 2 褐色粘質土(10YR4/4)に明褐色粘質土(10YR7/4)が混入
- 3 明褐色粘質土(10YR7/4)に褐色粘質土(10YR4/4)が混入
- 4 抜き取り埋土: 褐色粘質土(10YR4/4)に炭化物が少量混入
- 5 抜き取り埋土: 褐色粘質土(10YR4/4)に褐色粘質土(10YR4/4)に淡い黄褐色粘質土(10YR4/3)が混ざり炭化物が少量混入
- 6 抜き取り埋土: に淡い黄褐色粘質土(10YR4/3)に淡黄色砂(2. SYR7/4)が混ざり炭化物が少量混入
- 7 褐色粘質土(10YR3/4)に淡黄色砂(2. SYR7/4)が混入
- 8 淡黄色砂(2. SYR7/4)に褐色粘質土(10YR3/4)が混入

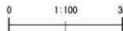


図73 南西部区画施設③(SA2144～SA2146柱列跡、SA2066、2147、2149、2150材木塚跡)

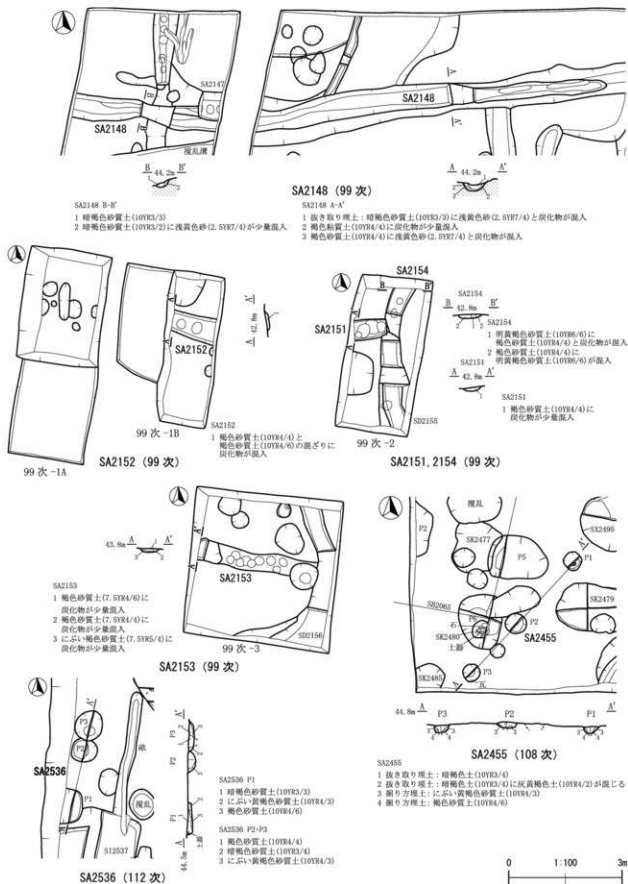


図74 南西部区画施設④(SA2148, 2151 ~ 2154 材木堀跡、SA2455, 2536 柱列跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物（2区画施設）

表28 区画施設遺構属性一覧(1)
外郊区画施設①

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱掘り方	柱成跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図 52-53	14	SD176	溝跡 (材木埋 跡か)	2層	幅約2.0m, 深さ3m,U 字形	材木列埋 跡か	真北 ～ N14° W				SA2580(116 次)と連結.SA 2580で材木列 埋跡と確認.刀 子出土	8C④～ 9C前半	9C前半	Ⅲ・Ⅳ期? 9C前半 以降
図 52-53	14	SF177 A・B	築地 埋跡	5層	基底幅約 2.1m,現存 高約1.4m, 全長48m	基底部に幅 20cm,深さ 20cmの小溝 が平行して 掘られている .寄柱と考 えられる ピットあり	真北 ～ N5° E				断面図再検討 で新旧二時期 を確定. SF177B(古)S F177A(新).SF 177Aは,高側 に積み替え	8C② 以前		I・II期 8C②以降
図 54-55	19	SF290 A・B	築地 埋跡	6層	基底幅 2.1m,現存 高約2.1m, 全長45m (92次で再 検出.基底 幅2.05m, 上面幅 1.7m,現存 高30cm)	積み土は6 cm前後,明 褐色粘土・ 河原細土・ 粘土・褐色 砂の交互層	N13° 20° W		→SB1989- SD292・ SD293		築地埋基礎整 地層から8C② の土師器出 土.新旧二時 期あり.SF29 0A(新).SF290 B(古).SF290A 新は高側に 積み直し.92次 Aで再検出	8C② 以前	基底部整 地層から 8C②	I・II期 8C②
図 54-55	19	SD292	溝状 遺構 (材木埋 跡か)	2層	幅70cm,深 さ0.4～ 1.0m,全長 42m,断面 U字形	柱列埋跡	N1° 21° W		直径30 cm (SA269, 円形)	SF290→ →SD293	551機軸で築 地層上の柱脚 跡をSA296と 報告.SD293と 同位置で古い	8C④～ 9C前半	埋土 8C④～ 9C①	Ⅲ期 8C④～9C ①以降
図 54-55	19	SD293	溝状 遺構 (材木埋 跡か)	2層	幅50cm,深 さ60cm,断 面U字形	材木列埋跡	N1° 21° W			SD292→	SD292と同位 置で新しい,固 化材が直立, 倒れた状態と 確認	8C④～ 9C前半		Ⅳ期 8C④～9C ①以降
図 54-55	19	SD294 A・B	溝跡 (材木埋 跡)	2層	幅1.8m,深 さ70cm,断 面だらだら (115次調査 とした)U字 状	材木列埋 跡(有明)	N7° E				断面図再検討 で,新旧二時 期を確 認.SD294 A(新).SD294B (古).SA975A・ B(52次), SA2577A・B (115次), SA2278・2279 (104次)と連結	8C①～ 9C前半	埋土 10C②	V-2期 10C②以 降
図 54-55	19	SX295	暗渠排 水溝	5層	幅0.5～ 2m,木枠の 長さ2.7m	築地層下に ある木枠を はめた暗渠	W9° S				SF290A・Bに 直交.暗渠天 井面を利用し た瓦3枚出土	8C②		I期 8C②
図 56-57	52	SA974 A・B	材木 埋跡	SF981 直上,4 層	幅1.0m,深 さ50.8m	柱列埋跡 か	南側 N12° E,北 側 N9° W		直径30 cm,円 形・楕円 形	→SA975A・ B	断面図再検討 により新旧二 時期確定. SA974A(古). SA974B(古), SD292・293 (19次)と連結	8C④～ 9C前半		Ⅲ・Ⅳ期 8C④～9C ①以降
図 56-57	52	SA975 A・B	材木 埋跡	4層	幅1.2～ 1.5m,深さ 1.3m	材木列埋	N10° E		直径20 ～30cm, 形状不 明	SA974A・B →	断面図再検討 で新旧二時期 を確定.SA 975A(新). SA975B(古).S D294(19次), SA2577A・ B(115次).SA 2278・2279 (104次)と連結	8C④～ 9C前半	埋土 10C①	V-2期 10C①以 降
図 56-57	52	SD976	溝跡 (大溝)		幅3～4m, 深さ0.5～ 1m,長さ 30m	大溝	N8° E					埋土 10C②		V-1期 10C②以 降

表29 区画施設遺構属性一覧(2)
外郭区画施設②

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱掘り方	柱筋跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図 56-58		52	SF981	築地 廻廊	8・9層	支柱2.4～ 3mの間隔 で対称的な 位置で検 出。高さが 約50cmの円 形。柱筋跡 10～15cm。 基底部 に幅1～2m、 厚さ10cmで 大走り積み 土あり、足場 用柱穴も多数	南側 N12° E、北 側 N9° W				北側で支柱が かさ上げされ て構築されて いることから、 新旧二時期あり、築地積み土 では不明。SF290A・ B(19次)に連 結	8C② 以前		I・II期? 8C②以降
図58		86	SF1816	築地 廻廊	10層	基底幅2.0 ～2.2m、積 み140cm、 長さ1.5m 遺存	N18° E			→SK1828	築地積み土の 状況から新旧 二時期あり	8C②		I・II期? 8C②以降
図58		86	SA1817	材木 廻廊 (材木列 廻廊)	7層	布張り溝 跡幅100 cm、深さ60 cm、下部は 幅30cmで すぼまる	N15° E		直径20 cm前後	SK1836→ →SK1837・ SK1838		8C末以降	布張り98C 末・9C初	IV期 8C末・9C 初以降
図58		86	SA1818	材木 廻廊 (柱列廻 廊)	7層	布張り溝 不明、柱間 跡の小柱 穴のみ検 出、長さ 1.2m	N20° E		直径25 ～30cm の円形	SK1836→ →SK1838	布張り溝不明	8C末以降		Ⅲ期 8C末以降
図 20-21		92A	SA1992	材木 廻廊 (柱列廻 廊)	SB1989 柱掘り 方上面	布張り溝 幅60cm、深 さ40cm以 上、断面 U字形	N14° W		直径20 cm	SB1989・ SF290→	SB1989/外郭 西門に取り付 く材木 廻廊、SD292(19 次)と連結			Ⅲ期
図59		102	SA2235	材木 廻廊 (材木列 廻廊)	V-5層	布張り溝 幅10cm、深 さ不明	N5° W		直径20 ～28cm	SB1987→ →SK2258	SB1987/外郭 西門に取り付 く、布張り溝お よび柱筋跡の 底部硬化面の み検出	8C④～ 9C①		IV期 8C④～9C ①以降
図59		102	SA2236	材木 廻廊 (柱列廻 廊)	V-5- ①・② 層	布張り幅 40～50cm、 深さ20～ 30cm、断面 U字形	N7° E、屈 曲後 真東		直径18 ～20cm	SB1989・ SB1990・ SF2238→	SB1989/外郭 西門に取り付 く、SF2238と接 する布張り溝は 酒威、築地 塀上にあるた め	8C④～ 9C①	布張り98C ②	Ⅲ期 8C④～9C ①以降
図59		102	SA2237	材木 廻廊 (柱列廻 廊)	V-4- ②層	布張り溝 幅50cm、深 さ30cm、断 面U字形	N9° E		直径20 cm	SF2238→	SB1988/外郭 西門に取り付 く、SF2238が高 くなる部分で 布張り溝は酒 威、築地塀上 にあるため	9C① 以降・9C① 以前	抜き取り 8C②	Ⅲ期 9C①以降
図59		102	SF2238	築地 廻廊	V-6- ①層、V 層	基底幅2.1 ～2.2m、積 み120～ 140cm残存	N35° E、屈 曲後 E1° S			SF2239→ →SA2236・ SA2237・ SD2243	SB1990/外郭 西門に取り付 く	8C後半		Ⅲ期 8C後半以 降

V 古代の検出遺構と出土遺物（2区画施設）

表30 区画施設遺構属性一覧(3)
外郊区画施設③

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱掘り方	柱成跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図59	102	SF2239	築地 礎跡	V-7層, Ⅱ層	残存する 基底幅約 70cm,積 み1110cm 残存	積み土下 部に深520 cmの掘り込 み,寄柱1基 (P9),添柱3 基(P6-8)あ り	E2° S			--SF2238- SG2249	SB199(外郭 西門)の取り付 く,北西コー ナー部の寄柱 (P2)とSF2238 と共通	8C②?	寄柱跡 層8C②	1類 8C②以降
図560	104	SA2274	柱列跡	IV層	東西1間 2.1m	掘り方2基	真東		一辺 1.2m,深さ 20~25 cm,隅丸 方形・不 整形	直径15 cm SA2275→	SA2276-2277 と平行	8C② 以前		V類
図560	104	SA2275	柱列跡	IV層	東西1間 1.95m	掘り方2基	真東		一辺60~ 90cm,深さ 20cm,隅 丸方形	直径15 cm --SA2274	SA2276-2277 と平行	8C② 以前		V類
図560	104	SA2276	材木 礎跡 (材木列 礎跡)	Ⅲ-3層	布張り幅 40cm,深さ 20cm,断面 U字状	布張りを伴 う材木礎,材 木を密に立 て並べた材 木列礎	E1° S		直径15 ~20cm	SA2277→	SA2306材木 礎跡105次P9の 延長,111次で 再検出	8C①~ 9C①		V-2類 10C代 10C①の SN232より 新しい
図560	104	SA2277	材木 礎跡 (材木列 礎跡)	Ⅲ-3層	布張り幅 40cm,深さ 20cm,断面 U字状	布張りを伴 う材木礎,材 木を密に立 て並べた材 木列礎	E1° S		直径20 ~30cm	--SA2276	SA2306材木 礎跡105次P9の 延長,111次で 再検出	8C①~ 9C①		V-2類 10C代 10C①の SN232より 新しい
図560	104	SA2278	材木 礎跡 (材木列 礎跡)	Ⅲ-2- ①層	布張り幅 40cm,深さ 30~35cm	布張りを伴 う材木礎,材 木を密に立 て並べた材 木列礎	N10° E		直径10 ~15cm	SA2279- SK2290- SX2627→	SA2279と平行 し,位置的に重 複,SD294A-B (192次),SA975 A-B52次,SA 2577A-B115 次と連結	9C②~④	布張り 10C①	V類 10C①以降
図560	104	SA2279	材木 礎跡 (材木列 礎跡)	Ⅲ-2- ②層	布張り幅 40cm,深さ 40cm	布張りを伴 う材木礎,材 木を密に立 て並べた材 木列礎	N15° E		不明	SX2627→ --SA2278	SA2278と平行 し,位置的に重 複,SD294A-B (19),SA975A- B52次),SA25 77A-B115次 と連結	9C ②~④		V類 9C①~④ 以降
図 61-62	105A	SA2298	材木 礎跡 (材木列 礎跡)	IV-1- ①層	布張り幅 40cm,深 さ35~40 cm,断面U 字形	布張りを伴 う材木礎,材 木を密に立 て並べた材 木列礎	E20° S		直径15 cm	SA2299- SF2300→		8C①~ 9C①	布張り9C ②,抜き取 り9C代	IV類 8C①~9C ①以降
図 61-62	105A	SA2299	材木 礎跡 (柱列礎 跡)	IV-1- ①層	布張り幅 40cm,深 さ30~35 cm,断面U 字形	布張りを伴 う材木礎,材 木を間隔を 空けて立て 並べた柱列 礎	E20° S		直径20 ~25cm	SF2300→ --SA2298		8C①~ 9C①		Ⅲ類 8C①~9C ①以降
図 61-62	105A	SF2300B	築地 礎跡	IV-3- ①層	基底幅 2.1m,積み 土a~e	南端が SF2300Aと り,50cm南 側に寄って いる	E20° S			SX2301→ --SA2298- SA2299	SF2300Aの補 修後の築地 礎,南面に積 み替え	8C後半		Ⅲ類 8C後半以 降
図 61-62	105A	SF2300A	築地 礎跡	IV-5層	基底幅 2.1m,積み 土1.1m,残 存,積み土 A~H	基底部下に 10~20cm 掘り込む溝 あり,溝幅 2.8m,積み 土中に小 ビット1基あ り	E20° S			SX2301→ --SA2298- SA2299	古段階の築地 礎,基底幅に 関連する小 ビットを伴う,別 編1-3で積み 土分析	8C②	積み土弥 生	1類 8C②以降

表31 区画施設遺構属性一覧(4)
外郭区画施設④

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱掘り方	柱頭跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物の 年代	遺構分類 時期
図62	105A	SX2301	性格不明遺構	IV-6- ①・② 層	南北幅 3.2m, 深さ 50~90cm	SF2300A・B の下部で検 出。北側に 幅55cm, 深 さ50cmの掘 りこぼれた部 分がある。直 径20cmの小 ピット2基あ り	不明			→SF2300	埋土中に基底 部に関連する 小ピットを伴う	8C②		I 類 8C②以降
-	105B	SA2306	材木 埋跡 (材木列 埋跡)	IV層	布製の溝 幅40~50 cm			真東		SX2521・ SA2307→	SA2276材木埋 跡(104次)の延 長, 111次で再 検出	9C③		V-2類 10C代 (9C③の) SX2521よ り新しい
-	105B	SA2307	材木 埋跡 (材木列 埋跡)	IV層	布製の溝 幅30~45 cm			真東		SX2521→ →SA2306	SA2277材木埋 跡(104次)の延 長, 111次で再 検出	9C③		V-2類 10C代 (9C③の) SX2521よ り新しい
図63	105D	SA2310	材木 埋跡 (材木列 埋跡)	IV-1層	布製の溝 幅100cm, 下 部60cm, 深 さ1.2m, 断面 U字状	布製りを伴 う材木埋, 材 木を密に立 て並べた材 木列埋	N1° E		直径23 cm	SA2311・ SF2312→		8C④~ 9C前半		IV類 8C④~9C ①以降
図63	105D	SA2311	材木 埋跡	IV-3層	布製の溝 幅40cm, 深 さ30cm	布製りを伴 う材木埋か	N1~ 2° E		不明	SF2312→ →SA2310		8C②?		Ⅱ類 8C②以降
図63	105D	SF2312	築地 埋跡	V-1層	基底幅50 cm以上, 積 み100cm 遺存	基底部の掘 り込み溝あ り	N1~ 2° E			→SA2310・ SA2311	断面でのみ確 認	8C②?		I・II類? 8C②以降
図63	105E	SA2313	材木 埋跡 (材木列 埋跡)	IV-1- ①層	布製の溝 幅40~50 cm, 深さ50 cm, 断面U 字状	布製りを伴 う材木埋, 材 木を密に立 て並べた材 木列埋	E10~ 36° N		直径15 cm	SB2357・ SA2314→ →SB2356・ SK2363	106次で再検 出	9C前半以 降	布製98C 末・9C初	IV類 9C前半以 降
図63	105E	SA2314	材木 埋跡 (柱列埋 跡)	IV-1- ①層	布製の溝 幅40~50 cm, 深さ37 cm, 断面U 字状	布製りを伴 う材木埋, 材 木を密に立 て並べた柱 列埋	E10~ 38° N		直径15 cm	→SA2313・ SK2363	106次で再検 出	9C前半以 降	布製98C ①~9C①	Ⅱ類 8C④~9C ①以降
図63	105E	SF2315	築地 埋跡	V層	基底幅 1.8m以上, 積み1.30 cm遺存	基底部の北 側に小ピット を伴う	E10~ 38° N			→SA2313・ SA2314・ SK2362	106次で再検 出	8C②以前		I・II類? 8C②以降
図64	106C	SF2352B	築地 埋跡	Ⅲ層	基底幅 2.1m,	基底部のみ 検出, 寄柱 を伴う	N3° E			SF2352A→	SF2352Aの基 底部を作り替 え, SF2352Aよ り1.50cm東側 に寄る	8C②以前	積み土 8C②	Ⅱ類 8C②以降
図64	106C	SF2352A	築地 埋跡	Ⅲ層		基底部のみ 検出, 寄柱 を伴う	N3° E			→SF2352B	古段階の築地 埋基部	8C②以前		I 類 8C②以降
図63	106D	SA2358	柱列跡	IV-1- ①・② 層	2間1.4m 以上(西小 2.2... 2.2・2.2...)		E46° N		直径90cm の隅丸方 形・不整 形	SK2359→ →SB2356		9C前半以 降		Ⅲ・IV類? 9C前半以 降
図65	106E	SA2367	材木 埋跡 (材木列 埋跡)	Ⅲ-1- ②層	布製の溝 幅40cm, 深 さ25cm, 断 面U字状		E12° S		直径12 ~11cm	SA2368→		9C前半	布製98C 末・9C初	IV類 9C前半以 降

V 古代の検出遺構と出土遺物（2区画施設）

表32 区画施設遺構属性一覧(5)
外郊区画施設⑤

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱掘り方	柱痕跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
065	106E	SA2368	材木 堀跡 (柱列堀跡)	Ⅲ-1- ①層	布製の溝 幅40cm,深 さ20cm,断 面U字状		E12° S	直径12cm		→SA2367		9C前半		Ⅲ類 9C前半以 降
065	106E	SF2369	築地 堀跡	Ⅲ-3- ①層	基底幅 2.1m,積み 土20cm	大走り部分 もあり	E12° S					8C後半		Ⅲ類? 8C後半以 降
065	115	SA2577A -B	材木 堀跡 (材木列 堀跡)	V-1層	(B新)布掘 り溝幅0.6 ~1.9m,深 さ10~50 cm,(A古) 布掘り幅 1.1m前後 深さ40~ 50cm	南北方向, 布製の溝を 伴う材木堀, 材木を密に 立て並べる 材木列堀	N10° E	直径18 cm			新Ⅱ二期あり, SA2577(A古), SA2577(B新), SD294(19次), SA975(52次), SA2278・ SA2279 (104次)と連結	10C ②~③	SA2577B 9C後半	V類 10C②~ ③以降
066	116	SA2580	材木 堀跡 (材木列 堀跡)	Ⅳ-1層	布製の溝 幅1.5~ 2.0m,深さ 70cm,長さ 15m以上	南北方向, 布製の溝を 伴う材木堀, 材木を密に 立て並べる 材木列堀	北側 N25° W,南側 N30° W	直径15 ~20cm	SX2582・ SF2583→		SD176(14次)と 連結	8C①~ 8C③ 以降		Ⅳ類 8C①~9C ③以降
066	116	SF2583	築地 堀跡	V層	基底幅 1.3m以上, 積み土15 cm遺存	厚さ5~10 cmで敷築, 東側に幅20 cm・厚さ10 cmの大走 り部分あり	N25° W		→SA2580・ SX2582		SF177(14次)と 連結	8C前半		Ⅰ・Ⅱ類? 8C②以降
067	117 C-2	SF2624	築地 堀跡	Ⅳ-1層			W20° N				積み土から遺 物が出土,首 段階の築地堀, 首段階の築地 堀跡は削平 で消失	8C②	積み土8C 前・中葉	Ⅲ類 8C②以降

中央部区画施設

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱掘り方	柱痕跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
069	66	SA1453	柱列跡	3層	5間以上 12.3m以上 (東から 3.6-2.7-3. 0-3.0****)		W3° N(N3° E)	直径10~ 50cm,深さ 10~50cm	不明		中央建物C-1 類と方位が類 似,SB1449-14 50と平行	8C② 以前		A類 8C②以降
069	89	SA1929	柱列跡	B区,6層	南北2間 以上1.8m 以上(南か ら2.5・ 2.3)	掘り方3基 以上,柱列 跡	N4° E	直径50~ 50cm,深さ 20~30 cm,円形	直径12 cm			9C④		B類 9C④以降
069	89	SA1930	柱列跡	B区,6層	南北2間 以上1.5,9m 以上(南か ら3.0・2.9)	掘り方3基 以上,柱列 跡	N6° E	直径9.9 ~1.0m, 深さ30~ 35cm,円 形	不明			9C④		B類 9C④以降
069	89	SA1931	柱列跡	B区,6層	南北2間 以上1.5,7m 以上(南か ら2.7・3.0)	掘り方3基 以上,柱列 跡	N2° E	直径1.0 ~1.1m, 深さ30~ 35cm,円 形	直径27 cm			9C④		B類 9C④以降
069	89	SA1933	材木堀 跡 (柱列堀 跡)	C区,7 層	布製の幅 44cm,深さ 15~20cm 断面U字 状	布製の溝を 伴う材木堀, 材木の間隔は 0.6~1.0m, 間隔をおけ て丸太材を 立て並べた 柱列堀	W7° N(N7° E)	直径20 cm前後の 丸太材		SB1926・ SD1934→	鉄線出土	8C①~ 9C①		B類 9C①以降 (9C①の SD1934は 9新Iイ)

表33 区画施設遺構属性一覧(6)
南西部区画施設①

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱掘り方	柱底跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図71	85	SA1799	柱列跡	B区,6層	2間以上 2.7m以上 (西から 2.7...)	2基以上の 掘り方で構 成	W13° N (N13° E)	直径1.2m 前後,深さ 20~25 cm,ゆが んだ円形	直径20 cm			9C④~ 9C①	掘り方9C ②~③	C層 9C②~③
図71	85	SA1801	材木 埋跡 (材木列 埋跡)	A区,5層	布張り溝 幅80~90 cm,深さ35 ~40cm,断 面逆台形 状	布張りを伴 う材木埋,10 cm前後の間 隔で丸太材 を密に建て 替へた材木 列埋	N13° E		直径15 ~20cm	SI1807・ SK1810・ SK1812→	同位置での立 て替えか,拡張 期の城内区画 施設の東辺	9C②~③	A層 9C②以降 (9C①の SI1807より 新しい)	
図72	85	SA1802	材木 埋跡 (材木列 埋跡)	A区,5層	布張り溝 幅40~70 cm,深さ25 cm,断面U 字状	布張りを伴 う材木埋,0 ~10cmの間 隔で丸太材 を密に建て 替へた材木 列埋	N9° E		直径15 ~20cm		同位置での立 て替えか,城内 区画施設の東 辺	9C②~③	B層 9C②以降	
図72	85	SA1803	材木 埋跡 (材木列 埋跡)	A・B 区,5層	布張り溝 幅70~ 120cm,深 さ30~40 cm,断面逆 台形状	布張りを伴 う材木埋,10 cm前後の間 隔で丸太材 を密に建て 替へた材木 列埋	A区 E7° S N7° E) B区 E14° S (N14° E)		直径15 ~25cm		同位置での立 て替えか,城内 区画施設の北 辺	9C②~③	A層 9C②以降	
図 72-73	96	SA2066	材木 埋跡 (材木列 埋跡)	8層	布張り溝 上幅65~ 140cm,下 幅5~50 cm,深さ14 ~30cm,断 面U字状	布張りを伴 う材木埋,5 ~15cmの間 隔で丸太材 を密に建て 替へた材木 列埋	96次 部分 N14° E, 99次 北面 N10° E, 99次 南側 N1° E		直径15 ~30cm	SD2069 A・B→ →SI2061	99次で南側を 検出,99次の 南側部分で, 丸太材は新田 二時期あり,城 内区画施設の 西辺,99次南 側部分で埋め り,地山飛砂層 面が高いため, 西辺出入り口 の一角か	9C①	布張り99C ②,抜き取 り99C④	A層 9C②構築 ~9C④廃 絶
図72	96	SA2067	柱列跡	8層	3基の柱掘 り方,柱間 北から 1.5~1.5		N11° E	直径60~ 100cm,円 形	不明			9C①	C層 9C①以降	
図73	99	SA2144	柱列跡	5層	柱掘り方2 基以上 2.5m以上 (2.5)		N6° W	直径96~ 110cm,深 さ41~50 cm,楕円 形	直径20 cm	SA2149→		9C②	掘り方9C ②	D層 9C③以降 (9C②以 降の SA2149よ り新しい)
図73	99	SA2145	柱列跡	5層	柱掘り方3 基,3.6m (西から, 2.0~ 1.6)		W3° S (N3° E)	直径32~ 50cm,ゆ がんだ円 形	不明			9C②	C層 9C②以降	
図73	99	SA2146	柱列跡	5層	柱掘り方3 基,5.1m(西 から, 3.9~1.2)		W5° S (N5° E)	東側2基 一辺90~ 100cm,深 さ5~40 cm,隅丸 方形,西 側1基直 径45cm, 深さ8cm, 円形	直径20 cm程度 か	→SK2162		9C②	D層 9C②以降	

表34 区画施設遺構属性一覧(7)
南西部区画施設②

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱振り方	柱成跡	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物の 年代	遺構分類 時期
図73	99	SA2147	材木 埋跡 (柱列埋跡)	5層	布張り溝 上幅70～ 88cm,下幅 40～45cm, 深さ8～14 cm,断面U 字状	布張りを伴 う材木埋,材 木を密に建 て並べた材 木列埋	E10° E N10 E		直径20 cm	→SA2066- SA2148	SA2066とU字 状に重複し,西 辺出入り口に 伴う短い埋 跡	9C②	抜き取り 9C後半	B類 9C②以降 構築, 9C後半廢 絶
図74	99	SA2148	材木 埋跡 (柱列埋跡)	5層	布張り溝 上幅40～ 65cm,下幅 10～35cm, 深さ10～ 30cm,断面 U字状	布張りを伴 う材木埋,材 木を密に建 て並べた材 木列埋	W5° N E		不明	SA2066- SA2147→	布張り溝内に 幅15cm程の掘 り込んだ痕跡 があり,抜き取 りを受けた材 木列埋	9C②		B類 9C後半以 降 (9C後半 廢絶の SA2147よ り新しい)
図73	99	SA2149	材木 埋跡 (柱列埋跡)	5層(99 次),V 層(108 次)	布張り溝 上幅50～ 70cm,下幅 42～58cm, 深さ3～ 22cm,断面 U字状	布張りを伴 う材木埋,丸 太材の痕跡 が間隔をお いて認めら れる柱列埋	N13° E		直径20 ～25cm	SA2144- SD2463→	108次で再検 出	9C①		B類 9C③以降 (9C③の SD2463よ り新しい)
図73	99	SA2150	材木 埋跡 (柱列埋跡)	5層	布張り溝 上幅36～ 72cm,下幅 26～50cm, 深さ13cm, 断面形U 字状	布張りを伴 う材木埋,丸 太材の痕跡 が間隔をお いて認めら れる柱列埋	W12° N N12° E		直径25 ～40cm		SA2066と丁字 をなし,城内区 画施設内の小 区画の跡	9C②		B類 9C②以降
図74	99	SA2151	材木 埋跡 (柱列埋跡)	第12区 画区,7 層	布張り溝 上幅41～ 52cm,下幅 30～46cm, 深さ13cm	東西方向, 布張りを伴 う材木埋,丸 太材の痕跡 が間隔をお いて認めら れる柱列埋	W10° N N10° E		直径30 cm	→SA2151+ SD2155	城内区画施設 南辺	8C代	布張り 9C②	A類 9C②以降
図74	99	SA2152	材木 埋跡 (柱列埋跡)	第1A・B 区,5層	布張り溝 上幅52～ 62cm,下幅 40～50cm, 深さ4～10 cm	布張りを伴 う材木埋,丸 太材の痕跡 が間隔をお いて認めら れる柱列埋	W11° N N11° E		直径30 cm		城内区画施設 南辺,第1A区 画区では柱埋 跡のみが検出	9C②		A類 9C②以降
図74	99	SA2153	材木 埋跡 (柱列埋跡)	第3区,7 層	布張り溝 上幅42～ 55cm,下幅 42cm,深さ 8cm,断面 U字状	布張りを伴 う材木埋,丸 太材の痕跡 が間隔をお いて認めら れる柱列埋	W10° N° N10° E		直径20 ～25cm, 新旧関 係あり,	→SD2156	城内区画施設 南辺	8C代		A類 8C代以降
図74	99	SA2154	材木 埋跡 (柱列埋跡)	第2区 画区,7 層	布張り溝 上幅44～ 52cm,下幅 36～44cm, 深さ8cm, 断面U字 状	布張りを伴 う材木埋,丸 太材の痕跡 が間隔をお いて認めら れる柱列埋	N16° E		直径25 cm	SA2151→ →SD2155	SA2151にU字 状に重複する 位置で検出, 区画施設の南 側出入口に伴 う短い埋跡	8C代		B類 8C代以降
図74	108	SA2455	柱列埋跡	南北2間	3.4m(1.7+ 1.7)		N44° E		40～ 60cm,深 さ16～ 20cm,円 形	SK2477- SH2065→	間敷系土器等 出土	9C①～ 9C①		D類 9C③以降 (9C③廢 絶の SH2065よ り新しい)
図74	112	SA2536	柱列埋跡	南北1間 以上1.8m 以上			N5° E		直径50～ 80cm,深さ 15cm	SI2537→		9C④	抜き取り 10C①	D類 9C④～ 10C①

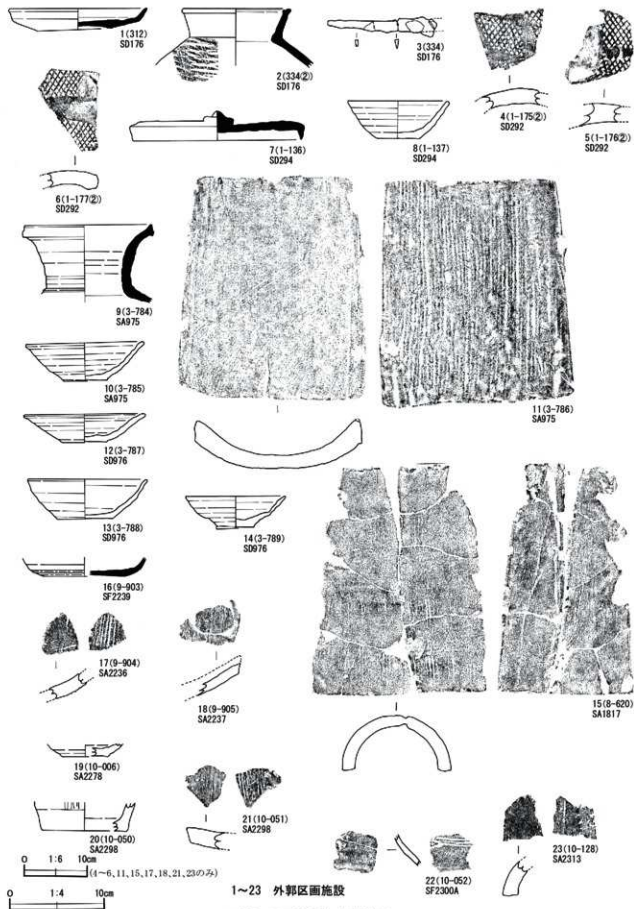


図75 区画施設出土遺物(1)

V 古代の検出遺構と出土遺物（2区画施設）

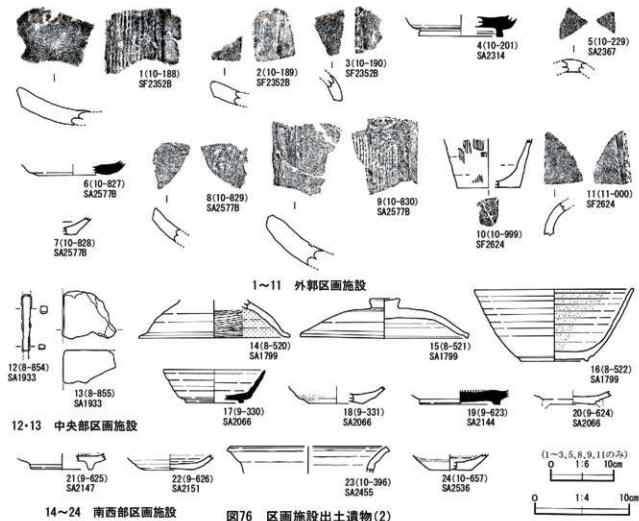


図76 区画施設出土遺物(2)

表35 区画施設出土遺物一覧(1)

外郭区画施設①

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図75-1	14	312	須恵器	坏A	SD176埋土	14.4	2.2	7.7	輪軸陶器の模倣。底部糸切の焼きヒズあり、底部内面を靫に転用、蓋の可能性もあり	
図75-2	14	334②	須恵器	甕	SD176方形棚の方埋土	11.2	-	-	小型甕、外面平行印き痕、内面ナゲ調整	9C前半か
図75-3	14	334	鉄製品	刀子	SD176埋土	-	-	-	錆化著しい、基部長さ約7cm、断面長方形、横区か	
図75-4	19	1-175②	瓦	平瓦	SD292埋土	-	-	-	格子目瓦、凸面格子目の印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、軟質、凸面灰白色、凹面褐色	8C④～9C①
図75-5	19	1-176②	瓦	平瓦	SD292埋土	-	-	-	格子目瓦、凸面格子目の印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、軟質、凸面灰白色、凹面褐色	8C④～9C①
図75-6	19	1-177②	瓦	平瓦	SD292埋土	-	-	-	格子目瓦、凸面格子目の印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、軟質、灰白色	8C④～9C①
図75-7	19	1-136	須恵器	蓋	SD294埋土	17.8	3.1	-	天井部へラケズリ調整のため、切り離し不明、外面部分的に自然釉、内面を靫に転用、短頸蓋の蓋	8C後半
図75-8	19	1-137	赤褐色土器	坏A	SD294埋土	10.5	4.0	4.4	底部糸切の、切り離し難	10C②
図75-9	52	3-781	須恵器	蓋	SA975埋土	12.3	-	-	広口、頸部に微凸凸帯、内外面に自然釉	10C①
図75-10	52	3-785	赤褐色土器	坏A	SA975埋土	12.4	4.0	4.6	底部糸切の	10C①
図75-11	52	3-786	瓦	平瓦	SA975埋土	-	-	-	底部糸切の	10C①
図75-12	52	3-787	赤褐色土器	罎	SD976埋土	12.6	3.1	4.6	底部糸切の	10C①
図75-13	52	3-788	赤褐色土器	坏A	SD976埋土	12.6	4.2	5.9	底部糸切の	10C①
図75-14	52	3-789	赤褐色土器	坏A	SD976埋土	10.5	3.1	3.9	小型坏、縦高台状、底部糸切の	10C③
図75-15	86	8-620	瓦	丸瓦	SA1817布層埋土	-	-	-	凸面縦目印き痕とナゲ調整、凹面布目圧痕、焼成良好、軟質、ぶい調整	1-1群
図75-16	102	9-903	須恵器	坏	FP2239、P2-2埋土	-	-	8.6	体部下端から底部全面にへラケズリ調整、切り離し不明、1×1子の刻痕	8C②
図75-17	102	9-901	瓦	平瓦	布層埋土	-	-	-	一枚作り、凸面縦目印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、やや軟質、灰色、凸面に砂粒が目立つ、表面劣化	1-2群

表36 区画施設出土遺物一覧(2)
外郭区画施設②

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図75-18	102	9-905	瓦	平瓦	SA2237 抜き取り埋土	-	-	-	一枚作り, 凸面鎌目印き版, 凹面布目圧痕, 焼成やや不良, やや軟質, 灰色, 表面劣化	1-2群
図75-19	104	10-006	赤褐色土器	坏A	SA2278 布取り埋土	-	-	5.0	底部糸切り, 切り離し粗雑	10C①以降
図75-20	105A	10-050	土師器	甕	SA2298 抜き取り埋土	-	-	9.0	平底小型, 底部摩滅しており, 切り離し不明	9C代
図75-21	105A	10-051	瓦	平瓦	SA2298 布取り埋土	-	-	-	一枚作り, 凸面鎌目の印き版, 凹面布目圧痕, 焼成やや不良, やや軟質, 灰色, 摩滅が激しい	1-2群
図75-22	105A	10-052	弥生土器	壺	SP2300A 積み土内	-	-	-	外面2集の平行沈線	弥生前期～中期
図75-23	105E	10-128	瓦	丸瓦	SA2313 布取り埋土	-	-	-	凸面ナゲ調整, 凹面布目圧痕, 分訳沈線あり, 焼成良好, やや軟質, 黄色～褐色	1-2群
図76-1	106C	10-188	瓦	平瓦	SP2352B 積み土内	-	-	-	一枚作り, 凸面鎌目の印き版, 凹面布目圧痕, 焼成やや不良, 軟質, 灰白色	1-1群
図76-2	106C	10-189	瓦	平瓦	SP2352B 積み土内	-	-	-	一枚作り, 凸面鎌目の印き版, 凹面布目圧痕, 焼成やや不良, 軟質, 灰白色	1-1群
図76-3	106C	10-190	瓦	丸瓦	SP2352B 積み土内	-	-	-	凸面ナゲ調整, 凹面布目圧痕, 分訳沈線あり, 焼成やや不良, 軟質, 灰色, 摩滅している	1-2群
図76-4	106D	10-201	須恵器	台付埴	SA2314 布取り埋土	-	-	9.0	外面摩滅している, 底部切り離し不明, ヘラ切り後, 高台を掘り付け	8C①～9C①
図76-5	106E	10-229	瓦	丸瓦	SA2367 布取り埋土	-	-	-	凸面摩滅により不明, 凹面布目圧痕, 焼成やや不良, 軟質, 黄灰色	1-2群
図76-6	115	10-827	須恵器	埴	SA2577B 抜き取り埋土	-	-	8.0	底部ヘラ切り後, ナゲ調整	9C前半
図76-7	115	10-828	赤褐色土器	坏A	SA2577B 抜き取り埋土	-	-	-	底部糸切り	9C後半以降
図76-8	115	10-829	瓦	平瓦	SA2577B 抜き取り埋土	-	-	-	一枚作り, 凸面鎌目の印き版, 凹面布目圧痕と糸切り痕, 焼成良好, 硬質, 灰色から青灰色, 砂粒目立つ	2群
図76-9	115	10-830	瓦	平瓦	SA2577B 抜き取り埋土	-	-	-	一枚作り, 凸面鎌目の印き版, 凹面布目圧痕, 焼成良好, 軟質, 灰色(いふし, 焼成)	1-3群
図76-10	117 C-2	10-999	土師器	甕	SP2824 積み土内	-	-	6.6	平底小型, 底部本葉板, 体部外面縦方向のへケ目調整	8C前半～中葉
図76-11	117 C-2	11-000	瓦	丸瓦	SP2824 積み土内	-	-	-	凸面丁寧なナゲ調整, 凹面布目圧痕と糸切り痕, 焼成良好, 軟質, 灰色	1-2群

中央部区画施設

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図76-12	89	8-854	鉄製品	鉄鏃	SA1933 布取り埋土	-	-	-	基部, 錆化著しい, 先端と基部の一部欠損	
図76-13	89	8-855	埴	-	SA1933 布取り埋土	-	-	-	軟質, 淡黄色	

南西部区画施設

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図76-14	85	8-520	土師器	蓋	SA1799 柱取り埋土	15.6	4.0	-	内面黄色処理, 天井部欠損, 天井部内面横方向のミガキ調整	9C②～③
図76-15	85	8-521	赤褐色土器	蓋	SA1799 柱取り埋土	17.6	4.2	-	天井部ヘラ切り後, ケズリ調整	9C②～③
図76-16	85	8-522	赤褐色土器	台付埴	SA1799 柱取り埋土	16.8	7.6	6.9	底部糸切り, 高台取り付け後, 底部と高台周辺ケズリ調整, 二次的被熱痕	9C③
図76-17	96	9-330	須恵器	台付埴	SA2066 布取り埋土	11.0	3.6	6.0	底部ヘラ切り後, ケズリ調整, 高台取り付け後, 高台周辺をナゲ調整	9C②
図76-18	96	9-331	赤褐色土器	皿	SA2066 抜き取り埋土	-	-	6.0	底部糸切り, 切り離し粗雑, 二次的被熱痕	9C④
図76-19	99	9-623	須恵器	台付埴	SA2144.P1 柱取り埋土	-	-	8.6	底部ヘラ切り後, 軽いつな調整, 高台取り付け後に, 高台周辺をナゲ調整, 底部内面を縦に転用	9C②
図76-20	99	9-624	赤褐色土器	台付埴	SA2066 抜き取り埋土	-	1.4	4.9	高台部分欠損, 底部糸切り, 高台取り付け後, 周縁部をナゲ調整	9C④
図76-21	99	9-625	土師器	台付埴	SA2147 布取り埋土	-	-	6.1	内面黄色処理, 内面放射状のミガキ調整	9C後半
図76-22	99	9-626	赤褐色土器	坏A	SA2151 布取り埋土	-	-	5.2	底部糸切り, 体部内外面丁寧なナゲ調整	9C②
図76-23	108	10-396	土師器	甕	SA2455.P2 柱抜き取り埋土	16.6	-	-	関東系α, 口縁部端が外側にややつまみ出され, 内面に凹みがある	
図76-24	112	10-657	赤褐色土器	坏A	SA2536柱抜き取り埋土	-	-	4.4	底部糸切り, 二次的被熱痕	10C①

第3節 溝跡 (図77~84、表37~39)

ここで述べる溝跡は、上部構造をもたない溝状に地面を掘り下げた遺構である。焼山地区で検出された溝跡は、配置から中央部、南西部、北西部の3つに分けられる。以下、この順序で整理する。

1 中央部溝跡 (図77・78、表37)

掘立柱建物群が集中する中央部に配置されている溝跡の一群である。66次・70次・73次・89次調査で8条検出されている。配置と方位により以下のように分類できる。

A類：中央部中央に配置されるもの。掘立柱建物群との対応関係から以下の2種に細分できる。

A-1類：方位が北で2°東に振れ、中央部掘立柱建物跡B-1類のSB1207に平行する溝跡。SD1458(66次)が該当する。

A-2類：方位が真北を中心に北で4°~9°西に振れる、または5°東に振れるもの。特定の建物との並行関係は不明であるが、中央部掘立柱建物跡のいずれかに付随する可能性がある。SD1459(66次)、SD1460(66次)、SD1518(70次)、SD1630(73次)が該当する。

B類：中央部南東に配置され、中央部区画施設B類に方位が類似するもの。SD1935(89次)が該当する。

C類：中央部南東で検出される溝跡で、方位や配置は一定しないもの。SD1934(89次)、SD1936(89次)が該当する。

各類型の遺構の年代は、検出層位と出土遺物の年代からみれば、A類は8世紀第2四半期以降、B類は8世紀第4四半期~9世紀第1四半期以降、C類は9世紀第4四半期以降である。ただし、A-1類は、中央部掘立柱建物跡B-1類に付随するとすれば、8世紀後半のものと考えられる。また、B類は中央部区画施設B類に付随するものとすれば、9世紀第4四半期以降のものと考えられる。

2 南西部溝跡 (図79~81、表37・38)

焼山地区南西部の方形の城内区画施設内および周辺で検出された溝跡である。85次・86次・96次・99次・108次・112次で16条検出されている。方形の城内区画施設との配置関係から以下のように分類できる。

A類：城内区画施設内に配置され、これに方位が類似するもの。SD1804(85次)が該当する。

B類：城内区画施設内に配置されるが、方位が一定しないもの。SD1805(85次)、SD2069A・B(96次)、SD2155・2156(99次)、SD2456~2458・2498・2499(108次)、SD2546(112次)が該当する。

C類：城内区画施設外に配置されるもの。方位は一定しない。SD1820~1823(86次)が該当する。

各類型の年代は、検出層位と遺物の年代からみれば、A類が8世紀第4四半期~9世紀第1四半期以降、B・C類は9~10世紀代とばらつきがある。少なくともA類は城内区画施設が存在している9世紀第2四半期~9世紀第4四半期に機能していたと考えられる。

3 北西部溝跡 (図82・83、表38)

焼山地区北西部の106次B区・C区、111次で3条検出されている。SD2340(106次B)とSD2351(106次C)は8世紀後半、SD2522(111次)は9世紀第3四半期以降と考えられる。

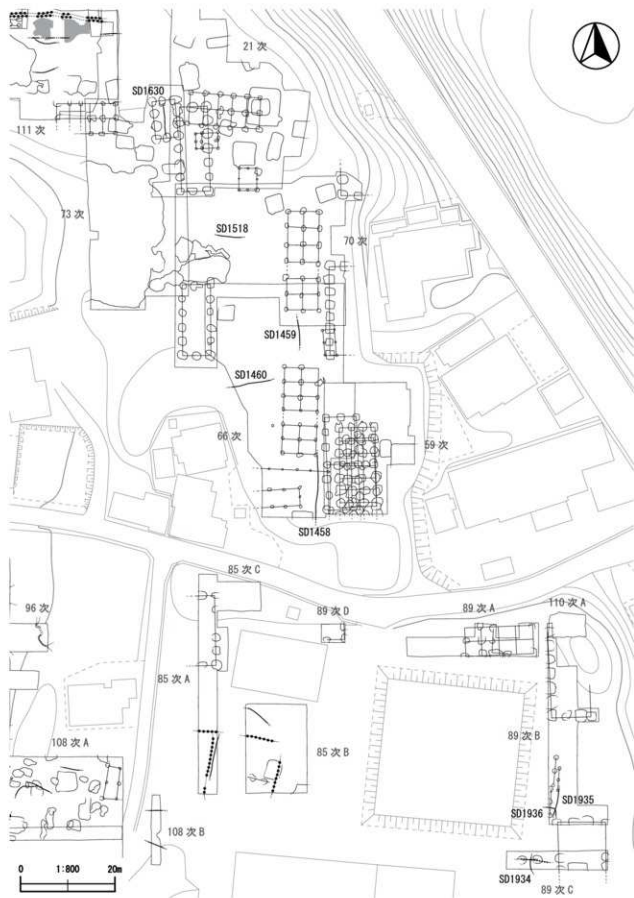


図 77 中央部溝跡概略図

V 古代の検出遺構と出土遺物 (3清跡)

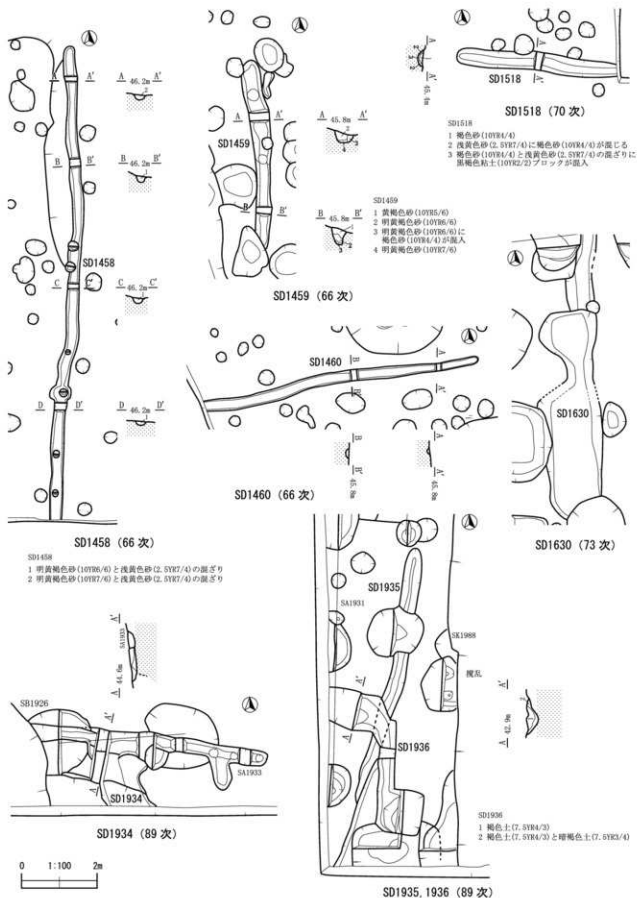


図 78 中央部溝跡 (SD1458 ~ 1460, 1518, 1630, 1934 ~ 1936 溝跡)

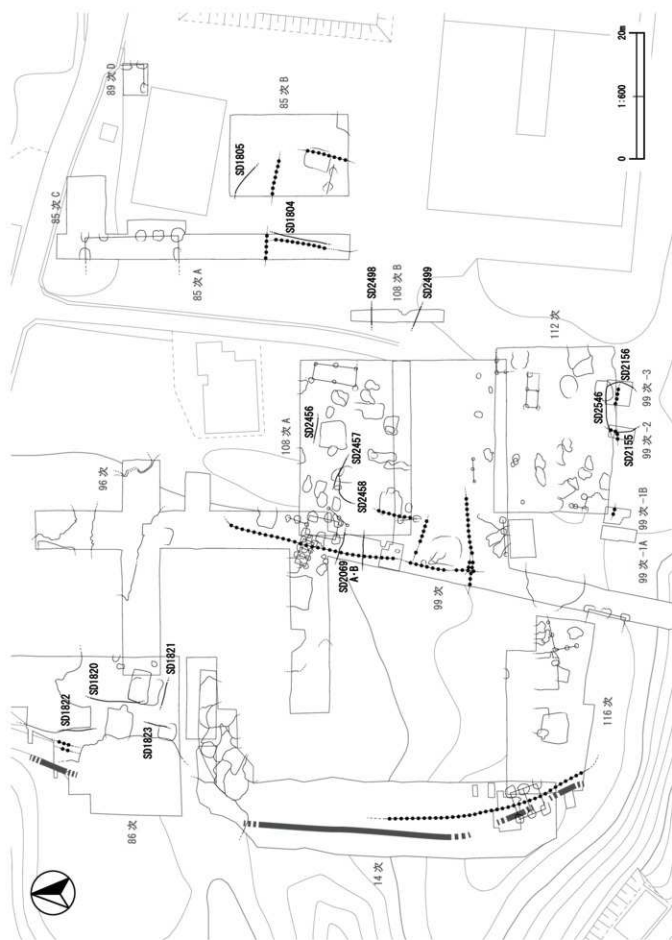


図 79 南西部溝跡概略図

V 古代の検出遺構と出土遺物 (3溝跡)

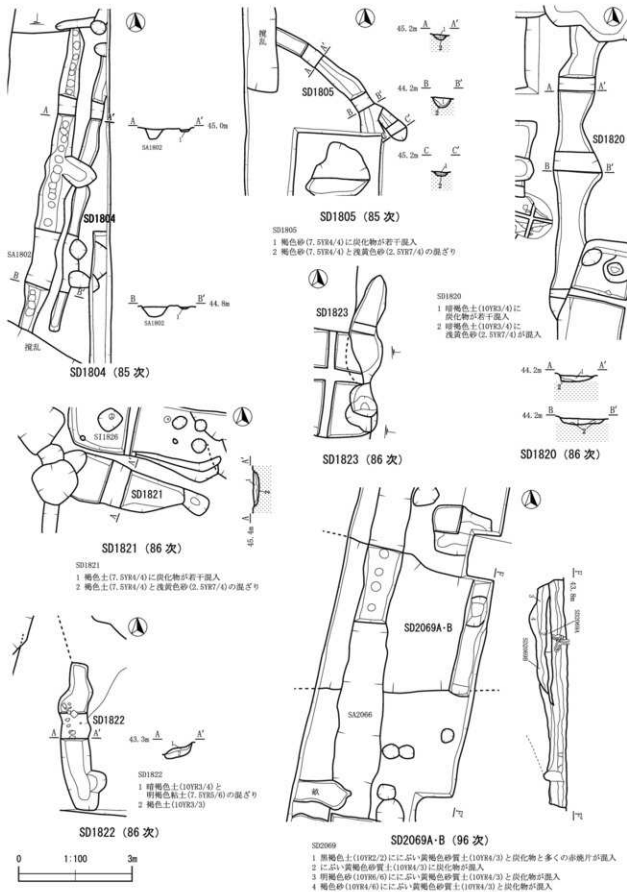


図 80 南西部溝跡①(SD1804, 1805, 1820 ~ 1823, 2069A・B 溝跡)

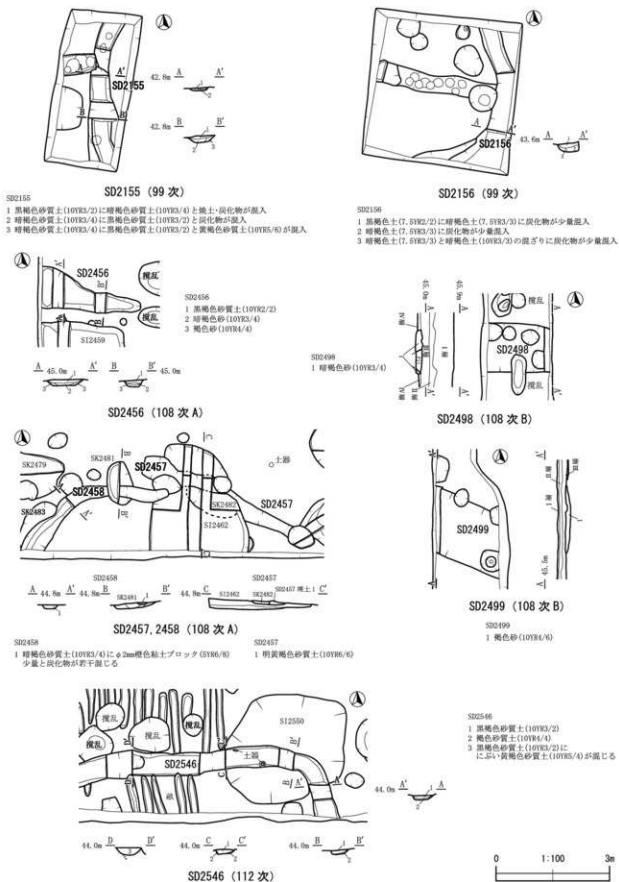


図 81 南西部溝跡②(SD2155, 2156, 2456 ~ 2458, 2498, 2499, 2546 溝跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (3溝跡)

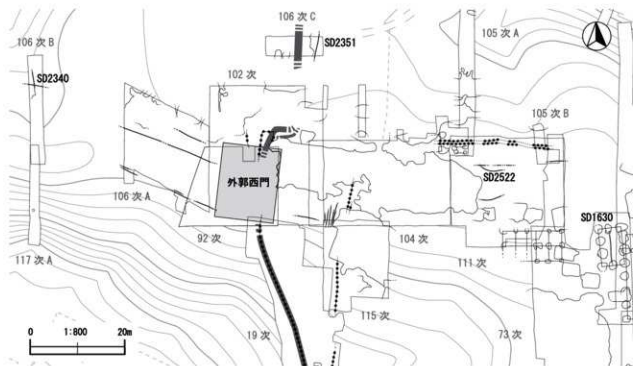


図 82 西北部溝跡概略図

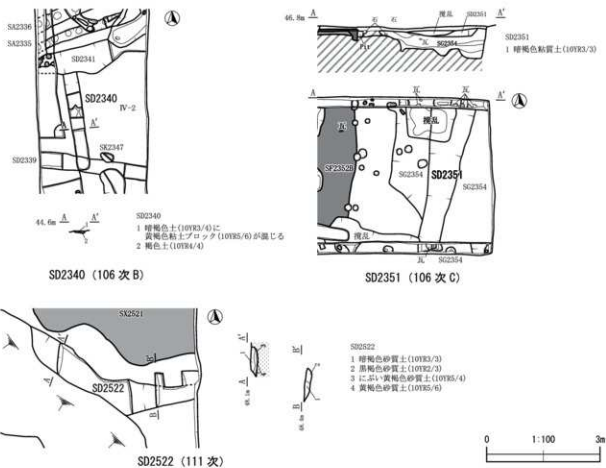


図 83 西北部溝跡 (SD2340, 2351, 2522 溝跡)

表37 溝跡遺構属性一覧(1)
中央部溝跡

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図78	66	SD1458	溝跡	4層	幅25~30cm,深 さ10~20cm	南北方向	N2° W		中央建物群に 方位が類似			A-1層 8C②以降
図78	66	SD1459	溝跡	4層	幅30~60cm,深 さ25~45cm	南北方向	N4° W		中央建物群に 方位が類似			A-2層 8C②以降
図78	66	SD1460	溝跡	4層	幅20~35cm,深 さ8~10cm	東西方向	W9° S (N9° W)					A-2層 8C②以降
図78	70	SD1518	溝跡	4層	幅35~55cm,深 さ15~20cm	東西方向	W5° N (N5° E)		中央建物群に 方位が類似			A-2層 8C②以降
図78	73	SD1630	溝跡	不明	幅0.7~1.3m,深 さ20cm		真北	--SB316	中央建物群に 方位が類似			A-2層 8C②以降
図78	89	SD1904	溝跡	7層	幅100cm,深さ15 cm	東西方向	北側 E10° S, 南側 S10° E	--SA1933		8C①~ 9C①	埋土9C④	C層 9C④以降
図78	89	SD1935	溝跡	7層	幅30cm前後,深 さ15cm	南北方向	N12° E	SD1936-- --SK1983	中央建物群に 方位が類似	8C①~ 9C①		B層 8C①~9C ①以降
図78	89	SD1936	溝跡	7層	幅32~80cm,深 さ20cm	東西方向から南北方向 へ屈曲する,南東端部 に一边90cmの方形の掘 り方を伴う	北側 E10° S 南側真 南	SB1921-- --SD1935		8C①~ 9C①		C層 8C①~9C ①以降

南西部溝跡①

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図90	85	SD1804	溝跡	A区, 5層	幅20~40cm,深 さ10~15cm	南北方向	N11° E		南西区画施設 A区のSA1802 と並行	8C①~ 9C①		A層 8C①~9C ①以降
図90	85	SD1805	溝跡	B区, 8層	幅40~50cm,深 さ10~25cm	東西方向	S21° E (N21° W)					B層 9C代?
図90	86	SD1820	溝跡	7層	幅60~120cm,深 さ30cm	南北方向	N4° E	--SI1824	埋土より赤褐色 土器片出土	8C末以降		C層 9C代?
図90	86	SD1821	溝跡	12層	幅80~120cm,深 さ20cm	東西方向	W17° N		埋土より赤褐色 土器小形環 の破片出土			C層 10C代?
図90	86	SD1822	溝跡	7層	幅50~70cm,深 さ30cm	南北方向	N3° W		埋土より赤褐色 土器片出土	8C末以降		C層 9C代?
図90	86	SD1823	溝跡	7層	幅50~70cm,深 さ30cm	南北方向	N14° E		埋土より赤褐色 土器小片出 土	8C末以降		C層 9C代?
図90	96	SD2069A	溝跡	9層	幅2.9m,深さ10 ~15cm	東西方向	W11° N	SA2069B-- --SA2066	新設 階,SD2069Bと 同位置	9C①	埋土9C②	B層 9C②以前 (9C②構築 前の SA2066より 古イ)
図90	96	SD2069B	溝跡	9層	幅3.2m,深さ25 ~45cm	東西方向	W11° N	-- SA2069A・ SA2066	古段階, SD2069Aと同 位置	9C①	埋土9C①	B層 9C②以前 (9C②構築 前の SA2066より 古イ)
図81	99	SD2155	溝跡	第2控 索区, 7層	幅52~78cm,深 さ15~20cm	南北方向	N2° E	SA2151・ SA2151--		8C代	埋土10C ③	B層 10C③以降
図81	99	SD2156	溝跡	第3控 索区, 7層	北半幅45~55 cm,南半幅55~ 100cm以上	南北方向,弧状を呈する	北半 N20° W, 南半 N40° E	SA2153--		8C代	埋土9C④ 以降	B層 9C④以降
図81	108	SD2456	溝跡	A区, IV層	幅40~110cm, 深さ16cm		真東			8C①~ 9C①	埋土9C②	B層 9C②以降

V 古代の検出遺構と出土遺物 (3溝跡)

表38 溝跡遺構属性一覧(2)
南西部溝跡(2)

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
E81	108	SD2457	溝跡	A区, IV 層	幅10~90cm, 深 さ11cm, 断面皿 状		W30° N	SD2462→ →SD2458・ SK2482		8C④~ 9C①		B層 9C後半以 降(9C後 半以降の SD2462より 新しい)
E81	108	SD2458	溝跡	A区, IV 層	幅30~50cm, 深 さ10cm		N40° E ~真東	SD2457・ SK2481・ SK2483・ SD2462→	不明鉄製品出 土	8C④~ 9C①		B層 9C後半以 降(9C後 半以降の SD2462より 新しい)
E81	108	SD2498	溝跡	B区, IV 層	幅1.3m, 深さ18 cm	東西方向	真東 (N90° W)			8C④~ 9C①		B層 8C④~9C ①以降
E81	108	SD2499	溝跡	B区, IV 層	幅1.6m, 深さ12 cm	東西方向	W25° N (N25° E)			8C④~ 9C①		B層 8C④~9C ①以降
E81	112	SD2546	溝跡	V層	幅40~60cm, 深 さ15cm	東西方向に延び, 南に 屈曲する	東西 W2° S, 南北 S8° W	SD2550→	SD2156(99次) と連結, アイゴ 羽口出土	8C④	埋土9C②	B層 9C①以降 9C③以 降の SD2156と 連結する

北西部溝跡

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
E83	106B	SD2340	溝跡	IV-2層	幅30cm, 深さ5cm	南北方向	S9° W	SD2339・ SD2343→ →SD2341		8C②?		8C後半以 降(8C後 半までの SD 2339より新 しい)
E83	106C	SD2351	溝跡	III層	幅50~120cm, 深 さ10~30cm	南北方向	N7° E	SG2354→		8C②以前		8C後半以 降(8C後 半に埋 まった SG2354よ り新しい)
E83	111	SD2522	溝跡	IV-2層	幅50~120cm, 深 さ15cm	東西方向	W30° N	→SX2521		9C④	埋土 9C後半	9C②以降

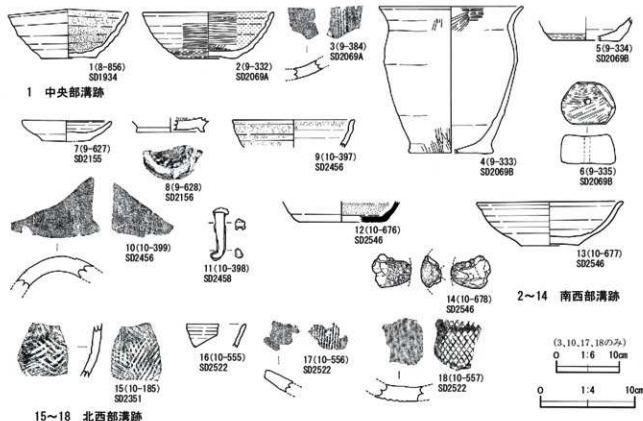


図84 清跡出土遺物

表39 清跡出土遺物一覽
中央部清跡

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図84-1	89	8-856	赤褐色土器	坏A	SD1934埋土	12.8	4.7	5.8	底部糸切り	9C④
西部部清跡										
図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図84-2	96	9-332	土師器	埴	SD2069A埋土	13.8	4.9	5.8	内面黒色処理, 底部糸切り, 外面は口縁部ナダ調整, 体部横位のミガキ調整, 体部下端ケズリ調整, 内面横位のミガキ調整	9C②
図84-3	96	9-384	瓦	平瓦	SD2069A埋土	-	-	-	一枚作り, 凸面織目印き痕, 凹面布目圧痕, 焼成良好, やや軟質, 黒色(いぶし焼成)	1-3群
図84-4	96	9-333	土師器	甕	SD2069B埋土	15.0	15.6	8.6	平底小型, 底部丁寧なナダ調整, 外面縦位のハケ目調整後, 口縁部ナダ調整, 体部縦位のミガキ調整, 内面は口縁部から顔部に横位のハケ目調整後, ナダ調整	8C後半
図84-5	96	9-334	赤褐色土器	坏B	SD2069B埋土	-	-	7.0	底部糸切り後, 底部全面から体部下端にかけてケズリ調整	9C①
図84-6	96	9-335	石製品	砥石	SD2069B埋土	-	-	-	中央に穿孔, 平面使用	
図84-7	99	9-627	赤褐色土器	甕	SD2153埋土	9.4	2.2	5.0	小型, 底部糸切り	10C②
図84-8	99	9-628	土師器	台付埴	SD2156埋土	-	-	7.0	内面黒色処理, 底部糸切り, 高台取り付け後, 高台周辺をナダ調整, 菊花状調整痕, 内面放射状のミガキ調整	9C④以降
図84-9	108	10-397	赤褐色土器	坏A	SD2456埋土	13.0	-	-	二次の被熱直被熱痕	9C②
図84-10	108	10-399	瓦	丸瓦	SD2456埋土	-	-	-	凸面ナダ調整, 凹面布目圧痕, やや焼成不良, 軟質, 褐色	1-1群
図84-11	108	10-398	鉄製品	不明	SD2456埋土	-	-	-		
図84-12	112	10-676	須恵器	坏	SD2546埋土	-	-	9.6	底部へら切後, 軽いナダ調整, 二次の被熱痕	9C②
図84-13	112	10-677	赤褐色土器	坏A	SD2546埋土	15.6	4.6	6.1	底部糸切り, 二次の被熱痕	9C②
図84-14	112	10-678	土製品	フイゴ羽口	SD2546埋土	-	-	-		
北西部部清跡										
図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図84-15	106C	10-185	須恵器	甕	SD2351埋土	-	-	-	外面に平行印き痕, 内面に平行当て目痕	9C後半
図84-16	111	10-555	赤褐色土器	坏A	SD2522埋土	-	-	-	作り雑	9C後半
図84-17	111	10-556	瓦	平瓦	SD2522埋土	-	-	-	一枚作り, 凸面織目の印き痕, 凹面布目圧痕, 焼成不良, 軟質, 灰白色, 摩耗している	1-1群
図84-18	111	10-557	瓦	平瓦	SD2522埋土	-	-	-	格子目瓦, 一枚作り, 凸面格子目の印き痕, 凹面布目圧痕, 焼成やや不良, やや軟質, 灰白色, 摩耗している	8C①~9C①

第4節 道路遺構（図85～92、表40～42）

焼山地区北西部、外郭西門の東西に道路遺構が9箇所検出されている。道路遺構は、道路部分に硬化面等が確認され、道路の端には道路側溝が発見される。また、道路遺構硬化面の下層には、道路方向と直交する溝状の遺構が発見される場合がある。このような溝状遺構は、水捌けをよくするための掘り込み整地事業（道路整地溝）であると考えられる。焼山地区で発見された道路関連遺構は、外郭西門を基準に、城外西大路と城内西大路に分かれる。城外西大路の道路遺構は、92次A区、106次A・B区、109次、114次で検出されている。城内西大路の道路遺構は、102次、104次、111次で検出されているが、近世土取り穴により大きく削平を受けており、詳細が不明なものが多い。これらの道路関連遺構は、城外・城内等の配置、新旧関係などから、以下のような組み合わせとして整理することができる。

A類：城外西大路のB類よりも古い段階。92次A区、106次A・B区、109次調査の道路関連遺構。道路遺構としては、SX2332(106次A)、SX2349(106次B)、SX2511(109次)が該当する。

B類：城外西大路のA類よりも新しい段階。92次A区、106次A・B区、109次調査の道路関連遺構。道路遺構としては、SX2331(106次A)、SX2509(109次)が該当する。

C類：城外西大路で、114次調査の道路関連遺構。道路遺構としては、SX2575(114次)が該当する。

D類：城内西大路のE類よりも古い段階。111次調査の道路関連遺構。SX2628(111次)が該当する。

E類：城内西大路のD類よりも新しい段階。111次調査の道路関連遺構。SX2521(111次)が該当する。

F類：城内西大路で、102次・104次調査の道路関連遺構。SX2627(104次)が該当する。

A類の道路遺構を構成する各遺構は次の通りである。SX2332 道路遺構(106次A)は、北側側溝がSD2321(106次A)、南側側溝がSD2322A・B(106次A)、側溝間の道路幅は11.9～12.0mである。なお、道路遺構の下層に道路整地溝 SX2334(106次A)が伴う。SX2349 道路遺構(106次B)は、北側側溝がSD2339(106次B)で、南側側溝は不明だが道路硬化面である106次B区IV-1層の範囲から道路幅は約12mと考えられる。SX2511 道路遺構(109次)は、北側側溝がSD2510(109次)であり、南側側溝は不明だが道路硬化面であるIV層の範囲から道路幅は10.5m以上と考えられる。以上から、A類道路遺構の幅は、約12mであると考えられる。

B類の道路遺構を構成する各遺構は次の通りである。SX2331 道路遺構(106次A)は、北側側溝がSD2319(106次A)とSD1994(92次A)、南側側溝がSD2320A・B(106次A)とSD1995(92次A)で、側溝間の道路幅は8.7～9.0mである。道路遺構の下層に道路遺構と直行する方向の道路整地溝 SX2333(106次A)が伴う。SX2509 道路遺構(109次)は、北側側溝がSD2507(109次)、南側側溝がSD2508(109次)で、側溝間の道路幅は8.0mである。以上から、B類道路遺構の幅は、約9m前後であると考えられる。

C類のSX2575 道路遺構(114次)は、道路硬化面のみの確認で道路側溝が未検出であり、道路遺構の本体かどうかは検討を要する。

D類のSX2628 道路遺構(111次)は、北側側溝がSD2532(111次)で道路幅は8m以上あると考えられる。

E類のSX2521 道路遺構(111次)は、南側側溝がSD2523(111次)で道路幅は9～10mと推定される。

F類のSX2627 道路遺構(104次)は、南側側溝がSD2241(102次)で、北側側溝は不明だが、道路硬化面(104次III-2層)の範囲は5m以上で、道路整地溝SD2280～2285(104次)が伴うと考えられる。

遺構内遺物、整地層（道路硬化面）出土遺物などから道路遺構の時期を推定すると、遺物がほとんど出土しないA類は8世紀代、B類は8世紀第4四半期以降、C類は8世紀代～9世紀第1四半期、D類は8世紀代、E類は9世紀第4四半期以降、F類は9世紀後半以降と考えられる。

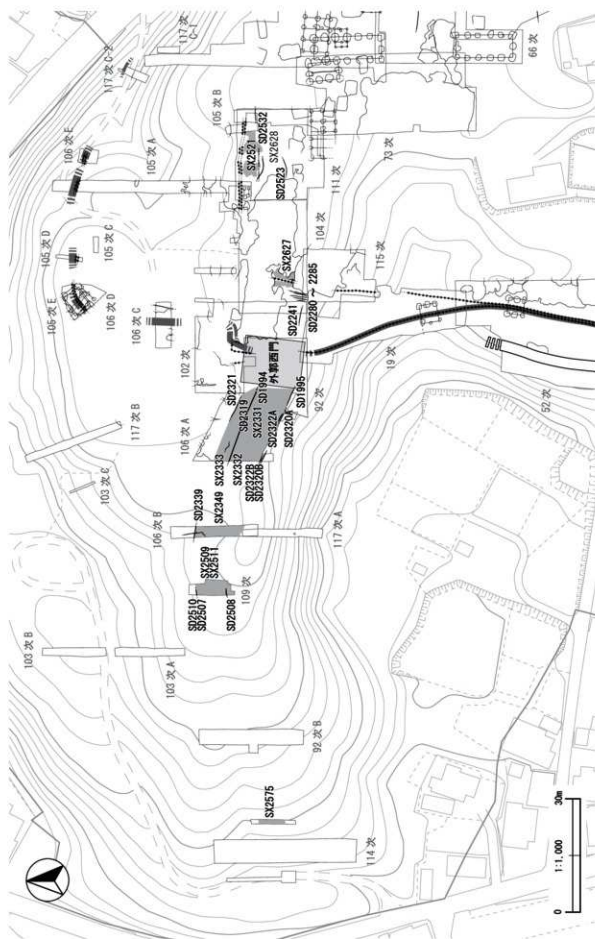


図 85 道路遺構概略図

V 古代の検出遺構と出土遺物 (4道路遺構)

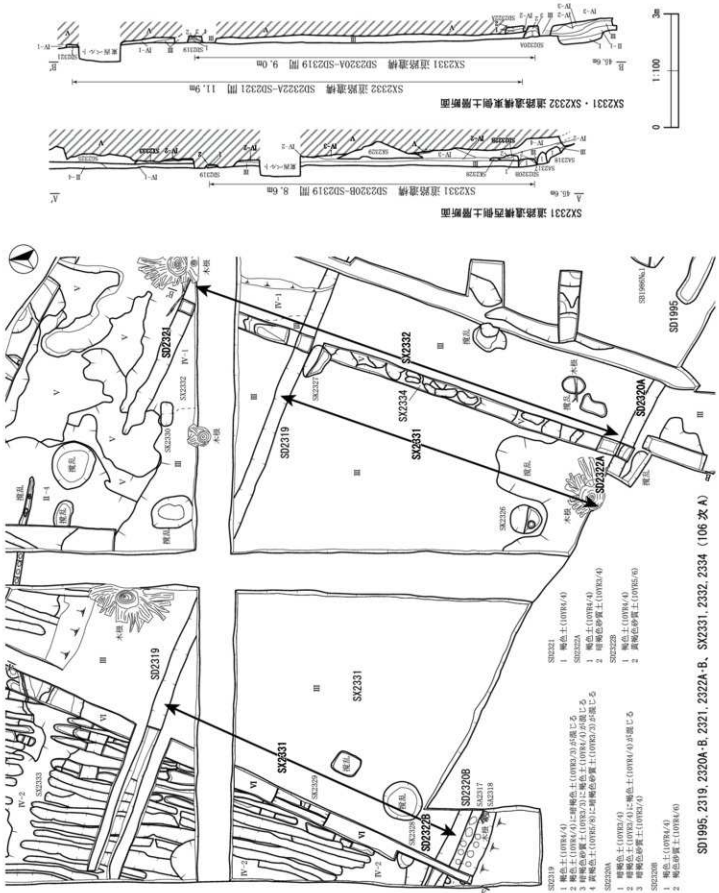


図87 道路遺構②(106次A区関連遺構)

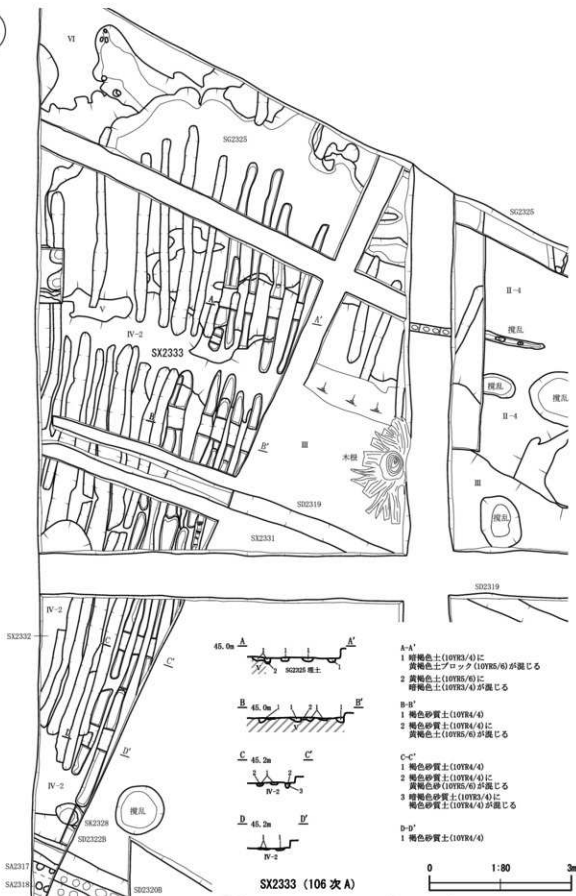


図88 道路遺構③(SX2333 溝状遺構)

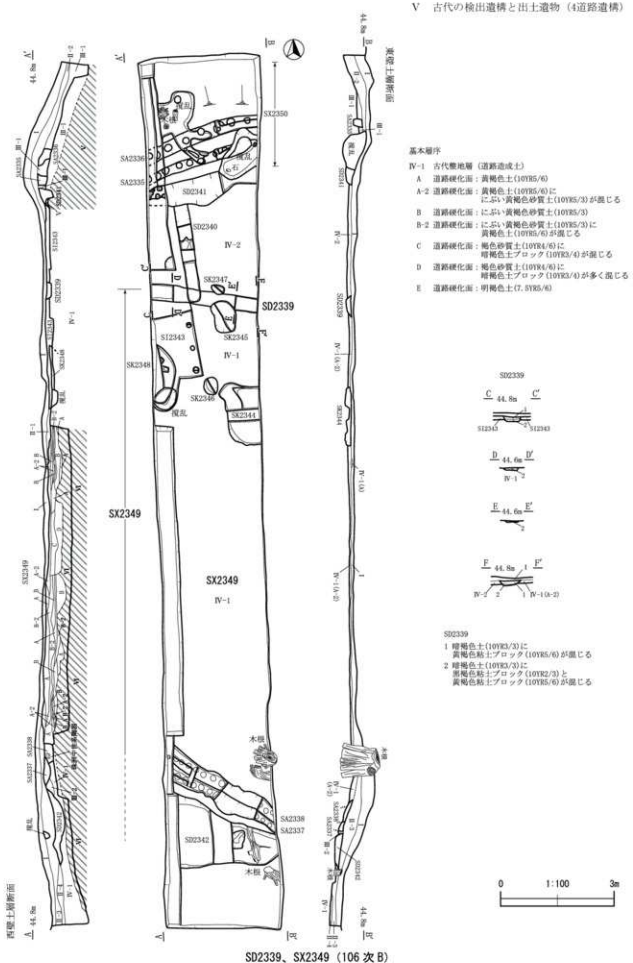
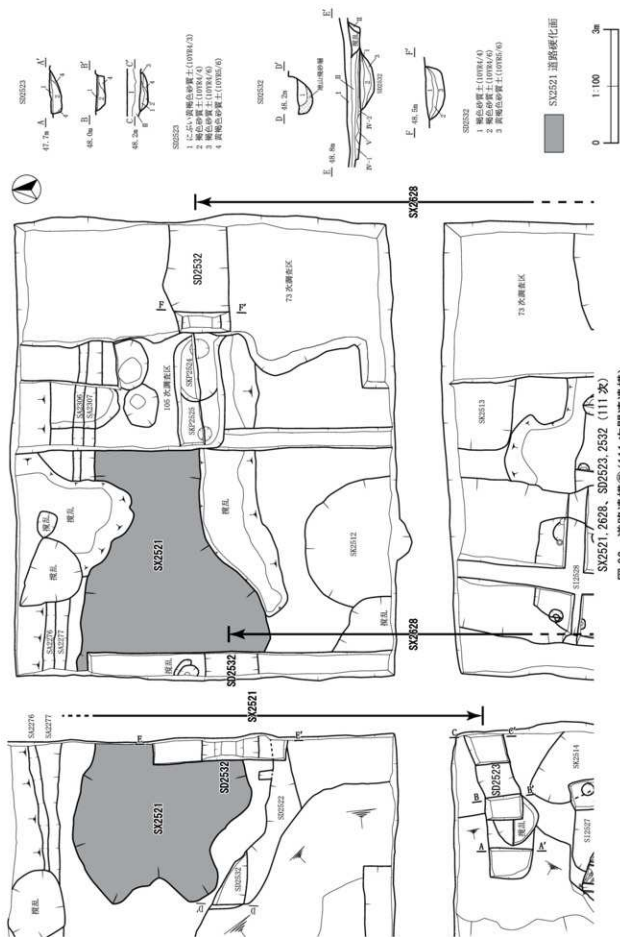
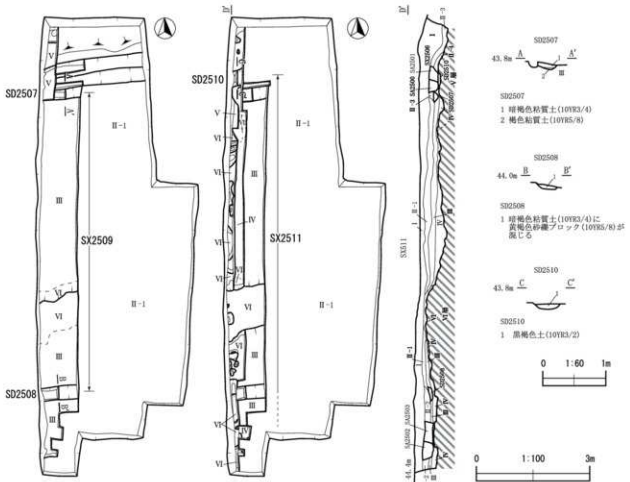


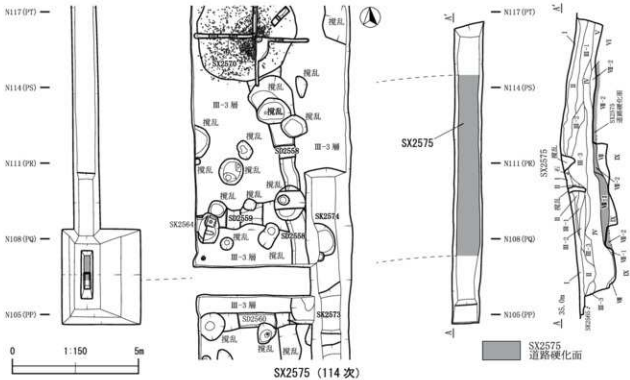
図 89 道路遺構④(106次B区関連遺構)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (4道路遺構)





SD2507, 2508, 2510, SX2509, 2511 (109次)



SX2575 (114次)

図 91 道路遺構⑥(109次・114次関連遺構)

V 古代の検出遺構と出土遺物（4道路遺構）

表40 道路遺構属性一覧(1)

図No.	調査 次数	遺構番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図20	92A	SD1994	溝跡 (道路 側溝)	6層	幅30～50cm, 深さ14cm前後, 長さ3.5m以上	SX2301道路遺 構北側側溝	W18° N (N18° E)		SX2331道路遺構南 側側溝のSD2319(10 次A/E)と連結	8C末・9C 初		B類
図 20・87	92A	SD1995	溝跡 (道路 側溝)	6層	幅40～50cm, 深さ8～10cm, 長さ3.5m以上	SX2331道路遺 構南側側溝	W23° N (N23° E)		SX2332道路遺構南 側側溝のSD2322A(106次A/E) と連結す	8C末・9C 初		B類
図 20・86	102	SD2211	溝跡 (道路 側溝)	Ⅵ層	幅30～50cm, 深さ10cm,長さ 5.3m以上	SX2627の道路 南側側溝	W10° N (N10° E)	—		8C②以前		F類
図86	104	SD2280	溝状 遺構 (道路 整地)	Ⅲ-1層	幅40cm,深さ20 cm	南北方向	N4° E	→SG2287	SX2627道路遺構に 伴う掘り込み整地事 業	9C④		F類 9C④以降
図86	104	SD2281	溝状 遺構 (道路 整地)	Ⅲ-1層	幅10～20cm, 深さ10cm	南北方向	N9° E	→SG2287	SX2627道路遺構に 伴う掘り込み整地事 業	9C④		F類 9C④以降
図86	104	SD2282	溝状 遺構 (道路 整地)	Ⅲ-1層	幅10～20cm, 深さ15cm	南北方向	N7° E		SX2627道路遺構に 伴う掘り込み整地事 業	9C④		F類 9C④以降
図86	104	SD2283	溝状 遺構 (道路 整地)	Ⅲ-1層	幅20～40cm, 深さ15cm	南北方向	N11° E		SX2627道路遺構に 伴う掘り込み整地事 業	9C④		F類 9C④以降
図86	104	SD2284	溝状 遺構 (道路 整地)	Ⅲ-1層	幅10～20cm, 深さ10cm	南北方向	N11° E	→SG2289	SX2627道路遺構に 伴う掘り込み整地事 業	9C④		F類 9C④以降
図86	104	SD2285	溝状 遺構 (道路 整地)	Ⅲ-1層	幅20cm	南北方向	N15° E		SX2627道路遺構に 伴う掘り込み整地事 業	9C④		F類 9C④以降
図86	104	SX2627	道路 遺構	Ⅲ-2・② 層	南北幅5m以上, 硬化面の厚さ 30～60cm	南側側溝は SD2241a,SD228 0～2285a,掘り 込み整地事業		→SA2278・ SA2279・ SG2289・ SG2287	遺構番号は本報告で 付与	9C④	整地層 9C後半	F類 9C後半以 降
図87	106A	SD2319	溝跡 (道路 側溝)	Ⅲ層	幅40cm,深さ5 ～30cm,長さ 16.6m以上,断 面U字状	SX2331道路遺 構北側側溝	W23° N (N23° E)	→SK2327		8C④～ 9C前半		B類 8C④～ 9C前半以 降
図87	106A	SD2320A	溝跡 (道路 側溝)	Ⅲ層	幅40cm,深さ30 cm,長さ2.4m以 上,断面U字状	SD2320Bの延 長,SX2331道路 遺構南側側溝	W23° N (N23° E)			8C④～ 9C前半		B類 8C④～ 9C前半以 降
図87	106A	SD2320B	溝跡 (道路 側溝)	Ⅲ層	幅45cm,深さ15 cm,長さ2.1m以 上,断面U字状	SD2320Aの延 長,SX2331道路 遺構南側側溝	W23° N (N23° E)	SD2322B→ →SA2317		8C④～ 9C前半		B類 8C④～ 9C前半以 降
図87	106A	SD2321	溝跡 (道路 側溝)	Ⅳ-1層	幅40cm,深さ5 cm,長さ4.2m以 上,断面U字状	SX2332道路遺 構北側側溝	W24° N (N24° E)	SG2323→		8C②?		A類 8C②?
図87	106A	SD2322A	溝跡 (道路 側溝)	Ⅳ-2層	幅50cm,深さ15 cm,長さ30cm以 上,断面U字状	SD2322Bの延 長,SX2332道路 遺構南側側溝	W24° N (N24° E)			8C②?		A類 8C②?
図87	106A	SD2322B	溝跡 (道路 側溝)	Ⅳ-2層	幅50cm,深さ15 cm,長さ40cm以 上,断面U字状	SD2322Aの延 長,SX2332道路 遺構南側側溝	W24° N (N24° E)	→SA2317・ SK2328・ SD2320B		8C②?		A類 8C②?
図87	106A	SX2331	道路 遺構	Ⅲ層	道路幅8.7～ 9.0m,硬化面 厚さ10～20cm 存在,東西 16.6m以上	SD2319a北側 側溝,SD2330A・ Bの南側側溝	W23° N (N23° E)	→SK2326・ SK2327	約9m幅の道路遺構	8C④～ 9C前半		B類 8C④～ 9C前半

表41 道路遺構属性一覧(2)

図No.	調査 次数	遺構番号	種別	位階・ 層位	規模	構造	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図87	106A	SX2332	道路 遺構	IV-1~4 層	道路幅11.9~ 12.0m,硬化面 10~35cm遺 存,東西16m以 上	SD2321が北側 側溝,SD2322A・ Bが南側側溝	W2° N (N24° E)	→SD2328・ SX2333	約12m幅の道路遺構	8C②?		A層 8C②?
図88	106A	SX2333	溝状 遺構 (道路 整地)	IV-2層	幅1.5~4.0cm, 深さ5~15cm, 長さ0.2~4.2m	南北方向の溝跡 群,SX2331道路 遺構に直交	N3° ~ 16° E	SG2325・ SK2329→	SX2331道路遺構に 伴う掘り込み整地事 業	8C②?	埋土8C④	B層 8C①以降
図87	106A	SX2334	溝状 遺構 (道路 整地)	V層	幅1.0~2.0cm, 長さ20~40cm 以上	おおむね南北 方向の溝跡 群,SX2332道路 遺構に直交	不定		SX2332道路遺構に 伴う掘り込み整地事 業	8C② 以前		A層
図89	106B	SD2339	溝状 (道路 側溝)	IV-1~2層	幅40cm,深さ5 cm,長さ2.8m以 上	A区SD2321の延 長,SX2349道路 遺構の北側側溝	W8° N (N8° E)	SI2343→ →SD2340・ SK2345・ SK2347		8C②?		A層 8C②以降
図89	106B	SX2349	道路 遺構	IV-1層	道路幅推定約 12m,硬化面厚 さ20~50cm	北側側溝が SD2339,南側側 溝削平により不 明,7つの交互層 の版築	W8° N (N8° E)	→SA2337・ SA2338・ SI2343・ SK2344・ SK2345・ SK2346・ SK2348	約12m幅の道路遺構	8C②?		A層 8C②以降
図91	109	SD2507	溝状 (道路 側溝)	III層	幅30cm,深さ20 cm,長さ0.5m以 上,断面直状	SX2509道路遺 構の北側側溝	W5° S (N5° W)	→SX2506		8C①~ 9C前半		B層 8C①~ 9C前半
図91	109	SD2508	溝状 (道路 側溝)	III層	幅40cm,深さ15 cm,長さ1.0m以 上,断面直状	SX2509道路遺 構の南側側溝	W1° S (N1° W)			8C①~ 9C前半		B層 8C①~ 9C前半
図91	109	SX2509	道路 遺構	III層	道路幅8.0m, 硬化面5~20 cm	SD2507が北側 側溝,SD2508が 南側側溝	W1° ~ 5° S (N1° ~ 5° W)		109次上層道路遺構	8C①~ 9C前半		B層 8C①~ 9C前半
図91	109	SD2510	溝状 (道路 側溝)	V層	幅40cm,深さ20 cm,長さ0.3m以 上,断面直状	SX2511道路遺 構の北側側溝	W4° S (N4° W)	→SA2500・ SA2501		8C② 以前		A層
図91	109	SX2511	道路 遺構	IV層	道路幅10.5m 以上,硬化面5 ~20cm	SD2510が北側 側溝	W4° S (N4° W)		109次下層道路遺構	8C②?		A層 8C②?
図90	111	SX2521	道路 遺構	IV-1層	幅3.6~4.6m, 長さ12mの範 囲で道路硬化 面を確認,硬化 面厚55cm	南側側溝側溝は SD2523		SD2522・ SD2532・ SKP2524・ SKP2525→	9~10mの道路遺構, 111次上層道路遺構	9C①?		E層 9C①
図90	111	SD2523	溝状 (道路 側溝)	IV-2層	幅1.1m,深さ20 ~30cm,長さ 3.8m以上	SX2521の南側 道路側溝	W2° S (N2° W)			9C①	埋土9C④	E層 9C④
図90	111	SD2532	溝状 (道路 側溝)	VI層	幅1.0~1.7m, 深さ40cm,長さ 18m以上	道路側溝または 地割り溝	W5° S (N5° W)	→SKP2524・ SKP2525・ SX2521		8C② 以前	埋土8C②	D層 8C② 以降
図90	111	SX2628	道路 遺構	VI層	道路幅8m以上	SD2532が北側 側溝			111次下層道路遺構	8C② 以前		D層 8C② 以降
図91	114	SX2575	道路 遺構	VII層	幅7.2m以上, 硬化面の厚さ 10cm	道路側溝は未発 見			道路硬化面のみ検 出,道路遺構のみ道 路周辺の整地層かど うかは要検討,VI-1層と VII-2層で新旧二時期 あり	8C前半		C層 8C~9C ①a(下層 は)と上層 のVI層 層9C① まで)

V 古代の検出遺構と出土遺物（4道路遺構）



図92 道路遺構出土遺物

表42 道路遺構出土遺物一覧

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図92-1	104	10-038	須恵器	坏	Ⅱ-2層(SX2627硬化面)	-	-	7.8	底部へラ切り後,軽いナゲ調整,内面に捺付着	9C③~④
図92-2	104	10-039	赤褐色土器	坏A	Ⅱ-2層(SX2627硬化面)	13.2	-	-	口縁部破片	9C③~④
図92-3	104	10-040	赤褐色土器	坏A	Ⅱ-2層(SX2627硬化面)	-	-	6.4	底部糸切り	9C③~④
図92-4	104	10-041	赤褐色土器	坏A	Ⅱ-2層(SX2627硬化面)	-	-	6.0	底部糸切り	9C③~④
図92-5	104	10-042	赤褐色土器	坏A	Ⅱ-2層(SX2627硬化面)	-	-	6.2	底部糸切り	9C③~④
図92-6	104	10-048	瓦	平瓦	Ⅱ-2層(SX2627硬化面)	-	-	-	一枚作り,凸面織目の叩き痕,凹面布目圧痕,焼成良好,やや軟質,黄灰色	4-2群
図92-7	104	10-049	瓦	丸瓦	Ⅱ-2層(SX2627硬化面)	-	-	-	凸面全面ナゲ調整,凹面布目圧痕,焼成良好,やや軟質,橙色~赤褐色	4-1群
図92-8	106A	10-138	赤褐色土器	坏A	SX2333埋土	-	-	-	体部破片	8C④以降
図92-9	106A	10-156	須恵器	蓋	Ⅱ層(SX2331硬化面)	-	-	-	擬宝珠状のつまみ	8C④~9C①
図92-10	106A	10-157	赤褐色土器	台付坏	Ⅱ層(SX2331硬化面)	-	-	9.4	高台部破片	9C前半
図92-11	106A	10-158	赤褐色土器	甕	Ⅱ層(SX2331硬化面)	-	-	-	小型,外面摩耗,内面に横方向のクキ目調整	9C前半
図92-12	111	10-558	赤褐色土器	坏A	SD2523埋土	-	-	5.1	底部糸切り,内面ナゲ調整により平滑	9C④
図92-13	111	10-559	赤褐色土器	坏A	SD2523埋土	-	-	6.4	底部糸切り	9C⑤
図92-14	111	10-603	瓦	丸瓦	SD2532埋土	-	-	-	凸面ナゲ調整,凹面丁寧なナゲ調整,焼成やや不良,軟質,黒色(いよし焼成),凸面に砂粒が目立つ	1-3群